

演習林年報

2022年度活動報告等

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

はじめに

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林は、森林を対象とした教育・研究の場を提供するために設置された研究科附属施設です。130年近い歴史を有し、学内のみならず、広く国内外の教育・研究機関から学生実習や多様な研究のフィールドとして利用されています。目的に応じて、千葉、北海道、秩父、田無、愛知、富士、伊豆の7箇所に設置された地方演習林の合計面積は、約32,300 haで、東京23区の面積の約半分に相当し、東京大学が管理する土地の99%にも達します。地方演習林と弥生キャンパスには計24名の専任教員、約70名の事務職員・技術職員、さらには研究員や非常勤職員など多くのスタッフが在籍し、森林の維持管理のみならず、宿泊施設、固定試験地、長期データの蓄積等の豊富な研究基盤を支え続けています。

2022年度は演習林「教育研究計画2021～2030」（2020年度策定、2025年度見直し）の2年目にあたります。新計画では、常置委員会の再編、2つのセンターの新設等の組織改革や各地方演習林の特色ある10年計画の策定が行われました。初年度は新型コロナウイルスの影響で、まだ活動に大きな制限がありましたが、2022年度には、感染対策を行いながらも多くの実習や研究等を受け入れ、コロナ以前の活動状況に戻りつつあります。今後は新計画にもとづき、さらなる演習林の諸機能の向上を目指す所存です。

また、2022年度には東京大学の目指すグリーントランスフォーメーションに演習林も貢献すべく、概算要求提案や産学連携を目指すタスクフォースの活動も活発に行われました。演習林産材の学内利用を促進するための先行投資も実施しております。これらの活動は2023年度には形の見える成果を生み出すことが期待されるところです。

このような状況の中で、2022年度の演習林の教育・研究活動やそれらの成果をまとめた年報を発行する運びとなりました。ぜひ演習林活動の記録をご一読いただき、今後とも演習林へのご支援をよろしくお願いいたします。

2023年6月

東京大学大学院農学生命科学研究科
附属演習林長 久保田耕平

目次

はじめに

第1部 附属演習林報告

1. 全体組織	2
2. 企画部	3
3. 教育・社会連携センター	9
4. フィールドデータ研究センター	11

第2部 常置専門委員会報告

1) 大学教育委員会	14
2) 研究委員会	16
3) 社会連携委員会	24
4) 国際委員会	26
5) 森林管理委員会	28
6) 環境安全委員会	30
7) 管理運営委員会	31

第3部 地方演習林報告

1) 千葉演習林	35
2) 北海道演習林	37
3) 秩父演習林	39
4) 田無演習林	41
5) 生態水文学研究所	43
6) 富士癒しの森研究所	45
7) 樹芸研究所	47

資料

1. 大学教育

1) 大学院講義等	50
2) 学部講義等	52
3) 他大学の非常勤講師（委嘱あり）	55
4) その他の講義・実習対応	56
5) 4研究室の所属メンバー	60
6) 所属学生の学位論文	61
7) 森林生態圏管理学大講座ゼミ	62
8) 演習林 教育・社会連携センターゼミ	65
9) 実習等	66

2. 研究

1) 教職員の論文等	70
2) 学会発表等	75
3) 著書	83

4) 演習林を利用して行った論文等	84
5) 受賞・特許等	92
6) 外部資金によって行われた研究	93
3. 社会連携	
1) 学外各種委員会等委員	97
2) 小中高等学校への対応	101
3) 公開講座・セミナー等	103
4) 学会・研究・市民教育等における講師等(招待講演を含む)	105
5) 演習林報告・演習林	110
6) 科学の森ニュース	111
7) 新聞・雑誌・放送等	113
8) 地方自治体等との協定	115
9) SNS の運用	115
4. 国際	
1) 交流事業・国際シンポジウム・国際共同研究	116
2) 海外渡航	118
3) 外国人研究者・学生等の来訪	119
5. 森林管理	
1) 管理面積集計表・林相別蓄積集計表・植栽樹種	121
2) 立木伐採量	123
3) 育林実行量	124
4) 素材生産総括表・土木実行総括表・道路現況	126
5) 演習林林産物収入細分表	127
6. 環境安全	
1) 安全・防災のための講習会等	128
2) 資格取得のための講習等	129
3) 災害発生状況・山火事予防活動	130
7. 管理運営	
1) 令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	131
2) 技術職員研修	132
3) 事務職員研修	133
8. 組織図	
地方演習林・センター	
1) 千葉演習林	134
2) 北海道演習林	135
3) 秩父演習林	136
4) 田無演習林	136
5) 生態水文学研究所	137

6) 富士癒しの森研究所	137
7) 樹芸研究所	137
8) 企画部・教育研究センター	138
常置専門委員会	
1) 大学教育委員会	140
2) 研究委員会	140
3) 社会連携委員会	143
4) 国際委員会	144
5) 森林管理委員会	144
6) 環境安全委員会	145
7) 管理運営委員会	146
9. 人事	147
10. 予算・収入	
1) 予算	148
2) 収入	148
11. 委員会・会議等	
1) 演習林規則に則って開催された委員会・会議	149
2) その他委員会・会議	149
12. 利用状況	
1) 千葉演習林	150
2) 北海道演習林	157
3) 秩父演習林	164
4) 田無演習林	175
5) 生態水文学研究所	183
6) 富士癒しの森研究所	191
7) 樹芸研究所	200
13. 各演習林所在地および連絡先	203

第 1 部 附属演習林報告

1. 全体組織	…	2
2. 企画部	…	3
3. 教育・社会連携センター	…	9
4. フィールドデータ研究センター	…	11

第1部 附属演習林報告

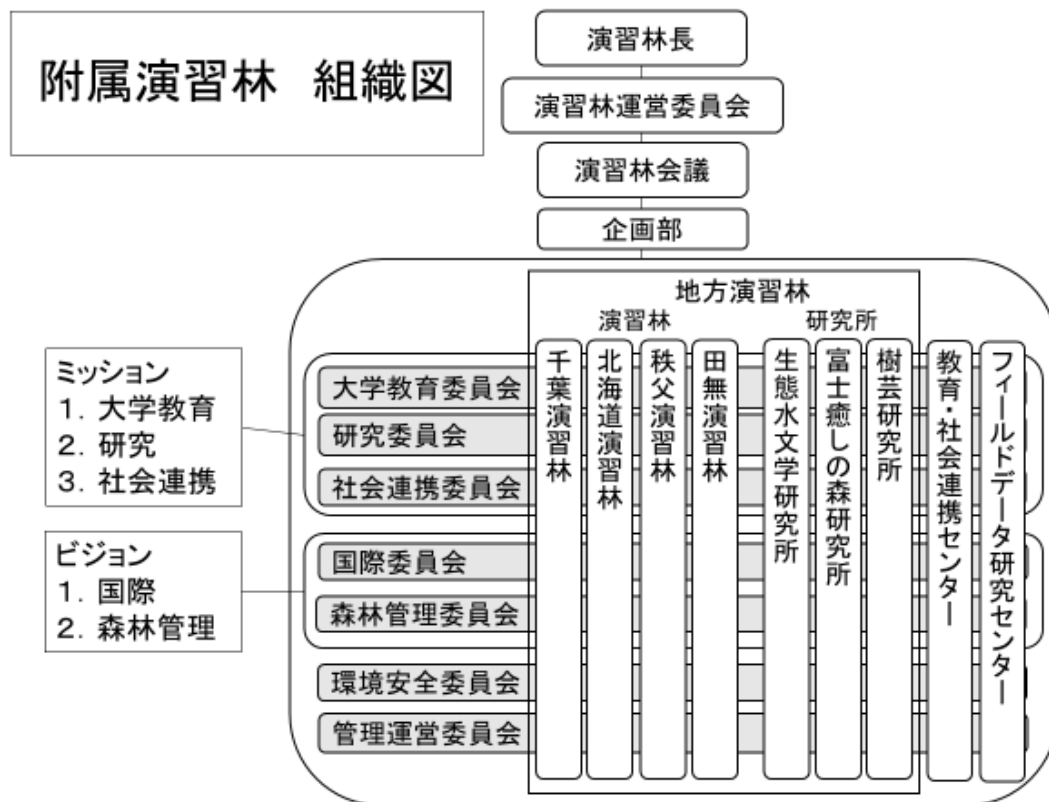
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林（以下、附属演習林）は東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林規則（以下、附属演習林規則）に基づき設置されており、その第一条に、林学・林産学に関する基礎的及び応用的な試験・研究を行うとともに、学生の実習に便宜を与えることを目的とすることを定めている。

附属演習林は10年間を単位とし附属演習林全体を集約した「教育研究計画」により運営されている。現計画の期間は2021～2030年であり、2022年度は2年度目にあたる。本計画は第一部（附属演習林計画）、第二部（常置専門委員会計画）、第三部（地方演習林計画）の3部で構成されている。

教育研究計画2021～2030の第一部は、基本方針、大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、環境安全、管理運営、組織について定めている。このうち大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、環境安全、管理運営についてはそれぞれ専門委員会を常置して実行することを第二部で定めているため、第一部では主に「組織」について活動を報告する。

1. 全体組織

演習林長および演習林運営委員会を頂点として、演習林会議および企画部のもとに、基本方針として定めているミッション、ビジョンを実現するために常置した7つの専門委員会と地方演習林との関係を明確化した組織体制を構築し、2021年度当初から運用した。



2. 企画部

企画部は、演習林会議の下で、附属演習林内、研究科内、東京大学内、東京大学外を対象とした企画調整（大学教育、研究、社会連携、国際、森林管理、管理運営、人事、財務等）を担当し、地方演習林、教育・社会連携センター、フィールドデータ研究センターの相互連携を促進すると定められている。2022年度に行った主な対応は以下のとおりである。

【1】新型コロナウイルス感染症に関連する対応

研究科長の指示により、各地方演習林は、所在地の状況を勘案の上、演習林長が制限レベルを設定することとなっている。地方演習林ごとの制限レベルは以下のように推移した。レベル変更の都度、研究科長および専攻長・附属施設長会議に報告した。

運用開始日	2022年	
	4/1	6/27
弥生キャンパス	A	A
千葉演習林	A	A
北海道演習林	A	A
秩父演習林	B	A
田無演習林	B	B
生態水文学研究所	A	A
富士癒しの森研究所	A	A
樹芸研究所	A	A

【2】グリーン・トランスフォーメーション (GX)

演習林のGXへの挑戦については、2021年度に演習林会議で審議・合意した内容を2021年12月のOEGsシンポジウムや広報誌「弥生」74号（2022年春号）で示したほか、2024年度施設概算要求としてGXの拠点を秩父演習林影森地区に建設する要求を行った。2022年度はこれに引き続き、以下の対応を行った。

- 1) 2022年8月に国立台湾大学が主催した第9回アジア大学演習林コンソーシウム・シンポジウム (SAUFC) (オンライン) における久保田演習林長の基調講演「Human Life, Forests, and Green transformation (GX) - The Challenge of the University of Tokyo Forests -」、2023年3月にガジヤマダ大学と東大演習林が共催した国際シンポジウムで蔵治企画部長の基調講演「Forest DX/GX co-creation: The Challenge of the University of Tokyo Forests」で演習林のGXの取り組みを世界に紹介した。2023年3月に研究科が主催する「GXを巡る科学と政策ダイアログ」における平尾FDRC長の講演「森林GX/DXと社会協創:Nature-based solutionsの東大モデルを作る」で演習林のGXの取り組みを紹介した。
- 2) 2023年度の施設概算要求の結果は不採択であったがA評価であった（2022年度以前の要求はB評価）。2024年度施設概算要求として「フォレストGX/DX協創ベース」を要求した。
- 3) 研究科から、2024年度概算要求等に向けた事業の提案募集があったため、「森林GX協創センターの設置」で応募したところ採択された。2024年度概算要求（教育研究組織改革分）のヒアリングに使用したポンチ絵の作成に協力した。この過程で事業名が「フォレストGX/DX協創センターの設置:Nature-based Solutionsの東大モデル」に変更された。

4) 東京大学内で演習林産材の利用事例を増やすため、演習林産材学内販売 WG を組織し、2022 年度運営費により、北海道演習林で製材を、秩父演習林で伐採、運材、製材、製材品をストックする倉庫の建設、フォークリフトの整備を進めた。「研究室や会議室に演習林の木材を使ってみませんか」と題したチラシを作成し、研究科教授会、全学の科所長会議で説明していただいた。北海道演習林ウダイカンバに続き田無演習林シラカシで箸を制作し、UTCC で販売した。研究科 9 号館の看板を田無演習林産材で制作することになった。

(埼玉県下影森) フォレストGX/DX協創ベース

国土の3分の2を占める森林を持続可能な資源として利用し、**大規模高精度の森林データの活用**を通じて、**脱炭素社会の実現**に向けた産学連携や地域社会との協創を進め、森林への**グリーン投資を呼び込む**ためのベースとして、国内外の研究者や学生、地域社会に広く開放された教育研究・社会協創の拠点となる多目的施設

<教育>
学部学生・大学院生にGX/DX教育を行い、専門的知見と幅広い視野を兼ね備えた人材を育成する施設

<研究>
東京大学が有する森林の管理と利用に関する分野横断型研究を促進し、森林GXの基盤を強化する施設



<産学連携・協創>
研究者・学生、地域団体、民間企業間の連携・協創によって木材資源・非木材林産物の活用を促進し、森林へのグリーン投資を呼び込む施設



教員室・学生室
学内外の研究者や学生が長期滞在して研究することに対応。



木材実験室・林産物実験室・試料保管室
木材の物性等の木材利用に関する実験、有用成分や新素材等の特用林産物に関する実験を行うことが可能。試料保管スペースも併設。



木材加工室・木材乾燥室
全国に広がる地方演習林で生産された木材の高度な加工を行うことができ、木材利用に関する地域団体や民間企業との連携活動にも活用できる。木材乾燥設備も備える。



多目的室
メインキャンパスとつないで遠隔講義やアクティブ・ラーニングを行うことのできるICT機器設備を備え、産学連携や地域社会との協創に向けた会議やイベントに活用。

施設前の広場と展示室を有機的に連結した開放的なエントランス



展示室
東京大学のGX/DXの取り組みや成果を公開するとともに、社会連携活動を行うためのフレキシブルなオープンラボとしても活用できる。ミュージアムショップを併設。

秩父演習林の宿泊施設と直結した研究者・学生専用エントランス

様式3 (部局名:農学部・農学生命科学研究科)
 名称:農学生命科学研究科附属演習林の組織整備

学内共有資料
 (令和5年1月時点)

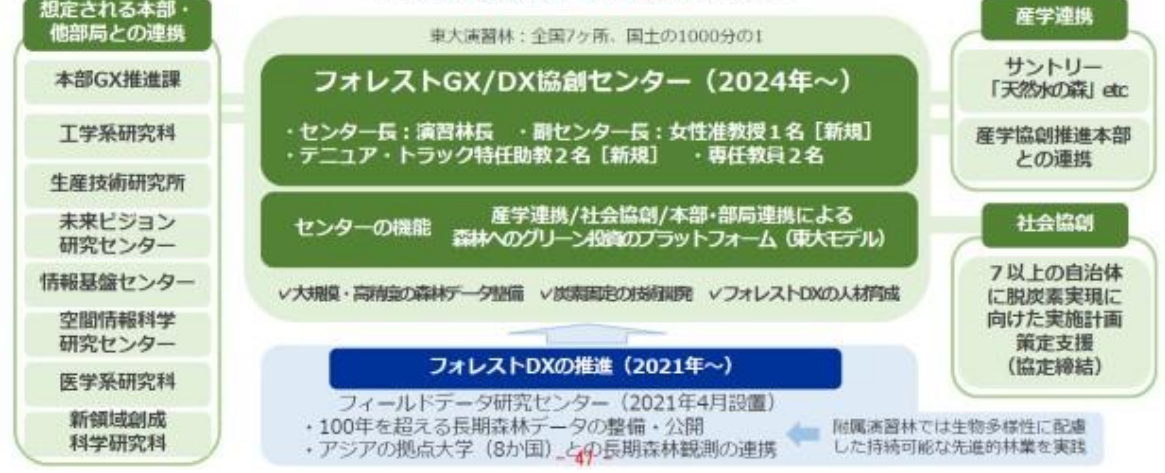
新規/ 継続拡充	教育/ 研究	関連テーマ				キーワード	連携可能と思われる組織	関連する学内事業
		GX	DX	D&I	社会 協創			
新規	研究	◎	○	○	○	フォレストGX/DX, グリーン投資, 高精度データ 整備, 地域社会協創, 産学連携	工学系研究科, 生産技術研 究所, 未来ビジョン研究セ ンター etc	UNFCCC 「Race to Zero」, UTokyo Climate Action

フォレストGX/DX協創センターの設置: Nature-based solutionsの東大モデル

組織整備の規模3人

フォレストGX/DX協創: 東大の森からの社会変革

国土の3分の2を占める森林を資源とし、大規模・高精度の森林データの活用など、**産学連携**や**地域社会との協創**によって**森林へのグリーン投資**を呼び込むプラットフォームを形成し、**脱炭素社会の実現に向けた東大モデル**をつくる。
 5年後に**アジアのフィールド拠点**を形成する。





研究室や会議室に 演習林の木材を 使ってみませんか？

「UTokyo Compass」では、グリーントランスフォーメーション(GX)を行動計画の柱の一つとして位置付けています。東京大学環境報告書 2021 には「2020 年度に東京大学が排出した炭素の 78% * を演習林の樹木が吸収した」旨が報告されています。GX 実現に向けた第一歩として、かつて木材がふんだんに使われていた東京大学内の建物や内装、机、椅子などに再び木材を使い、学生や来訪者に PR していただくことにより、東京大学として GX やカーボンニュートラルに取り組む姿勢を示すことができると考えております。その木材が演習林産材であれば PR 効果はさらに大きくなります。そこで演習林では、大学内の研究室や会議室の内装、机、椅子などに木材を使用したいという要望に応えるための材をストックする取り組みを開始いたしました。共感いただける方々を広く募集し、予算も含めたご要望をお聞きした上で、演習林産材による製品を提供できる可能性をともに模索したいと考えております。資源に限りがあるため、先着順にて対応いたします。ご連絡をお待ちしております。

* GNG プロトコルに基づく Scope 1,2 のみを排出量として算出



上写真：壁板と天井にウダイカンバ合板を使用した北海道演習林森林資料館

中撮上：秩父演習林川俣学生宿舎のブナほか5樹種を用いたテーブル

中撮下：北海道演習林のウダイカンバとオヒョウで製作したテーブル

UTCC で販売中の
演習林材のお箸

内装やテーブルの他にも
様々な制作物があります

ウダイカンバ材の
スツール

5種類の材から作った
フォースタンド

担当窓口：附属演習林企画部・蔵治光一郎
内線：28640
E-mail：kuraji_koichiro@uf.a.u-tokyo.ac.jp



“演習林が生む年2万m³もの木材をキャンパスの内外でもっと活用するために”



床に木材が敷き詰められた蔵治先生の研究室

農学生命科学研究科教授
附属演習林企画部長
森林流域管理学研究室

蔵治光一郎

演習林箸シリーズ第2弾

田無演習林のシラカシで作った箸を11月から販売しています。北海道演習林のウダイカンバ箸に続くシリーズ第2弾です。

演習林の目的は教育研究であり、持続可能な森林管理の研究のために生産する木材を市場に出荷しています。田無のシラカシは、直径44cm、高さが約22mの巨木で、大きくなりすぎたために伐採したものです。丸太を何かに使えないかと考え、候補に上がったのが箸でした。

どの木でも箸にできるわけではありません。細長くて加工が簡単ではなく、ある程度の強度も必要です。業者さんに提案しても、木の名前を伝えただけで断られたり、加工してみてもダメだということもあります。以前の例では、サワラは前者、ユーカリは後者でしたが、幸いシラカシはうまくいきました。

演習林は毎年約2万m³もの木材を産出しますが、そのほとんどは市場に出るとラベルが消え、産地がどこなのかわからなくなります。大量消費の時代にはそれでもいいですが、消費者が価格以外の商品価値を意識して選ぶ時代になると、どこで誰が育てた木材なのかというラベルがあったほうがいい。多くの木材は産地がわからない状態で流通しますが、そこを変えないと林

業は辛くなる一方です。苦勞して切り出しても買叩かれる状況だと持続できなくなる……。そんな思いを持っていた約5年前、UTCCから打診をもらいました。実は以前、環境三四郎[®]の学生が農学部に行った関係で、千葉演習林の木材で箸を作って生協で販売したことがあり、箸の商品化への道筋はだいたいわかっていました。箸の会社と知り合い、機会があったら演習林で記念品を作ろうと思っていましたが、せっかくならUTCCでもと考えて商品化を決めました。

幸い売れ行きは好調で、ウダイカンバ箸は追加発注しました。特に外国人のお客さんに人気があります。シラカシ箸では、身近な住宅地の近くでとれた木できていることに価値を感じてもらっているようです。木目や色合いはもちろん、手で一本ずつ削るので質感も各々違います。

富士徳しの森研究所のミズナラを次の候補にしており、すでに試作も行いました。その次は生態水文学研究所のヒノキを準備

しています。その後は未定ですが、できたら7つの演習林それぞれの箸をと思っています。

野球部のバットになる!?

これまでは演習林の木材をあまり活用できていませんでしたが、まず学内での活用を進めたいです。私が学生の頃は机も椅子も床も木製が主でしたがいまは少ないですね。それを置き換えられないかと考えています。昨年末から受注生産の学内受付を始め、科長会議でご案内しました。計画的に木材を伐採し在庫する必要があるので、倉庫を用意して準備を進めています。

最近、野球部のバットの試作も始めました。試合用はいろいろと基準があって難しいですが、練習用なら可能性があります。野球部が演習林のバットで練習して勝ち点を得たら最高ですね。

キャンパス面積の99%を占める演習林から出る木材を使わない手はありません。演習林の木材を扱うベンチャーなども出てきてくれるとうれしいですね。



工学部5号館の51講義室には秩父演習林の木材（ミズナラ、ブナ、ウダイカンバ、スギ）でできた講義台（写真）が。そのほか、本郷・学生支援センターの表札（千葉演習林のケヤキ）、弥生・農正門の銘板（北海道演習林のイチイ）、農学部3号館の学生サービスセンターや大講義室の壁（北海道演習林のウダイカンバ）でも演習林の木材が使われています。

職員が撮影した田無演習林の四季折々の写真が箸の台紙に使われています。



※環境問題に取り組む学生団体

【3】タスクフォース（TF）の設置

2021年度に引き続き、時限的な課題に対応するために、以下のタスクフォースを設置して対応した。なお、広報媒体の目的再定義 TF は目的を達成したため 2022 年 7 月に解散した。産学協創 TF は 2022 年度当初は特定の企業からの提案に対応していたが、2022 年 10 月からは他の企業からの案件にも対応する組織と位置付け、名称を変更した。

- ・概算要求 TF（平尾（長）、楠本、齋藤、久保田、蔵治）
- ・広報媒体の目的再定義 TF（齋藤（長）、福井、水内、當山、井上、蔵治）
- ・産学協創 TF（安村、鴨田、齋藤、當山、鈴木、久保田、蔵治）

【4】研究科と地方自治体との間の協定の締結

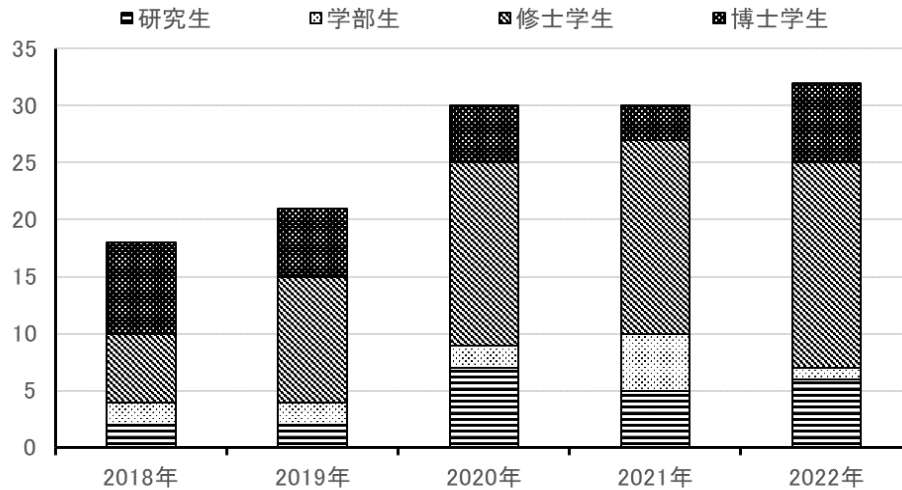
地方演習林（田無演習林を除く）が立地する市町村のうちこれまで唯一、協定が締結されていなかった静岡県湖西市と研究科との間で、市民の防災・減災、ゼロカーボンシティ・脱炭素型社会の形成および大学における教育・研究の推進に資するための連携協力協定を締結した。

【5】農学リテラシー

農学部全学部生の必修科目である W ターム「農学リテラシー」において、「フィールドにおける環境安全管理」と題する講義の一部を演習林として担当した。

3. 教育・社会連携センター

附属演習林教員の指導を受ける大学院生・学部生は弥生地区に机を置いて学生生活を過ごす。所属学生数は2020年度から大きく伸び、30名を超える規模となっている。



5月1日時点の演習林所属学生数の推移（特別聴講生を除く）

当センターは、週1回のゼミと指導教員との連携による個別指導を通じて、演習林に所属する学生（博士課程学生7名、修士課程学生18名、4年生1名、研究生6名、合計32名）にの卒論、修論、博論研究等の指導・支援を行うとともに、特別聴講生1名も含めて学生生活全般が円滑に行えるようにケアを行った。2020年度からセンターゼミは完全オンラインで実施してきたが、2022年度はハイブリット形式も数回実施し、ゼミ後にクラスルームという形で学生同士の懇親を高めた。

新規進学生・入学生を中心として、過去にハチ毒アレルギー検査を受けていない学生全員に対してハチ毒アレルギー検査を病院・クリニックにて行ってもらった。陽性反応が出た学生にはエピペンを処方してもらい、万一の事態に対応できるようにした。

関連専攻の学部・大学院のガイダンスを担当し、演習林における教育研究の説明を行った。演習林教員で担当している講義のスケジュール調整、教養学部講義、演習林ゼミ等の教育推進に関わる経費管理等を通じて、演習林の教育活動を支援した。

【2】社会連携

演習林の社会連携活動の拠点として、特に社会連携委員会と連携した活動を実施した。特に、ウェブサイト、科学の森ニュース、弥生等の広報媒体を通じて、演習林の社会貢献に関する広報活動に関わる実務を企画部と調整しながら実施した。このうち、科学の森ニュースは100号で終了となり、後継となる広報誌 morikara の準備を社会連携委員会と連携して進めている。

また、演習林出版局の書籍の販売に関して、経理課とのやり取りを行うとともに、在庫管理を行った。なお、2022年4月から2023年3月までの演習林出版局の書籍の販売実績は、地方演習林と書店を合計して、458冊、369,475円であった。今年度から書籍の一部をアマゾン販売することとなり、企画部と連携して発送業務を担当した。



アマゾンで販売している15冊

弥生地区として、関係する委員会と協力して各地方演習林の広報活動を取りまとめ、専攻長・附属施設長会議に毎月報告した。また、教育目的での演習林利用希望者に対して、当該地方演習林との連絡調整を行い、必要な情報を提供した。学術分野では、演習林編集委員会の主事として、「演習林報告」、「演習林」の編集作業を行った。また、演習林内の委員会活動が円滑にできるよう、農学系事務との連絡調整を行うとともに、経費執行等の支援をした。今年度に発足したフィールドデータ研究センターと連携し、研究目的で演習林を利用する利用者に情報を提供した。

4. フィールドデータ研究センター

フィールドデータ研究センターは、演習林のデジタルトランスフォーメーション DX に取り組んでいる。演習林データのデータベース構築を進め、デジタルアーカイブズ構築事業の取りまとめを行っている。また、DX に関する学内外の組織との連携・協力も担っている。

【1】DX への取り組み

フィールドデータ研究センターが取り組む DX (図-1) では、演習林の森林データ公開システムを学内の関連組織と連携して整備・運用し、演習林のデータを活用した研究や講義、アウトリーチを支援する。また、演習林の森林で行う情報機器を活用した研究や森林管理を支えながら、人材育成にも取り組む。これらの DX によって、演習林データと学内外や海外のデータの相互利用を進めることを構想している。

2022 度は、これらの DX 構想のうち、特に基盤整備として、デジタルアーカイブズ構築事業、気象データおよび動物データを対象とした森林データ公開システム構築、学内連携による mdx 活用の準備に取り組んだ。また、学内連携として、情報基盤センターの mdx 担当と複数回の打ち合わせを行い、今後の連携のあり方について検討した。

【2】データベース構築

すでに公開されているフィールドデータ等を統合的に整理し、ユーザーフレンドリーで国際的に利用可能なデータベースを構築することを目指して、データ公開システムの整備を進めた。2022 年度は、森林情報データ公開システムとして、「気象データ公開システム」「動物データ公開システム」の 2 つのデータベースの構築を行なった。

気象データ公開システムは、研究委員会長期生態系データ気象水文水質部門が作成公開している気象月報の雑誌「演習林」で公開済みのデータについて、気象庁データ公開サイトのインターフェース等を参考にして、柔軟なデータ取得が可能なデータベースを構築した。気象月報データを使いやすく適切な構造のデータベースに格納するために、東京大学情報基盤センターの協力を得ながら、民間のシステム開発会社へ委託して、設計・開発を進めた。データベース設計にあたっては、月に 1 回の定例打ち合わせを行い、mdx の活用の検討やデータスキーマの試作検討などを行った。

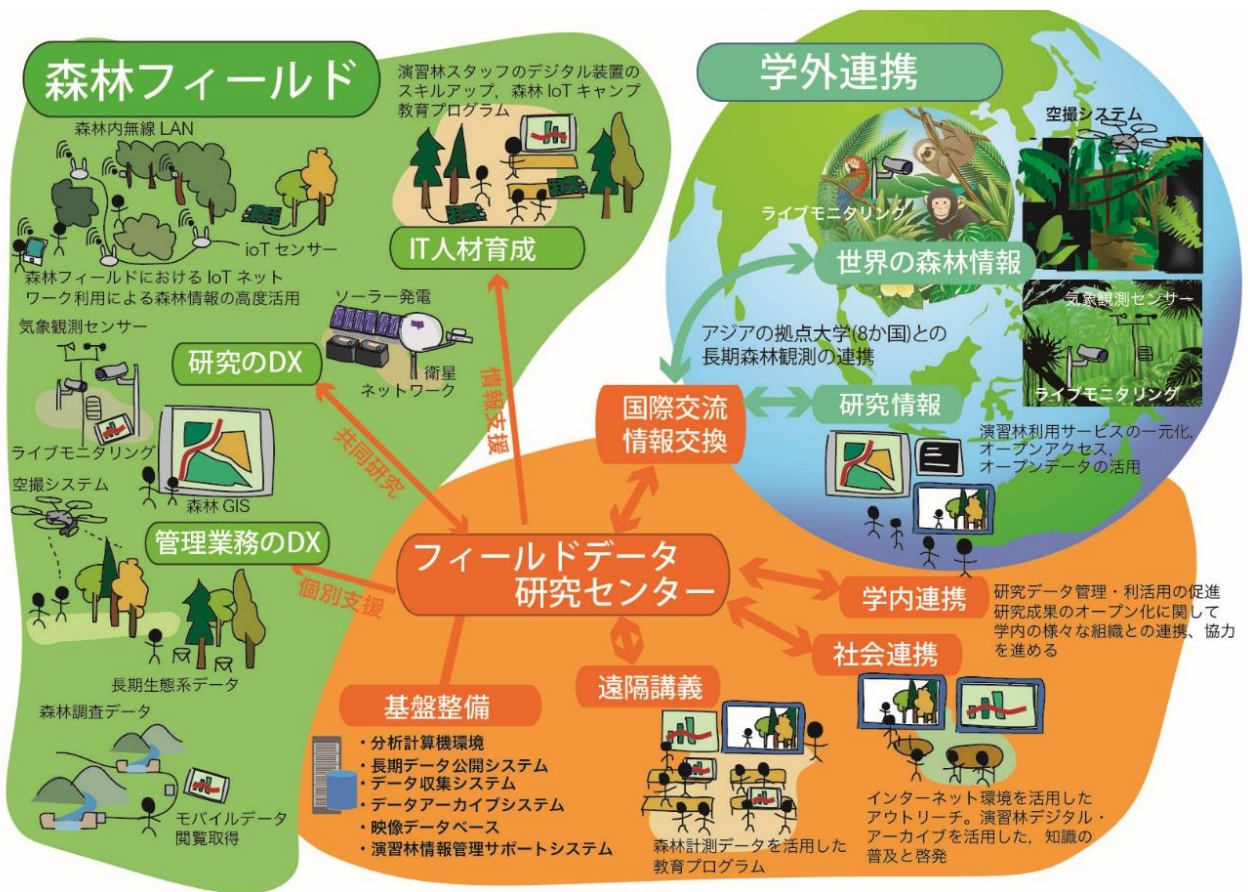
また、動物データ公開システムは、研究委員会長期生態系データ生物部門が作成公開している自動撮影カメラデータについて、調査地点で記録された動画ファイルをクラウドストレージにアップロードし、属性情報と共に検索ダウンロードできるシステムを構築した。

【3】デジタルアーカイブズ構築事業

農学コンテンツ業務として、東京大学デジタルアーカイブズ構築事業の支援を得て、演習林が所蔵する歴史的に価値のある図面や写真をスキャンした画像資料をアーカイブするためのデータベース構築を行った。2022 年度事業では千葉演習林所蔵の写真 (プリント 16 枚・スライド 52 枚)、北海道演習林所蔵の大判図面 66 枚、写真アルバム 2 冊、紙資料 11 個、写真 (プリント 72 枚・スライド 1,842 枚)、生態水文学所蔵の大判図面 30 枚を請負と一部直営でデジタル化し、公開するための準備を進めた。また、2023 年度事業についても大判図面 129 枚 (北海道演習林 109 枚、生態水文学研究所 20 枚)、プリント写真 100 枚 (北海道演習林)、スライド写真 2,000 枚 (北海道演習林) をデジタルアーカイブズ化するべく、デジタルアーカイブズ構築事業への申請を行った。

【4】学内外の組織との連携・協力

研究データ管理およびオープンアクセスに関する世界的な動向に対応し、特に東京大学において現在準備中の研究データ管理・利活用ポリシーおよび東京大学オープンアクセスポリシーに則って、演習林の研究データ管理・保存・利活用事業を計画実施するために、学内外の研究データ管理にかかわる支援を行う組織（学内：情報基盤センター、学外：国立情報学研究所）との連携・協力を進めた。特に、国立情報学研究所、東京大学情報基盤センターや複数の大学・研究機関によって構成されるデータ活用社会創成プラットフォーム mdx の担当者との定期的なミーティングを行い、演習林の今後のデータ管理と活用についての相談や、最新技術動向の情報収集を行なった。



フィールドデータ研究センターが目指すデジタルトランスフォーメーション DX

第 2 部 常置專門委員會報告

1. 大學教育委員會	…14
2. 研究委員會	…16
3. 社會連携委員會	…24
4. 國際委員會	…26
5. 森林管理委員會	…28
6. 環境安全委員會	…30
7. 管理運營委員會	…31

第2部 常置専門委員会報告

1. 大学教育委員会

2022年4月8日(金), 6月10日(金), 9月5日(月), 12月2日(金), 2023年2月10日(金)に委員会を開催した。その他, メール審議を2回行った(6月と7月)。

【1】教育活動に関する情報の共有

- 1) 学部教育会議に出席し, 講義や実習対応についての情報を共有した(委員長)。
- 2) 教養学部講義の情報を収集し, 取りまとめを行った(図-1)。また, 教養学部講義の実施について情報を共有した(情報収集部門)。
- 3) 演習林年報の教育活動に係る資料細目について, 情報の重複を省くとともに情報収集の手間を少なくするべく検討を行い, 演習林会議に審議事項として何度か付議した。昨年度同様, Google スプレッドシートを活用して情報収集を行った(情報収集部門)。
- 4) 全国大学演習林協議会の公開森林実習について, 今年度は東大からの「森林と溪流と土砂の測量実習ー地形や山から川に流れ出る土砂を測ろうー」(生水研)の実習提供を行ったが, 応募者はいなかった(公開森林実習部門)。

【2】教育活動に関する情報の発信

- 1) これまで教員紹介パンフレットとして活用してきた「科学の森で学ぼう」の名称や体裁について議論を行い, 「演習林への進学ガイド」として内容を含めて刷新することとして, 来年度5月の入学ガイダンスに向けて作成中である(情報発信部門)。
- 2) 新しい広報誌morikaraにおける教育に関わる欄のあり方, 担当などについて議論した。

【3】教育技術の向上

特に助教の教育技術向上について, どのような方策がありうるか検討した。フィールドでの実習に携わる機会はあるものの, 講義スキルを磨く機会には個人差があり, 組織としての有効な対策を見出すことはできず継続審議とした。

【4】教育に関連したプロジェクトの検討

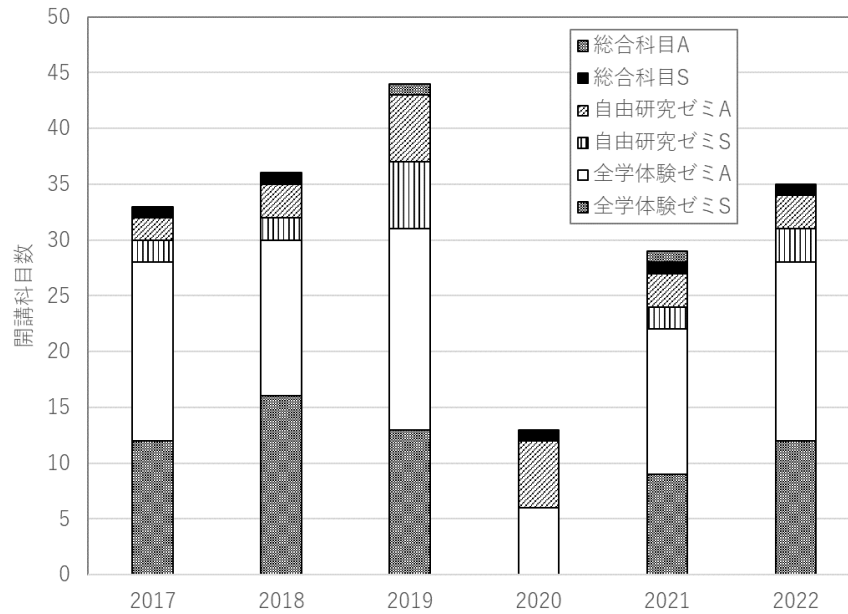
2022年度に予定されていた国立台湾大学サマースクールへの派遣は covid-19 の影響で中止した。2023年度の開催に向けて, JASSO 海外留学支援制度(重点政策枠)への申請を行った。一方で, この制度については手続きが煩雑であることや対象学生が絞られること, 日数に条件があるなどの理由から, これまで学生が参加しづらいという問題点があった。そこで, 筑波大学, 国立台湾大学の担当教員と議論を行いながら, 代替となる助成プログラムとして本学の体験活動プログラム(2023年度)への企画提案を行い, 採択された。(国際部門)。

【5】教育活動に関するその他支援

- 1) 月に1回開催される演習林ゼミの全体のスケジュールを調整し, 進行を担当した。今年度の修士2年生の人数が多かったため, 12月のゼミは午前・午後の終日で行った(演習林ゼミ部門)。
- 2) 教員総会に向けて, 大学教育委員会と教育・社会連携センターとの共同で, 演習林ゼミとセンターゼミの役割と今後のあり方について議論するために, Google Form によるア

ンケートを実施した。

- 3) 本委員会が取り扱う経費の支出基準と執行手続きについて、特に富士癒しの森研究所の山中寮内藤セミナーハウスの宿泊料値上げに対応して詳細な検討・修正を行い、関係者に周知を行った（経費執行部門）。
- 4) 学部教育改革経費の一部を用いて、実習等の受入れに当たって各地方演習林が宿泊施設に新型コロナウイルス感染症対策を施すのを支援した。



教養学部での開講科目数

2. 研究委員会

研究委員会は、主に、森林に関するデータの収集・整備・公表、教職員の研究活動の推進および研究業績の集計、複数地方演習林にまたがる研究案件の調整を担う。2022年5月31日にオンライン会議を開催し、2021年度の活動および2022年度の計画について報告した。また、フィールドデータ研究センター（FDRC）が計画するデータベース構想について、研究委員会とFDRCとの間で意見交換を行った。社会連携委員会が所掌する演習林広報誌を2023年度に刷新するに当たり、研究に関連する記事の執筆者の選出を研究委員会で行った。その他の議題が生じた場合には、適宜メールによる審議を行った。

【1】森林を中心とした自然環境の動態に関するデータの観測、整備、公表

委員会内に長期生態系データ担当を置き、その下に旧基盤データ整備委員会から引き継いだ気象水文水質、生物、固定試験地の3部門を置いた。長期生態系データ担当の活動として、前年度より継続している気象データ解析研究会と動物データ解析研究会の旅費や論文投稿費等の支援を行った。各部門の活動として下記の1)~3)を行った。

1) 気象水文水質部門

「教育研究計画2021-2030」に基づいて観測を実施している。2022年7月14日に担当者会議を行い、観測体制、データの状況、年間計画等について相談した。

[1] 気象分野

東京大学演習林では、これまで最長で100年を超える期間、気象観測を継続してきた。現在の観測システムは2001年から稼働し、現在は6地方演習林を網羅する合計15か所の観測地で観測を行っている。

気象水文水質部門で責任をもつI種観測地は札郷（千葉）、前山（北海道）、小赤沢（秩父）、白坂（生態水文）、青野（樹芸）の5地点、観測項目は気温、湿度、降水量、日射量、風速、風向である。I種以外の観測地はII種として各地方演習林の裁量で観測や全演でのデータ公開を行っているが、気象水文水質部門として各地方演習林で対応が困難な案件についてのサポートは継続している。

表 2022年度 各地方演の観測地と観測項目

（○観測公表項目、△観測しているが公表していない、（ ）内は代替機器の有無）

演習林名	千葉演			北海道演		秩父演				田無演	生態水文学研			樹芸研		
	I	II	II	I	II	I	II	II	II	II	I	II	II	I	II	
観測地	札郷	清澄	新田	前山	山部	小赤沢	栃本	大血川	ワサビ沢	第一苗畑	白坂	東山	穴の宮	青野	加納	
観測項目	気温	○(○)	○(-)	○(-)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(-)	○(-)	○(○)	△(△)	
	地温						○(-)			○(-)	○(-)					
	湿度	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(○)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)		
	降水量	○(○)	○(○)	○(-)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	○(-)	○(○)	○(○)	○(○)	○(○)	△(-)
	日射量	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)		○(-)		○(-)	○(-)	○(-)		
	風速	○(-)		○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	○(-)				○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	
	風向	○(-)			○(-)	○(-)	○(-)	○(-)				○(-)	○(-)	○(-)	○(-)	
	積雪					○(-)										
	降雪深					△(-)										
	積雪深					○(-)		○(-)								

本年度は、長期メンテナンス計画に基づいて定期的・計画的に行っている I 種観測地 5 地点の湿度チップと、風向風速計を交換した。北海道演習林前山気象露場の劣化したロガーケースと故障した通信モデムを交換した。

観測データは演習林ホームページで観測の翌々月には公表している。2021 年のデータは観測体制とともに「演習林」第 67 号（2023 年 3 月発行）に 2021 年気象年報・月報として掲載した。「演習林」の投稿規定に従い、月報はレポジトリのみの公表となる。

2018 年度から大学院農学生命科学研究科が推進している「農学コンテンツの情報化のためのプラットフォーム構築」事業との関連で、過去に「演習林」で公表されているがデジタルデータを公表していないデータに関して、デジタルデータを作成し、公表する作業を進めた。

〔2〕水文水質分野

観測は、降水量、流出量、渓流水質については 2003 年から、降水の水質については 2011 年から実施している。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所において、降水量と流出量の観測を行うとともに、定期的に降水と渓流水を採取し水質分析をおこなう。千葉演習林での観測は森林生物地球科学研究室の協力を得ている。データは各演習林と生態水文学研究所で保管・管理している。今年度の観測体制と観測地点、活動内容の詳細を以下に示す。

i) 降水量・流出量観測

降水量は転倒マスの転倒回数の記録値、流量は 5 分間隔で瞬間水位を観測し、日降水量・日流出量へ整理して生態水文学研究所に報告した。千葉演習林の日降水量・日流出量の計算は森林生物地球科学研究室、それ以外のデータ回収と計算はそれぞれの演習林で行っている。

ii) 降水・渓流水の試料採取と分析

千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所で降水と渓流水を月に 1 度採取して pH と EC を計測し、分析担当者へ送付した。秩父演習林では水試料の pH と EC の計測はサントリーグローバルイノベーションセンター株式会社水科学研究所で行った。樹芸研究所では、加納観測地点での降水量 1 mm 以上の降水を出勤日毎に採取するとともに、渓流水を月に 1 度採取して pH と EC を計測し、分析に供した。

水試料の分析は次の研究室で行った。降水水質については、すべての演習林の水試料について樹芸研究所で、渓流水質については、千葉演習林、秩父演習林及び生態水文学研究所の水試料は生態水文学研究所で、北海道演習林と樹芸研究所の水試料は樹芸研究所で行った。分析項目は渓流水については Na^+ 、 K^+ 、 Mg^{2+} 、 Ca^{2+} 、 SO_4^{2-} 、 NO_3^- 、 Cl^- 、pH、EC の 9 項目、降水については、上記 9 項目に NH_4^+ を加えた 10 項目とした。

分析結果は水試料を採取した各演習林の担当者がとりまとめ、生態水文学研究所に報告した。

iii) 観測結果のとりまとめと公表

日降水量、日流出量、降水と渓流水の水質分析結果を生態水文学研究所でとりまとめた。今年度は 2020 年 1 月～12 月の観測結果を「演習林」第 67 号（附表は東京大学学術機関リポジトリ）で公表した。また、とりまとめたデータを図化し、データのクオリティーチェック等に役立てた。

iv) その他

機器更新計画に従い北海道演習林の pH・EC 計の更新を行った。樹芸研究所の 3 号沢量水堰堤が台風 8 号で埋まり、堰板が破損したため交換した。秩父演習林バケモノ沢、樹芸研究所 3 号沢については来年度にかけて流量の実測を行い水位-流量関係を確認する。

表 2022 年度の各地方演習林の観測項目，及び 2021 年データの公表状況

演習林名	千葉演習林				北海道演習林		秩父演習林		生態水文学研究所		樹芸研究所			
	新田	袋山沢A	袋山沢B	袋山沢C	東郷ダム	丸山沢	ワサビ沢	バケモノ沢	白坂	白坂(本谷)	青野	加納	2号沢	3号沢
観測地	I	I	II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	II	I
降水量	2022年度観測実施	○				○		○		○		○		
	2020年日降水量公表	○				○		*		○		○		
流出量	2022年度観測実施		○	○	○		○		○		○		○	○
	2020年日流出量公表		○	○	○		○		△		○		○	○
降水水質	2022年度観測実施	○				○		○		○			○	
	2020年降水水質公表					○		○		○			○	
	2019年降水水質公表	○												
溪流水水質	2022年度観測実施		○	○			○		○		○		○	○
	2020年溪流水質公表		○	○			○		○		○		○	○

* 気象報告で公表済

△ 2019年10月の台風で被災し中断中

2) 生物部門

[1] 植物分野

演習林内に生育する維管束植物（自生種・導入植栽種）のインベントリーおよびモニタリングを目的として，I 種およびII 種の活動を行なった。I 種の活動として，各演において維管束植物（自生種・導入植栽種）を対象に，さく葉標本の採取および作製，作成済み標本の管理，生態写真の撮影を継続した。また，北海道演習林，秩父演習林，富士癒しの森研究所，樹芸研究所において樹木実生と下層植生，生態水文学研究所において樹木実生のモニタリング調査をそれぞれ実施した。II 種の活動として，千葉演習林では，過去に千葉県立中央博物館と共同で行った植物相調査のメッシュデータをデータペーパーとして報告した。北海道演習林では，特定外来生物であるオオハンゴンソウの分布調査を継続した。田無演習林では，4/1 から 12/14 まで樹木園における自動撮影カメラを用いたフェノロジー調査を行った。その他の活動として，標本のラベル情報を内部で管理する既存システムの不具合を復旧させた。また，2023 年 3 月に担当者会議を対面で開催し，今年度の活動報告や今後の活動方針を検討するとともに，標本管理システムの運用に関する情報共有を行った。

表 2022年度の各演習林の調査結果（植物）

演習林名	2022年度採取				2022年度末	植生モニタリング調査	
	調査日数	調査人員	標本種数	標本点数	総標本種数	調査日数	調査人員
千葉	0	0	0	0	927	0	0
北海道	1	1	1	1	945	1.5	6
秩父	0	0	0	0	905	2	4
田無	0	0	0	0	307	0	0
生態水文	0	0	0	0	1202	1	2
富士	0	0	0	0	417	0.5	1
樹芸	0	0	0	0	628	1.5	4

[2] 脊椎動物分野

i) 脊椎動物（鳥類を除く）分野

脊椎動物グループでは、演習林内に生息する脊椎動物（鳥類を除く）のインベントリーおよびモニタリングを目的として、I種およびII種の活動を行なった。I種の活動として、自動撮影カメラ調査を千葉3地点・北海道3地点・秩父7地点・田無2地点・生態水文6地点・富士3地点・樹芸2地点の全26地点で継続して行った。附属演習林教育研究計画（2021～2030）期間の重点調査分類群である地上性小型哺乳類（齧歯目・モグラ科・トガリネズミ科）（以下、小型哺乳類と略記）および魚類については、田無演習林において小型哺乳類を対象とした捕獲調査を2022年11月29日から12月1日に、北海道演習林において魚類を対象とした捕獲調査を2022年10月4日から6日に実施した。II種の活動として、脊椎動物（鳥類を除く）の目撃情報を各地方演習林において担当者が記録した。また、ライトセンサスを北海道演習林では2022年10月31日から11月2日に、秩父演習林では2022年5月30日から6月1日に実施した。その他の活動として、各地方演習林担当者による対面の懇談会を、田無演習林で2022年11月30日に開催し、各地方演習林の活動状況等をグループ内で共有する機会を設けた。また、フィールドデータリサーチセンターが推進する演習林データのデジタルトランスフォーメーション事業の候補として、自動撮影カメラ調査データのデータベース構築が挙げられたため、実現の可能性を探るためのオンライン打ち合わせを2022年10月26日に行った。

ii) 鳥類分野

I種の活動として、2022年4月から12月までの期間に繁殖期ポイントセンサス調査（公式調査）を合計48回、任意調査を合計290回実施し、136種の鳥類を確認した。常勤のI種調査員が不在の田無演習林と富士癒しの森研究所には他演から5名の調査員を派遣して実施した。北海道演習林でキンクロハジロとスズガモ、秩父演習林周辺地域でイソヒヨドリ、田無演習林でカワウ、生態水文学研究所でオシドリ、富士癒しの森研究所でオオルリ、樹芸研究所でコシアカツバメ、樹芸研究所周辺地域でイソシギを新たに記録した。各演習林における確認種数と調査回数は下記の表の通りである。その他のI種活動として、2026年度に予定している雑誌「演習林」での鳥類目録第4版の公表に向けて各種調査と確認種の整理作業を継続したほか、一括管理されている鳥類の生態写真について2021年度までに撮影された撮影画像の中からwebサイト「東京大学演習林の鳥たち」に追加する画像候補の選定と編集作業を行った。なお、webサイトについては英語版を公開したほか、エッセイを1編追加更新した。II種の活動とし

て、千葉演習林と生態水文学研究所で巣箱調査実施し、秩父演習林で越冬期ポイントセンサス調査とラインセンサス調査を実施した。その他の活動として、千葉演習林では5月に鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」を開催した。生態水文学研究所では犬山市立今井小学校で行われた探鳥会全4回で講師を担当した。2023年2月にオンラインによる担当者会議を開催し、今年度の活動報告と来年度の活動予定の確認および検討を行った。

表 2022年の各演習林の調査結果（鳥類）

演習林名	確認種計		調査回数		調査人員		調査別確認種数	
	科	種	公式調査	任意調査	公式調査	任意調査	公式調査	任意調査
千葉	18	27	7	45	7	46	18	18
北海道	32	77	12	60	20	68	50	56
秩父	32	60	10	43	10	45	30	55
田無	23	31	9	18	9	18	21	29
生態水文	32	60	4	23	8	27	21	59
富士	31	66	2	57	4	59	31	63
樹芸	29	46	4	44	4	44	19	40

注：確認種の分類は日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）に従った。

確認種数には演習林隣接地域での記録も含む。

公式調査はポイントセンサス法またはラインセンサス法により行った調査、任意調査は公式調査以外の業務の際の一時的な確認・記録、録音・センサーカメラによる記録、巣箱調査等を指す。

[3] 昆虫分野

本年度もピットフォールトラップを用いた地表徘徊性甲虫相の調査を実施した。2008年から演習林間で共通の方法による定期的・定量的な採集を行っており、採集された標本は北海道演習林に集められている。調査地は、各演習林内に2ヶ所（富士癒しの森研究所は1ヶ所）を設定し、5年間隔で交互に移動している。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、田無演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所では、2013年より2017年まで2地点目の調査地で採集を行い、2018年から当初の調査地に戻して採集を実施した。富士癒しの森研究所では、調査地が1ヶ所しか設定されていないため、当初から同じ場所で行っている。2008～2010年の標本については、2011年に同定結果が得られている。2018年に2011～2012年の末同定分について同定を依頼し、同定結果が得られた。これらの2008～2012年の同定結果は、雑誌「演習林」へ2023年度中に投稿する。2013～2017年は同定が済み次第、以降は5年毎の公表を目標とする。また、各演習林を利用した研究論文からの昆虫相のリスト化は共通フォーマットを作成し直し、各演習林で整理でき次第順次公表することを目標とする。その他の活動として、分野全体会議を2022年12月22～23日に田無演習林で開催し、地表徘徊性甲虫相調査の結果と昆虫相のリスト化についての報告の取りまとめ方を検討した。2023年度から5年毎に行う、セルロースフィルター分解調査（富士は10年毎）の事前実地研修も併せて行った。

表 2022年度の各演習林の調査結果（昆虫）

演習林名	調査地	調査日			
		1回目	2回目	3回目	4回目
千葉	櫛ノ木台	5/17-20 ②	7/8-11 ①	9/12-16 ⑥	10/18-21 ①
北海道	前山・大面積長期生態系プロット内	6/6-9 ①	7/4-7 ③	8/1-5 ②	8/29-9/2 ①
秩父	大面積長期生態系プロット内	5/24-27 ①	6/28-7/1 ②	9/9-12 ①	10/14-17 ①
田無	長期生態系プロット内	5/16-19 ①	7/4-7 ②	8/22-25 ③	10/14-17 ②
生態水文	赤津研究林	5/23-26 ①	6/20-23 ①	9/9-12 ①	10/18-21 ①
富士	長期生態系プロット内	6/9-13 ①	7/15-19 ⑥	8/23-26 ②	9/30-10/3 ④
樹芸	長期生態系プロット内	5/10-13 ⑥	7/8-11 ⑥	8/19-22 ⑥	10/14-17 ①

○はタトウ数

3) 固定試験地部門

固定試験地部門では、教育研究計画 2021～2030 において、1) 各地方演習林における固定試験地のメタデータ・測定データの収集とデータベース化、2) ユーザーフレンドリーで国際的に利用可能なデータベース構築・ウェブ公開等の支援、3) I 種試験地の選定と収集、整備、公表、の3つを活動方針としている。

1) については、前年度に引き続き、固定試験地データベースの整備と、それに向けた各地方演習林の測定データの整理・紙資料（野帳）の電子ファイル（PDF）化を進めた。今年度は、約 1320 回分の調査野帳を PDF 化し、約 280 回分の調査データの電子化、約 250 回分の入力内容の確認を行った。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、生態水文学研究所の各地方演習林においては、「2022 年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」の一環として補助者に依頼（謝金）し作業を行った。2023 年 3 月 31 日現在、固定試験地データベースには、1,189 試験地、4,493 回の調査履歴、立木 83,327 本の計 390,251 測定分（1 本 1 回の測定を 1 測定とするが、枯死や欠測などで実際には測定していないデータも含む）のデータが登録されている。次年度のさらなる整備を進めるため、2022 年 9 月には「2023 年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」に応募した。

2) については、整備が完了したデータベースのうち、外部公開が可能なデータは、2020 年度から運用を始めたデータ公開用データベース UTFEEP（The University of Tokyo Forests Experimental and Ecological Forest Plots, 日本語名：「東京大学演習林毎木調査試験地データベース」）に搭載した。2023 年 3 月 31 日現在、UTFEEP には、665 試験地、2,700 回分の調査履歴、立木 83,327 本の 385,767 測定分のデータが掲載されている（図）。

3) については、I 種試験地の具体的な選定に向けた検討作業を引き続き進めた。天然林については、各演で長期生態系プロット（LTER）として扱ってきた試験地を I 種とする基本方針を継続し、生物部門における実生調査の対象地選定の状況を確認しながら検討を行った。人工林については、適地で従来の毎木調査以上の詳細データを取得するといった基本方針案に基づき、地上レーザー計測の実用化に向けた研修を森林管理委員会管理担当と合同で行った。

部門全体会議は、オンライン開催で 2023 年 1 月 31 日に行った。全体の活動進捗報告、各地方演習林の当部門担当者から試験地データの整備状況の報告、次年度の活動計画、I 種試験地選定、備考項目の統一化に関する議論・意見交換を行った。

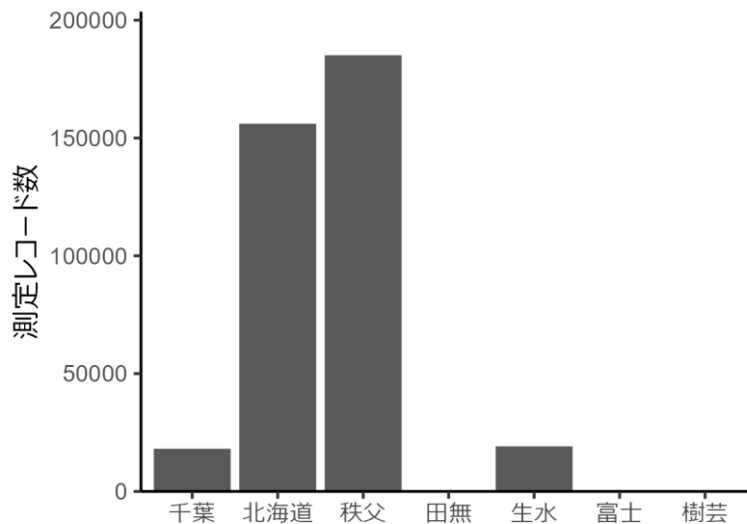


図 地方演習林別の UTFEEP に掲載されている測定レコード数

【2】森林を中心とした自然環境および森林と人間の関わりに関する専門的な研究の推進と研究業績の集計

1) 研究活動の推進

演習林の教員間の共同研究を促進するため、各教員に研究シーズを聞き取り、リスト化した。リストは全教員が閲覧でき、関心のあるテーマを相互に把握できるようにした。また、来年度以降、新たな共同研究の発足を支援するための枠組みの検討を行った。

2) 研究業績の集計

演習林教員の外部資金獲得および論文・学会発表等業績等の情報を収集・リスト化し、運営委員会資料や演習林年報に掲載する研究活動資料として企画部に情報提供した。

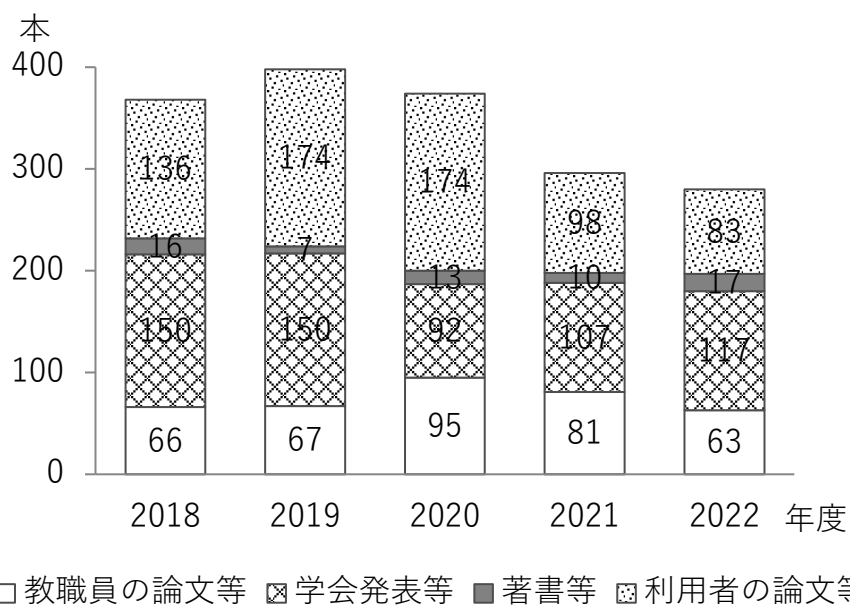


図 教職員の論文・学会発表・著書等の本数

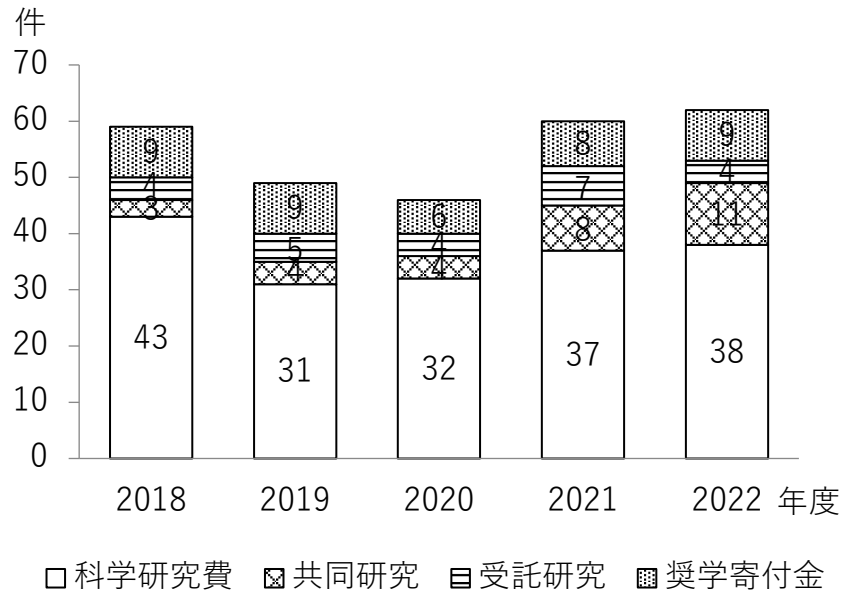


図 外部資金獲得数

3) 演習林の国際的研究活動への協力

日本学術振興会（JSPS）研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）のワーキンググループに参加し，企画・実行に協力した。

4) 海外の組織との協定等の締結

海外の組織との協定（MOU，LoI など）や素材移転合意書（MTA）の締結について演習林教員からの申請はなかった。

【3】演習林全体もしくは複数の地方演習林に関わる研究利用案件の調整

演習林全体もしくは複数の地方演習林に関わる研究利用案件はなかった。

3. 社会連携委員会

委員会会議を5回（4・6・9・12・3月、いずれもオンライン）開催した。

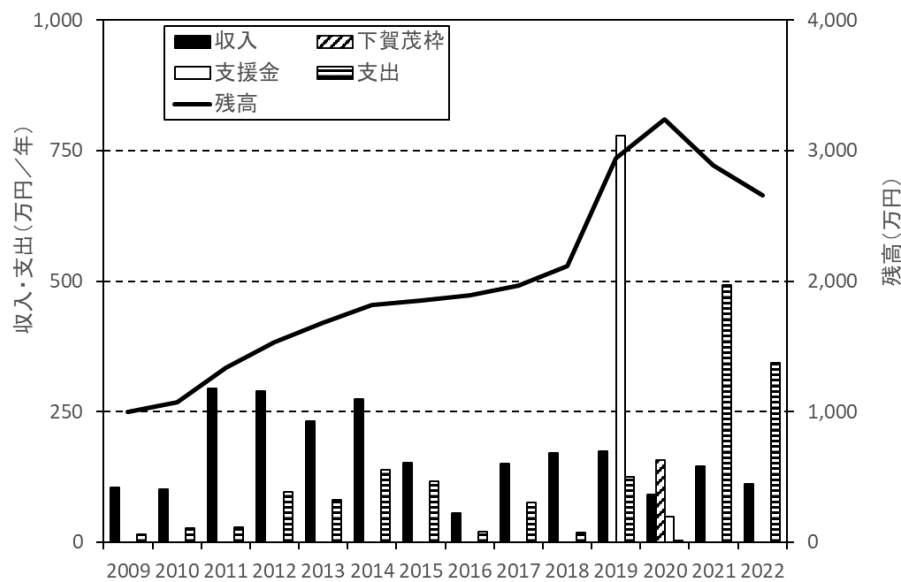
【1】アウトリーチ

1) 出版広報部門

- ・「科学の森ニュース」第98号（6月）、第99号（9月）、第100号（12月）を発行した。
- ・「科学の森ニュース」に代わる媒体として「morikara」を企画・準備した。
- ・「概要2023（全演版/各演版）」の作成に着手した。
- ・「演習林報告」147号、148号を電子媒体で発行した。「演習林」を年2回発行とし、66号、67号を電子媒体で発行した。
- ・リニューアルされた全演ウェブサイトでの情報発信を行なった。「全演ウェブサイトに掲載する情報に関するガイドライン」を定め、速報性の高い情報発信を促進した。「1行ニュース」34件（3月末時点）、「メディア掲載情報」20件（ガイドラインに基づいて運用を開始した10月から3月末時点）を発信した。演習林概要に関する英語ページの更新を行なった。過去の「演習林」「演習林報告」掲載記事のUTokyoリポジトリへのリンク更新作業を行なった。
- ・演習林出版局の書籍15冊について、Amazonでの販売を開始した。2022年12月末時点で92冊を販売した。

2) 育成資金部門

- ・2022年度の寄付は15件、1,311,000円（東京大学基金取り分含む）であった。

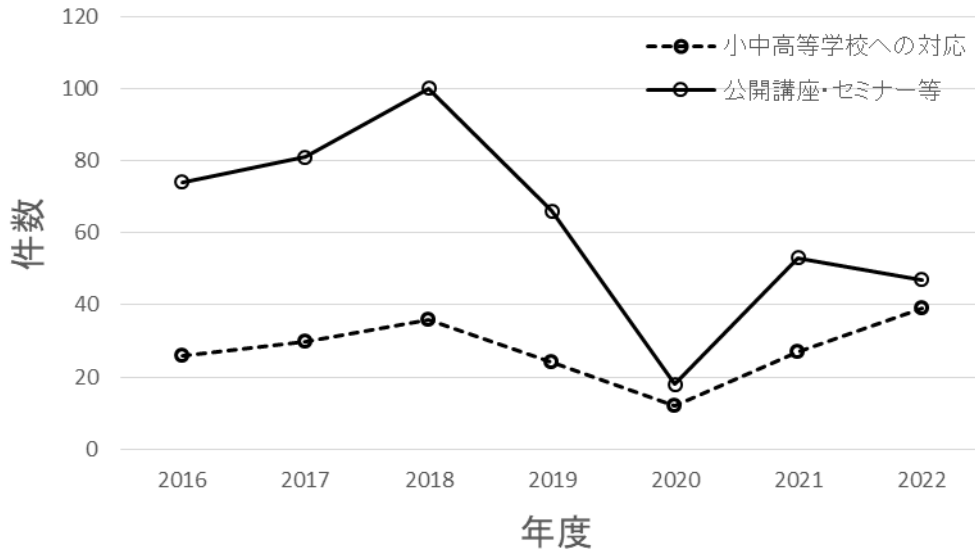


寄付金収入，支出，残高

【2】連携推進

・UTCC と連携し，東大演習林グッズ販売の支援をおこなった。新たに「田無演習林のお箸」の販売を開始した。

・各地方演習林/センターにおいて，小中高等学校等への対応 39 件，公開講座・セミナー等 47 件が実施された。



小中高等学校への対応と公開講座・セミナー等の件数

・各地方演習林における社会連携活動の具体的内容に関する情報収集を実施し，結果を各演習林連携推進担当と共有した。

【3】その他

委員会関連組織として「科学の森ニュース」担当に代わり，「morikara」編集会議を整備した。

4. 国際委員会

演習林国際委員会は、おもに、各国の大学演習林との「国際交流」「教育研究」「その他」の交流計画の作成・実施を任務としている。2022年度は、COVID-19の影響が徐々に緩和され、渡航を伴う事業についても再開された。

【1】国際交流

第9回アジア大学演習林コンソーシウムシンポジウム（SAUFC）は国立台湾大学の主催により、Forests for achieving sustainable development goals and carbon neutrality をテーマとして、2022年8月18～19日にオンライン開催された。5カ国より86名の参加があり、東大からは39名（教員16名、技術職員7名、学生16名）が参加した。

2019年度から採択となった日本学術振興会（JSPS）研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「環境変動と生態系応答の長期森林観測フィールド研究拠点：データ・知・人材の協創（代表：鎌田直人教授、2019～2021年度）」において、2021年度に開催する予定であったスリランカ国スリジャヤワルダナプラ大学でのシンポジウムは2022年度に延期されたが、スリランカ国の国内情勢を鑑みて、インドネシア国ガジャマダ大学で2023年3月にハイブリッド開催した。8カ国より227名（うち、オンライン161名）の参加と、102題の講演があった。戦略的パートナーシップ大学プロジェクトでは、ソウル国立大学、国立台湾大学、スイス連邦工科大学チューリヒ校／チューリッヒ大学のグループに参画した。UTokyo-NTU Joint Conference 2022は2022年12月7～8日に、国立台湾大学の主催によりオンラインで開催された。森林科学・生物材料科学関係の平行セッションを12月8日午後に開催し、参加した。それ以外の戦略的パートナーシップ事業においては、COVID-19の影響により具体的な活動は全く行うことができなかった。

2021年度には、タイ国カセサート大学との研究科交流協定に演習林として参画することで、協定の更新を行った（記載漏れのため追記）。2022年度に更新された国立台湾大学との全学交流協定、マレーシアサバ大学との研究科交流協定に引き続き演習林として参画することになった。

【2】教育研究

国立台湾大学とのサマースクールは開催されなかった。2019年度まで行っていた海南大学のサマープログラムの学生受入と本学の体験活動プログラムによる海南島訪問はいずれも2021年度に引き続き中止となった。学術交流協定に基づく特別聴講学生として2022年10月から海南大学の学生1名を1年間の予定で受け入れた。また、森林圏生態学研究室の教員6名による海南大学学生を対象とした特別講義を2022年12月12～13日にオンラインで行った。

【3】その他

インドネシア国ガジャマダ大学林学部はJICAのローンでIntegrated Forest Farming Learning Centerを設置した。TRIYOGO Ananto 助教授が、これら施設の有効活用のため、分子生物学の手法の習得と東大演習林の森林管理、とくに森林病虫獣害管理の視察を目的として、2022年10月23日～11月10日に、東大演習林の弥生・田無・秩父・千葉の各演習林と各センターにおいて研修を行った。

おもにインターン生を受け入れるための受け皿として、2022年2月からの1年間、および2023年2月からの1年間、演習林として国際短期プログラムの枠を各5名申請した。実際の手続きは企画部で行った。

農学生命科学研究科の特任教員〔旧外国人研究員（客員Ⅲ種）〕で2020年度に来日予定であった中国海南大学のZhang教授は、2021年11月から2022年5月までの6ヶ月間滞在した。同じく特任教員〔旧外国人研究員（客員Ⅲ種）〕で2020年9月に来日予定であったコロラド州立大学Kristin Bunte研究員は、2022年7月から9月に生態水文学研究所に滞在し、流砂観測研究や現地・オンラインでのセミナーを行った。2022年11月30日～12月4日には国立台湾大学実験林9名がJ-クレジットに関する情報収集のため来日し、千葉演習林ほかを訪問した。

5. 森林管理委員会

当委員会は「森林の維持・管理および森林管理技術の習得・継承にかかる全演的な活動の推進」を目的とし、2021年度から新たに設置された。1) 大学教育・研究・社会連携のための最適なフィールドとして森林を維持・管理する、2) 「たしかな技術で調えられる森」のビジョンのもと、歴代の職員によって受け継がれてきた森林管理に関わる技術を次世代に継承するとともに、最先端の技術の習得を促進する、の2つを活動方針として掲げ、各担当においてそれぞれ以下の活動を行った。4月27日には第1回委員会を開催し、前年度の活動内容を振り返るとともに、本年度の組織体制と活動計画を確認・共有した。2月15日に開催された教員総会では、当委員会から「教育研究に最適なフィールドの提供」の議題を提示し、教員間での情報共有と意見交換を行った。

【1】全演的な森林の現況把握

管理担当では、前期計画中の森林現況調査の結果を反映させて算出した2021年度の演習林樹木のCO₂吸収量データを本学環境安全本部に提出し、「東京大学環境報告書2022」に掲載された。さらに、この算出方法をまとめた『東京大学環境報告書2022』に掲載された演習林樹木のCO₂吸収量の算出方法が雑誌「演習林」に掲載された。また、森林現況調査に適用可能な新手法を検討・共有するため、研究委員会長期生態系データ担当固定試験地部門と共催で「地上レーザーシステムOWL使用研修」を1月20日に田無演習林で実施し、講師を含め11名が参加した。

【2】森林管理計画の進行管理と助言

管理担当では、「2021年度『森林管理』進捗管理」の会合を開催し、地方演習林ごとに今期教育研究計画(2021-2030)の森林管理章の概要を説明したうえで、2021年度の進捗状況の説明を行った。この会合では、各地方演習林の説明に対して質疑応答と意見交換が行われ、次年度以降の管理作業における情報共有を行うことができた。

【3】森林病虫獣害への助言と対応

病虫獣害担当では、生態水文学研究所74林班の松くい虫対策に関する活動を行った。静岡県が74林班とその周辺における伐倒駆除に対する予算を約10分の1に減らすことになったことを受け、病虫獣害担当で検討した結果、伐倒駆除に演習林の予算を回すことはせず、今期に計画していた樹幹注入を前倒して行うことになった。そのため、前年度に続き本年度も、当委員会予算で樹幹注入用の資材(グリーンガード・エイトおよびグリーンガード・ネオ)を購入し、技術職員の研修を兼ねて、318本のクロマツおよびアイノコマツ(アカマツ×クロマツ)に樹幹注入を行った。担当教員3名のほか、生態水文学研究所の技術職員5名と、他演からの技術職員4名が参加した。本年度は、樹高の高いマツに対しては薬剤量が少ないクリーンガード・ネオを用いるとともに、薬剤メーカーの職員のアドバイスを受けて、これまでの方法を一部改善した。すなわち、穴あけ後の水の注入は不要であること、注入時期は地温も十分に下がっていることが重要であることがわかった。作業日の気温が昨年比べて低かったこともあり、穴あけ後に水を注入した区でも、90%以上の穴ですべての薬剤を吸収した。一方、2022年春までの伐倒駆除を十分に行えなかったことから、前年度に比べ被害量は大きく増加した。

【4】空間情報の整備と活用

技術担当・空間情報技術部門では、全演共用機材のリストを更新し演習林内で情報共有した。部門の担当者を中心にコミュニケーションアプリ「Slack」のワークスペースを立ち上げ、より気軽な情報交換の場を設けた。千葉演習林では、高精度 GNSS 受信機を用いて、保護樹の位置情報、6～13 林班での林況調査、保育間伐地、皆伐予定地の測量を行った。また、UAV より作成した空中写真を参考に今年度の新植地図面を作成するとともに、GIS のベースとなるマスターデータを整備した。さらに、地上レーザースキャナーOWL を導入し、試行的に標準地で運用した。北海道演習林では、本年度の施業区域と植栽予定地の全ての空中写真を UAV によって撮影し、植栽予定地については面積算定に活用した。また、本年度施業区域の林相図（ArcGIS Desktop）および動物目撃調査と鳥類任意調査の記録（Survey123 を利用）を整備した。さらに、林況調査・現地検討会・収穫調査・伐採監護に GIS データ閲覧システム（タブレット端末と Field Maps）を活用した。秩父演習林では、高精度 GNSS 受信機やレーザコンパスを活用して境界調査や二次林試験地区画の GIS データ化を試行した。また、電波受信状況データの更新を行った。田無演習林では、2022 年度のナラ枯れ被害木の位置図を作成した。生態水文学研究所では、74 林班におけるマツ枯れ対策として、UAV による空中写真を用いたマツの枯損状況調査を、また Survey123 と Field Maps を用いた薬剤注入予定木の調査を行った。富士癒しの森研究所では、ArcGIS online・FileMaker・Field Maps・タブレット端末を活用して、ナラ枯れ被害木・長期生態系プロットの樹木位置・林内の危険木情報の各調査を行った。また、GIS データを活用してナラ枯れ木の伐採計画を立てた。樹芸研究所では、林小班・林相図・林道図の整備、アブラギリ試験地種子散布位置図の作成、青野研究林境界石標の測量・図化を行った。

【5】技術の習得と継承

空間情報技術部門では、高性能 GNSS 受信機一式を全演共用機材として追加導入し、富士癒しの森研究所に配備した。6 月 28～30 日には、富士癒しの森研究所で GIS 技術指導者養成研修会を開催した。本研修会には 12 名が参加した。三浦直子助教を講師に迎え、ナラ枯れに関する研究を題材に、ArcGISOnline, Field Maps, FileMaker, IC タグを連携した単木個体の調査や管理方法を学んだ。また Drogger GNSS による測量実習も行った。各演の活動として、北海道演習林ではドローン操縦講習会を行った。秩父演習林では高精度 GNSS の活用操作練習会と GIS データの補完・更新方法等についての打ち合わせを行った。富士癒しの森研究所では高性能 GNSS 受信機について使い方研修会を開いた。樹芸研究所では UAV 空撮に対する勉強会を行った。

技術担当・基礎技術部門では、伐倒に関する初歩的な技術の習得と継承を目的に「2022 年度森林管理委員会管理部門伐木グループ研修」を 1 月 19～20 日に田無演習林で開催した。研修には、講師を含め各地方演習林から 8 名が参加した。事前に田無演習林で選木した樹木（針葉樹や広葉樹、生木や枯木）を講師の指導のもと伐倒し、初歩的な伐倒作業、狙った所への伐倒方法、かかり木の処理方法などを習得した。作業終了後、本研修の振り返りと今後の打ち合わせを行い、次年度の研修は千葉演習林にある人工林での間伐研修を行うことを取り決めた。

6. 環境安全委員会

【1】目的

- 1) 事前にリスクを取り除き，事故災害が起これにくい体制を整える。
- 2) 発生してしまった事故災害から学び，組織の安全意識を高める。

【2】教育研究安全衛生マネジメントシステム（MS）の取り組み

- ① 附属演習林に所属する教職員の日常業務等
- ② 附属演習林に所属する教員が代表教員となって行う学生実習等
- ③ 附属演習林に所属する学生の調査研究等

これら①～③の対象別に，地方演習林ごとに環境安全管理上の課題のリストアップ，検討，チェック，見直しを行い，研究科環境安全管理室に報告した。実施率は100%であった。

【3】外部者の地方演習林への入林に関する必要な措置の検討

外部者の地方演習林への入林に関して，「積極的安全配慮義務」および「公の営造物を適切に管理する義務」を果たすために，以下の①～⑥の対象別に必要な措置を講ずることとした。

- ① 無断立入・事実上の利用
- ② 自由見学・一般公開等
- ③ 一般参加者募集行事・視察・見学等
- ④ 演習林業務への学外者の協力・サポート（ボランティア）
- ⑤ 教育利用
- ⑥ 研究利用

研究科環境安全管理室と協力して「附属施設における安全管理の考え方」を策定することを目指したが，策定には至っていない。状況が異なる附属施設を一括する「安全管理の考え方」の策定を目指すのが困難であるならば，それぞれの附属施設版の「安全管理の考え方」に切り替えることを環境安全管理室に提案し，協議することになった。

【4】事故災害情報の共有および事故原因の究明と再発防止への取り組み

研究科環境安全管理室との連携を密にし，事故原因を徹底究明し，再発防止策を検討し開示することに努めた。また，毎月開催される農学部の環境安全管理室会議に出席して，情報の収集にあたった。特に共有すべき情報は演習林会議を通して周知した。一例として，休日に学生のみで実験した際に発生した火災事故は演習林にとっても身近かつ重要な案件であると注意喚起した。

【5】全演環境安全研修

地方演習林間の情報交換を密にするために，千葉演習林ないし秩父演習林で環境安全研修を実施することを管理運営委員会と共同で検討したが，2022年度は新型コロナの感染拡大が収まらず，実現には至らなかった。

7. 管理運営委員会

2022年6月27日、9月26日、12月5日、2023年3月17日にオンラインで開催した。

「ミッションの実現のために必要な手段、人材育成プログラムについて、全演的な調整を担う。また全演的な情報収集、演習林の長期構想の検討を行う」ことを活動方針に掲げ、次の6つの活動を行った。

【1】土地・建物・車両等

ミッション実現の必要な手段である、生産（収入）の確保、土地、林道・歩道、重機・車両・マイクロバス、宿泊施設研究・実験施設の6項目のうち、「重機・車両・マイクロバス」の3項目について、2021年度に策定した10ヶ年更新計画に則して事業を進めた。2022年度更新計画の実行にあたっては、各地方演と情報を共有し、更新における業者との契約および納品状況等について情報管理を行った。

【2】インターネット環境

各演担当者および全演アドバイザーで構成する「ネットワーク担当」を組織し、インターネット環境の管理運営を担当した。全演アドバイザーは月に一回の定例会を開催し、メーリングリストの管理、UT-CERTに関連した情報セキュリティ対応業務、データベースソフトのライセンス管理とサーバ管理、Webサーバおよびサイボウズサーバの運用管理、UTNET 部局担当として全学のネットワーク管理への協力、地方演のインターネット接続およびネットワーク環境整備、今年度は特に作業所宿泊施設へのUTNET 整備及びUTokyoWiFiの整備、など変化の著しい情報技術の最新動向を注視しながら演習林のインターネット環境について検討し、日常的な管理運営業務を行なった。演習林のネットワークインフラや機能に関する中長期的な整備の考え方を、その検討に必要な材料とともに示す資料「ネットワークインフラ整備方針」を定め演習林内で共有した。

【3】サバティカル

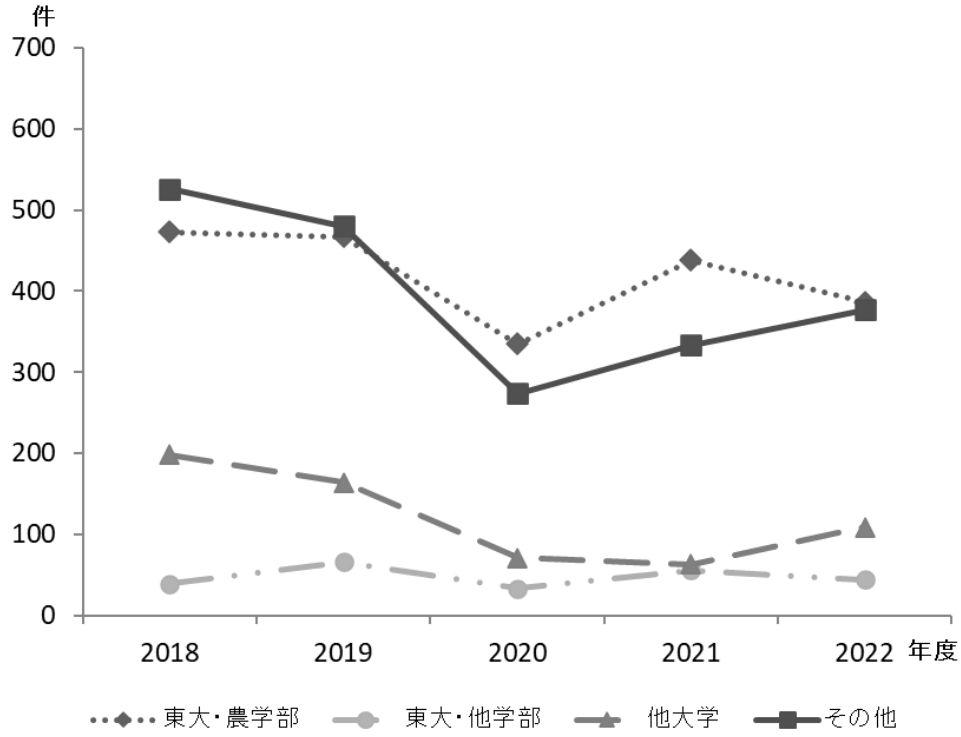
全学、研究科、演習林がそれぞれ定めるサバティカルに関する規則を改めて確認した。2月14日に開催された教員総会でこれらを演習林長より教員宛に紹介、2月24日に文書を発出し、サバティカル取得を奨励した。

【4】研修

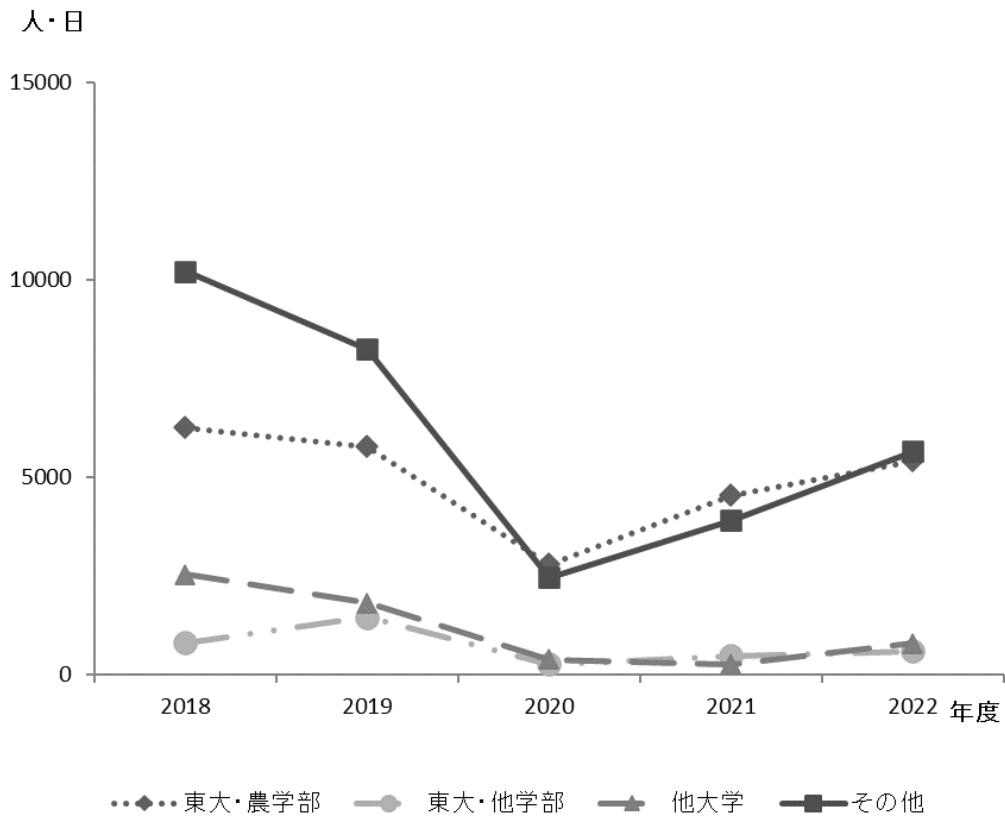
演習林技術職員等試験研究・研修会議を11月1日（火）に開催した。今年度は千葉演習林がホストとなり、3年ぶりに対面で開催された。11月1日は、共通テーマ「人工林」に地方演習林から7件の報告、日常の業務の成果や、他機関と共同で行った調査について自由テーマとして2件の発表があった。11月2日は當山啓介助教の講義「人工林関係の動向と、演習林における人工林の捉え方」のほか、千葉演習林の代表的な人工林である牛蒡沢および亀ノ沢の見学を行い、意見交換を行った。報告書について、フィールドデータ研究センター、教育・社会連携センターとも連携しながら、編集・印刷を担当した。

【5】全演的な情報収集

2021年5月の演習林会議で決定した「全演的な情報収集」の基本的考え方および個別具体的な対応方針に基づき、利用者実績、専攻長・附属施設長会議資料、運営委員会及び年報の資料作成のための情報収集を行った。



利用件数の過去5年間の推移



利用者延べ人数の過去5年間の推移

ロードレース大会利用人数（富士癒しの森研究所 2022年度は5,050名）を除く

【6】演習林の長期構想の検討

長期構想とは、自分が東大演習林を去ったあとの東大演習林のあるべき姿を思い描くことであると定義した。長期構想像の中に自分自身は存在しないので、東大演習林全体を俯瞰することになる。班員それぞれの「やりたいこと」を超越したところで、社会に対して東大演習林はどのような提案をすることができるのか、どのような課題と向き合うべきなのかについて班員は折々に考えとし、会合の機会には自由に論ずることにした。12月の初めての会合では、①教育研究計画に書かれているミッションや組織の思想に関する部分についても議論するべきではないか、②教育研究計画が細かく書かれ過ぎている嫌いがないかなどの意見が交わされた。③今後直近に行う活動としては、組織各所にある問題の洗い出しを行い、組織のよりよい在り様を探ることとした。

第3部 地方演習林報告

1. 千葉演習林	… 35
2. 北海道演習林	… 37
3. 秩父演習林	… 39
4. 田無演習林	… 41
5. 生態水文学研究所	… 43
6. 富士癒しの森研究所	… 45
7. 樹芸研究所	… 47

第3部 地方演習林報告

1. 千葉演習林

【1】大学教育

本年度は、コロナ禍前とほぼ同等の人数・科目数の教育実績であった。専門教育として、農学部2科目（森林科学基礎実習Ⅰ，森圏管理学実習），理学部1科目（地球惑星環境学科野外調査Ⅰ），大学院農学生命科学研究科1科目（生圏システム学特論）を対面で実施し，のべ224人日の学生が受講した。他大学（千葉大学）の実習1件を受け入れた。教養教育として，全学体験ゼミナール6科目（危険生物の知識（春編），徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう，木材のこと〜，房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ，危険生物の知識（秋編），森のエネルギーを使いこなす，房総の森と生業（なりわい）を学ぶ）と総合科目1科目（森林環境資源学）を対面実施し，計188人日が受講した。体験活動プログラム（「東大の森」の教育研究を支援しよう！）を実施した。卒論研究4件，修論研究7件，博論研究7件の利用を受け入れ，学生の研究活動を支援した。

【2】研究

研究課題のうち，1)スギ・ヒノキ人工林の施業・管理では，地上レーザー測量機器を導入して活用を開始し，またUAVレーザー測量機器の導入準備を進めた。長期試験地における地表面の長期変化の測定および分析を行った。2)暖温帯生態系の動態および保全では，自動撮影カメラによるシカ生息密度調査を継続し，前年度の密度を5.4〜7.3頭/km²と推定した。千葉県立中央博物館との協定に基づき昆虫相や菌類相の調査を実施するとともに，過去の調査で得られた維管束植物の在データを元に1kmメッシュスケールの維管束植物分布図を作成した。ヒメコマツ荒樫沢3個体の繁殖量モニタリングと高芽接ぎ調査を実施した。3)林木育種と増殖技術の確立では，抵抗性クロマツ候補9系統の一次検定を千葉県森林研究所と共同で行った。アカマツ挿し木の発根と光合成との関係を明らかにするため，二酸化炭素を処理する実験を行った。

長期データの収集と公表に関しては，複層林施業試験地の定期調査および一連の例年実施の調査を実施した。人工林長伐期施業試験地，郷台モウソウチク開花周期実証試験地のデータ整理を進めた。今澄高齢人工林針広混交林化試験地の論文，「吉田試験地」および維管束植物調査のデータペーパーが受理された。

研究利用は，新型コロナウイルス感染防止の観点から受け入れ上の制約があったものの，47課題（学生の研究活動を含む）の研究利用を受け入れた。また，利用者説明会をオンラインで実施した。その他，千葉演習林組織として16課題の研究を行った。

【3】社会連携

計画通り，地域交流協定に基づく鴨川市との共催事業「野鳥の巣箱をかけよう」にて観察会および巣箱作りを開催した。高校生ゼミナールを千葉大学との共催で開催するとともに，新たに千葉県立中央博物館との連携イベントを実施した。新型コロナウイルス感染拡大等の影響で森林博物資料館一般公開・学内特別ガイドを不開催とした。郷台林道の一般公開は来年度5月の開催を決定し準備を進めた。計画通りFacebookによる情報発信を継続したほか，Instagramによる情報発信を開始した。2路線とも通行止めだった「関東ふれあいの道」は，モミ・ツガのみちが復旧したが，アジサイのみちは通行止めとなっている。

【4】国際

11月にはインドネシア国ガジャマダ大学林学部から人工林管理・森林病虫獣害管理の研修を1名受け入れた。12月には、国立台湾大学実験林からの9名が来演して、カーボンクレジットに関する研修を行った。外国人留学生を含む教育研究利用は13件あり、参加留学生数はのべ21名であった。

【5】森林管理

天然林の森林現況資源調査として6~12林班で13カ所(13小班分)を調査した。生産林においては、2021年度に実施した主伐の亀ノ沢21Cにて主伐を実施し、面積合計0.627ha(スギ1,272本(約0.53ha)、ヒノキ360本(約0.07ha)、教育特別林としてスギ171本(約0.027ha))を新植した。また、2019~2020年新植地でのシカ食害被害などのため、スギの補植を相ノ沢10C4-3(425本)、相ノ沢10C4-4(525本)で実施した。保育作業として、下刈り0.93ha、除伐0.53ha、保育間伐3.44ha(直営0.54ha、請負2.90ha)を計画通り実施した。TSCP促進事業であるJ-クレジットプロジェクトについては、東ノ沢11C3-1で保育間伐を実施した。保護樹調査(全個体数95本)を完了させた。千葉演習林で選抜されたマツ材線虫病抵抗性アカマツ苗1,200本を苗木販売した。また、スギ2本(1.61m³)を素材販売した。

【6】環境安全

昨年度に引続き教育研究安全衛生マネジメントシステムを実施し、リスク低減対策を進めるとともに作業前のラジオ体操とツールボックスミーティングを行い安全作業への意識向上に努めた。今年度は、蜂刺され災害1件、公用車の物損災害2件、鉋による切創災害1件の計4件が発生し、再発防止に向けて検討を行い対策等について協議した。全教職員が参加する研修会を11月に実施し、消防署員の立ち合いのもとに火災発生を想定した図上訓練と担架の使用方法についての講習を行った。また2月にも消防総合訓練として清澄学生宿舎での火災を想定した通報・避難・消火訓練を実施した。新型コロナウイルス感染症対策については、本学の指針に沿って活動制限および感染予防・感染拡大防止に努めた。6月に監事監査があり、薬品等の管理状況について視察を受け、適正に管理されているとのことであった。

【7】管理運営

土地の増減はなかった。建物では、清澄長期滞在宿舎棟修繕工事、清澄学生宿舎大風呂タイル修繕及び風呂浴槽取替工事をおこなった。林道では、本沢林道坂本橋架け替え工事(詳細設計業務委託)をおこなった。また、災害復旧支援金による仁ノ沢林道路肩復旧工事(25m)による修繕をもって2019年の台風による林道災害の復旧が完了した。その他、直営による林道路肩補強としてL型擁壁設置を一杯水林道(約60m)、仁ノ沢林道(約23m)を実施し、一杯水林道の路肩崩壊(約4m;資材費などは市町村交付金相当額)も同様に修繕した。使用頻度の高い歩道として、安野歩道、池ノ沢歩道、長尾歩道、今澄歩道、袋山沢堰堤への到達路等の手入れを進めた。車両では、運用の効率化を計り、軽自動車を1台廃車した。また、軽自動車1台を更新した。

【8】組織

12月末に特任専門職員(特定短時間有期雇用)1名と3月末に特任専門職員(特定有期雇用)1名の退職があった。戦略会議・運営会議・教員会議・事業計画会議をそれぞれ月1回開催した。環境安全、企画広報、情報ネットワークの常置委員会を設置し業務を遂行した。

2. 北海道演習林

【1】大学教育

農学部授業科目「森林科学総合実習」を担当実施し、大学院授業科目「持続的森林圏経営論」と「森林流域管理学」の現地講義を受け入れた。卒業論文研究2件（帯広畜産大，酪農学園大），修士論文研究8件（東京大，北海道大，帯広畜産大，名古屋大），博士論文研究7件（東京大，京都大，東京藝術大，独グライフスヴァルト大）を受け入れてこれらの実行を支援した。ICTを活用したフィールド遠隔教育の取り組みとして、弥生キャンパスで行う農学部授業科目「森林生態圏管理学」および「森林環境科学汎論」で遠隔ライブ講義を実施した。教養学部授業科目「全学体験ゼミナール：雪の森林に学ぶ～北海道演習林」を開講した。本学の体験活動プログラムを実施して学部生と大学院生合計4名を受け入れた。

【2】研究

森林生態分野では、森林の更新・維持機構の解明を目的として、前山大面積長期生態系プロットのうち、5年間隔区40区画の調査、また、生態遺伝特性と遺伝子資源の保全を目的として、カラマツ属交雑育種系統試験林2箇所での測定を行った。野生動物の生態については、エゾシカのライトセンサスと自動撮影装置による野生動物モニタリングを継続実施した。生物多様性の把握とモニタリングに関しては、動植物の生物相・分布域など生物情報の収集を継続した。気候変動に対する生態系応答については、気象観測、水文水質観測、主要樹種のフェノロジー観測を継続した。

森林経営分野では、林分施業法の科学的・技術的基盤の強化に向けて、天然林施業試験地（固定標準地）の測定を継続するとともに、次年度施業予定の全林班（1,116ha）においてUAV空撮を実施し施業計画立案に活用した。また、機械地拵え後の植栽予定地においてもUAV空撮を行い植栽予定面積の算定に活用した。更新・保育施業による天然林再生技術の確立に向けて、群状択伐と樹冠下地がきによって天然更新を促進する試験的取り組みを継続した。広葉樹優良木の管理・育成技術の開発に関して、サントリースピリッツ株式会社の奨学寄附研究において、ウイスキー樽用材として有用な香気成分を多く含有するミズナラ個体を立木の状態で特定する手法の開発のためミズナラ伐採木30個体から材料（幹材と枝・冬芽）の採集、また、北海道演習林全域での遺伝構造を把握するためミズナラの葉を広く採集した。多様な人工林施業技術の開発に向けて、針葉樹3種のコンテナ苗と裸苗の生長比較をおこなった。林産物の付加価値形成およびマーケティング手法の開発に向けて、銘木市に出品する丸太に関する追加情報（立木の状態や採材方法など）を提供するため、情報や画像を掲載したPDFファイルをダウンロードできるQRコードとICタグ付きのラベルを一部の出品丸太に貼付し、その取り組みが入札に影響があったかどうかを検証するために入札業者に対してアンケート調査を実施した。

森林生態系管理分野では、森林施業が生態系プロセスに与える影響を検出するための各種データを継続して取得した。大規模攪乱後の森林回復過程に関して、他大学との共同研究によって、1981年の風害後の処理が森林回復に与えた影響に関する論文を公表した。森林および周辺地域に被害を及ぼす可能性がある種および保全すべき種の生育状況把握と管理に向けて、環境省の保全調査ならびに、希少生物の繁殖に配慮した施業スケジュールの調整に協力した。自動撮影装置によるアライグマの生息実態モニタリングを継続した。また、2022年度に開始した特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウの分布調査を継続した。森林の生態系サービスの評価に向けて、各種試験地および蓄積調査を継続し、森林炭素蓄積に関する基礎的データを収集した。水に関する生態系サービスと林分施業法との関係解明に向けて、新たに熊ノ巣沢での流量観測を開始した。

【3】社会連携・国際

初等・中等教育支援として、富良野市との地域交流協定に基づき同市教育委員会が演習林内で展開する森林学習プログラム推進事業に全面的に協力した。技術者教育として、官公署・国有林、林業団体等の研修会・視察見学等計9件を受け入れ、それぞれ指導を行った。北方森林学会春季行事「林分施業法に基づく広葉樹資源の育成・管理・利用」を受け入れ、解説を行った。一般公開事業として、神社山自然観察路一般公開、公開セミナー「東大演習林をめぐる」、大麓山ハイキング登山会、短時間セミナー「ぶらり東大の森さんぽ～冬の樹木園を歩こう～」を対面で開催した。国際化に関して、韓国で開催されたXV World Forestry Congress（第15回世界林業会議）においてビデオ発表を行い、北海道演習林における森林管理と研究の取り組みを紹介した。IUFRO 第1部門・第4部門合同全体会議において、北海道演習林が64年間にわたって実践する近自然型林業の適用事例を紹介した。JICA研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」を受け入れた。インドネシアで開催された第3回アジア長期森林観測研究国際シンポジウムにおいて北海道演習林の長期データを用いた研究発表を行った。

【4】森林管理

立木伐採は資材量で19,443m³（天然林11,053m³、人工林8,390m³）を実行し、うち1,424m³について素材生産・販売を行った（直営1,133m³、委託販売290m³）。林産物の販売額は合計94,210,190円で、内訳は立木が53,184,420円、素材（委託販売を除く）が15,094,300円、委託販売（銘木市売）が25,931,470円であった。山出苗生産（出荷）本数は15,798本（トドマツ6,164本、エゾマツ5,457本、アカエゾマツ4,177本）、山出購入苗2,000本（クリーンラーチ）、地拵、植付、下刈の実行面積はそれぞれ26.70ha、16.08ha、53.51ha、林道改良距離は62.53km、災害復旧7箇所であった。森林保護に関して、春期に山火予消防活動（監視および啓発）を、春と秋に野鼠発生予察調査を、冬期に北海道猟友会富良野支部および富良野市と共同でエゾシカの有害獣駆除（2回）を、森林被害巡林調査を計3回、それぞれ実施した。

【5】環境安全、管理運営

林内作業安全総合訓練として、前年度末に導入したフォワーダを使った新たな素材生産作業システムについて、直営生産現場での作業を見学しながら安全上の注意点に関して意見交換を行った。北演安全の日に樹木園構内の環境整備を行ったほか、例年実施している蜂対策講習会・交通安全講習会・建物火災避難訓練・スノーモバイル安全運転講習会を実施した。事故災害発生件数は9件で前年度（3件）より増加した。ハチ刺され被害、車両の物損、虫刺されによるアレルギー反応、重機による電線切断が各5,2,1,1件発生した。道路交通法改正によるアルコールチェックの義務化に伴い、アルコールチェッカーによるチェックを10月より実施した。無人航空機の利用に関しては、東京大学のガイドラインに従い、飛行申請を随時環境安全管理室に申請し利用した。緊急時対応マニュアルと緊急連絡網を更新し、緊急時に送るメールの一斉送信のテストを実施した。新型コロナウイルスの対策として、全職員に本人や家族に風邪症状が出た際の対応など示したQ&Aを適宜更新し配布した。西達布川の一部区域の河川改修工事が完了し、河川用地として北海道へ売却予定する面積（81,779.08m³）が確定した。潮田記念基金の配分を受け、麓郷セミナーハウスD棟の水回り改修等を行った。施設修繕準備金で麓郷森林資料館南面と西面の外壁塗装工事・漏水対策工事・建具他修繕工事を行った。普通乗用自動車1台とマイクロバス1台を更新した。ホイロードの購入契約が完了し、2023年度に納車予定である。125周年記念事業企画準備WGを設置し、3つの班（記念式典、記念誌、英文書籍）においてそれぞれ企画準備を進めた。

3. 秩父演習林

【1】大学教育

1) 学部・大学院生の教育

本学の修士課程 6 名（うち他研究科 1 名）、博士課程 1 名、および他大学の学部 1 名の学位論文研究を受け入れ、指導・助言、調査地への送迎、調査補助、調査地の維持管理などの協力を行った。この中から、卒業論文 1 篇（他大学）、修士論文 4 篇（うち他研究科 1 篇）が作成された。学部の実習 4 件（森林生物科学専修・森林環境資源科学専修、生物素材化学専修・木質構造科学専修、国際開発農学専修、教養学部国際環境学コース）および、大学院の野外講義 1 件（森林科学専攻・生圏システム学専攻）を受け入れた。

2) 教養教育への参画

全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」、「秋の奥秩父を巡る」を宿泊形式で開講した。また、全学体験ゼミナール 1 件を受け入れた。

【2】研究

1) 森林の生態系プロセス

長期固定試験地である針葉樹人工林試験地（大血川地区 12 プロット）および二次林試験地（全域 14 プロット）の定期毎木調査、環境省のモニタリングサイト 1000 事業に係るブナ・イヌブナ林および二次林の毎木調査を実施した。また、渓流水の水質モニタリングを継続し、滝川流域 6 地点における 2021 年 4 月から 2022 年 3 月までの渓流水の化学組成分析の結果を雑誌「演習林」に投稿した。外部の研究者と締結した覚書に基づき、ライブモニタリングシステムによる森林景観と樹木フェノロジーの記録、鳥類相の遠隔調査、環境教育教材の開発に関する研究が行われた。

2) 生物多様性の保全

環境省のモニタリングサイト 1000 事業として地表徘徊性甲虫の調査を継続した。また、センサーカメラによる哺乳類調査により、特定外来生物のアライグマの侵入を確認するとともに、食肉類の生息地選択を明らかにして、それらの成果を発表した。

3) 生態系の適応的管理

民間企業との連携により、シカ排除柵試験地（30 箇所×内外 2 調査区）の植生・土壌調査、センサーカメラによるシカ密度調査を継続した。また、奥地 25 林班の不成績人工林を天然林に誘導する試みとして、2018 年度に皆伐を行った区域で有用天然更新木の保育を目的とした除伐を実施するとともに、不成績人工林の皆伐を新たに行った。

4) 長期生態系データ

全演的な活動を実施するほか、過去の気象資料の整理を進め、鳥類の通年バンディング調査を行った。埼玉昆虫談話会との昆虫ライトトラップ調査は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施しなかった。

5) 利用者ガイダンス・発表会

5 月 24 日にオンラインで開催し、利用の手引きと要旨集（40 題所収）を配布した。利用者発表会では外部から 30 名の参加を得て 19 題の口頭発表が行われた。

【3】社会連携

秩父地域の木材業・森林・林業の普及啓発を目的とする「木が香る秩父フェスティバル」（5 月・11 月、道の駅ちちぶ）、「ちちぶ木の駅プロジェクト」（12 月）に参加した。また、特別天

然記念物カモシカ，埼玉県特定鳥獣保護管理，甲武信ユネスコエコパーク，秩父地域森林林業活性化，秩父地域鳥獣害対策にかかわる委員会等に参加した。影森苗畑におけるカエデ見本木の造成に向け，地域のNPO法人と覚書を締結した。小中高校への対応では，埼玉県立秩父農工科学高校の樹木採集実習（7月）を受け入れた。公開講座として「東大の森林で昆虫採集」（7月），「樹木のボディランゲージ」（2月）を開催した。秩父演習林ボランティア会「しおじの会」は，ガイドツアー「しおじの会と東大秩父演習林を歩こう」（6月・11月）の他，シカ防除柵の点検補修，歩道巡視，お土産づくり（木工品），樹木園保全などの活動にのべ221名が参加した。社会発信では，ワサビ沢展示室の展示の更新やイベント情報メールの配信を行った。「東京大学の森」育成資金は，新たに5件の寄付をいただいた。

【4】国際

ガジャマダ大学（インドネシア）からDNA解析に関するJICAプロジェクト研修を受け入れ，講義・実習を行った。

【5】森林管理

育林実行量は，改植1箇所（0.10ha），下刈1箇所（0.10ha），枝打ち1箇所（0.04ha），獣害対策がクマ剥皮防除樹皮ガード保守管理1箇所（0.88ha）であった。他に埼玉県水源地域の森づくり事業により，枝打ち1箇所（0.70ha），保育間伐5箇所（3.45ha），クマ剥皮防除樹皮ガード保守管理1箇所（0.50ha）を実施した。土木実行量は，車道維持が16,395m（車道改修20m，災害復旧9箇所含む），歩道維持が21,881m，モノレール維持が10m（1路線）であった。また，民間企業との協定による森林整備で，天然林化を目的とした皆伐1箇所（0.98ha）と除伐1箇所（1ha）を実施した。ナラ枯れは秩父地域（長瀬町）でも初めて確認され，ナラ枯れ対策WG（2021年設置）の役割をGX対応WG（2022年設置）へ移行し，未被害木の利用としてミズナラ14本の伐採を行った。空間情報関連では，高精度GNSS受信機，レーザーコンパス，UAVを活用したGISデータの整備を行った。

【6】環境安全

新型コロナウイルス感染症対策として，本学や研究科の方針に沿うとともに，秩父演習林独自の活動制限レベルを設定，「秩父演習林における新型コロナウイルス対応ガイドライン」，「秩父演習林活動制限レベル別利用受入基準」，「利用時チェックシート COVID-19 対応」，「新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたしおじの会の活動実施について」等の指針（2022年6月22日改定）に基づいた対策を講じた。また，活動制限レベルに対応して個々の業務に支障が生じないように調整し，在宅勤務を実施した。災害は，公用車のガードレール接触事故があった。2022年2月に発生したUAV墜落事故を受け，飛行計画書と飛行手順書，墜落時マニュアル等を策定した。5・2月に教育研究安全衛生マネジメントシステム会議，8・1月に消防訓練（8月のみ）及び機器点検，12月に安全運転のDVD回覧と公用車自主点検を実施した。また，道路交通法施行規則の改正に伴い，公用車の運転前後のアルコールチェックを導入した。

【7】管理運営

施設の整備では，川俣学生寄宿舎の2階耐震改修と秩父事務所の電話設備更新，影森苗畑のストックヤード建築（完成は次年度）を実施した。ストックヤードは，GXに関する東京大学の取り組みに協力するもので，保管する材を取り扱う上で必要なフォークリフトを購入した。また，ネットワーク関連として，秩父事務所と影森自炊宿舎にUTokyo WiFiを導入した。路網の維持管理では，モノレールの点検3,070m（3路線）を行った。工事としては，東谷林道小滝橋の補修工事を予定していたが，12～2月は凍結により工事ができない，かつ6～10月は国交省の規則により河川内に足場を組む工事ができないこと，当初に想定していた工法では施工できないことなどから次年度に延期した。

4. 田無演習林

【1】大学教育

農学部および大学院の実習 5 件，講義 3 件の実施を受け入れた。農学部の実習には連携する生態調和農学機構による実習 1 件が含まれている。教養学部の全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」は社会連携イベントである「子ども樹木博士」と関連付け，田無演習林が主体となり実施した。卒業論文研究等では卒業論文 3 名（うち本学 1 名），修士論文 6 名（うち本学 3 名），博士論文 3 名（うち本学 2 名）の利用があった。教育利用全体での延べ利用者数は 371 名であった。

【2】研究

単回・通年利用を含め 32 件の申請があり，延べ 308 人の研究利用があった。卒論等の課題研究を含めた研究的活動は 37 件であり，内容別には都市林の機能評価など都市林の計画に関する研究が 12 件と約 3 割を占め，都市林の管理に関する研究が 10 件，都市林の利活用に関する研究が 3 件となっている。これらに加え，田無演習林独自研究としてブナ科樹木萎凋病の初期侵入過程を調査した。分野の異なる利用者との交流を深め，研究可能性をさらに広げることを目的とした研究利用者交流会を例年通り 6 月に実施する予定であったが，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染防止対策のため開催を見送った。

【3】社会連携

今年度も引き続き COVID-19 による活動制限があったが，感染防止対策措置を施し，小中学生向け講座（子ども樹木博士認定会）を 2 回実施した。小中学校から校外学習の受入依頼が 10 件あり，COVID-19 感染防止対策を十分に行うことなどを条件に受け入れて指導した。そのほかに，非営利団体の見学が 6 件，七夕用のササの分譲が 2 件あった。平日の一般見学の受け入れについては今年度も完全に中止したが，休日公開を 4 月 17 日，5 月 1 日に事前申込みにより人数制限して実施し，11 月 27 日に事前申込不要で行い，833 名来演した。12 月 4 日に学内教職員向けとして「リース作り体験会」を実施し 35 名が参加した。

このほか，樹木剪定作業により生じた枝葉を花材・園芸資材として東京都板橋市場にて委託販売した。シラカシ大径木の丸太を箸材として製材・販売し，（株）兵右衛門が作成した箸は東京大学コミュニケーションセンターで販売された。

今年度からの新しい社会連携活動として森林教育パートナー（小中学生の森林教育関連授業の補助を中心に活動をおこなうボランティア）の募集を開始した。5 月 25 日に研修を実施し，12 名が森林教育パートナーとなり，子ども樹木博士認定会など 12 回の活動に延べ 42 名が参加した。

【4】国際

COVID-19 の影響もあり，外国人研究者の来訪はなかったが，外国人による教育利用は 8 名あった。また田無演習林の教員が 8 月に SAUFC 国際シンポジウムに，2 月に JSPS 国際シンポジウムにオンラインで参加した。

【5】森林管理

実習および研究用としてアカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキの実生苗の育成を行い、研究者から委託された苗木育成のための苗畑管理（灌水や除草等）も行った。また、試験地として整備されたフィールドの適切な管理を行うため、下草刈り等の作業を行った。

田無演習林では、年間を通して多数の利用者が林内見学を目的として来演する。COVID-19 感染防止対策として今年度は一般見学を行わなかったが、いつ再開しても安全に見学利用してもらえるように、散策路沿いや樹木園の休憩場所の枯損木および危険木の伐採を、小径木については直営で、大径木（カジカエデ）については請負で行った。枯損枝、掛り枝についても、スローラインや高所作業車を用いて直営で除去した。敷地境界からはみ出した枝の処理や境界沿いの小径木の伐採は直営で適宜行った。北側境界沿いのサワラとムクノキは請負で伐採し、重点的に整備した。伐採した材は、田無本館に設置された木質バイオマスボイラーの薪として提供するなど有効活用した。また 2020 年度に初めて確認されたナラ枯れ被害は今年度も引き続き発生し、マツ材線虫病によるマツの枯損被害も発生した。枯損木を直営および請負にて伐採し、燻蒸処理と木質バイオマスボイラーで焼却を行った。

【6】環境安全

毎月の安全衛生マネジメントシステム会議では、他演で発生した災害発生報告や、熱中症やハチ刺され対策など季節に応じた注意喚起を行い、災害を未然に防ぐよう努力した。6月に視認困難な生垣内のスズメバチの巣を刺激したためハチに刺された災害があった。COVID-19 感染防止対策の中で2年間中止していた防災訓練を10月に小規模に実施し、田無本館内の防災設備を確認した。来年度はこうした活動を継続し、防災意識をさらに高めていきたい。

【7】管理運営

今年度も COVID-19 感染拡大に伴う活動制限下での活動が続いた。田無演習林では、教員2名が交代で在宅勤務、技術職員と非常勤職員が週1回の在宅勤務を行い、事務所に出勤する人数を減らした状態で日常の業務ならびに研究、教育、見学等の利用受入を行った。休日公開、子ども樹木博士認定会などのイベントや社会連携活動は実施したが平日の一般見学は再開できなかった。

西東京キャンパス整備は順調に進み、旧事務所庁舎は田無演習林セミナーハウスとして再生し10月からは外部向けの有料利用を開始した。今年度は講義室の有料貸出利用が2件あった。昨年度に新設した保全施設2（演習林車両倉庫）に続き保全施設1（演習林フィールド管理棟）の新設工事を進め2月に完成した。残っていた未通知建物の解体撤去も年度内に終了し田無演習林の敷地内にある建物関係の整備はすべて完了した。

「東京大学の森」育成資金に1名の方から寄付いただいた他、「武蔵野に大学の森をたずねて～東京大学田無試験地の80年～」を19冊、「”森たび”東京大学演習林のみどころ100」を25冊、「気持ちよく納められる森林環境税とは？」を17冊販売した。

5. 生態水文学研究所

【1】大学教育

第6期計画に基づき、森と水の自然科学的、森と水と人の関係についての社会科学的なテーマの教育活動を実施している。また、「研究」や「社会連携」と連動した「大学教育」とすることを心掛けた。農学部森林生物科学専修・森林環境資源科学専修の森林科学基礎実習Ⅳの現地実習を8月22～26日に実施し、10名が参加した。教養学部前期課程Sセメスター総合科目D人間・環境「森林環境資源学」のフィールドワークを6月4日～5日に実施し、11名の参加があった。全学体験ゼミナール「人の手で造り管理」を実施し、7名が参加した。本学体験活動プログラム「森・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える90年を全身で感じてみよう～」を、9月27日～30日を実施し、6名の参加者があった。

【2】研究

森林の水源涵養機能や水土保持機能が、森林の二次遷移や気候変動へどのように応答するのかを明らかにするために、水文水質、気象、土砂、生態データを継続して取得・分析・公開を行っている。

白坂・穴の宮・東山・犬山において水文観測、気象、雨水・渓流水サンプリング、水質分析を継続した。白坂小流域固定試験地において毎木調査、リター調査、種子調査、地上徘徊性昆虫調査、鳥類調査を継続した。毎木調査については、毎年行うモニタリング100愛知赤津サイトだけでなく、白坂小流域固定試験地の毎木調査を行った。次回は2027年度の調査を予定している。

白坂・東山・穴の宮気象観測露場における2021年の観測結果と白坂流域の2020年日流出量、降水と渓流水の水質データがそれぞれ雑誌「演習林」に掲載された。穴の宮流域の2017-2021年の流量データが雑誌「演習林」に掲載された。赤津研究林のヒノキ林の土壌撥水性に関する論文がForests誌に(Moein・大谷)、白坂小流域固定試験地におけるコナラ堅果の落下特性に関する論文が中部森林研究(澤田・岸本)に掲載された。

JpGUmeeting2022において水内が赤津研究林におけるUAVを利用した風景評価について発表した。2022年度技術職員等試験研究・研修会議において岸本(澤田・井上)が生態水文学研究所第5期研究計画期間中における人工林の間伐実施状況について発表した。第12回中部森林学会において澤田がモニタリング1000愛知赤津サイトにおけるコナラ堅果の落下特性について発表した。第134回日本森林学会大会において、浅野(水内・岸本)が白坂流域の土砂流出量について、澤田が白坂小流域固定試験地における森林変化について発表した。

研究所に保管されている明治末期から昭和初期の古い地図を対象に、約40点のデジタルアーカイブ化を行った。利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会を5月27日にオンライン開催し、46名の参加があった。データ利用規則に基づき、データ利用を4件許可した。

【3】社会連携

2022年度は2021、2020年度とは異なり新型コロナウイルス感染症の影響でイベントを中止することはなかったが、人数に上限を設けるなど規模を縮小しての開催が多かった。犬山市立今井小学校で開催されている「探鳥会」は今井小学校で4回開催し、梁瀬・澤田が講師として参加した。東京大学赤津研究林サポーターズクラブ「シデコブシの会」、「犬山研究林利用者協

議会」による赤津研究林、犬山研究林での主催行事、見学団体ガイド等がそれぞれ7件、30件行われた。市主催のイベントでは、10月に瀬戸市主催の赤津研究林内のイベントが予定されていたが、人数が集まらず中止した。犬山市は4月と11月に市民を対象にした自然観察会を主催し、それぞれ18、23名が犬山研究林を見学した。その他に他団体主催で一般向けの公開講座を2件にそれぞれ33、20名が参加したほか、地元小学校の出張授業に技術職員が対応し、児童24名が参加した。また、中高生の実習を1件開催して約30名が参加した（予定）。瀬戸市環境審議会と犬山市環境審議会に所長が委員として参加した。全国各地の高校の生徒を対象にした「東大の研究室をのぞいてみよう！」プログラムに技術職員が中心となって対応し、観測の技術や工夫など実際の作業を紹介した（予定）。

【4】国際

特任教員として米国コロラド州立大学のKristin Bunte先生を招聘し、赤津研究林で土砂観測の研修や観測に基づく土砂動態分析、森林科学セミナーを行った。米国コロラド州立大学のSteven R. Fassnacht先生が来所し現地検討と森林科学セミナーを行った。ROBIN (Reference Observatory of Basins for INternational hydrological climate change detection)プロジェクトに協力した。

【5】森林管理

第6期計画において4つにゾーニングした研究林をそれぞれの施業方針に従って管理した。森林科学専攻 基礎実習Ⅳ で利用する森林の安全確認と整備を7、8月に実施した。前年度購入した砂利を使うなどして10、11月に直営で東山林道を整備した。愛知県の小規模治山事業(森林機能回復緊急整備)により2.80ha、森林ボランティアにより0.15haの間伐を実施した。市町村交付金相当額予算により、犬山市道犬山今井中線沿いにある危険木および危険枝の除去、犬山研究林10林班ふれあいゾーン内の歩道新設、不法投棄物の処分、不法侵入者対策のための警告看板の設置、瀬戸市五位塚事務所に接する瀬戸市道沿い危険木の除去、穴の宮試験地と境界を接する水路の安全確保のための危険枝の除去、瀬戸市道上品野線沿いにある危険木の伐採、東山林道補修用の砂利購入を実施した。74林班においてマツ枯れ対策として湖西市と協働で地上からの予防散布(5月21日)を行った。また74林班のマツ枯れ被害が浜名バイパス 新居弁天I.C.付近の東西で今年度さらに大きく拡大した。そのことを森林病虫害委員会に報告し、同委員会および他演技術職員の協力を得て1月11、12、13日に計259本のマツにマツ枯れ予防剤の樹幹注入を実施。1月18日に40本、2月8日に8本を追加で樹幹注入した。今年度は合計で計307本のマツに樹幹注入を実施した。

【6】環境安全

労働安全衛生会議を毎月開催し、安全確保に努めた。今年度の災害発生はなかった。

【7】管理運営

特任助教一名を4月に採用した。さらなる活用を図るため、五位塚長期宿泊施設を五位塚宿泊施設2に変更した。防災、脱炭素型社会の形成等に関する協定を研究科と静岡県湖西市が7月15日に締結した。生態水文学研究所100周年記念式典・シンポジウムをオンラインにて12月8日に開催した。

6. 富士癒しの森研究所

【1】大学教育

1) 実習等の受け入れ

教養学部の現地講義 6 件，農学部での現地講義 7 件，大学院での現地講義 1 件，他大学の学生実習 1 件，国際教育 1 件を受け入れた。担当教員とコミュニケーションをとり，教育利用における利便性を高めるよう努めた。体験活動プログラムを実施し，4 名の学生が参加した。

2) 教育活動支援

修士論文 4 件，博士論文 2 件の利用があり，基礎データ提供およびドローン調査等の支援を行なった。

3) 教育プログラムの企画実施

全学体験ゼミ「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ」，総合科目「森林環境資源学」を，続・癒しの森プロジェクトの一環として実施した。体験活動プログラムを企画し，夏の部および冬の部を実施した。運動会学生との共同作業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。

【2】研究

1) 研究所が組織的に取り組む研究

- [1] 森林管理：所内全域のナラ枯れ被害を把握する研究を実施し，DX による単木管理の調査手法を開発した。昨年に続き，山中湖村と共同して村内のナラ枯れ把握のための調査に協力した。ナラ枯れ被害の予防に関して忌避剤試験に着手した。
- [2] 資源化および資源活用：ナラ枯れ被害木の薪活用に関する試験を実施した。
- [3] ソーシャルデザイン：所内の一部地区を一般開放する際のエリア設定やルール設定の妥当性を検証する試験を実施した。住民を対象にしたチェーンソー講座の教程に協力した。
- [4] 試験地および基盤データ等：実証林において林内気象データを蓄積した。実証林の管理計画は立案できなかった。I 林班での気象データの回収，蓄積を行った。長期生態系データ調査として，動物センサーカメラ調査，鳥類調査を実施し，昆虫調査，植物調査に協力した。キノコ放射性物質調査に参加し，サンプリングを行った。過去の試験地等のデータ確認と整理を行った。

2) 研究利用の受け入れ，共同研究

19 件の研究利用を受け入れ，基礎的データの提供等の支援を行なった。随時研究利用の呼びかけを行なった。共同研究として，山梨県森林総合研究所とのナラ枯れ被害木の処理方法に関する試験を実施した。チェーンソー講座教定に関して，村役場および講師と連携して検討した。保健医療分野との研究打合せを実施した。

【3】社会連携

1) 一部エリアの一般開放

5 月に 2 日間，暫定的に開放エリアを設定し，試験的に一般開放を行った。

2) 知識・技術の提供

山中湖村と共同し，地域住民向けのチェーンソー講習を実施した。山中湖村と共同でナラ枯れに関する公開講座を開催した。

3) 村行政との共同事業

ナラ枯れ調査および被害木の利活用について、村行政と共同して取り組んだ。村の後援を得て「癒しの森の朝もや音楽会」「森の文化祭」を開催した。100周年記念事業について協議し、組織立ち上げの準備を行なった。

4) 住民活動の支援

「癒しの森の会」による活動を支援し、共同して「癒しの森の朝もや音楽会」および「森の文化祭」を企画・実施した。

【4】国際

英語によるウェブサイトでの情報発信を行なった。

【5】森林管理

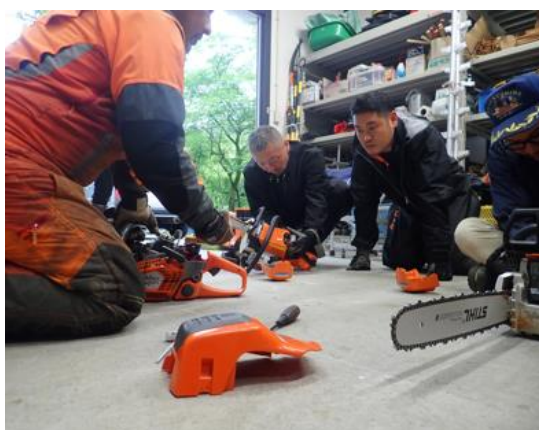
路線管理システムによる道路沿線の施業，ナラ枯れ被害木を含む枯損木・危険木等の処理，景観管理作業（落ち葉たき）を年度当初計画に従って実施した。刈払いは，I-10 以外は計画通りに実施した。試験地管理としてⅢ-13 の除伐，つる切りを行なった。I 林班作事場林道の碎石敷設工事および，公道林道沿いや各建物付近，境界沿いの枯損木，危険枝の処理を市町村交付金相当額予算で実施した。

【6】環境安全

安全管理のため定期的および随時の情報共有を行うことで職員の安全作業を期すとともに，危険情報を利用者に伝達し，利用者の安全管理を支援した。学生実習において学生が鋸使用中に負傷する事故が発生したことを受け，研究所内で事故防止の対策を検討した。

【7】管理運営

研究科技術・機械グループの研修，森林管理委員会・空間情報技術部門の研修を受け入れた。マツ樹幹注入，伐倒作業，構内樹木管理に関する研修に参加し，関連する知識を所内で共有した。事務所前のアスファルト舗装修繕を施設修繕準備金で実施した。



山中湖村住民対象のチェーンソー特別教育



第2回「森の文化祭」

7. 樹芸研究所

樹芸研究所の大きな特徴は、教育に全エフォートの50%を割き、教育と研究とがともに社会貢献を意識しつつがいに強くリンクすることである。例えば林業復活が現代の日本社会にとって如何に重要であるかという視点を学生に示すことなどが社会貢献を意識した教育であり、例えば南伊豆町というローカルで今後取り組むべきは何かという視点を学生に示すことなどが社会貢献を意識した研究となる。教育と研究がともに社会貢献を目指すことで、研究を最終的に教育に資することを目的とすることができる。小さい組織はその一点に集中して活躍の活路を見出す。

【1】教育

樹芸研究所は全学教育を担うことになった。特に2006年度に開始した前期教養課程の主題科目・全学体験ゼミナールの充実に注力している。全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」シリーズは、現代社会においては見えにくい「プロセス」を、体験を通して気付かせる仕掛けであることを基本と、「学ぶ」ことの原点を問うことに重きを置く。「体験」ゼミであるが、「考える」ことの重要を強調している。2021年度まで新型コロナの影響により、従来の合宿型のゼミを実施できなかったが、2022年度より受講生数を絞って合宿型のゼミを再開した。

1) 農学部 国際開発農学専修3年生

「森林実習」(新型コロナ対策下の宿泊施設定員が、受講生数に受け入れられなかったため合宿型を断念し、本郷・弥生キャンパスで対面で実施)

2) 教養学部前期課程1, 2年生 主題科目 全学自由研究ゼミナール

「伊豆に学ぶプラス」(Sセメスタ, Aセメスタに駒場キャンパスにて対面で実施)

「獣害問題とは何の問題か」(Sセメスタ, Aセメスタに駒場キャンパスにて対面で実施)

3) 教養学部前期課程1, 2年生 主題科目 全学体験ゼミナール

「夏版伊豆に学ぶ1」(8/8-12)

「夏版伊豆に学ぶ2」(8/24-28)

「夏版伊豆に学ぶ3」(9/8-12)

「伊豆に学ぶ_竹炭焼き+熱帯植物編1」(2/6-10)

「伊豆に学ぶ_竹炭焼き+熱帯植物編2」(2/23-27)

4) 東京大学体験活動プログラム

「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」(2/18-20, 3/18-20)

「伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く」(3/11-15)

【2】研究

1) 研究題目「バイオマスによる排熱を活用したカカオ豆・南国樹木の栽培・産業育成」を行う共同研究契約を中部電力(株)と交わした。樹芸研にて育苗したカカオ苗600本を12月名古屋市東谷山フルーツパーク温室に搬入した。樹芸研温室と異なる環境におけるカカオ栽培への第一歩となる。管理業務は東谷山フルーツパークに委託しているが、過湿によるダメージと思われる影響がカカオ苗に出たため、新天地の新管理体制を早々に見直すことになった。

2) バニラの簡便なキュアリング法は開発の途上にあり、品質向上を実現した上で特許申請を目指して取り組んでいる。仕上がりに改善は見られたものの、製品としての価値を客観的に

判断する必要から、新法によるキュアリング済バニラを成果有体物として香料会社に有償提供して分析されることになった。

- 3) (株)エコグリーンホールディングスの受託研究「千葉県環境に適した、燃料利用目的に合致した樹種の選定と植林・伐採・搬出における生産システムの最適化」を足掛かりとして、NEDOの「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」に係る公募に協力者として加わることになった。新たな燃料ポテンシャル（早生樹等）を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業を展開している。これと並行して、明らかになっていない単位面積当たりの生産性を明らかにする目的であらたに植栽試験を進めている。それらの成長を追跡して定期的に記録することは樹芸研究所にとって特に重要である。近年新たに植栽したユーカリたちは非常に好い成長を示し、見学した学生に早生樹活用の可能性を示し関心を持ってもらう魅力的な教材となっている。データをとるばかりではなく、見せる「ユーカリ林分」を造成することを重視している。NEDO事業の一部として、2013年に植栽した *E. saligna* を半分伐採した。生産性を調べデータを供与するほか、材質や製品化に関する調査を行うこととした。伐採跡は萌芽更新試験地とする。

【3】社会連携

伝統工芸木炭生産技術保存会へのアブラギリの安定供給を通して、日本の伝統工芸の一つである漆器・蒔絵に欠かせない研き炭（駿河炭）を供給するという社会連携に取り組んでいる。研磨炭（駿河炭）の原料となるアブラギリを中心にハゼノキ、ヤブツバキなどの油糧植物の資源を確保し、搾油も実際に行う。この磨き炭焼きから発展させた体験活動プログラムに6人の学生を迎え3/13~16に実施した。

市民向け公開講座は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

【4】森林管理・管理運営

市町村交付金相当額予算により、青野町道への土砂流出防止工事（水路改修工）、岩樟園林道路肩補修工事を、施設修繕準備金により、下賀茂寮宿泊施設防水工事（塔屋）、加納職員宿舎改修工事を、ユーカリ受託研究費（NEDO）により、ハウス加温機更新、温室自動開閉窓減速機更新、温室自動灌水装置電磁弁更新、温室点検及びメンテナンスを、運営費により、下賀茂寮エアコン2台更新、グロースチャンパー更新、純水製造機更新を、それぞれ行った。

【5】その他

全学の障害者雇用枠で2名を雇用してきた。療養中であった1名は持病が悪化してお亡くなりになった。

資料

1. 大学教育	… 50
2. 研究	… 70
3. 社会連携	… 97
4. 国際	…116
5. 森林管理	…121
6. 環境安全	…128
7. 管理運営	…131
8. 組織図	…134
9. 人事	…147
10. 予算・収入	…148
11. 委員会・会議等	…149
12. 利用状況	…150
13. 演習林所在地および連絡先	…203

1. 大学教育

1) 大学院講義等

生圏システム学専攻修士課程

講義名	担当教員
森林圏生物動態学	鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・鈴木智之・前原 忠・久本洋子・福井 大
森林圏生態学演習	鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・福井 大
森林遺伝子機能開発学	山田利博・鴨田重裕・楠本 大
森林生物機能学演習	山田利博・鴨田重裕・楠本 大
森林生態圏管理学特論	石橋整司
森林圏管理システム学	安村直樹・藤原章雄
森林圏水循環機能学	蔵治光一郎・浅野友子・田中延亮
持続的森林圏経営論	尾張敏章・三浦直子・水内佑輔
森林流域管理学	蔵治光一郎・尾張敏章・浅野友子・田中延亮・三浦直子・水内佑輔
森林圏生態社会学演習	石橋整司・安村直樹・齋藤暖生
森林流域管理学演習	蔵治光一郎・尾張敏章・浅野友子
生圏システム学特論	日浦 勉・鎌田直人・當山啓介・楠本 大・ほか9名
生圏システム学実験・研究	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・廣嶋卓也・浅野友子・田中延亮・福井 大

森林科学専攻修士課程

講義名	担当教員
森林圏生物動態学	鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・鈴木智之・前原 忠・久本洋子・福井 大
森林遺伝子機能開発学	山田利博・鴨田重裕・楠本 大
森林圏管理システム学	安村直樹・藤原章雄
森林生態圏管理学特論	石橋整司
森林圏水循環機能学	蔵治光一郎・浅野友子・田中延亮
持続的森林圏経営論	尾張敏章・三浦直子・水内佑輔
森林流域管理学	蔵治光一郎・尾張敏章・浅野友子・田中延亮・三浦直子・水内佑輔
森林科学特別実験	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井大
森林科学特別演習	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井大

農学国際専攻修士課程

講義名	担当教員
森林昆虫生態学 (Forest Insect Ecology)	鎌田直人

生圏システム学専攻博士課程

講義名	担当教員
森林圏生態学特別演習	鎌田直人・後藤 晋・平尾聡秀・福井 大
森林生物機能学特別演習	山田利博・鴨田重裕・楠本 大
森林圏生態社会学特別演習	石橋整司・安村直樹・齋藤暖生
森林流域管理学特別演習	蔵治光一郎・尾張敏章・浅野友子
生圏システム学特別実験・研究	鎌田直人・山田利博・石橋整司・蔵治光一郎・後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮・福井 大

森林科学専攻博士課程

講義名	担当教員
森林生態圏管理学特別演習 I	鎌田直人・山田利博・後藤 晋・鴨田重裕・平尾聡秀・楠本 大・福井 大
森林生態圏管理学特別演習 II	石橋整司・蔵治光一郎・尾張敏章・安村直樹・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮
森林生態圏管理学特別実験 I	鎌田直人・山田利博・後藤 晋・鴨田重裕・平尾聡秀・楠本 大・福井 大
森林生態圏管理学特別実験 II	石橋整司・蔵治光一郎・尾張敏章・安村直樹・齋藤暖生・浅野友子・田中延亮

2) 学部講義等

農学部講義・演習・実験実習

講義名	課程・専修等	開講年次・ ターム	担当教員	備考
森林環境科学汎論	農学基礎科目	2年次・ A1-A2	龍原 哲・蔵治光一郎・尾張敏章・ 安村直樹・ほか6名	
森林資源と木材利用	農学総合科目	2年次・A2	古井戸宏通・安村直樹・ほか4名	
農学リテラシー	農学共通科目	2年次・W (集中)	中嶋康博・蔵治光一郎・ほか12名	
森林生態圏管理学	応用生命科学課程・ 環境資源科学課程	3年次・ S1-SP	鎌田直人・山田利博・蔵治光一郎・ 後藤 晋・鴨田重裕・安村直樹・尾 張敏章・平尾聡秀・楠本 大・齋藤 暖生・浅野友子・福井 大	
森林政策学	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・ S1-SP	古井戸宏通・安村直樹・ほか2名	
造林学	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・ S1-SP	丹下 健・益守眞也・後藤 晋	
森林遺伝育種学	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・SP	後藤 晋・久本洋子	
森林科学基礎実習 I	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・ S1-SP	福田健二・楠本 大・久本洋子・當 山啓介・藤原章雄・竹本周平・ほか 8名	
森林科学基礎実習 II	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・ S1-SP	熊谷朝臣・田中延亮・ほか3名	
森林科学基礎実習Ⅲ	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・ S1-SP	福田健二・坂上大翼・ほか8名	
森林科学基礎実習Ⅳ	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・ S1-SP	古井戸宏通・安村直樹・田中延亮・ 齋藤暖生・ほか9名	
森林科学総合実習	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3、4年 次・S2	龍原 哲・尾張敏章・田中延亮・福 井 大・鈴木智之	
森林政策学演習	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・ A1-A2	古井戸宏通・齋藤暖生・ほか2名	
森林風景計画実習	森林生物学専修・ 森林環境資源科学専修	3年次・ A1-A2	山本清龍・藤原章雄	オンライン
森林実習	国際開発農学専修	3年次・SP	露木 聡・広嶋卓也・鴨田重裕・平 尾聡秀・井上広喜	弥生・本 郷で実施
国際農学実験・実習 I 個別実験	国際開発農学専修	3年次・ S1-SP	石橋整司・齋藤暖生・平尾聡秀	

教養学部講義・演習【実施できたもの】

講 義 名	開講ターム・ Semester	担 当 教 員	備 考
総合科目「森林環境資源学（森と癒し、森の最終形、森とダム）」	S	蔵治光一郎・楠本 大・齋藤暖生・當山啓介・藤原章雄・三浦直子・水内佑輔	千葉・富士・生水で現地開催
総合科目「森の生物学」	S	久保田耕平・鎌田直人 ほか4名	オンライン
全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	S1	石橋整司・齋藤暖生・井上広喜・前原 忠・久本洋子	富士・千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」	S1	石橋整司・竹本周平	田無・駒場で現地開催
全学体験ゼミナール「徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう、木材のこと〜」	S2	石橋整司・安村直樹・齋藤暖生・藤原章雄・當山啓介	都内・千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「東大の別荘『癒しの森』で心も体もリフレッシュ」	S2	齋藤暖生・後藤 晋・浅野友子・藤原章雄・三浦直子	駒場・本郷・富士で現地開催
全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）伊豆編S1」	S2	鴨田重裕	伊豆で現地開催
全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）伊豆編S2」	S2	鴨田重裕	伊豆で現地開催
全学体験ゼミナール「森に学ぶ（ふらの）北海道の大地に学ぶ」	S2	鴨田重裕・平尾聡秀	北海道で現地開催
全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」	S	山田利博・平尾聡秀・浅野友子・坂上大翼	秩父で現地開催
全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」	S	鎌田直人・楠本 大・久本洋子・當山啓介	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」	A1	石橋整司・齋藤暖生・井上広喜・前原 忠・久本洋子	富士・千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング〜GPSを使ったオリジナル地図づくり〜」	A1	石橋整司・露木 聡・藤原章雄	富士で現地開催
全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林」	A1	安村直樹・浅野友子・水内佑輔	生水・明治神宮で現地開催
全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_竹炭焼き+熱帯植物編①」	A2	鴨田重裕・井上広喜	伊豆で現地開催
全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_竹炭焼き+熱帯植物編②」	A2	鴨田重裕・井上広喜	伊豆で現地開催
全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」	A2	鎌田直人・楠本 大・久本洋子・當山啓介	千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ〜北海道演習林」	A2	尾張敏章・田中延亮・福井大・鈴木智之	北海道で現地開催

講 義 名	開講ターム・ semester	担 当 教 員	備考
全学体験ゼミナール「(森と人を紡ぎ直す感性と技術の方法論)」	A	藤原章雄・水内佑輔	秩父で現地開催
全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	A	安村直樹・齋藤暖生・當山啓介	富士, 千葉で現地開催
全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	A	山田利博・平尾聡秀・坂上大翼	秩父で現地開催
全学体験ゼミナール「森に学ぶ SDG s と林業を意識する低山歩き A」	A	鴨田重裕	東京, 山梨, 埼玉で現地開催
全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」	A2	蔵治光一郎・安村直樹・浅野友子・水内佑輔・菊池潔	生水研、水産実験所で現地開催
全学自由研究ゼミナール「ビーントッパーチョコレート作り体験から学ぶべきこと 20A 2」	A2	鴨田重裕	オンライン+弥生
全学自由研究ゼミナール「古典落語で知る江戸の自然・文化」	A	石橋整司・露木 聡	
全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」	A	鴨田重裕	駒場対面
全学自由研究ゼミナール「獣害問題とは何の問題か A」	A	鴨田重裕	駒場対面
全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス」	A	鴨田重裕	駒場対面

【予定していたがコロナの影響で不開講となったもの】

講 義 名	開講ターム・ semester	担 当 教 員	備考
全学体験ゼミナール「森に学ぶ SDG s と林業を意識する低山歩き S1」	S1	鴨田重裕	不開講
全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ (夏) 東京編 S1」	S1	鴨田重裕	不開講
全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ (夏) 東京編 S2」	S2	鴨田重裕	不開講

3) 他大学の非常勤講師（委嘱あり）

教員名	講義名	大学名	学部	学科等	学年
石橋整司	環境論	電気通信大学	電気通信学部	総合文化講座	1
鈴木智之	生物環境論	群馬大学	社会情報学部/情報学部		2～4
山田利博	樹木医演習	法政大学	生命科学部	応用植物科学科	2
山田利博	風致造園学実習	日本大学	生物資源科学部	森林資源科学科	3
鎌田直人	森林病虫害論（虫害）	宇都宮大学	農学部	森林科学科	2・3
安村直樹	森林生態学・地盤工学	岡山県立大学	デザイン学部	デザイン工学科	1～4

4) その他の講義・実習対応

(学内で担当教員以外で対応した場合/他大学で委嘱のない場合の講義・実習)

科目名	大学名	学部等	学科等	学年	対応教職員	備考
生圏システム学特論	東京大学	大学院農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	修士課程	藤平晃司	
森林圏管理システム学	東京大学	大学院農学生命科学研究科	森林科学専攻・生圏システム学専攻	修士課程	高野充広	
現代科学技術概論1	東京大学	大学院総合文化研究科	科学技術インタープリター養成プログラム	修士・博士課程	蔵治光一郎	オンライン
日本における森林生態学のトピック	海南大学(中国)	全学部	林学院	学部、大学院生	鎌田直人・平尾聡秀・福井大・久本洋子・後藤晋・鈴木智之	オンライン
森林生態圏管理学	東京大学	農学部	応用生命科学課程・環境資源科学課程	3	中川雄治・井上崇・及川希・大飼慎也・遠國正樹・小林徹行・平間睦樹・千井野聡	オンライン
森林科学総合実習	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修	3	松井理生・井口和信・中川雄治・小池征寛・岡平卓巳・平間睦樹・佐藤晴樹・及川希・井上崇・高橋功一・小林徹行・千井野聡	
森林政策学演習	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3	辻 良子	
森林科学基礎実習Ⅰ	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3	栗田直明・相川美絵子・藤平晃司・鶴見康幸・里見重成・軽込勉・阿達康真・鈴木祐紀・岡田康則・鈴木愛・石崎雄太	
森林科学基礎実習Ⅲ	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3,4	辻 良子・西山教雄	
森林科学基礎実習Ⅲ	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3,4	五十嵐勇治・吉田弓子・高野充広・高德佳絵・大村和也・齋藤俊浩	
森林科学基礎実習Ⅳ	東京大学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3,4	辻良子	
バイオマス科学実習・森林科学実習	東京大学	農学部	生物素材化学専修・木質構造科学専修	3	才木道雄・千嶋 武・高德佳絵・原口竜成・五十嵐勇治・齋藤俊浩	
森圏管理学実習	東京大学	農学部	フィールド科学専修	3	楠本大・久本洋子・當山啓介・藤平晃司・辻良子・西山教雄	

科目名	大学名	学部等	学科等	学年	対応教職員	備考
森林環境科学汎論	東京大学	農学部	農学基礎科目	2	鈴木智之・小林徹行・ 平間睦樹・佐藤晴樹	
環境科学フィールド ワーク II	東京大学	教養学部	学際科学科国際環 境学コース	3, 4	山田利博・原口竜成・ 五十嵐勇治・高德佳絵	
総合科目「森林環境 資源学（森の最終 形）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	塚越剛史・鶴見康幸・ 三次充和	
総合科目「森林環境 資源学（森とダ ム）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	大谷侑也・モインファ ラナク・澤田晴雄・井 上淳・梁瀬桐子・丹羽 悠二・岸本光樹	
全学体験ゼミナール 「森のエネルギーを 使いこなす」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	米道学・鈴木祐紀 西山 教雄・辻 良子	
全学体験ゼミナール 「春の奥秩父を巡 る」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	大村和也・五十嵐勇 治・吉田弓子・高德佳 絵	
全学体験ゼミナール 「秋の奥秩父を巡 る」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	吉田弓子・原口竜成	
全学体験ゼミナール 「危険生物の知識 （春編）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	藤平晃司	
全学体験ゼミナール 「徹底検証・スギ& ヒノキ〜もっと知ろ う、木材のこと〜」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	鶴見康幸	
全学体験ゼミナール 「房総の常緑樹林で 森林動態を学ぶ」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	藤平晃司・三次充和・ 阿達康眞	
全学体験ゼミナール 「危険生物の知識 （秋編）」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	阿達康眞	
全学体験ゼミナール 「房総の森と生業 （なりわい）を学 ぶ」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	藤平晃司・塚越剛史・ 阿達康眞・村川功雄・ 軽込勉・鈴木祐紀・鶴 見康幸・岡田康則・鈴 木愛・石崎雄太	
全学体験ゼミナール 「雪の森林に学ぶ〜 北海道演習林」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	松井理生・井口和信・ 中川雄治・犬飼慎也・ 磯崎靖雄・遠國正樹・ 井上崇・高橋功一・小 林徹行・千井野聡・平 間睦樹	
全学体験ゼミナール 「夏版・伊豆に学ぶ 1」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	辻 和明・渡邊良広・ 木村恒太・江口由典	

科目名	大学名	学部等	学科等	学年	対応教職員	備考
全学体験ゼミナール 「夏版・伊豆に学ぶ 2」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	辻 和明・渡邊良広・木 村恒太・江口由典	
全学体験ゼミナール 「夏版・伊豆に学ぶ 3」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	辻 和明・渡邊良広・木 村恒太・江口由典	
全学体験ゼミナール 「伊豆に学ぶ_竹炭 焼き+熱帯植物編 ①」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	辻 和明・渡邊良広・木 村恒太・江口由典	
全学体験ゼミナール 「伊豆に学ぶ_竹炭 焼き+熱帯植物編 ②」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	辻 和明・渡邊良広・木 村恒太・江口由典	
全学体験ゼミナール 「体験して考える森 林ガイドボランティア の現在と未来」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	相川美絵子・栗田直 明・石浦恭子・川村啓	
全学体験ゼミナール 「体験して考える森 林ガイドボランティア の現在と未来 (秋)」	東京大学	教養学部	全科類	1, 2	相川美絵子・栗田直 明・石浦恭子・川村啓	
国際農学実験・実習 I 個別実験	東京大学	農学部	国際開発農学専 修	3	齋藤純子・柴田ゆう子	
持続的森林圏経営論	東京大学	大学院農学生 命科学研究科	森林科学専攻・ 生圏システム学 専攻	修士課 程	鈴木智之・福岡哲・井 口和信	
森林流域管理学	東京大学	大学院農学生 命科学研究科	森林科学専攻・ 生圏システム学 専攻	修士課 程	松井理生・井口和信・ 木村徳志	
森林遺伝育種学	東京大学	農学部	森林生物科学専 修・森林環境資 源科学専修・フ ィールド科学専 修	3・4年	竹本周平	
農学国際特論 I	東京大学	農学生命科学 研究科	農学国際専攻	修士	竹本周平・相川美絵子	
緑地環境実地実習	東京大学	農学部	緑地環境学 専修	3年	相川美絵子・栗田直明	
生活経営研究実習 2 「庭園・自然環境： 草本・灌木」	自由学園 大学部			2年	竹本周平	
森林土壌学実験	東京大学	農学部	森林生物科学専 修・森林環境資 源科学専修	4年	辻 和明	

体験活動プログラム

プログラム名	団体名	活動場所	日 程	学生数	対応教職員
演習林の教育研究を 支えよう！～日本最 初の大学演習林で体 験する森林作業～	千葉演習林	千葉演習林	8/23～26	1	鈴木祐紀・鶴見康幸・塚越剛 史・阿達康真・岡田康則・鈴 木愛・石崎雄太・富川勲
森の人になろうー森 と暮らす仕事	富士癒しの森 研究所	富士癒しの森 研究所	8/29～8/30 12/17～12/18	4	齋藤暖生・三浦直子・西山 教雄・辻 良子
森が社会に貢献する ー持続可能な森づく りへの挑戦ー	北海道演習林	北海道演習林	8/17～23, 8/29～9/2, 9/26～30, 10/3～14	4	尾張敏章・田中延亮・福井 大・鈴木智之・松井理生・中 川雄治・犬飼慎也・小池征 寛・岡平卓巳・平間睦樹・佐 藤晴樹・福士憲司・笠原久 臣・大川あゆ子・延栄一・井 上崇・高橋功一・小林徹行・ 千井野聡・及川希
森林・水・土砂の長 期モニタリング調査 体験～世界の水文研 究を支える90年を全 身で感じよう～	生態水文学研 究所	生態水文学研 究所	9/27-30	6	浅野友子・水内佑輔・澤田晴 雄・井上 淳・梁瀬桐子・岸 本光樹・丹羽悠二
伊豆の体験活動 南 伊豆という一地域と の連携に学ぶ 林業 体験編	南伊豆湯けむ りの会・いし い林業	樹芸研究所	3/18～20	6	鴨田重裕
伊豆の体験活動 南 伊豆という一地域と の連携に学ぶ ジビ エ編	南伊豆湯けむ りの会	樹芸研究所	2/18～20	6	鴨田重裕
伝統工芸木炭生産技 術保存会とともに伝 統工芸に必要な駿河 炭を焼く	伝統工芸木炭 生産技術保存 会・笑楽窯	樹芸研究所	3/11～15	6	鴨田重裕

5) 4 研究室の所属メンバー

森林圏生態学研究室

教授	鎌田 直人
准教授	後藤 晋
講師	平尾 聡秀
講師	福井 大
助教	前原 忠
助教	久本 洋子
助教	鈴木 智之

博士3年	陳 淑芬
博士3年	牧 貴大
博士1年	Aye Myat Myat Paing
修士2年	竹内 虎輔
修士2年	森川 周
修士2年	Andreas Ade Kristian
修士1年	上野 大輔
修士1年	安井 理香
研究生	塚本 宝
研究生	湯 天禹

森林圏生態社会学研究室

教授	石橋 整司
准教授	安村 直樹
講師	齋藤 暖生
助教	藤原 章雄
助教	當山 啓介

博士1年	陳 田
博士1年	徐 喬逸
修士2年	蔡 寧馨
修士2年	高 涵
修士2年	查 世昊
修士1年	尤 曉安
修士1年	倪 寬
修士1年	劉 衡
修士1年	張 珂
修士1年	蘆 美靈
修士1年	張 嘯宇
学部4年	日高 将景
研究生	胡 睿喆
研究生	曹 偲
研究生	易 子卉
研究生	章 静怡
研究生	弥 勍成
特別聴講学生	黄 鵬宇

森林生物機能学研究室

教授	山田 利博
准教授	鴨田 重裕
講師	楠本 大
助教	坂上 大翼
助教	井上 広喜
助教	竹本 周平

修士2年	戴 健平
修士1年	坂巻 実佳

森林流域管理学研究室

教授	蔵治 光一郎
准教授	尾張 敏章
講師	広嶋 卓也
講師	浅野 友子
講師	田中 延亮
助教	三浦 直子
助教	水内 佑輔
特任助教	大谷 侑也

博士3年	Pei Huiqing
博士1/2年	Nyo Me Htun
博士1年	Karthigesu Jeyavanan
修士2年	Ibtisam Binti Mohd Ghaus
修士1年	卑 依璠
研究生	張 遠哲

6) 所属学生の学位論文

博士論文

学生氏名	研究課題
陳 淑芬	Genomic-assisted breeding for improving growth and wood property traits in hybrid larch (<i>Larix gmelinii</i> var. <i>japonica</i> × <i>L. kaempferi</i>) (雑種カラマツ (グイマツ×カラマツ) における成長と材質のゲノム育種)

修士論文

学生氏名	研究課題
竹内 虎輔	日本列島におけるミネカエデ類の遺伝的分化と遺伝構造
森川 周	自然環境下での人間活動が中大型哺乳類の行動形質と時空間的活動に及ぼす影響
Andreas Ade Kristian	Seasonal variations of <i>Platypus quercivorus</i> in body size, number of mycangium pits, and quantity of accompanied <i>Raffaelea quercivora</i>
戴 健平	クマ剥ぎによるヒノキ被害部の腐朽進行と菌叢の変化および拮抗菌の選別
蔡 寧馨	巨木が日本人に与えるイメージに関する考察
高 涵	岐阜県銘木市場における買い方の落札行動に影響を与える要因の解明
查 世昊	最近 10 年間の民有林の森林施業からみる地域森林計画
Ibtisam Binti Mohd Ghaus	Effects of non-commercial thinning on runoff characteristics in a dense Japanese cypress plantation 過密ヒノキ人工林における切置き間伐が水流出特性に及ぼす影響

7) 森林生態圏管理学大講座ゼミ

第1回 (2022年4月22日(金) 13:00~16:00/森林圏生態社会学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
藤原 章雄	フィールドデータ研究センター	オープンサイエンスと研究データ管理の動向
安村 直樹	生態水文学研究所	林業用苗木生産現場における人手不足の現状とその対策
石橋 整司	田無演習林	富士癒しの森研究所の寒地性樹種育林試験地
張 輝	教育・社会連携センター・特任教授	Community-Ecology based tropical rainforest ecological restoration
第2回 (2022年5月20日(金) 13:00~16:30/森林圏生態学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
久保田 耕平	森林動物学研究室	昆虫における交尾器形態の進化
牧 貴大	D3	日本列島におけるコウモリの分類群多様性及び機能的多様性
陳 淑芬	D3	グイマツ雑種 F1 半兄弟家系における若齢時の形質のゲノムワイド関連解析
前原 忠	教育・社会連携センター	田無演習林におけるアカボシゴマダラの発生状況
鈴木 智之	北海道演習林	北方林における針葉樹および落葉広葉樹の幹成長速度の長期的変化
後藤 晋	教育・社会連携センター	気候変動が北方針葉樹3種の生存と成長に及ぼす影響：長期の苗畑データからの示唆
第3回 (2022年6月17日(金) 13:00~15:30/森林生物機能学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
楠本 大	千葉演習林	今年度のナラ枯れ研究計画
竹本 周平	田無演習林	ナラ枯れ発生2年目の田無演習林
鴨田 重裕	樹芸研究所	エネルギーの森作りプロジェクト始動
第4回 (2022年7月22日(金) 13:00~16:30/森林流域管理学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
Pei Huiqing	IPADS・D3	Forest types classification using remote sensing datasets with deep learning technology a case study in Central Japan
Moein Farahnak	生態水文学研究所・特任研究員	Well-managed thinning impact on soil surface runoff in a Chamaecyparis obtusa plantation
Nyome Htun	IPADS・D1/D2	Classification of the composition of mixed conifer-broadleaf forests by integrating Unmanned Aerial Vehicle (UAV) imagery and a deep learning algorithm
Kristin Bunte and Kurt Swingle	生態水文学研究所・特任講師	礫床河川における砂礫掃流砂の掃流砂トラップを用いた観測
浅野 友子	秩父演習林	秩父演習林バケモノ沢の降雨一流出特性
尾張 敏章	北海道演習林	択伐後の伐根周囲に植栽したトドマツ苗の生存および樹高成長

第5回 (2022年9月16日(金) 13:00~15:10/森林圏生態社会学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
當山 啓介	千葉演習林	超長期にわたる森林試験地維持に伴う諸問題—胸高位置と根張りの変化、記録と仕様の伝達—
齋藤 暖生	富士癒しの森研究所	文献資料に見る第二次世界大戦期における松根油生産の概観
陳 田	生圏・D1	PPP(public private partnership)の森林管理への適用
第6回 (2022年10月21日(金) 13:15~17:15/森林圏生態学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
上野 大輔	森林・M1	房総半島におけるキョンとニホンジカの時空間活動性と行動
安井 理香	森林・M1	人間活動が都市緑地に生息する中型食肉類に与える影響
久本 洋子	千葉演習林	温暖地に植栽したトドマツの 高温・乾燥ストレスに関わる トランسكريプトーム解析
鎌田 直人	千葉演習林	深層学習を使った画像分類 Web アプリによるキクイムシ類の同定の試み
Aye Myat Myat Paing	生圏・D1	移植サイトにおける土壌菌類群集がダケカンバの生存と成長に対する影響
平尾 聡秀	秩父演習林	シカ柵設置に伴う土壌菌類群集の機能的変化
福井 大	北海道演習林	海洋島における食虫性コウモリの人為的絶滅
第7回 (2022年11月18日(金) 13:00~16:30/森林流域管理学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
蔵治 光一郎	企画部	流域治水と森林・林業
水内 佑輔	生態水文学研究所	生態水文学研究所の長期データに対する空間情報技術の活用
田中 延亮	生態水文学研究所・特任研究員	気象露場近傍の障害物が気温計測値に与える影響
卑 依璠	生圏・M1	気候変動と森林の回復が山地流域からの流出に及ぼす影響
大谷 侑也	生態水文学研究所	東アフリカ熱帯高山帯の大型木本性ロゼット植物の樹齢推定と枯葉中 $\delta^{13}C$ を用いた土壌水分の復元に関する検討
三浦 直子	富士癒しの森研究所	シカ試験捕獲におけるドローン利用について—山中湖村の事例

第8回 (2022年12月16日(金) 9:00~16:00/修士論文発表)		
発表者	所属・学年	演題
竹内 虎輔	森林・M2	日本列島におけるミネカエデ類の遺伝構造と形態変異
森川 周	生圏・M2	人間活動が森林に生息する野生動物の行動と種間関係に及ぼす影響
Andreas Ade Kristian	森林・M2	Seasonal variation of <i>Platypus quercivorus</i> in body size, number of mycangium pits, and quantity of accompanied <i>Raffaelea quercivora</i>
戴 健平	森林・M2	クマ剥ぎによるヒノキ腐朽の生物防除
蔡 寧馨	生圏・M2	巨木が日本人に与えるイメージに関する考察
查 世昊	生圏・M2	最近10年の民有林の森林施業から見る地域森林計画
高 涵	生圏・M2	岐阜県銘木市場における買い方の落札行動に影響を与える要因の解明
Ibtisam Binti Mohd Ghaus	生圏・M2	Effects of non-commercial thinning on runoff characteristics in a dense Japanese cypress plantation
第9回 (2023年1月20日(金) 13:00~15:30/森林生物機能学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
井上 広喜	樹芸研究所	パラゴムノキにおける不定胚誘導の試み
坂上 大翼	秩父演習林	わが国でユーカリ類に発生する病害—文献レビューを中心に
山田 利博	秩父演習林	樹木の非破壊腐朽診断の検証 - 最近の試み
第10回 (2023年2月17日(金) 13:00~16:30/森林圏生態社会学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
香坂 玲	森林風致計画学研究室	昆明・モントリオール生物多様性枠組と林業・森林科学への示唆—「共通だが差異ある責任」の原則は生物多様性に適用できるか?
尤 曉安	生圏・M1	日本における樹木葬の普及要因
倪 寛	生圏・M1	公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」実行前後の公共建築物木造化の比較
劉 衡	生圏・M1	森林公園における文化サービス評価
張 珂	生圏・M1	人工林の経営管理に関する日中比較研究
盧 美靈	生圏・M1	東京都における街路樹整備の取り組み
張 嘯宇	森林・M1	日本におけるルーラルツーリズムの変遷と対応戦略
第11回 (2023年3月3日(金) 13:00~16:10/技術職員発表)		
発表者	所属・学年	演題
原口 竜成	秩父演習林	外部機関が取得した航空レーザ測量データの活用と人工林管理への応用方法の検討
軽込 勉・米道 学	千葉演習林	森林3次元計測システムによる高齢人工林調査の試み
村川 功雄	千葉演習林	模式産地におけるアンドンタケの記録 —2018年~2022年の観察記録—
木村 徳志	北海道演習林	北海道演習林の造林事業と今後の課題について
井口 和信	北海道演習林	東京大学北海道演習林における虫害の観察記録 —1980年からの43年間—

8) 演習林 教育・社会連携センターゼミ

月	日	内容	発表者
4	8	ガイダンス・環境安全 MS	全員
	15	クラスルーム (ハイブリッド)	全員
5	6	研究進捗報告	Andreas Ade Kristian
	13	研究進捗報告	Ibtisam Binti Mohd Ghaus・査 世昊
	27	研究進捗報告	陳 淑芬・蔡 寧馨
6	3	研究進捗報告	陳 田
	10	研究進捗報告	Aye Myat Myat PAING
	24	研究進捗報告	高 涵・上野 大輔
7	1	研究進捗報告	竹内 虎輔・牧 貴大・倪 寛・坂巻 実佳
	8	研究進捗報告	張 嘯宇・安井 理香
	15	研究進捗報告・クラスルーム (ハイブリッド)	張 珂・森川 周・劉 衡
	29	研究進捗報告	戴 健平・盧 美靈・尤 曉安・卑 依璠
9	2	ガイダンス・安全衛生管理	全員
	9	プレゼン講習会	後藤 晋
	30	研究進捗報告	蔡 寧馨
10	7	研究進捗報告・クラスルーム (ハイブリッド)	Ibtisam Binti Mohd Ghaus
	14	ミニ講義	後藤 晋
	28	研究進捗報告	牧 貴大・査 世昊
11	4	研究進捗報告	陳 田・倪 寛
	11	研究進捗報告	安井 理香・盧 美靈・尤 曉安・森川 周
	25	研究進捗報告	戴 健平・高 涵・卑 依璠・陳 淑芬
12	2	研究進捗報告	Aye Myat Myat PAING・張 珂・張 嘯宇・竹内 虎輔
	9	研究進捗報告・クラスルーム (ハイブリッド)	上野 大輔・Andreas Ade Kristian
	23	フラッシュトーク	全員

9) 実習等（各演で引き受けた全ての実習）

演習林名	学校名	科目名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数	備考
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「危険生物の知識（春編）」	教養学部		1・2年	21	5月	1	
千葉演習林	東京大学	総合科目「森林環境資源学」	教養学部		1・2年	12	5月	2	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう、木材のこと〜」	教養学部		1・2年	9	6月	1	
千葉演習林	東京大学	地球惑星環境学科野外調査実習Ⅰ	理学部	地球惑星環境学科	3年	15	8月	5	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」	教養学部		1・2年	9	9月	3	
千葉演習林	東京大学	森林科学基礎実習Ⅰ	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3年	15	6月	5	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「危険生物の知識（秋編）」	教養学部		1・2年	13	10月	1	
千葉演習林	千葉大学	地質学野外実験Ⅱ、地殻構造学野外実験Ⅰ	理学部	地球科学科	3・4年	4	9月	2	
千葉演習林	東京大学	生圏システム学特論	農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	大学院生	16	10月	1	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「森のエネルギーをいこなす」	教養学部		1・2年	15	11月	2	
千葉演習林	東京大学	森圏管理学実習	農学部	フィールド科学専修	3年	8	9月	2	
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」	教養学部		1・2年	16	2月	4	
北海道演習林	東京大学	森林生態圏管理学「空間情報技術を用いた森林情報の管理」	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修	3年	28	5月	1	オンライン
北海道演習林	東京大学	持続的森林圏経営論「北海道演習林の林分施業法」	農学生命科学研究科	森林科学専攻・生圏システム学専攻	大学院生	4	7月	3	
北海道演習林	東京大学	森林科学総合実習	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3年	9	9月	4	
北海道演習林	東京大学	森林流域管理学	農学生命科学研究科	森林科学専攻・生圏システム学専攻	大学院生	7	12月	3	

演習林名	学校名	科目名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数	備考
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「春の奥秩父を巡る」	教養学部		1・2年	6	5月	2	宿泊
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「春の奥秩父を巡る」	教養学部		1・2年	6	6月	2	宿泊
秩父演習林	東京大学	森林科学基礎実習 III	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3年	20	7月	3	宿泊
秩父演習林	東京大学	バイオマス科学実習・森林科学実習	農学部	生物素材化学専修・木質構造科学専修	3年	22	9月	3	外部泊
秩父演習林	東京大学	国際農学実験・実習 I 個別実験	農学部	国際開発農学専修	3年	1	9月	2	宿泊
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「秋の奥秩父を巡る」	教養学部		1・2年	7	10月	4	宿泊(1泊×2回)
秩父演習林	東京大学	環境科学フィールド ワーク II	教養学部	学際科学科国際環境学コース	3・4年	12	10月	2	宿泊
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「森と人を紡ぎ直す 感性と技術の方法論」	教養学部		1・2年	4	11月	1	日帰り
秩父演習林	東京大学	森林圏管理システム 学	農学生命科学研究科	森林科学専攻・生圏システム学専攻	修士課程	9	1月	1	日帰り
田無演習林	東京大学	森林科学基礎実習 I	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3年	18	4,5月	3	※履修者には修士学生1名を含む
田無演習林	東京大学	全学体験ゼミナール 「体験して考える森林 ガイドボランティアの 現在と未来」	教養学部		1・2年	2	4-6月	3	
田無演習林	東京大学	森林経理学実習	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	4年	1	5月	1	
田無演習林	東京大学	森林遺伝育種学	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修・フィールド科学専修	3・4年	8	6月	1	
田無演習林	東京大学	森林生態圏管理学特論	農学生命科学研究科	森林科学専攻	修士	10	7月	1	
田無演習林	東京大学	森林科学基礎実習 III	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3年	18	9月	1	※履修者には修士学生1名を含む
田無演習林	自由学園 大学部	生活経営研究実習2 「庭園・自然環境： 草本・灌木」			2年	3	12月	1	
田無演習林	東京大学	森林土壌学実験	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	4年	9	12月	2	※1名欠席のため補講1日(内数)で対応

演習林名	学校名	科目名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数	備考
田無演習林	東京大学	農学国際特論 I	農学生命科学研究科	農学国際専攻	修士	3	12月	1	
田無演習林	東京大学	緑地環境実地実習	農学部	緑地環境学専修	3年	6	1月	1	
生態水文学研究所	東京大学	総合科目「森林環境資源学(森とダム)」	教養学部		1・2年	10	6月	2	※宿泊
生態水文学研究所	東京大学	森林科学基礎実習Ⅳ	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3年	13	8月	5	※宿泊
生態水文学研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「人の手で作り管理する森林」	教養学部	文科, 理科	1・2年	7	10月	2	※宿泊
生態水文学研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」	教養学部	文科, 理科	1・2年	10	2月	2	※宿泊
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」	教養学部		1・2年	21	5月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	総合科目「森林資源学」フィールドワーク2「森と癒し」	教養学部		1・2年	19	6月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	森林科学基礎実習Ⅲ	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3年	14	8月	3	
富士癒しの森研究所	東京大学	森圏管理学実習	農学部	フィールド科学専修	3・4年	9	8月	3	
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ」	教養学部		1・2年	34	9月	3	
富士癒しの森研究所	東京大学	国際農学実験実習Ⅰ個別実験	農学部	国際開発農学専修	3年	3	9月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	森林科学基礎実習Ⅳ	農学部	森林系2専修	3年	17	9月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」	教養学部		1・2年	14	10月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	森林風景計画実習	農学部	森林系2専修	3・4年	5	10月	4	
富士癒しの森研究所	東京大学	森林圏生態社会学特別演習	農学生命科学研究科	森林科学専攻・生圏システム学専攻	大学院生	5	9月	3	
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	教養学部		1・2年	15	11月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	森林政策学演習	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3年	5	11月	2	

演習林名	学校名	科目名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数	備考
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング」	教養学部		1・2年	4	11月	3	
富士癒しの森研究所	東京農業大学	薪の利用に関する研修	域環境科学部	森林総合科学科	1-4年	6	8月	2	
富士癒しの森研究所	東京大学	国際農学実験実習Ⅰ個別実験	農学部	国際開発農学専修	3年	4	12月	2	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「夏版・伊豆に学ぶ1」	教養学部		1・2年	15	8月	5	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「夏版・伊豆に学ぶ2」	教養学部		1・2年	15	8月	5	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「夏版・伊豆に学ぶ3」	教養学部		1・2年	15	9月	5	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミ「森に学ぶ(森林・林業を意識して歩く低山歩き)S2」	教養学部		1・2年	17	6月	1	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミ「森に学ぶ(森林・林業を意識して歩く低山歩き)S2」	教養学部		1・2年	17	7月	1	
樹芸研究所	東京大学	森林実習	農学部	国際開発農学専修	3年	23	8~9月	4	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミ「森に学ぶ(森林・林業を意識しながら歩く低山S2)」	教養学部		1・2年	5	9月	1	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミ「森に学ぶ(SDGsと林業を意識する低山歩き)」	教養学部		1・2年	28	10月	1	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミ「森に学ぶ(SDGsと林業を意識する低山歩き)」	教養学部		1・2年	26	10月	1	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミ「森に学ぶ(SDGsと林業を意識する低山歩き)」	教養学部		1・2年	26	11月	1	
樹芸研究所	東京大学	森林土壌学実験	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	4年	9	1月	2	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_竹炭焼き+熱帯植物編①」	教養学部		1・2年	18	2月	5	
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_竹炭焼き+熱帯植物編②」	教養学部		1・2年	18	2月	5	

2. 研究

1) 教職員の論文等

発表者全氏名	題目	誌名	巻—号	頁	発行年
Takahashi M, Goto S, Fukuda Y, Watanabe A	Utility of chloroplast DNA haplotype data for ecological restoration using <i>Fagus crenata</i> seedlings in case of incomplete seed source information availability	Ecological Research	1111	1440-1703	2022
Haraguchi R, Hirao T, Yamada T	Detection and quantification of <i>Serpula himantioides</i> in the wood of <i>Chamaecyparis pisifera</i> butt rot trees by real-time PCR	Forests	13(9)	1429	2022
Fukasawa Y, Matsukura K, Stephan JG, Kobayashi M, Suzuki SN, Kominami Y, Takagi M, Tanaka N, Takemoto S, Kinuura H, Okano K, Song Z, Jomura M, Kadowaki K, Yamashita S, Ushio M	Patterns of community composition and diversity in latent fungi of living <i>Quercus serrata</i> trunks across a range of oak wilt prevalence and climate variables in Japan	Fungal Ecology	59	e101095	2022
Nainar A, Mahali M, Kamlun KU, Besar NA, Majuakim L, Justine VT, Cleophas F, Bidin K, Kuraji K	Higher Water Yield but No Evidence of Higher Flashiness in Tropical Montane Cloud Forest (TMCF) Headwater Streams	Hydrology	9(10)	162	2022
Khetnon P, Busarakam K, Sukhaket W, Niwaspragrit C, Kamolsukyeunyong W, Kamata N, Sanguansub S	Mechanisms of trichomes and terpene compounds in indigenous and commercial Thai rice varieties against brown planthopper	Insects	13	427	2022
Mizuguchi Y, Fujioka E, Heim O, Fukui D, Hiryu S	Discriminating predation attempt outcomes during natural foraging using the post-buzz pause in the Japanese large-footed bat, <i>Myotis macrodactylus</i>	Journal of Experimental Biology	225	jeb243402	2022
Kusumoto D, Hisamoto Y, Murakawa I, Masuya H	Characteristics of <i>Lithocarpus edulis</i> tree death caused by Japanese oak wilt	Journal of Forest Research	27(4)	315-322	2022
Ishizuka W, Kitamura K, Hara T, Goto S	Characterization of the complete chloroplast genome of <i>Abies sachalinensis</i> and its intraspecific variation hotspots	Journal of Forest Research	27(6)	476-482	2022
Asano Y, Suzuki SN, Kawasaki M	Peak discharges per unit area increase with catchment area in a high-relief mountains with permeable sedimentary bedrock	Journal of Hydrology	610	doi.org/10.1016/j.jhydrol.2022.127876	2022
Tanigawa K, Makino Y, Miura N, Umeki K, Hirao T	Scale-dependent habitat selection of sympatric mesocarnivore species in a cool temperate forest in eastern Japan	Mammalian Biology	102	1901-1910	2022
Li JL, Li CF, Tsuruta M, Matsushita N, Goto S, Shen ZG, Tsugama D, Zhang SJ, Lian CL	Physiological and transcriptional responses of the ectomycorrhizal fungus <i>Cenococcum geophilum</i> to salt stress	Mycorrhiza	32(3-4)	327-340	2022
Ang JMA, Kusumoto D, Mitsugi M, Suzuki M	Regeneration of tree species after 11 years of canopy gap creation and deer exclusion in a warm temperate broad-leaved forest over-browsed by sika deer	PeerJ	10	e14210	2022
Hatono M, Kiguchi M, Yoshimura K, Kanae S, Kuraji K, Oki T	A 0.01-degree gridded precipitation dataset for Japan, 1926-2020	Scientific Data	9	422	2022

発表者全氏名	題目	誌名	巻一號	頁	発行年
Miura N, Saito H, Hada T	Drone Remote Sensing For the Controlled Capture of Sika Deer (<i>Cervus Nippon</i>): Case Study in Village of Yamanakako	The International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences	XLIII-B3-2022	927-932	2022
Chen S, Ishizuka W, Unno Y, Kusunoki K, Goto S	Pollen dispersal patterns and male reproductive success based on pedigree reconstruction in a hybrid larch (<i>Larix gmelinii</i> var. <i>japonica</i> × <i>L. kaempferi</i>) open-pollinated seed orchard	Tree Genetics and Genomes	18	33	2022
Shinohara Y, Iida S, Oda T, Katayama A, Tsuruta K, Sato T, Tanaka N, Su MP, Laplace S, Kijidani Y, Kume T	Are calibrations of sap flow measurements based on thermal dissipation needed for each sample in Japanese cedar and cypress trees?	Trees	36	1219-1229	2022
Kuraji K, Saito H	Long-Term Changes in Relationship between Water Level and Precipitation in Lake Yamanaka	Water	14(14)	2232	2022
Nainar A, Walsh RPD, Bidin K, Tanaka N, Annammala KV, Letchumanan U, Ewers RM, Reynolds G	Baseflow persistence and magnitude in oil Palm, logged and primary tropical rainforest catchments in Malaysian Borneo: implications for water management under climate change	Water	14(22)	3791	2022
Tanaka N, Lai YJ, Im SJ, Mahali MB, Tuankrua V, Kuraji K, Cleophas F, Tantasirin C, Gomyo M, Tseng CW, Shiraki K, Hotta N, Asano Y, Inoue H, Nainar A	Climate Elasticity of Annual Runoff: Observation in Fifteen Forested Catchments on a Latitudinal Gradient in East Asia	Atmosphere	14(4)	629	2023
Haga C, Hotta W, Inoue T, Matsui T, Aiba M, Owari T, Suzuki S, Shibata H, Morimoto J	Modeling tree recovery in wind-disturbed forests with dense understory species under climate change	Ecological Modelling	472	110072	2023
Suzuki SN, Kachi N, Suzuki JI	Variation in abundance of trees originating from sapling banks facilitates the coexistence of two <i>Abies</i> species in a wave-regenerated forest	Ecological Research	38	167-176	2023
Farahnak M, Sato T, Otani Y, Kuraji K, Suzaki T	The Differences in Water Repellency in Root Mat (Biomat) and Soil Horizons of Thinned and Non-thinned <i>Chamaecyparis obtusa</i> (Siebold et Zucc.) Endl. Plantations	Forests	14(2)	210	2023
Mizuuchi Y	Landscape assessment of forest trail using geotagged visitor employed photography: the case of the inariyama trail in the Takao Quasi-National Park, Tokyo	Journal of Forest Research	28(1)	1-10	2023
Saito H, Mitsumata G, Shimada D, Bergius N	People's outdoor behavior and norm based on the Right of Public Access: a questionnaire survey in Sweden	Journal of Forest Research	28(1)	19-24	2023
Jing L, Morimoto J, Hotta W, Suzuki SN, Owari T, Toyoshima M, Nakamura F	The 30-year impact of post-windthrow management on the forest regeneration process in northern Japan	Landscape and Ecological Engineering	19	227-242	2023

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
Nojiri T, Werneburg I, Tu VT, Fukui D, Takechi M, Iseki S, Furutera T, Koyabu D	Timing of organogenesis underscores evolution of neonatal life histories and powered flight in bats	Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences	290	202219 28	2023
Pei H, Owari T, Tsuyuki S, Zhong Y	Application of a novel multiscale global graph Convolutional Neural Network to improve the accuracy of forest type classification using aerial photographs	Remote Sensing	15(4)	1001	2023
Paing AMM, Chen SF, Araki K, Aihara T, Sarmah R, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Kadomatsu M, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Osumi K, Nagamatsu D, Takagi M, Taneda H, Kimura N, Fukuoka S, Hisamoto Y, Goto S	Site characteristics of <i>Betula ermanii</i> range-wide provenance trials	演習林 (東大)	66	1-12	2022
水内佑輔	明治神宮以降の神社風致計画論と造園学の系譜－近代造園学から見た明治神宮/明治神宮から見た近代造園学：宮内省(庭)から内務省(国土)へ	神園	27	73-84	2022
斉藤明子・村川功雄・尾崎煙雄	千葉県におけるアマミトガリナナフシの再発見	月間むし	614	39-41	2022
鎌田直人	総論：昆虫の密度変動機構と大発生の分類	昆虫と自然	57(8)	2-4	2022
鎌田直人	ブナアオシャチホコの周期的大発生	昆虫と自然	57(8)	5-8	2022
尾張敏章	天然林択伐施業の DX	山林	1656	36-42	2022
蔵治光一郎	球磨川流域市町村の森林の過去 50 年間の歴史と現在	不知火海・球磨川流域圏学会誌	16	3-13	2022
後藤晋	北海道における有用針葉樹トドマツの環境適応に関する研究とその遺伝研究基盤の構築	森林遺伝育種	11(2)	50-53	2022
後藤晋	研究の原点	森林遺伝育種	11(3)	162-163	2022
齋藤暖生	多様化する森林アクティビティの最前線(7)－森の中での音楽会・文化祭の試み－	森林レクリエーション	424	4-8	2022
澤田晴雄・佐藤貴紀・岸本光樹	モニ 1000 愛知赤津サイトにおけるヒノキの種子および球果の落下特性	中部森林研究	70	3-6	2022
陳恰然・田中隆文・小谷亜由美・田中延亮	長期流出特性の解明を目的とした山地小流域試験地への SWAT モデルの適用	中部森林研究	70	29-32	2022
尾張敏章・大石諭・軽込勉・鈴木祐紀・鶴見康幸・米道学・塚越剛史・阿達康眞・村川功雄・藤平晃司・三次充和・楠本大・久本洋子・當山啓介	東京大学千葉演習林における天然林資源の現状	東京大学農学部演習林報告	147	1-14	2022
當山啓介・久本洋子・三次充和・広嶋卓也	シカ生息下における暖温帯高齢人工林の間伐後 4 年間の下層植生変化からみた針広混交林化の可能性検証	日本緑化工学会誌	48(2)	345-356	2022

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
齋藤暖生	森の癒しとポジティブメンタルヘルス	へるすあっぷ21	453	22	2022
水内佑輔	図書紹介 武蔵野事典	武蔵野	96(2)	56-58	2022
齋藤暖生	書評 アナ・チン 著 赤嶺淳 訳「マツタケー不確定な時代を生きる術ー」	林業経済	75(1)	16-22	2022
水内佑輔	書評 手嶋潤一 著「日光の風景地計画とその変遷」 「観光地日光その整備充実の歴史」 「外国人避暑地日光中禅寺」	林業経済	75(4)	19-22	2022
當山啓介・大石諭・藤平晃司・里見重成・中島徹・龍原哲	東京大学千葉演習林のスギ・ヒノキ高齢人工林成長試験地における約100年間の成長資料	演習林(東大)	67	1-17	2023
米道学・鈴木祐紀・塚越剛史・阿達康眞・軽込勉・久本洋子・楠本大	高齢天然ヒメコマツを台木にした高芽接ぎの活着	演習林(東大)	67	19-26	2023
岸本光樹・里見重成・高橋功一・丹羽悠二・浅野友子	生態水文学研究所穴の宮試験流域日流出量観測結果報告(自2017年1月至2021年12月)	演習林(東大)	67	27-36	2023
三次充和・久本洋子・天野誠・藤平晃司・軽込勉・尾崎煙雄・御巫由紀・鎌田直人	東京大学千葉演習林における1kmメッシュスケールの維管束植物分布図	演習林(東大)	67	37-46	2023
吉田弓子・川崎雅俊・高德佳絵・高野充広・浅野友子	秩父演習林における渓流水と降水の水質分析結果報告(自2021年4月至2022年3月)	演習林(東大)	67	47-58	2023
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林森林管理委員会管理担当	「東京大学環境報告書2022」に掲載された演習林樹木のCO ₂ 吸収量の算出方法	演習林(東大)	67	59-69	2023
東京大学演習林	東京大学演習林水文観測・水質分析報告(自2020年1月至2020年12月)	演習林(東大)	67	73-82	2023
東京大学演習林	東京大学演習林気象報告(自2021年1月至2021年12月)	演習林(東大)	67	83-103	2023
齋藤暖生	新たな森と人の関係を紡ぎ出す大学演習林の挑戦	森林科学	97	17-21	2023
水内佑輔	日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造物群	森林科学	97	28-31	2023
龍原哲・當山啓介・鈴木誠	Effectiveness of the Canopy Closure Curve to Inform Management of Two-Storeyed Stands	森林計画学会誌	29	1-9	2023
井口和信	東京大学北海道演習林における虫害の観察記録ー1980年からの43年間ー	森林防疫	72(2)	82-88	2023
高橋功一・鈴木智之・後藤晋	小面積皆伐と地表かき起こしによるストロブマツ人工林から針広混交林への転換: 15年間にわたるストロブマツと天然林構成種の更新動態	日本森林学会誌	105(3)	65-75	2023
後藤晋	全国スケールでのダケカンバ産地試験林の設定ー地球温暖化が森林生態系に及ぼす影響評価を目指してー	北海道の林木育種	65(1)	15-18	2023

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
木村徳志・鈴木智之・福岡哲・松井理生・後藤晋・尾張敏章	東京大学北海道演習林におけるエゾマツコンテナ苗植栽後 10 年の成長と生存	北海道の林木育種	65(2)	15-20	2023
及川希・木村徳志・羽塚冬馬・鈴木智之	iPhone LiDAR を林業に活用する試み 地拵え地の区画測量から植栽予定区域の面積を算出する事例	北方森林研究	71	31-34	2023
麻生恵・一場博幸・町田怜子・水内佑輔	上原敬二賞受賞者に聞く 麻生恵先生 人物インタビュー：第 39 回上原敬二賞受賞者	ランドスケープ研究	86(4)	354-357	2023
安原有紗・水内佑輔	自然公園イメージの明確化に向けた都道府県自然公園行政の情報発信	ランドスケープ研究	86(5)	533-536	2023

2022 年度より前に発表し、これまでの年報に未掲載の論文

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
Oishi Y, Kobayashi K, Suzuki SN, Kanai R, Masaki D, Kenta T	Bryophyte responses to experimental climate change in a mid-latitude forest-line ecotone	Alpine Botany	132	329-336	2022
Nakamura M, Terada C, Ito K, Matsui K, Niwa S, Ishihara M, Tanaka K, Yoshikawa T, Kadoya T, Hiura T, Muraoka H, Ishida K, Agetsuma N, Nakamura R, Sakio H, Takagi M, Mori AS, Kimura MK, Kurokawa H, Enoki T, Seino T, Takashima A, Kobayashi H, Matsumoto K, Takahashi K, Tateno R, Yoshida T, Nakaji T, Maki M, Kobayashi K, Fukuzawa K, Hoshizaki K, Ohta K, Kobayashi K, Hasegawa M, Suzuki SN, Sakimoto M, Kitagawa Y, Sakai A, Kondo H, Ichie T, Kageyama K, Hieno A, Kato S, Otani T, Utsumi Y, Kume T, Homma K, Kishimoto K, Masaka K, Watanabe K, Toda M, Nagamatsu D, Miyazaki Y, Yamashita T, Tokuchi N	Evaluating the soil microbe community-level physiological profile using EcoPlate and soil properties at 33 forest sites across Japan	Ecological Research	37	432-445	2022

2) 学会発表等

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
Owari T	Close-to-nature forestry application in northern Japan: 62 years of development at the University of Tokyo Hokkaido Forest	XV World Forestry Congress	2022
Owari T, Tanaka N, Fukui D, Suzuki SN	The University of Tokyo Hokkaido Forest: A nature-based forest management practice for green, healthy, and resilient future	XV World Forestry Congress	2022
Mizuuchi Y	Exploring the potential of RTK-UAV for visual landscape assessment	JpGU 2022 Japan Geoscience Union Meeting	2022
Miura N, Saito H, Hada T	Drone Remote Sensing for the Controlled Capture of Sika Deer (<i>Cervus Nippon</i>): Case Study in Village of Yamanakako	ISPRS CONGRESS 2022	2022
Miura N, Yamada S, Niwa Y	Estimation of canopy height and biomass of <i>Miscanthus sinensis</i> in semi-natural grassland using time-series UAV data	ISPRS CONGRESS 2022	2022
Maki T, Sannomiya N, Hirao T, Fukui D	Relative influences of environmental, historical, and spatial factors on beta diversity of Japanese bat	19th International Bat Research Conference	2022
Pei H, Owari T, Tsuyuki S	A novel multi-scale global graph convolution networks application can improve the accuracy of forest type classification using aerial photographs: A case study in the University of Tokyo Chiba Forest	2022 Virtual Symposium of Asian University Forests (SAUF 2022)	2022
Owari T, Inoue T, Takahashi K, Kimura N, Kobayashi T	Digital transformation of the stand-based silvicultural management system at the University of Tokyo Hokkaido Forest, Japan	2022 Virtual Symposium on Asian University Forests (SAUF 2022)	2022
Toyama K, Murakawa I, Fujihira K	Soil deposition has changed the breast height of standing trees for several centimeters since the start of measurement about 100 years ago	2022 Virtual Symposium on Asian University Forests (SAUF 2022)	2022
Iguchi K	Effects of a wind-disturbance on reproduction and voltism of the spruce bark beetles (<i>Ips typographus japonicus</i> NIIJIMA)	9th Symposium of Asian University Forests Consortium (SAUFC)	2022
Ogawa H, Suzuki S	Long-term dynamics of forest structure and carbon stock in large scale plots in the University of Tokyo Hokkaido Forest	9th Symposium of Asian University Forests Consortium (SAUFC)	2022
Kuraji K, Saito H	Long-term Changes in Relationship Between Water Level and Precipitation in Lake Yamanaka	2022 Virtual Symposium on Asian University Forests (SAUF 2022)	2022
Nainar A, Mahali M, Kamlun KU, Bidin K, Kuraji K	Storm Runoff Dynamics in A Tropical Montane Cloud Forest (TMCF) and A Tropical Lowland Rainforest (TLRF) Headwater Stream: Comparison of Hydrographs	2022 Virtual Symposium on Asian University Forests (SAUF 2022)	2022
Owari T, Matsui M, Suzuki SN, Nobu E, Kimura N	Survival and height growth of <i>Abies sachalinensis</i> seedlings planted around cut stumps after single-tree selection harvest	Joint Conference of Two IUFRO Units: 1.01.09 Ecology and Silviculture of Fir and 1.01.10 Ecology and Silviculture of Pine (Abies & Pinus 2022)	2022

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
Toyama K	Rules and techniques to ensure labor-saving replanting in small-scale forestry after clearcutting in Japan: do they improve carbon sequestration?	2022 IUFRO Okinawa	2022
Hatono M, Kiguchi M, Yoshimura K, Kanae S, Kuraji K, Oki T	Looking back into the history of floods in Japan using a newly developed long-term gridded precipitation dataset	AGU Fall Meeting	2022
Aihara T, Araki K, Sarmah R, Cai Y, Paing AMM, Goto S, Hisamoto Y, Taneda H, Tomaru N, Homma K, Takagi M, Yoshida T, Iio A, Nagamatsu D, Kobayashi H, Uchiyama K, Hirota M, Tsumura Y	Declining survival, size and growth in <i>Betula ermanii</i> seedlings from marginal climates and genetically isolated populations	Plant and Animal Genome 30	2023
Owari T	Application of close-to-nature silviculture in northern Japan: 64 years of development at the University of Tokyo Hokkaido Forest	IUFRO All-Division 1 & 4 Online Discussion Conference	2023
Kuraji K	Forest DX/GX co-creation: The Challenge of the University of Tokyo Forests	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Paing AMM, Shigyo N, Tsumura Y, Takagi M, Hisamoto Y, Goto S	Diversity of soil fungal communities associated with <i>Betula ermanii</i> in five transplanted sites	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Kuraji K, Tanaka N, Otani Y, Farahnak M, Sato T, Nainar A	Temporal variation of stemflow funneling ratio during heavy precipitation in Japanese cypress plantation forest	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Mohd Ghaus IB, Tanaka N, Sato T, Otani Y, Farahnak M, Nainar A, Kuraji K, Gomyo M	Effects of pre-commercial thinning on runoff characteristics in a dense Japanese cypress plantation	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Owari T, Matsui M, Kimura N, Oikawa N, Karthigesu J	Stand structure and growth of a 115-year-old Japanese larch plantation in the University of Tokyo Hokkaido Forest	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Pei H, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Identifying spatial variation of carbon stock in a warm temperate forest in central Japan using Sentinel-2 and digital elevation model	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Suzuki SN	Long-term Directional Changes in Hemiboreal Mixed Forests in the University of Tokyo Hokkaido Forest	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Kamata N	Seven-yr Activity of JSPS-C2C Project: Networking Long-term Monitoring of Forest Ecosystems in Asian University Forests	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Saragih SA, Takemoto S, Kusumoto D, Kamata N	Comparison of microbe communities in the mycangium of ambrosia beetle <i>Xylosandrus crassiusculus</i> (Coleoptera: Curculionidae) between middle and late dispersal seasons	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
Kamata N, Sanguansub S, Peng Y, Saragih SA, Buranapanichpan A, Lin ZK, Buranapanichpan S, Saowaphak T, Li CL, Wu LW, Lardizabal MLT, Beaver RA	Geographical clines in bark and ambrosia beetle diversity in East and Southeast Asia	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Wu LW, Li CL, Tsai MJ, Lardizabal MLT, Sanguansub S, Saowaphak T, Buranapanichpan S, Buranapanichpan A, Peng Y, Beaver RA, Kamata N	Molecular phylogeny of bark and ambrosia beetles (Curculionidae: Scolytinae): revealing well-supported groupings based on mitogenomic sequences	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Lardizabal MLT, Gunggot E, Mojikon T, Lucas JJ, Wong H, Wong WVC, Beaver RA, Kamata N	Species Diversity of Bark and Ambrosia Beetles at Ulu Padas Forest Reserve, Sipitang, Sabah, Malaysia	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Li CL, Wu LW, Kamata N	A four-year monitoring investigation on bark and ambrosia beetle assemblages in central Taiwan	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
Kristian AA, Kamata N, Takemoto S	Seasonal variations of <i>Platypus quercivorus</i> in body size, number of mycangium pits, and quantity of accompanied <i>Raffaelea quercivora</i>	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023
浅野友子・鈴木智之・川崎雅俊	付加体堆積岩からなる大起伏な山地流域で流域面積が大きくなるにつれ大きくなるピーク比流量	日本地球惑星科学連合 2022 年大会	2022
前原忠・石橋整司	密度の異なるカラマツ人工林での地表徘徊性甲虫類の調査について	第 44 回 日本土壌動物学会大会	2022
尾張敏章・中川雄治・小川瞳・犬飼慎也・鈴木智之	東京大学北海道演習林における森林施業・固定試験地・リモートセンシングのデータセット	森林計画学会カンファレンス	2022
上野大輔・平尾聡秀	外来種キョンとニホンジカの生息地利用と日周活動のニッチ分割	日本哺乳類学会 2022 年度大会	2022
森川周・角田裕志・平尾聡秀	人間の存在がニホンテンの行動様式に与える影響	日本哺乳類学会 2022 年度大会	2022
牧貴大・三宮望・平尾聡秀・福井大	日本列島におけるコウモリの群集組成を規定する要因	日本哺乳類学会 2022 年度大会	2022
蔵治光一郎・田中延亮・Moein Farahnak・Pan Jichu・佐藤貴紀・Nainar Anand・鈴木春彦・中根慶征	ヒノキ人工林における大降水時の樹冠樹皮吸水と樹幹離脱による樹幹流下量の減少	水文・水資源学会 2022 年度研究発表会	2022
原口竜成	外部機関が取得した航空レーザ測量データの活用と人工林管理への応用方法の検討	令和 4 年度技術職員等試験研究・研修会議	2022

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
西山教雄・辻良子	ヒノキチップを使ったナラ枯れ防除の取り組み	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
渡邊良広・木村恒太・江口由典・辻和明	アブラギリ人工林一部皆伐後の下種更新状況の把握	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
栗田直明・相川美絵子	田無演習林におけるさし木技術を用いた後継樹育成の試み	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
木村徳志・福岡 哲	北海道の演習林の造林事業と今後の課題	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
岸本光樹・澤田晴雄・井上淳	生態水文学研究所第5期教育研究計画期間中における人工林の施業実施状況	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
軽込勉・米道学	森林3次元計測システムによる高齢人工林調査の試み	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
井口和信	北海道演習林における虫害の観察記録ー1980年からの43年間ー	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
村川功雄・尾崎煙雄	模式産地におけるアンドンタケの記録ー2018年~2022年の観察記録ー	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
當山啓介	人工林関係の動向と、演習林における人工林の捉え方	令和4年度技術職員等試験研究・研修会議	2022
梅林利弘・野末尚希・内海泰弘・大村和也・山田利博	落葉広葉樹2種の木部の老化特性	第27回 東北森林科学会大会	2022
及川希・木村徳志・羽塚冬馬・鈴木智之	iPhone LiDAR を林業に活用する試み 地拵え地の区画測量から植栽予定区域の面積を算出する事例	第71回 北方森林学会大会	2022
Paing AMM, Chen SF, Araki K, Aihara T, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Nagamatsu D, Takagi M, Taneda H, Hisamoto Y, Goto S	Patterns of survival and growth of <i>Betula ermanii</i> after transplanting to warm sites	森林遺伝育種学会第11回大会	2022
佐野春香・海野大和・郭威・三浦直子・楠和隆・伊藤寛規・岩田洋佳	LiDAR リモートセンシングを用いたカラマツの個体ベースの表現型計測手法の開発	森林遺伝育種学会第11回大会	2022
石塚航・北村系子・中西敦史・津山幾太郎・内山憲太郎・種子田春彦・久本洋子・後藤晋	繁殖にみるトドマツ天然集団の標高間差	森林遺伝育種学会第11回大会	2022
相原隆貴・荒木響子・Sarmah Ragini・蔡一涵・Paing Aye Myat Myat・後藤晋・久本洋子・種子田春彦・戸丸信弘・本間航介・高木正博・吉田俊也・飯尾淳弘・永松大・小林元・内山憲太郎・廣田充・津村義彦	森林限界および南限集団のダケカンバ苗木の生存率・生長の低下:気候環境・遺伝的多様性の影響	森林遺伝育種学会第11回大会	2022

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
北村系子・中西敦史・石塚航・後藤晋・津山幾太郎・種子田春彦・久本洋子・内山憲太郎	十勝岳トドマツ天然林における高評高帯分布限界集団の遺伝的文化	森林遺伝育種学会第11回大会	2022
大谷侑也・Moein Farahnak・田中延亮・佐藤貴紀・Mohd Ghaus Ibtisam Binti・Nainar Anand・蔵治光一郎・Pan Jichu・五名美江・中根慶弴・鈴木春彦・柴田亮介	森林の間伐が水源かん養機能に及ぼす影響に関する実証研究	第12回 中部森林学会大会	2022
辻和明・渡邊良広・木村恒太・江口由典・井上広喜・鴨田重裕・村瀬一隆	南伊豆地域における <i>Eucalyptus saligna</i> など <i>Eucalyptus</i> 属樹木5種の造林試験の経過報告	第12回 中部森林学会大会	2022
澤田晴雄	モニ 1000 愛知赤津サイトにおけるコナラ堅果の落下特性	第12回 中部森林学会大会	2022
北村系子・中西敦史・石塚航・後藤晋・津山幾太郎・種子田春彦・久本洋子・内山憲太郎	十勝岳トドマツ天然林における高標高帯分布限界集団の遺伝的分化	第54回 種生物学シンポジウム	2022
當山啓介	林業生産が活発でない千葉県の実況および燃料用木質バイオマス生産向上の可能性	第18回 バイオマス科学会議	2022
原口竜成・平尾聡秀・山田利博	針葉樹根株心腐菌ナミダタケモドキの子実体の生立木上での発生状況とその特徴	樹木医学会第27回大会	2022
久本洋子	数十年に一度起こるタケ類の一斉開花現象の解明を目指して	第29回 日本時間生物学会学術大会	2022
平間睦樹・中川雄治・福士憲司・千井野聡・江口由典	低価格な2周波 RTK-GNSS 受信機の森林内での測位精度	令和4年度北の国・森林づくり技術交流発表会	2023
井口和信	東京大学北海道演習林における虫害の観察記録ー1980年からの43年間ー	令和4年度北の国・森林づくり技術交流発表会	2023
岸本光樹・井上淳・丹羽悠二・梁瀬桐子・澤田晴雄	100年続く量水観測ー生態水文学研究所における水位観測と流量計算ー	第10回 農学生命科学研究科技術職員研修会	2023
犬飼浩	全国大学演習林協議会の森林管理技術賞とは？	第10回 農学生命科学研究科技術職員研修会	2023
小池征寛	全国大学演習林協議会森林管理技術賞「技術貢献賞」受賞内容の紹介	第10回 農学生命科学研究科技術職員研修会	2023
高野充広	農学生命科学研究科実務研修成果報告ー北海道演習林での研修ー	第10回 農学生命科学研究科技術職員研修会	2023
井上崇・高橋功一・小林徹行・千井野聡	北海道演習林における直営素材生産新旧システムの比較ー全幹集材から短幹集材へー	第10回 農学生命科学研究科技術職員研修会	2023
高橋功一・井上崇・磯崎靖雄・木村恒太	ミズナラ丸太の品等予測ー複数職員による評価比較の試みー	第10回 農学生命科学研究科技術職員研修会	2023

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
五十嵐勇治・大村和也・原口竜成	秩父演習林における森林管理技術の継承	第10回 農学生命科学研究 科技術職員研修会	2023
澤田晴雄・丹羽悠二・岸本光樹・梁瀬桐子・井上淳	生態水文学研究所100年の歴史と100周年記念事業	第10回 農学生命科学研究 科技術職員研修会	2023
辻良子・西山教雄	癒しの森づくりに関する技術の継承と課題	第10回 農学生命科学研究 科技術職員研修会	2023
近澤静恵	附属演習林・弥生キャンパス3組織の業務紹介	第10回 農学生命科学研究 科技術職員研修会	2023
中川雄治・平間睦樹・福士憲司・江口由典	針葉樹人工林における UAV を用いた林分材積推定の試み	第10回 農学生命科学研究 科技術職員研修会	2023
栗田直明・相川美絵子	田無演習林におけるさし木技術を用いた後継樹育成の試み	第10回 農学生命科学研究 科技術職員研修会	2023
辻良子・西山教雄	ヒノキチップを使ったナラ枯れ防除の取り組み	第10回 農学生命科学研究 科技術職員研修会	2023
木村恒太	Raspberry Pi を用いたスマート温室管理への取り組み	第10回 農学生命科学研究 科技術職員研修会	2023
細井文樹・三川裕一郎・三浦直子	内視鏡を用いた樹洞内部の3次元計測手法の開発	日本農業気象学会2023年全国大会	2023
安井理香・平尾聡秀	奥山の人間活動が食肉目の日周性と生息地選択に及ぼす影響	日本生態学会第70回全国大会	2023
森川周・角田裕志・平尾聡秀	人間の「恐怖」は野生動物の種間関係に影響を与えるか？	日本生態学会第70回全国大会	2023
藤岡薫子・久本洋子・鈴木牧	カエデ属2種の生育段階依存的な枝軸長変化のメカニズム	日本生態学会第70回全国大会	2023
木村瑛月・深澤遊・小南裕志・高木正博・松倉君子・潮雅之・小林真・鈴木智之・竹本周平・田中延亮・上村真由子・門脇浩明・衣浦晴生・山下聡	ナラ枯れがコナラ枯死木の菌類群集構造および材分解に与える影響	日本生態学会第70回全国大会	2023
小南裕志・深澤遊・高木正博・鈴木智之・竹本周平・平田晶子・深山貴文・高梨聡	森林の枯死木が土壌炭素循環に与える影響の包括的評価の試み	日本生態学会第70回全国大会	2023
Paing AMM, Shigyo N, Tsumura Y, Yoshida T, Takagi M, Hisamoto Y, Goto S	The relationship between fungal communities and growth of <i>Betula ermnaii</i> populations in five planting sites	第134回 日本森林学会大会	2023
玉木麻香・梅木清・谷川鴻介・角田裕志・平尾聡秀	奥秩父山地におけるシカの生息地選択と人間活動に対する行動反応	第134回 日本森林学会大会	2023

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
戸口侑紀・上田実希・黒河内寛之・中村琢磨・平尾聡秀・芝野萌菜実・齊藤陽子	ヒナウチワカエデとコハウチワカエデの交雑実態－葉の形質と葉緑体 DNA 解析	第 134 回 日本森林学会大会	2023
小林慧人・久本洋子・福島慶太郎・鈴木重雄・河合洋人・小林剛	タケ類開花の現況と開花記録の収集：市民参加型調査に向けて	第 134 回 日本森林学会大会	2023
上野大輔・平尾聡秀	同所的に生息するキョンとニホンジカの行動形質の比較	第 134 回 日本森林学会大会	2023
深澤直希・平尾聡秀・梅木清	奥秩父山地に生育する樹木の成長速度・死亡率モデルの作成	第 134 回 日本森林学会大会	2023
竹内虎輔・齊藤陽子・平尾聡秀	日本列島におけるミネカエデとナンゴクミネカエデの分布境界とその形成過程	第 134 回 日本森林学会大会	2023
浅野友子・水内佑輔・岸本光樹・Kristin Bunte・田中延亮	かつて禿山だった白坂流域における 1930 年からの土砂流出変化	第 134 回 日本森林学会大会	2023
Htun NM, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Discriminating conifer and broadleaf cover in an uneven-aged forest using UAV imagery and machine learning	第 134 回 日本森林学会大会	2023
Karthigesu J, Owari T, Tsuyuki S, Hiroshima T	Estimating stand parameters of a 114-year-old Japanese larch plantation using UAV photogrammetry	第 134 回 日本森林学会大会	2023
佐藤温起・中田修人・岡田健太郎・荒木響子・相原隆貴・津村義彦・後藤晋・飯尾淳弘	ダケカンバの葉フェノロジーの産地間変異	第 134 回 日本森林学会大会	2023
查世昊・石橋整司・安村直樹・當山啓介	最近 10 年の民有林の植伐傾向	第 134 回 日本森林学会大会	2023
室谷楓香・小林元・後藤晋・戸丸信弘・津村義彦	ダケカンバ産地試験における 3 年生苗の樹冠構造	第 134 回 日本森林学会大会	2023
棚田みのり・後藤晋・戸丸信弘・本間航介・小林元・津村義彦	ダケカンバ相互移植実験における産地・環境・樹形の関係性の解析	第 134 回 日本森林学会大会	2023
中田修人・佐藤温起・岡田健太郎・荒木響子・相原隆貴・津村義彦・後藤晋・飯尾淳弘	ダケカンバの電子伝達速度と気孔コンダクタンスの産地間変異	第 134 回 日本森林学会大会	2023
張珂・石橋整司・藤原章雄・當山啓介	人工林の管理方針の特徴に関する日中比較	第 134 回 日本森林学会大会	2023
陳田・安村直樹・齋藤暖生・當山啓介	日本における森林管理と利用についての官民連携の歴史	第 134 回 日本森林学会大会	2023
尤曉安・石橋整司・安村直樹・齋藤暖生	日本における樹木葬の普及要因	第 134 回 日本森林学会大会	2023
倪寛・石橋整司・安村直樹・當山啓介	「木材利用促進法」施行前後の公共建築物木造化の変化	第 134 回 日本森林学会大会	2023
當山啓介・查世昊	地域森林計画における伐採・造林の前期実績量の総括文言	第 134 回 日本森林学会大会	2023

発表者全氏名	題目	大会名	発表年
盧美靈・石橋整司・齋藤暖生・藤原章雄	東京都における街路樹整備の取り組み	第 134 回 日本森林学会大会	2023
蔡寧馨・石橋整司・齋藤暖生・藤原章雄	巨木が日本人に与えるイメージに関する考察	第 134 回 日本森林学会大会	2023
澤田晴雄	赤津研究林白坂小流域における最近 23 年間の森林変化	第 134 回 日本森林学会大会	2023
Farahnak M, Sato T, Otani Y, Kuraji K, Suzaki T, Nakane Y, Shibata R	Biomat/soil water repellency differences between thinned and not-thinned <i>Chamaecyparis obtusa</i> plantations	第 134 回 日本森林学会大会	2023
佐野春香・海野大和・郭威・三浦直子・楠和隆・伊藤寛規・岩田洋佳	カラマツの成長とフェノロジーのリモートセンシング計測法の開発	第 134 回 日本森林学会大会	2023
藤原章雄・齋藤暖生・高山範理・森田えみ・竹内啓恵	地域の森への関わりと健康に関する意識 —山中湖村住民へのアンケート調査	第 134 回 日本森林学会大会	2023
齋藤暖生・深町加津枝	消失した里山資源が持つ意義と再生の可能性：大津市守山の「あぶらぼん」	第 134 回 日本森林学会大会	2023
戴健平・原口竜成・平尾聡秀・山田利博	クマ剥ぎによるヒノキ被害部の主要腐朽菌と拮抗菌の選別	第 134 回 日本森林学会大会	2023
梅林利弘・野末尚希・内海泰弘・大村和也・山田利博	3 地域に植栽された落葉広葉樹の主幹における木部形成と老化	第 134 回 日本森林学会大会	2023
柏木めぐみ・亀山泰良・伊澤麻里・南雲八恵・大塚ちか子・杉原弘恭・竹本周平	東京都東久留米市におけるブナ科樹木萎凋病の発生と予防の取組み事例	第 134 回 日本森林学会大会	2023

3) 著書

著者名	題目	著書名	発行会社	頁	発行年
Mizuno K, Otani Y (Eds)		Glaciers, Nature, Water, and Local Community in Mount Kenya	Springer Singapore	166pp	2022
Otani Y	Hydrology I: Impact of Glacier Shrinkage on the Water Cycle of Mount Kenya	Glaciers, Nature, Water, and Local Community in Mount Kenya Mizuno K, Otani Y (Eds)	Springer Singapore	31-44	2022
Owari T, Im S, Guan BT (Eds)		Long-Term Monitoring and Research in Asian University Forests: Understanding Environmental Changes and Ecosystem Responses	CRC Press	130pp	2022
Kuraji K (Ed)		Long-Term Monitoring and Research in Forest Hydrology: Towards Integrated Watershed Management	MDPI Books	192pp	2022
渡辺敦史・来田一人・久保田正裕・後藤 晋 (編)		各都道府県の林業・林産業と遺伝育種の関わり	森林遺伝育種学会	119pp	2022
北村系子・石塚航・後藤 晋	第4章 各樹種の遺伝的多様性と地理的遺伝構造 7 トドマツ (マツ科モミ属)	日本における森林樹木の遺伝的多様性と地理的遺伝構造 戸丸信弘・内山憲太郎・玉木一郎・阪口翔太 (編)	森林遺伝育種学会	52-56	2022
浅野友子	第1編 総説	砂防の観測の現場を訪ねて3～水の動きの不思議～ 公益社団法人砂防学会 (編)	公益社団法人砂防学会	10-13	2022
浅野友子	第2章 山地河川での洪水伝播の実態解明 <静岡県南伊豆樹芸研究所青野研究林における大雨時の観測>	砂防の観測の現場を訪ねて3～水の動きの不思議～ 公益社団法人砂防学会 (編)	公益社団法人砂防学会	27-37	2022
浅野友子	コラム① 観測が思い通りにならない時に新たな展開があることも!?	砂防の観測の現場を訪ねて3～水の動きの不思議～ 公益社団法人砂防学会 (編)	公益社団法人砂防学会	38	2022
三俣学・齋藤暖生 (著)		森の経済学：森が森らしく、人が人らしくある経済	日本評論社	272pp	2022
蔵治光一郎	6.1.1 蒸発散量	水文・水資源ハンドブック第二版 水文・水資源学会 (編)	朝倉書店	129-131	2022
蔵治光一郎・田中延亮	6.1.2 遮断量	水文・水資源ハンドブック第二版 水文・水資源学会 (編)	朝倉書店	131-133	2022
浅野友子	6.2.1 溪流・小河川	水文・水資源ハンドブック第二版 水文・水資源学会 (編)	朝倉書店	133-136	2022
Elinor Ostrom (著)・原田禎夫・齋藤暖生・嶋田大作 (訳)		コモンズのガバナンス：人びとの協働と制度の進化	晃洋書房	324pp	2022
鎌田直人	ナラ枯れ・マツ枯れ	リモートセンシング事典 日本リモートセンシング学会 (編)	丸善	5-11	2022
水内佑輔	第4章2節2 荘厳な森のつくり方——「風致」と「自然のメカニズム」	明治神宮100年の森で未来を語る 明治神宮国際神道文化研究所(編)	鹿島出版会	151-158	2023
蔵治光一郎	森林斜面で起きる土砂災害のこれまでとこれから	『森林環境2023』特集・激甚化する自然災害と森林環境 森林環境研究会 (編)	公益財団法人森林文化協会	33-41	2023

4) 演習林を利用して行った論文等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Shirasawa K, Mishima K, Hirakawa H, Hirao T, Tsubomura M, Nagano S, Iki T, Isobe S, Takahashi M	Haplotype-resolved de novo genome assemblies of four coniferous tree species	bioRxiv		doi.org/10.1101/2022.11.16.516598	2022	千葉
Takahashi M, Goto S, Fukuda Y, Watanabe A	Utility of chloroplast DNA haplotype data for ecological restoration using <i>Fagus crenata</i> seedlings in case of incomplete seed source information availability	Ecological Research	38	255-264	2022	北海道
Funamoto D	Brown-colored nectar in the insect-pollinated flowers of Asian moonseed	Ecology	104(3)	e3965	2022	田無
Takagi E	Host preference of the tree-killing bark beetle <i>Polygraphus proximus</i> across a geographic boundary separating host species	Entomologia Experimentalis et Applicata	170(11)	1001-1007	2022	北海道
Haraguchi R, Hirao T, Yamada T	Detection and quantification of <i>Serpula himantoides</i> in the wood of <i>Chamaecyparis pisifera</i> butt rot trees by real-time PCR	Forests	13	1429	2022	秩父
Fukasawa Y, Matsukura K, Stephan JG, Kobayashi M, Suzuki SN, Kominami Y, Takagi M, Tanaka N, Takemoto S, Kinuura H, Okano K, Song Z, Jomura M, Kadowaki K, Yamashita S, Ushio M	Patterns of community composition and diversity in latent fungi of living <i>Quercus serrata</i> trunks across a range of oak wilt prevalence and climate variables in Japan	Fungal Ecology	59	e101095	2022	秩父・生態水文
Yoshii T, Lin C, Tatsuhara S, Suzuki S, Hiroshima T	Tree species mapping of a hemiboreal mixed forest using MASK R-CNN	IGARSS 2022		6228-6231	2022	北海道
Shinohara A	The Woodwasp Genus <i>Eriotremex</i> (Hymenoptera: Siricidae) of Japan	Japanese Journal of Systematic Entomology	28(2)	169-180	2022	千葉
Kobayashi K, Iguchi K, Takagi E	Number of gallery arms of the tree-killing bark beetle <i>Polygraphus proximus</i> (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae)	Journal of Asia-Pacific Entomology	25	1-4	2022	北海道
Kusumoto D, Hisamoto Y, Murakawa I, Masuya H	Characteristics of <i>Lithocarpus edulis</i> tree death caused by Japanese oak wilt	Journal of Forest Research	27(4)	315-322	2022	千葉
Djotan AKG, Matsushita N, Fukuda K	Amplicon sequencing reveals the arbuscular mycorrhizal fungal community composition in <i>Cryptomeria japonica</i> at one local site	Journal of Forest Research	27(5)	399-407	2022	田無
Ishizuka W, Kitamura K, Hara T, Goto S	Characterization of the complete chloroplast genome of <i>Abies sachalinensis</i> and its intraspecific variation hotspots	Journal of Forest Research	27(6)	476-482	2022	北海道

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Asano Y, Suzuki SN, Kawasaki M	Peak discharges per unit area increase with catchment area in a high-relief mountains with permeable sedimentary bedrock	Journal of Hydrology	610	doi.org/10.1016/j.jhydr.2021.127876	2022	秩父
Matsuyama H, Taira M, Suzuki M	Regional Scale Distribution of Tick is Associated with Wildlife Distribution on the Boso Peninsula, Central Japan	Mammal Study	47(4)	265-273	2022	千葉
Tanigawa K, Makino Y, Miura N, Umeki K, Hirao T	Scale-dependent habitat selection of sympatric mesocarnivore species in a cool temperate forest in eastern Japan	Mammalian Biology	102	1901-1910	2022	秩父
Matsumura E, Morinaga K, Fukuda K	Host specificity and seasonal variation in the colonization of <i>Tubakia sensu lato</i> associated with evergreen oak species in eastern Japan	Microbial Ecology		doi.org/10.1007/s00248-022-02067-9	2022	千葉
Li JL, Li CF, Tsuruta M, Matsushita N, Goto S, Shen ZG, Tsugama D, Zhang SJ, Lian CL	Physiological and transcriptional responses of the ectomycorrhizal fungus <i>Cenococcum geophilum</i> to salt stress	Mycorrhiza	32(3-4)	327-340	2022	千葉
Ang JMA, Kusumoto D, Mitsugi M, Suzuki M	Regeneration of tree species after 11 years of canopy gap creation and deer exclusion in a warm temperate broad-leaved forest over-browsed by sika deer	PeerJ	10	e14210	2022	千葉
Hatono M, Kiguchi M, Yoshimura K, Kanae S, Kuraji K, Oki T	A 0.01-degree gridded precipitation dataset for Japan, 1926-2020	Scientific Data	9	422	2022	生態水文
Miura N, Saito H, Hada T	Drone Remote Sensing For the Controlled Capture of Sika Deer (<i>Cervus Nippon</i>): Case Study in Village of Yamanakako	The International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences	XLIII-B3-2022	927-932	2022	富士
Shinohara Y, Iida S, Oda T, Katayama A, Tsuruta K, Sato T, Tanaka N, Su MP, Laplace S, Kijidani Y, Kume T	Are calibrations of sap flow measurements based on thermal dissipation needed for each sample in Japanese cedar and cypress trees?	Trees	36	1219-1229	2022	生態水文
Hashizume T, Maruyama M	Taxonomy and phylogeny of the Japanese species of the genus <i>Dasycerus</i> Brongniart (Coleoptera: Staphylinidae: Dasycerinae) with description of a new species and notes on <i>D. poseidon</i> Hu & Liang	Zootaxa	5174(3)	233-246	2022	千葉
Owari T, Im S, Guan BT (Eds)		Long-term Monitoring and Research in Asian University Forests (CRC Press)		130pp	2022	千葉・北海道・秩父・生態水文・富士・樹芸

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Kuraji K (Ed)		Long-Term Monitoring and Research in Forest Hydrology: Towards Integrated Watershed Management (MDPI Books)		192pp	2022	生態水文
Tanaka N, Lai YJ, Im SJ, Mahali MB, Tuankrua V, Kuraji K, Cleophas F, Tantasirin C, Gomyo M, Tseng CW, Shiraki K, Hotta N, Asano Y, Inoue H, Nainar A	Climate Elasticity of Annual Runoff: Observation in Fifteen Forested Catchments on a Latitudinal Gradient in East Asia	Atmosphere	14(4)	629	2023	千葉・北海道・秩父・生態水文・樹芸
Haga C, Hotta W, Inoue T, Matsui T, Aiba M, Owari T, Suzuki S, Shibata H, Morimoto J	Modeling tree recovery in wind-disturbed forests with dense understory species under climate change	Ecological Modelling	472	11007 2	2023	北海道
Ishiyama N, Sueyoshi M, Molinos JG, Iwasaki K, Negishi J, Koizumi I, Nagayama S, Nagasaka A, Nagasaka Y, Nakamura F	Underlying geology and climate interactively shape climate change refugia in mountain streams	Ecological Monographs	93(2)	e1566	2023	北海道
Wijenayake PR, Hiroshima T, Takahashi M, Saito H	Predicting the future age distribution of conifer and broad-leaved trees based on survival analysis: a case study on natural forests in northern Japan	Forests	13(11)	1912	2023	北海道
Farahnak M, Sato T, Otani Y, Kuraji K, Suzuki T	The Differences in Water Repellency in Root Mat (Biomat) and Soil Horizons of Thinned and Non-thinned <i>Chamaecyparis obtusa</i> (Siebold et Zucc.) Endl. Plantations	Forests	14(2)	210	2023	生態水文
Jing L, Morimoto J, Hotta W, Suzuki SN, Owari T, Toyoshima M, Nakamura F	The 30-year impact of post-windthrow management on the forest regeneration process in northern Japan	Landscape and Ecological Engineering	19	227- 242	2023	北海道
Pei H, Owari T, Tsuyuki S, Zhong YF	Application of a Novel Multiscale Global Graph Convolutional Neural Network to Improve the Accuracy of Forest Type Classification Using Aerial Photographs	Remote Sensing	15(4)	1001	2023	千葉
國岡祐里	ハバチが持つオーキシシン生合成酵素 PonAAS2 の基質特異性に関する研究	茨城大学 卒業論文		40pp	2023	千葉
吉田響	昆虫のインドール酢酸生合成における芳香族アルデヒド合成酵素の機能解析	茨城大学 修士論文		96pp	2023	千葉
福田捷人	エゾモモンガの営巣行動に関する基礎研究	帯広畜産大学 卒業論文		46pp	2023	北海道

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
村上 董	北海道のトドマツ優占天然針広混交林における DNA メタバーコーディングを活用したエゾモモンガ <i>Pteromys volans orii</i> の食性解析	帯広畜産大学 修士論文		60pp	2023	北海道
田中 凌悟	Estimation of origin of sedimentary structures in hybrid event beds based on grain fabric analysis: Examples from the Lower Pleistocene Otadai Formation in the Boso Peninsula, Japan	京都大学 修士論文		99pp	2023	千葉
神田 旭	テントウムシの歩行メカニズムに関する行動学的研究	高知大学 修士論文		18pp	2023	田無
滝田 裕大	CORSIA 参画に向けた J-クレジット制度・森林管理プロジェクトの課題	東京大学 卒業論文		53pp	2023	千葉
森川 周	自然環境下での人間活動が中大型哺乳類の行動形質と時空間的活動に及ぼす影響	東京大学 修士論文		48pp	2023	秩父
戴 健平	クマ剥ぎによるヒノキ被害部の腐朽進行と菌叢の変化および拮抗菌の選別	東京大学 修士論文		36pp	2023	秩父
竹内 虎輔	日本列島におけるミネカエデ類の遺伝的分化と遺伝構造	東京大学 修士論文		73pp	2023	秩父
Andreas Ade Kristian	Seasonal variations of <i>Platypus quercivorus</i> in body size, number of mycangium pits, and quantity of accompanied <i>Raffaelea quercivora</i>	東京大学 修士論文		40pp	2023	千葉・田無・富士
廣木 颯太郎	山地小流域における土壌調査と浸透流解析に基づく水流出の規定要因の検討	東京大学 修士論文		74pp	2023	千葉・秩父・生態水文
太田 耕輔	Improved accuracy of radiocarbon dating through analysis of the carbon reservoir effect in different environments using various sample materials	東京大学 博士論文		140pp	2022	富士
鈴木 伶菜	土壌細菌のコロニー形成に及ぼす脂肪酸と界面活性剤の効果	東京農業大学 卒業論文		11pp	2023	田無
原田 峻希	森林流域におけるタンクモデルを用いた溶存有機炭素流出負荷量の推定	豊田工業高等専門学校 卒業論文		20pp	2023	生態水文
戸口 侑紀	秩父山地の入山地区におけるヒナウチワカエデとコハウチワカエデの交雑 一葉の形質比較と遺伝マーカーによる比較一	日本女子大学 卒業論文		31pp	2023	秩父
柴田 紗帆	日本産モチビョウキン目菌類に関する研究	法政大学 博士論文		255pp	2023	田無
鈴木 七菜	地表の攪乱体制が規定する植生構造に対応した葉形質の空間分布	横浜国立大学 卒業論文			2023	千葉

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
宇佐美均	人と森との関係性の再構築に関する考察－「森の癒し」活動の実践事例から－	立教大学 修士論文		108pp	2023	富士
植田睦之・山浦悠一・大澤剛士・葉山政治	2種類の全国調査にもとづく繁殖期の森林性鳥類の分布と年平均気温	Bird Research	18	A51-A61	2022	秩父
Paing AMM, Chen SF, Araki K, Aihara T, Sarmah R, Hirota M, Tsumura Y, Tomaru N, Homma K, Kadomatsu M, Yoshida T, Kobayashi H, Iio A, Osumi K, Nagamatsu D, Takagi M, Taneda H, Kimura N, Fukuoka S, Hisamoto Y, Goto S	Site characteristics of <i>Betula ermanii</i> range-wide provenance trials	演習林（東大）	66	1-12	2022	千葉・北海道
佐々木乃梨・田辺結葉・本馬維子・矢野呼春・村上董・照内歩・菊池隼人・押田龍夫	ヒメネズミ <i>Apodemus argenteus</i> の繁殖準備行動：営巣用巣材の搬入と繁殖活動との関係	帯広畜産大学 学術研究報告	43	8-21	2022	北海道
斉藤明子・村川功雄・尾崎煙雄	千葉県におけるアマミトガリナフシの再発見	月刊むし	614	39-41	2022	千葉
尾張敏章	天然林択伐施業の DX	山林	1656	36-42	2022	北海道
後藤晋	北海道における有用針葉樹トドマツの環境適応に関する研究とその遺伝研究基盤の構築	森林遺伝育種	11(2)	50-53	2022	北海道
佐藤貴紀	シリーズ森をはかる その 77 森林からの土砂流出量を測る－流域と斜面の両方から－	森林科学	95	28-29	2022	生態水文
高木真由・向井真那・吉田智弘・佐々木真優・水上知佳・北山兼弘	森林生態系への火山灰加入のリン施肥効果：火山灰加入量の異なるコナラ林の比較検証	森林立地	64(2)	65-76	2022	生態水文
澤田晴雄・佐藤貴紀・岸本光樹	モニ 1000 愛知赤津サイトにおけるヒノキの種子および球果の落下特性	中部森林研究	70	3-6	2022	生態水文
陳怡然・田中隆文・小谷亜由美・田中延亮	長期流出特性の解明を目的とした山地小流域試験地への SWAT モデルの適用	中部森林研究	70	29-32	2022	生態水文
尾張敏章・大石諭・軽込勉・鈴木祐紀・鶴見康幸・米道学・塚越剛史・阿達康真・村川功雄・藤平晃司・三次充和・楠本大・久本洋子・當山啓介	東京大学千葉演習林における天然林資源の現状	東京大学農学部 演習林報告	147	1-14	2022	千葉
松尾晶穂・岩切鮎佳・松下範久・田端雅進・福田健二	物理的休眠打破と生理的休眠打破に基づいたウルシ種子の発芽促進処理の評価	日本森林学会誌	104	254-261	2022	田無

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
當山啓介・久本洋子・三次充和・広嶋卓也	シカ生息下における暖温帯高齢人工林の間伐後4年間の下層植生変化からみた針広混交林化の可能性検証	日本緑化工学会誌	48(2)	345-356	2022	千葉
梅利利弘	温暖な地域ではなぜ落葉環孔材樹種が少なくなるのか?	木科学情報	29(3)	42-45	2022	千葉
植田睦之	2021年度 コア・準コアサイト鳥類調査 越冬期結果報告	モニタリングサイト1000 陸生鳥類調査情報	14(1)	3	2022	秩父
浅野友子	第2章 山地河川での洪水伝播の実態解明 <静岡県南伊豆樹芸研究所青野研究林における大雨時の観測>	砂防の観測の現場を訪ねて3～水の動きの不思議～(公益社団法人砂防学会)		27-37	2022	樹芸
當山啓介・大石諭・藤平晃司・里見重成・中島徹・龍原哲	東京大学千葉演習林のスギ・ヒノキ高齢人工林成長試験地における約100年間の成長資料	演習林(東大)	67	1-17	2023	千葉
米道学・鈴木祐紀・塚越剛史・阿達康真・軽込勉・久本洋子・楠本大	高齢天然ヒメコマツを台木にした高芽接ぎの活着	演習林(東大)	67	19-26	2023	千葉
岸本光樹・里見重成・高橋功一・丹羽悠二・浅野友子	生態水文学研究所の宮試験流域日流出量観測結果報告(自2017年1月至2021年12月)	演習林(東大)	67	27-36	2023	生態水文
三次充和・久本洋子・天野誠・藤平晃司・軽込勉・尾崎煙雄・御巫由紀・鎌田直人	東京大学千葉演習林における1kmメッシュスケールの維管束植物分布図	演習林(東大)	67	37-46	2023	千葉
吉田弓子・川崎雅俊・高德佳絵・高野充広・浅野友子	秩父演習林における渓流水と降水の水質分析結果報告(自2021年4月至2022年3月)	演習林(東大)	67	47-58	2023	秩父
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林森林管理委員会管理担当	「東京大学環境報告書2022」に掲載された演習林樹木のCO ₂ 吸収量の算出方法	演習林(東大)	67	59-69	2023	千葉・北海道・秩父・田無・生態水文・富士・樹芸
東京大学演習林	東京大学演習林水文観測・水質分析報告(自2020年1月至2020年12月)	演習林(東大)	67	73-82	2023	千葉・北海道・秩父・生態水文・樹芸
東京大学演習林	東京大学演習林気象報告(自2021年1月至2021年12月)	演習林(東大)	67	83-103	2023	千葉・北海道・秩父・田無・生態水文・樹芸

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
水内佑輔	日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造物群	森林科学	97	28-31	2023	生態水文
龍原哲・當山啓介・鈴木誠	Effectiveness of the Canopy Closure Curve to Inform Management of Two-Storied Stands	森林計画学会誌	29	1-9	2023	千葉
井口和信	東京大学北海道演習林における虫害の観察記録－1980年からの43年間－	森林防疫	72(2)	82-88	2023	北海道
高橋功一・鈴木智之・後藤晋	小面積皆伐と地表かき起こしによるストロブマツ人工林から針広混交林への転換：15年間にわたるストロブマツと天然林構成種の更新動態	日本森林学会誌	105(3)	65-75	2023	北海道
後藤晋	全国スケールでのダケカンバ産地試験林の設定－地球温暖化が森林生態系に及ぼす影響評価を目指して－	北海道の林木育種	65(1)	15-18	2023	千葉・北海道
木村徳志・鈴木智之・福岡哲・松井理生・後藤晋・尾張敏章	東京大学北海道演習林におけるエゾマツコンテナ苗植栽後10年の成長と生存	北海道の林木育種	65(2)	15-20	2023	北海道
及川希・木村徳志・羽塚冬馬・鈴木智之	iPhone LiDAR を林業に活用する試み 地拵え地の区画測量から植栽予定区域の面積を算出する事例	北方森林研究	71	31-34	2023	北海道
森嶋佳織・亘悠哉・飯島勇人	房総半島で撮影された特定外来生物キョン <i>Muntiacus reevesi</i> のマウンティング行動	63(1)	2	2023	63(1)	千葉
植村慎吾	2022年度 コア・準コアサイト鳥類調査 繁殖期結果報告	14(2)	3	2023	14(2)	秩父

2022 年度より前に発表し、これまでの年報に未掲載の論文

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年	演習林
正木春彦	コロニー形成の遺伝学, その後	IFO Research Communications	33	221-222	2019	田無
宮岡伶安	東アジア湿潤変動帯の丘陵地微地形構造に対応した植生分化	横浜国立大学卒業論文			2021	千葉
Nakamura M, Terada C, Ito K, Matsui K, Niwa S, Ishihara M, Tanaka K, Yoshikawa T, Kadoya T, Hiura T, Muraoka H, Ishida K, Agetsuna N, Nakamura R, Sakio H, Takagi M, Mori AS, Kimura MK, Kurokawa H, Enoki T, Seino T, Takashima A, Kobayashi H, Matsumoto K, Takahashi K, Tateno R, Yoshida T, Nakaji T, Maki M, Kobayashi K, Fukuzawa K, Hoshizaki K, Ohta K, Kobayashi K, Hasegawa M, Suzuki SN, Sakimoto M, Kitagawa Y, Sakai A, Kondo H, Ichie T, Kageyama K, Hieno A, Kato S, Otani T, Utsumi Y, Kume T, Homma K, Kishimoto K, Masaka K, Watanabe K, Toda M, Nagamatsu D, Miyazaki Y, Yamashita T, Tokuchi N	Evaluating the soil microbe community-level physiological profile using EcoPlate and soil properties at 33 forest sites across Japan	Ecological Research	37	432-445	2022	生水研
Delgado G, Miller AN, Hashimoto A, Iida T, Ohkuma M, Okada G	A phylogenetic assessment of <i>Endocalyx</i> (Cainiaceae, Xylariales) with <i>E. grossus</i> comb. et stat. nov.	Mycological Progress	21(1)	221-242	2022	秩父
Tokuda M, Suzuki Y, Fujita S, Matsuda H, Adachi-Fukunaga S, Elsayed AK	Terrestrial arthropods broadly possess endogenous phytohormones auxin and cytokinins	Scientific Reports	12	doi.org/10.1038/s41598-022-08558-6	2022	千葉
大仲知樹	犬山市のカエル	なごやの生物多様性	9	33-43	2022	生水研
環境省自然環境局生物多様性センター	2021 年度 重要生態系監視地域モニタリング推進事業（陸生鳥類調査）調査報告書	環境省自然環境局 生物多様性センター			2022	秩父

5) 受賞・特許等

全国大学演習林協議会第24回森林管理技術賞

受賞者氏名	受賞理由
特別功労賞	
犬飼 浩	東京大学演習林における森林管理及び技術組織運営への多大な貢献
技術貢献賞	
小池征寛	林分施業法に基づく天然林管理技術の可視化・言語化と継承・普及に関する貢献
学術貢献賞	
小川 瞳	北方針葉樹のコンテナ苗生産に関する学術的・社会的貢献

2022年度 北方森林学会技術賞

受賞者氏名	題 目
及川 希・木村徳志・羽塚冬馬・鈴木智之	iPhoneLiDAR を林業に活用する試み：地拵え地の区画測量から植栽予定区域の面積を算出する事例

令和4年度 北の国・森林づくり技術交流発表会

受賞者氏名	題 目
優秀賞（森林技術部門）	
平間睦樹・中川雄治・福土憲司・千井野聡・江口由典	低価格な2周波RTK-GNSS受信機の森林内での測位精度
優秀賞（森林保全・ふれあい・地域連携部門）	
井口和信	東京大学北海道演習林における虫害の観察記録－1980年からの43年間－

2022年度 樹木医学会賞

受賞者氏名	題 目
楠本 大	傷害や病原体の感染に対する樹木の防御応答に関する研究

2023年度 日本森林学会賞

受賞者氏名	題 目
浅野友子	大雨時の山地流域におけるピーク生起時刻の遅れは斜面ではなく主に河道で生じる

6) 外部資金によって行われた研究

科学研究費補助金

氏名	研究種目	研究課題	研究代表者	代表者所属
鎌田直人・ 楠本 大・ 竹本周平	基盤研究 (A)	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	鎌田直人	東京大学
後藤 晋・ 久本洋子	基盤研究 (A)	大規模産地試験林を用いた樹木の局所環境適応遺伝子の解明	津村義彦	筑波大学
福井 大・ 平尾聡秀	基盤研究 (A)	風力発電施設におけるコウモリ類衝突リスク低減に向けた情報・技術基盤形成	福井 大	東京大学
楠本 大	基盤研究 (A)	マツ材線虫病の萎凋枯死メカニズムの全容解明	福田健二	東京大学
大谷侑也	基盤研究 (A)	アフリカの熱帯高山における氷河消滅が自然・生態系や地域社会に及ぼす影響の解明	水野一晴	京都大学
鎌田直人	基盤研究 (B)	環境DNAを用いた森林葉食性昆虫の天敵微生物のモニタリング技術の開発	鎌田直人	東京大学
鎌田直人・ 後藤 晋・ 藤原章雄・ 鈴木智之	基盤研究 (B)	次世代の自然風景地の保護と利用	齋藤 馨	東京農業大学
山田利博・ 平尾聡秀	基盤研究 (B)	微生物群集機能に基づく樹木の材腐朽進展プロセスの解明	山田利博	東京大学
後藤 晋・ 久本洋子	基盤研究 (B)	長距離ジーンフローが卓越する針葉樹でなぜ高標高エコタイプが存在しうるのか？	後藤 晋	東京大学
後藤 晋・ 久本洋子	基盤研究 (B)	縞枯れ現象を通して常緑針葉樹の衰退・枯死過程を解き明かす	種子田春彦	東京大学
浅野友子	基盤研究 (B)	気候変動により増大する災害リスク定量化のための洪水・土砂流出量予測手法の提案	内田太郎	筑波大学
鈴木智之・ 竹本周平	基盤研究 (B)	森林土壌圏の炭素収支における枯死木効果の包括的評価	小南裕志	森林研究・整備機構
福井 大	基盤研究 (B)	インドシナ半島周縁海域に存在する小島嶼は“哺乳類固有種”の創出機関であるのか？	押田龍夫	帯広畜産大学
當山啓介	基盤研究 (B)	広葉樹林化のための人工林撤退戦略を経済性から考える	中島 徹	東京大学
三浦直子	基盤研究 (B)	粗放管理時代における河川堤防の合理的な植生管理・生態緑化手法の開発	山田 晋	東京農業大学
當山啓介	基盤研究 (B)	日本全国の長期的な森林バイオマス利用可能量算定モデルの構築と環境影響評価	有賀一広	宇都宮大学
平尾聡秀	基盤研究 (B)	攪乱を受けた森林のレジリエンスに寄与する生物間相互作用・機能群を特定する	梅木 清	千葉大学
楠本 大・ 坂上大翼	基盤研究 (B) (一般)	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	松下範久	東京大学
尾張敏章・ 石橋整司・ 當山啓介	基盤研究 (C)	森林経営史料と旧空中写真を用いたスギ高齢人工林の長期成長過程の定量的復元	尾張敏章	東京大学
平尾聡秀	基盤研究 (C)	森林の急激な環境変化が野生植物の生態的・進化的変化に与える影響	森長真一	帝京科学大学

氏名	研究種目	研究課題	研究代表者	代表者所属
齋藤暖生	基盤研究 (C)	Revitalising/Re-imagining the Commons in an era of social and environmental change: A Next step in Commons Research	Delaney Alyn	東北大学
浅野友子	基盤研究 (C)	豪雨時の山地河川における洪水の実態把握と予測精度向上	浅野友子	東京大学
久本洋子	基盤研究 (C)	長期の無性繁殖を行うタケ類における有性繁殖の適応的意義の解明	久本洋子	東京大学
久本洋子	基盤研究 (C)	日本におけるタケ類の開花現象の実態とその生態系影響	小林 剛	香川大学
鈴木智之	基盤研究 (C)	景観スケールにおける亜高山帯針葉樹林の更新に及ぼす風倒攪乱と獣害の相互作用的影響	西村尚之	群馬大学
鈴木智之	基盤研究 (C)	北方林において落葉広葉樹は増加しているのか？多地点・長期・年輪データの利用	鈴木智之	東京大学
山田利博	基盤研究 (C)	樹木における心材形成様式の種特性の解明と心材腐朽菌類の感染経路の特定	梅林利弘	秋田県立大学
當山啓介	基盤研究 (C)	森林計画の分析を通じた実効的な行政計画のあり方の提示	當山啓介	東京大学
當山啓介	基盤研究 (C)	木材生産が可能な林分はどこにあるのか？災害リスクを考慮した供給可能量の推定	齋藤仁志	岩手大学
水内佑輔	若手研究	公共空間としての神社の風致計画論の形成過程と展開の解明	水内佑輔	東京大学
山田利博・平尾聡秀	挑戦的研究 (萌芽)	マイクロバイオームに基づく森林環境の評価手法の開発	山田利博	東京大学
久本洋子	挑戦的研究 (萌芽)	遺伝子発現解析によるカエデ2属の繁殖開始メカニズムの解明	鈴木 牧	東京大学
水内佑輔	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	アメリカ日系人強制収容所における日本庭園群の調査による日米協力体制基盤の構築	五島聖子	長崎大学
福井 大	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	未知の新奇形質「耳舌骨」の進化的起源・機能・ゲノミクス	小藪大輔	筑波大学
福井 大	学術変革領域研究 (A) 計画研究	音響サイバー空間を利用したコウモリの階層ナビゲーションの理解	飛龍志津子	同志社大学
大谷侑也	研究活動スタート支援	沖縄県伊良部島の架橋化に伴う地下水の送水が農業と水環境に与える影響の解明	大谷侑也	東京大学
及川 希	奨励研究	簡易 LiDAR スキャナによるクマガラ営巣環境の定量化の試み	及川 希	東京大学
原口竜成	奨励研究	ナミダタケモドキによる針葉樹根株心腐の被害実態把握と感染経路の推定	原口竜成	東京大学

その他補助金

氏名	研究課題	研究代表者	代表者所属
鎌田直人	研究拠点形成事業 (B アジアアフリカ 学術基盤形成型)	環境変動と生態系応答の長期森林観測フ ィールド研究拠点：データ・知・人材の協創	鎌田直人 東京大学
水内佑輔	国土地理協会学術研 究助成	森林レンタル事業がもたらす新たなライフ スタイル像と森林経営・管理方法の解明	新保奈穂美 兵庫県立 大学

奨学寄付金

氏名	寄付目的	寄付者
尾張敏章	天然林におけるミズナラ優良木の単木管理及び樽 材好適ミズナラの選定法開発に向けたデータ収集	サントリースピリッツ株式会社
山田利博	学術研究の経費	サントリーホールディングス株式会社
山田利博	森林動態にかかる学術研究の経費	一般財団法人自然環境研究センター
安村直樹	炭素循環動態にかかる学術研究の経費	認定 NPO 法人パードリサーチ
安村直樹	森林動態にかかる学術研究の経費	一般財団法人自然環境研究センター
蔵治光一郎	農学に関する研究助成	日本工営都市空間株式会社
平尾聡秀	学術研究の経費	公益財団法人旭硝子財団
尾張敏章	2022 年度海外発表促進助成	公益財団法人日本科学協会
後藤 晋	クリーンラーチ若齢木を用いた初期成長性の系統 評価に関する研究	住友林業株式会社

受託研究

氏名	研究課題名	委託機関
鴨田重裕・井上広喜・當山啓介・鎌田直人・坂上大翼	千葉県におけるユーカリを活用した持続可能なエネルギーの森づくり実証事業	NEDO（株式会社エコグリーンホールディングス）
蔵治光一郎・田中延亮・大谷侑也・安村直樹・浅野友子	水源かん養機能モニタリング研究委託	豊田市
蔵治光一郎	「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	JST
三浦直子	ドローン等による革新的リモートセンシング技術の開発および高度情報活用技術の研究開発	NEDO

共同研究

氏名	研究課題名	共同研究機関
尾張敏章	環境変動下における森林生態系攪乱に対する北海道演習林の順応的管理に関する研究	王子木材緑化株式会社 北海道支店
尾張敏章・鈴木智之	天然林におけるミズナラ優良木の単木管理及び樽材好適ミズナラの選定法開発に向けたデータ収集	サントリー株式会社、北日本木材株式会社
後藤 晋	カラマツ類及びトドマツの種苗配置適正化と優良品種導入による炭素吸収量増加効果の評価	北海道総合研究機構
久本洋子	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	箱根植木株式会社
三浦直子	樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発	住友林業株式会社
田中延亮・安村直樹	太陽光発電施設周辺の河川環境や気温のモニタリング	株式会社鈴鹿インベストメント
田中延亮・安村直樹	裸地斜面への太陽光パネル敷設が雨水の表面流発生に与える影響	株式会社鈴鹿インベストメント
鎌田直人・當山啓介	衛星データやUAVデータを使用した材積量・バイオマス量の推定	株式会社小松製作所
當山啓介	日本全国の森林バイオマスサプライチェーン調査と利用可能量推計	宇都宮大学
鴨田重裕	バイオマスによる排熱を活用したカカオ豆・南国樹木の栽培・産業育成	中部電力株式会社
齋藤暖生	国立民族学博物館所蔵木製品標本資料にもとづく森林資源利用史の研究——桶と樽に着目して	国立民族学博物館

3. 社会連携

1) 学外各種委員会等委員

氏名	委員会等名称	肩書
鎌田直人	日本昆虫学会英文誌編集部	編集諮問委員
鎌田直人	石川県	兼六園マツ等保全対策指導者
鎌田直人	森林野生動物研究会	事務局代表補佐
鎌田直人	日本森林学会	代議員
鎌田直人	千葉県森林審議会	委員
鎌田直人	千葉県土石採取対策審議会	委員
鎌田直人	鴨川市環境審議会	委員
鎌田直人	鴨川市文化財保護審議会	委員
楠本 大	樹木医学会	理事
久本洋子	千葉県ヒメコマツ協議会	委員
久本洋子	樹木医学会	理事（技術）
久本洋子	日本樹木医会	技術部会員
久本洋子	竹林景観ネットワーク	運営委員
久本洋子	森林遺伝育種学会	森林遺伝育種 編集委員
久本洋子	種生物学会	Plant Species Biology 編集委員
當山啓介	日本森林学会	林業遺産選定委員
當山啓介	日本森林学会	森林科学 編集委員
當山啓介	森林計画学会企画運営委員会	委員
當山啓介	森林計画学会広報委員会	委員
當山啓介	木材利用システム研究会事務局	幹事
尾張敏章	北海道森林管理局地域管理経営計画等に関する懇談会	委員
尾張敏章	北海道林木育種協会	顧問
尾張敏章	富良野市環境審議会	委員
尾張敏章	富良野市防災会議	委員
尾張敏章	北方森林学会	評議員
尾張敏章	International Union of Forest Research Organizations (IUFRO)	Research Group 1.05.00: Uneven-aged silviculture, Deputy Coordinator
尾張敏章	International Union of Forest Research Organizations (IUFRO)	Working Party 1.01.09: Ecology and silviculture of fir, Deputy Coordinator
尾張敏章	Frontiers in Forests and Global Change	Review Editor
尾張敏章	林野庁「新しい林業」経営モデル構築事業「北欧をモデルにした北海道・十勝型機械化林業経営」	アドバイザー
尾張敏章	日本森林学会	代議員
尾張敏章	Frontiers in Environmental Science	Topic Editor
尾張敏章	Trees, Forests and People	Guest Editor
福井 大	日本生態学会	Ecological Research 編集委員
福井 大	生物音響学会	理事
福井 大	和歌山市	専門技術委員

氏名	委員会等名称	肩書
福井 大	日本哺乳類学会	代議員
福井 大	日本哺乳類学会保護管理専門委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会保護管理専門委員会レッドデータ作業部会	部会員
福井 大	日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会大会企画・将来構想委員会	委員長
福井 大	日本哺乳類学会奨励賞選考委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会国際交流委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会英文誌編集委員会	委員
福井 大	日本哺乳類学会	理事
福井 大	IUCN SSC Bat Specialist Group	Member
福井 大	北海道空知総合振興局道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会	構成員
福井 大	自然環境研究センター絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会哺乳類分科会	委員
田中延亮	日本森林学会編集委員会	編集委員
鈴木智之	日本生態学会キャリア支援専門委員会	委員
鈴木智之	北海道林木育種協会	編集委員
鈴木智之	北海道林木育種協会	評議員
鈴木智之	北海道林木育種協会	地方連絡員
鈴木智之	日本森林学会	ダイバーシティ推進委員
山田利博	樹木医学会	理事／評議員／表彰委員／編集委員長
山田利博	日本樹木医会事例集等改訂委員会	委員長
山田利博	埼玉県特定鳥獣保護管理検討委員会	委員
山田利博	山梨県甲武信ユネスコエコパーク保全活用委員会	委員
山田利博	草加市国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」保存活用委員会	委員
山田利博	埼玉県（関東山地）特別天然記念物カモンカ保護対策事業通常調査指導委員会	委員
山田利博	環境省／自然環境研究センターモニタリングサイト1000（森林・草原調査）コアサイト・準コアサイト検討会	サイト代表者
山田利博	国土交通省東京国道事務所街路樹点検結果等有識者確認	有識者
山田利博	中日本高速道路株式会社東京支社	道路区域外倒木の倒木リスクに関するアドバイザー
山田利博	秩父市秩父地域森林林業活性化協議会	会員
山田利博	埼玉県秩父地域鳥獣被害対策協議会	会員
山田利博	茨城県文化財保護審議会	委員
山田利博	森林総合研究所研究報告編集委員会	委員
平尾聡秀	JaLTER 代表者委員会	委員
平尾聡秀	JaLTER 運営委員会	委員
平尾聡秀	秩父市秩父地域森林林業活性化協議会	幹事

氏名	委員会等名称	肩書
坂上大翼	日本森林学会	Journal of Forest Research 常任編集委員
五十嵐勇治	埼玉県秩父地域鳥獣被害対策協議会	幹事
五十嵐勇治	秩父市秩父地域森林林業活性化協議会分科会	委員
竹本周平	樹木医学会	理事
竹本周平	我孫子市鳥の博物館（教育委員会委嘱）	市民スタッフ
竹本周平	日本土壌微生物学会	和文誌編集委員
相川美絵子	日本樹木医会	業務担当理事（技術部会）
相川美絵子	NPO 法人 樹の生命を守る会	広報委員
安村直樹	愛知県瀬戸市環境審議会	委員
安村直樹	愛知県瀬戸市せと環境塾運営協議会	会員
安村直樹	日本山岳会東海支部猿投の森づくりの会	顧問
安村直樹	全国林業改良普及協会	全国林業グループコンクール審査委員長
安村直樹	林業経済研究所	企画委員
安村直樹	中部森林学会	理事
安村直樹	愛知県犬山市環境審議会	委員
浅野友子	東京都森林審議会	委員
浅野友子	水文・水資源学会	Hydrological Research Letter 編集委員
浅野友子	埼玉県第75回全国植樹祭埼玉県準備委員会	委員
水内佑輔	公益社団法人 日本造園学会編集委員会	委員
水内佑輔	公益社団法人 日本造園学会論文集委員会	幹事
水内佑輔	公益社団法人 日本造園学会中部支部常任運営委員会	委員
水内佑輔	森林学会森林科学編集委員会	委員
水内佑輔	森林学会林業遺産選定委員会	委員
齋藤暖生	公益財団法人 栗井英朗環境財団公募助成事業選考委員会	委員
齋藤暖生	やまなし木質バイオマス協議会	顧問
齋藤暖生	一般社団法人 山中湖エコミュージアム推進事業団	顧問
鴨田重裕	南伊豆町再生可能エネルギー農山村活性化協議会	委員
鴨田重裕	南伊豆町総合計画等審議会	アドバイザー
蔵治光一郎	水循環基本法フォローアップ委員会	座長
蔵治光一郎	超党派水制度改革議員連盟	参与
蔵治光一郎	矢作川流域圏懇談会	副座長
蔵治光一郎	矢作川流域圏懇談会山部会	部会長
蔵治光一郎	大阪府森林環境整備事業評価審議会	委員
蔵治光一郎	愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会	委員
蔵治光一郎	静岡県森林審議会	委員
蔵治光一郎	静岡県環境審議会	特別委員
蔵治光一郎	静岡県環境審議会水循環保全部会	部会長

氏名	委員会等名称	肩書
蔵治光一郎	岡崎市水循環推進協議会	委員
蔵治光一郎	岡崎市森づくり協議会	会長
蔵治光一郎	都留市林業振興推進協議会	委員
蔵治光一郎	水文・水資源学会国際委員会	委員
蔵治光一郎	不知火海・球磨川流域圏学会	理事
蔵治光一郎	不知火海・球磨川流域圏学会編集委員会	委員
蔵治光一郎	猿投の森づくりの会	顧問
蔵治光一郎	矢作川森の研究者グループ	共同代表
蔵治光一郎	NPO 法人 才の木	理事
蔵治光一郎	公益財団法人 ニッセイ緑の財団	理事
後藤 晋	国立研究開発法人 森林総合研究所交付金プロジェクト「スギの基盤遺伝情報の高精度化と有用遺伝子の機能解明」	評価委員
後藤 晋	埼玉県農林総合研究センター研究等	評価委員
前原 忠	日本土壌動物学会評議員会	評議員

2) 小中高等学校への対応

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	4/21
蔵治光一郎	森林の保水力に関する講義と小馬床演習林での雨水遮断量計測装置の設置	熊本県立南稜高校・「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	熊本県立南稜高校および同校小馬床演習林	5/6
栗田直明	校外学習（下見）	西東京市立谷戸小学校	田無演習林	5/17
栗田直明	校外学習	西東京市立谷戸小学校	田無演習林	5/24
竹本周平	道徳科地区公開講座（打合せ）	西東京市立田無第二中学校	田無演習林	5/25
石橋整司 竹本周平 相川美絵子 栗田直明	校外学習	実践学園中学	田無演習林	5/26
蔵治光一郎	小馬床演習林での雨水遮断量計測装置の設置	熊本県立南稜高校・「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点	熊本県立南稜高校小馬床演習林	6/1
竹本周平	道徳科地区公開講座（打合せ）	西東京市立田無第二中学校	田無演習林	6/8
西山教雄	野外活動	目黒星美学園小学校	富士癒しの森研究所	6/22-23
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	6/24
竹本周平	道徳科地区公開講座「君たち僕たちは、どんな樹を育てたいか」	西東京市立田無第二中学校	西東京市立田無第二中学校	7/9
澤田晴雄 井上淳 岸本光樹 丹羽悠二 梁瀬桐子	出張授業	瀬戸 SOLAN 小学校	赤津研究林	7/11
千嶋武	樹木採集実習	埼玉県立秩父農工科学高等学校	秩父演習林	7/21
齋藤暖生 三浦直子	理数科「課題研究」指導	山梨県立吉田高等学校	富士癒しの森研究所	7/22, 8/3-4, 8/20, 9/3
福井 大 鈴木智之 中川雄治 井上 崇 高橋功一 千井野聡	S S H道内研修	札幌啓成高等学校	北海道演習林	8/1-3
福井 大 小林徹行	1年：道内研修	とわの森三愛高等学校	北海道演習林	8/2
西山教雄	林内見学（下見）	八王子学園八王子高等学校	富士癒しの森研究所	8/10
相川美絵子 栗田直明	職場訪問（打合せ）	西東京市立ひばりが丘中学校	田無演習林	8/22
楠本 大	校外学習	千葉県立流山高等学校	千葉演習林	8/25

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
蔵治光一郎	小馬床演習林での 雨水遮断量計測装 置の設置	熊本県立南稜高校・「流 域治水を核とした復興を 起点とする持続社会」地 域共創拠点	熊本県立南稜高校小 馬床演習林	8/29
田中延亮 高橋功一	「園芸デザイン」	富良野緑峰高等学校	北海道演習林	9/21
相川美絵子 栗田直明	職場訪問	西東京市立ひばりが丘中 学校	田無演習林	9/29
相川美絵子 栗田直明	校外学習（下見）	自由学園初等部	田無演習林	10/14
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	10/19
相川美絵子 栗田直明 川村 啓	校外学習	自由学園初等部	田無演習林	10/25
栗田直明	校外学習	西東京市立谷戸小学校	田無演習林	10/31
竹本周平 相川美絵子 石浦恭子	職場訪問	西東京市立田無第二中学 校	田無演習林	11/2
相川美絵子 栗田直明	校外学習（下見）	西東京市立中原小学校	田無演習林	11/2
大谷侑也	水源かん養機能モ ニタリング現地案 内	豊田市立小原中学校	豊田市大洞市有林	11/2
相川美絵子 栗田直明	校外学習（下見）	西東京市立住吉小学校	田無演習林	11/4
栗田直明	校外学習	西東京市立谷戸小学校	田無演習林	11/7
石橋整司 竹本周平 相川美絵子 栗田直明	校外学習	西東京市立中原小学校	田無演習林	11/10
石橋整司 竹本周平 相川美絵子 栗田直明	校外学習	西東京市立住吉小学校	田無演習林	11/11
栗田直明	校外学習	西東京市立谷戸小学校	田無演習林	11/24
蔵治光一郎	小馬床演習林での 雨水遮断量計測結 果の発表に対する 講評	熊本県立南稜高校・「流 域治水を核とした復興を 起点とする持続社会」地 域共創拠点	熊本県立南稜高校	12/19
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	1/26
栗田直明	校外学習	西東京市立谷戸小学校	田無演習林	3/6

3) 公開講座・セミナー等

講座名	主催	開催場所	日程
「犬山の森」春のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所	4/9
休日公開	田無演習林	田無演習林	4/17
東大教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	4/23
東京大学秩父演習林ボランティア養成講座	秩父演習林	秩父演習林	4/27
休日公開	田無演習林	田無演習林	5/1
試験一般開放	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	5/14-15
鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（観察編）」	鴨川市	千葉演習林	5/15
森林教育パートナー研修	田無演習林	田無演習林	5/25
利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会	生態水文学研究所	生態水文学研究所（オンライン開催）	5/27
チェンソー作業従事者特別教育	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	6/2-3,6-7
神社山自然観察路一般公開	北海道演習林	北海道演習林	6/5
第40回子ども樹木博士認定会	田無演習林	田無演習林	6/5
とよた森林学校「森林入門セミナー」	豊田市役所産業部森林課	生態水文学研究所	6/5
ガイドツアー「しおじの会と東大秩父演習林を歩こう」	秩父演習林	秩父演習林	6/11
キノコ観察会	シデコブシの会	生態水文学研究所	6/19
北方森林学会春季行事「林分施業法に基づく広葉樹資源の育成・管理・利用」	北方森林学会	北海道演習林	6/28
見学コースを歩く会	シデコブシの会	生態水文学研究所	7/17
公開講座「東大の森林で昆虫採集」	秩父演習林	秩父演習林	7/22
千葉県立中央博物館・東京大学千葉演習林連携事業「夏の山の昆虫」	千葉県立中央博物館・千葉演習林	千葉演習林	7/23-24
癒しの森の朝もや音楽会	癒しの森の会	富士癒しの森研究所	7/28
高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～	千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センター	千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センター	8/1-3
公開セミナー「東大演習林をめぐる」	北海道演習林	北海道演習林	8/6
夏休み親子水生生物観察会	シデコブシの会	生態水文学研究所	8/7
大麓山ハイキング登山会	北海道演習林	北海道演習林	9/13
造園学会中部支部サマースタジオ 2022	造園学会中部支部	生態水文学研究所	9/13-14
せと環境塾	瀬戸市	生態水文学研究所	10/1 (中止)
東大教職員向け特別ガイド「きのこに親しむ」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	10/1
キノコ観察会	シデコブシの会	生態水文学研究所	10/16
森の文化祭	癒しの森の会	富士癒しの森研究所	10/30
公開講座「樹木のボディランゲージ」	秩父演習林	秩父演習林	11/2
第41回「子ども樹木博士」認定会	田無演習林	田無演習林	11/6

講座名	主催	開催場所	日程
とよた森林学校「森林と災害」講座第1回	おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会	生態水文学研究所	11/6
ガイドツアー「しおじの会と東大秩父演習林を歩こう」	秩父演習林	秩父演習林	11/12
犬山市秋のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所	11/12
毘沙門山見学ツアー	シデコブシの会	生態水文学研究所	11/20
休日公開	田無演習林	田無演習林	11/27
東大教職員向け「リース作り体験会」	田無演習林	田無演習林（ハイブリッド開催）	12/4
標石ツアー	シデコブシの会	生態水文学研究所	12/4
100周年記念式典・シンポジウム	生態水文学研究所	生態水文学研究所（オンライン開催）	12/8
体験型プロジェクト「犬山里山学」	名古屋経済大学	生態水文学研究所	12/13
鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（巣箱作り編）」	鴨川市	千葉演習林	1/14
巣箱作成会	シデコブシの会	生態水文学研究所	1/15
ぶらり 東大の森さんぽ「冬の樹木園を歩こう」	北海道演習林	北海道演習林	2/1
東大教職員向け特別ガイド「冬の散歩みち」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	2/4
公開講座「山中湖村のナラ枯れと富士癒しの森研究所の研究2022」	富士癒しの森研究所・山中湖村	山中湖村公民館	3/8
長期生態系プロットの計測と林業遺産を含む研究林の見学	名古屋経済大学市邨高等学校	生態水文学研究所	3/24

4) 学会・研究・市民教育等における講師等（招待講演を含む）

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
澤田晴雄・梁瀬桐子	「犬山の森」春のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所 犬山研究林	4/9
久本洋子	かわさき市民アカデミー2022 年度前期みどり学(フレッシュ)講座『みどり学(フレッシュ)』「身近な植物・竹の不思議な生活史」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ	4/12
久本洋子	かわさき市民アカデミー2022 年度前期みどり学I講座『みどり学Iー身近な自然に興味を持ち親しみを深める』「身近な植物・竹の不思議な生活史」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ会議室とオンラインのハイブリッド	4/26
相川美絵子	歩こう!学ぼう!東大田無演習林観察会	練馬区立関町リサイクルセンター	田無演習林	4/26
蔵治光一郎	豪雨・脱炭素時代における森林の価値と未来可能性	西三河林材団体連合会	愛知県西三河総合庁舎7階701会議室	5/12
三次充和・阿達康真	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう（観察会）」	鴨川市	千葉演習林	5/15
三浦直子	第15回毎木セミナー「毎木調査における電子野帳活用事例の紹介」	Maibo	オンライン	5/16
蔵治光一郎	森と水の切っても切れない関係	21世紀政経フォーラム in 東京	ラポール麹町	5/17
蔵治光一郎	「宅地造成等規制法の一部を改正する法律案」参考人の意見陳述	参議院国土交通委員会	参議院	5/17
鈴木智之	富良野市森林学習プログラム 森林学習サポーター認定研修	富良野市生涯学習センター	オンライン・北海道演習林	6/3
石橋整司・竹本周平・相川美絵子・栗田直明・石浦恭子	子ども樹木博士	西東京市「子ども樹木博士」を育てる会（田無演習林）	田無演習林	6/5
蔵治光一郎	とよた森林学校「森林入門セミナー」第3回「森林の公益的機能・防災」	豊田市	藤岡交流館および生態水文学研究所赤津研究林	6/5
相川美絵子・栗田直明	自然環境教育の一環としての樹木・草花観察	善福寺水と緑の会	田無演習林	6/10
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）「ドイツ、オーストリア、スイスの森林・林業」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ3F301会議室（オンライン視聴あり）	6/23
蔵治光一郎	川と森とともに生きる球磨川流域の未来連続講座第一回「『山が水を貯める力』について考える～森林保水力ってなに？～」	「川と森とともに生きる球磨川流域の未来」連続講座実行委員会	オンライン	6/25
福岡 哲・小川 瞳	富良野ブロック商工会青年部研修会	山部商工課会青年部	北海道演習林	6/26
鈴木智之・井口和信	長野県林業大学校外研修	長野県林業大学	北海道演習林	6/27
尾張敏章・井口和信	富良野ブルーリッジ研修	富良野ブルーリッジ	北海道演習林	6/27

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
尾張敏章・田中延亮・福井大・鈴木智之・松井理生・井口和信・高橋功一・千井野聡	北方森林学会春季行事「林分施業法に基づく広葉樹資源の育成・利用」	北海道立総合研究機構	北海道演習林	6/28
三浦直子	森林管理委員会空間情報技術部門令和4年度研修会	演習林森林管理委員会空間情報技術部門	富士癒しの森研究所	6/28-30
楠本 大	南房総市里山里海連絡会第4回定期総会 講演「ナラ枯れと南房総の森について」	南房総市里山里海連絡会	南房総市丸山公民館	7/2
竹本周平	樹木講座	自由学園リビングアカデミー	自由学園南沢キャンパス	7/2
松井理生	東京大学北海道演習林の概要調査	富良野市	北海道演習林	7/4
蔵治光一郎	桂川・相模川流域協議会 森づくり専門部会「地域をつなぐ森林環境譲与税の活用交流会」第1回「目的・出発点の共有」	桂川・相模川流域協議会 森づくり専門部会	オンライン	7/7
蔵治光一郎	令和4年度第1回とよた森づくり委員会招待講演「森づくり構想の成り立ちと森づくりの今後について」	豊田市	豊田市役所南庁舎5階南52会議室	7/8
蔵治光一郎	とよた森林学校「地域の森・健康診断」第2回講義「地域の森・健康診断 自治的保全と活用」	一般社団法人おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会	敷島公民館	7/22
村川功雄	千葉県立中央博物館・東京大学千葉演習林連携事業「夏の山の昆虫」	千葉県立中央博物館・千葉演習林	千葉演習林	7/23-24
蔵治光一郎	岡崎市議会研修会「市民の貴重な財産岡崎市の森林」	岡崎市議会	岡崎市議会本会議場	7/26
久本洋子・村川功雄	高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～	千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センター	千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センター	8/1-3
松井理生	北海道演習林職場見学会	北海道演習林	北海道演習林	8/3
田中延亮・井口和信・小林徹行・松井理生・千井野聡	博物館講座「見学会 東大演習林をめぐる」	富良野市	北海道演習林, 富良野市生涯学習センター	8/6
浅野友子	森林水文学入門	Cliff Edge Project うぶすなの水文学	オンライン	8/11
齋藤暖生	山梨日日新聞『やまなしSDGsウィーク2022』「森と友だちになろう」	山梨日日新聞	山梨文化会館	8/21
蔵治光一郎	才の木トークカフェ「松原一美しい景観の保全と防災」講演「海岸の松林と防災」	NPO 法人才の木	みほしるべ2階会議室（オンライン視聴あり）	8/21
松井理生	優良人工林等の視察	旭川森林ボランティア倶楽部	北海道演習林	8/26
竹本周平	第29回ペドロジスト・トレーニングコース	日本ペドロロジー学会	田無演習林	8/27-28
齋藤暖生・三浦直子	ナラ枯れ調査説明会	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	8/29
鈴木智之・木村徳志	富良野市博物館事業「湿地林植生調査」	富良野市生涯学習センター	北海道演習林	9/1
松井理生	東京大学北海道演習林 現地研修	C.W.ニコル・アフアの森財団	北海道演習林	9/5

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
尾張敏章	シンポジウム「どろ亀さん・ニコルさんの森づくりを語る」「東大演習林の森を学ぶ」	森づくりの仲間たち協議会・富良野市博物館	富良野演劇工房	9/10
蔵治光一郎	静岡県幹部職員向け講演「森林と災害歴史・現在・未来」	静岡県知事戦略局	静岡県庁	9/13
竹本周平	樹木講座	自由学園リビングアカデミー	自由学園南沢キャンパス	9/24
蔵治光一郎	矢作川流域圏懇談会第64回山部会WG 話題提供「木材生産目的の人工林の皆伐の全国的な状況」	国土交通省	むらさきかん（オンライン視聴あり）	9/30
松井理生	歴史的建物富良野方面見学会	旭川の歴史的建物の保存を考える会	北海道演習林	10/1
竹本周平（分担）	特別ガイド「きのこに親しむ」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	10/1
尾張敏章	施業技術2「天然林施業」講義	北海道立北の森づくり専門学院	北海道立北の森づくり専門学院	10/3
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）「SDGsとは何か」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ3F301会議室（オンライン視聴あり）	10/6
井口和信・井上崇	「森の魅力発信し隊」による東大演習林セミナー	北海道林産林務部	北海道演習林	10/7
山田利博	樹木医研修「幹の外科技術と機器による診断」	日本緑化センター	実習：研究学園駅前公園，講義：オンデマンド（オンライン）	実習 10/7,21
蔵治光一郎	桂川・相模川流域協議会 森づくり専門部会「地域をつなぐ森林環境譲与税の活用交流会」第2回「目的・出発点の再共有と木材生産との関係」	桂川・相模川流域協議会 森づくり専門部会	オンライン	10/9
相川美絵子・栗田直明	田無演習林見学会	秩父演習林サポーターしおじの会	田無演習林	10/12
尾張敏章	JICA 研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」	アジア航測株式会社	北海道演習林	10/21
齋藤暖生	甲府南ロータリークラブ青少年奉仕キャンプ「森のためにできること」	甲府南ロータリークラブ	白州・尾白の森名水公園べるが	10/22
蔵治光一郎	才の木トークカフェ「信州の森と暮らしが続いていくために知っておきたいこと」講演「災害に強い森づくりとは？」	NPO 法人才の木	FEAT. Space 大門（オンライン視聴あり）	10/23
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）「浅間山火山活動とその災害跡」	かわさき市民アカデミー	八ッ場ダム，やんば天明泥流ミュージアムほか	10/27
福井大・松井理生・井口和信	わくわく研究所見学ツアー	はまぎん こども宇宙科学館	オンライン	11/3
石橋整司・竹本周平・相川美絵子・栗田直明・石浦恭子	子ども樹木博士	西東京市「子ども樹木博士」を育てる会（田無演習林）	田無演習林	11/6

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
蔵治光一郎・梁瀬桐子	とよた森林学校「森林と災害～豪雨災害を忘れない～」第1回「森林の持ついろいろな働きを知ろう！」	一般社団法人おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会	生態水文学研究所 赤津宿泊施設講義室・赤津研究林	11/6
澤田晴雄・梁瀬桐子	「犬山の森」秋のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所 犬山研究林	11/13
蔵治光一郎	第28回桂川・相模川流域シンポジウム「森を動かす Part II」講演「流域の大切な財産である森林と木材の可能性」	桂川・相模川流域協議会	上野原市文化ホール（オンライン視聴あり）	11/13
蔵治光一郎	熊本県立大学オンライン特別講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」第12回「球磨川流域の森林の歴史と現在」	熊本県立大学	オンライン	11/17
松井理生・中川雄治	林政研究会北海道支部第3回勉強会	北海道森林管理局 網走中部森林管理署	北海道演習林	11/18
齋藤暖生	愛知県豊田市稲武地区財産区勉強会「財産区の基礎知識」	豊田市役所稲武支所	豊田市役所稲武支所	11/18
蔵治光一郎	フェスタ・SDGs フォーラム「気候変動—今ここにある危機」シンポジウムコーディネーター	かわさき市民アカデミー	オンライン	11/19
蔵治光一郎	とよた森林学校（森林と災害～東海豪雨を忘れない～）第2回「間伐すれば 人工林はよみがえる」	一般社団法人おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会	小原交流館・大洞市有林（水源涵養モニタリング研究サイト）	11/20
蔵治光一郎	矢部川シンポジウム2022「森林の機能と流域治水」	矢部川をつなぐ会	八女市黒木地域交流センターふじの里（オンライン視聴あり）	11/23
石橋整司・竹本周平	休日公開	田無演習林	田無演習林	11/27
蔵治光一郎	くしはら森の健康診断報告会講演「社会変革と流域の人工林」	くしはら森の健康診断実行委員会	サンホールくしはら	11/27
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）「洪水・水害への対応策」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ3F301会議室（オンライン視聴あり）	12/1
石橋整司・相川美絵子・栗田直明・石浦恭子	リース作り体験会	田無演習林	田無演習林	12/4
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）「災害に強い森づくりと木材生産」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ3F301会議室（オンライン視聴あり）	12/8
久本洋子	かわさき市民アカデミー2022年度後期みどり学Ⅱ講座『みどり学Ⅱ—木や草が生活とつながる面白さを極める』「身近な植物・竹の不思議な生活史」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ会議室とオンラインのハイブリッド	12/9
三浦直子	農学における情報利用研究フォーラムグループセミナー「シカ試験捕獲におけるドローン利用について—山中湖村の事例」	東京大学アグリコクーン	オンライン	12/12
水内佑輔	体験型プロジェクト「犬山里山学」	名古屋経済大学	生態水文学研究所	12/13

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
齋藤暖生	Outdoor Innovation Summit 基調講演「自然アクセス制から考える日本のアウトドアの未来」	一般社団法人コンサベーション・アライアンス・ジャパン	TFT ビル西館ホール 500	12/21
三次充和・阿達康眞	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう（巣箱づくり）」	鴨川市	千葉演習林	1/14
梁瀬桐子・井上淳	巣箱作成会	シデコブシの会	生態水文学研究所	1/15
渡邊良広	工芸用白炭製作技術研修	(同) 伝統工芸木炭生産技術保存会	樹芸研究所	1/15-16
蔵治光一郎	～47 災害から 50 年 とよたで学ぼうさい！～講演「防災と森林の関わり」	豊田市	豊田市コンサートホール	1/21
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs 時代の環境・みどり・防災）「後期のとりまとめ」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室（オンライン視聴あり）	1/26
前原 忠	都市の中の森林について	22 世紀の森づくり・神代，特定非営利法人東京めぐり，公益財団法人 生存科学研究所	東京都立神代植物公園植物会館	1/28
蔵治光一郎	勉強会「森里川湖をめぐる水の旅」講演「地下水の賢いマネジメント（涵養，保全，利用）に資する水源涵養林の保水力とは」	東近江市	河辺いきものの森ネイチャーセンター	1/31
蔵治光一郎	第 4 回武庫川づくり水辺の環境フォーラム講演「気候危機時代の流域治水に資する森林管理のあり方」	武庫川づくりと流域連携を進める会	ピピアめふ 6 階和風ホール「めふの間」（オンライン視聴あり）	1/31
竹本周平	樹木講座	自由学園リビングアカデミー	自由学園南沢キャンパス	2/4
蔵治光一郎	答志島のみらいを語る 蔵治先生との意見交換会	日本工営グループ	答志コミュニティセンター	2/6
齋藤暖生・三浦直子・辻 良子	公開講座「山中湖村のナラ枯れと富士癒しの森研究所の研究 2022」	山中湖村・富士癒しの森研究所	山中湖村公民館	3/8

5) 演習林報告・演習林

演習林報告

第 147 号 (2022 年 11 月 9 日 発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	14	尾張敏章・大石 諭・軽込 勉・鈴木祐紀・鶴見康幸・米道 学・塚越剛史・阿達康眞・村川功雄・藤平晃司・三次充和・楠本 大・久本洋子・當山啓介	東京大学千葉演習林における天然林資源の現状

第 148 号 (2023 年 3 月 15 日 発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	26	陳 元君・石橋整司	中国海南島鸚哥嶺自然保護区の住民連携型森林管理における護林員制度について

演習林

第 66 号 (2022 年 10 月 12 日 発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	12	AYE MYAT MYAT PAING, Shufen Chen, Kyoko Araki, Takaki Aihara, Ragini Sarmah, Mitsuru Hirota, Yoshihiko Tsumura, Nobuhiro Tomaru, Kousuke Homma, Masahiko Kadomatsu, Toshiya Yoshida, Hajime Kobayashi, Atsuhiko Iio, Katsuhiko Osumi, Dai Nagamatsu, Masahiro Takagi, Haruhiko Taneda, Noriyuki Kimura, Satoshi Fukuoka, Yoko Hisamoto, Susumu Goto	Site characteristics of <i>Betula ermanii</i> range-wide provenance trials

第 67 号 (2023 年 3 月 29 日 発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	17	當山啓介・大石 諭・藤平晃司・里見重成・中島 徹・龍原 哲	東京大学千葉演習林のスギ・ヒノキ高齢人工林成長試験地における約 100 年間の成長資料
19	26	米道 学・鈴木祐紀・塚越剛史・阿達康眞・軽込 勉・久本洋子・楠本 大	高齢天然ヒメコマツを台木にした高芽接ぎの活着
27	36	岸本光樹・里見重成・高橋功一・丹羽悠二・浅野友子	生態水文学研究所穴の宮試験流域日流出量観測結果報告 (自 2017 年 1 月至 2021 年 12 月)
37	46	三次充和・久本洋子・天野 誠・藤平晃司・軽込 勉・尾崎煙雄・御巫由紀・鎌田直人	東京大学千葉演習林における 1km メッシュスケールの維管束植物分布図
47	58	吉田弓子・川崎雅俊・高德佳絵・高野充広・浅野友子	秩父演習林における渓流水と降水の水質分析結果報告 (自 2021 年 4 月至 2022 年 3 月)
59	69	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林森林管理委員会管理担当	「東京大学環境報告書 2022」に掲載された演習林樹木の CO ₂ 吸収量の算出方法
71	72	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	演習林年報 2021
73	82	東京大学演習林	東京大学演習林水文観測・水質分析報告 (自 2020 年 1 月至 2020 年 12 月)
83	103	東京大学演習林	東京大学演習林気象報告 (自 2021 年 1 月至 2021 年 12 月)

6) 科学の森ニュース

■第98号■ 2022年6月10日発行

【表紙記事】旭川銘木市 ウダイカンバ銘木 1本当たりの最高販売金額記録更新（北海道演習林）

《記事》

- ・演習林所属学生パインさんが令和3年度研究科長賞を受賞（教育・社会連携センター）
- ・田無演習林旧庁舎がセミナーハウスに生まれ変わりました（田無演習林）
- ・ナラ枯れ被害木を薪として活用するための共同試験（富士癒しの森研究所）

<クローズアップ>

継続調査で明らかになるマテバシイのナラ枯れ（千葉演習林）

<四コマ漫画>

梅雨の晴れ間

<科学の森の動植物紹介>

ヤシヤビシヤク（秩父演習林）

<名所・名物案内>

郷台モウソウチク開花周期実証試験地（千葉演習林）



■第99号■ 2022年9月10日発行

【表紙記事】森林教育パートナーが誕生しました（田無演習林）

《記事》

- ・セミナーハウスの宿泊施設の改修（北海道演習林）
- ・樹芸研究所温室の見学を再開しました（樹芸研究所）
- ・演習林出版局の書籍の一部がアマゾンで購入可能に（社会連携委員会）

<クローズアップ>

ツリークライミングを活かした教育研究活動とその先へ（秩父演習林）

<四コマ漫画>

自分の身は自分で守る

<科学の森の動植物紹介>

コムドリ（富士癒しの森研究所）

<コラム>

アフリカ熱帯高山の氷河の縮小と周辺水環境の関係性の解明（生態水文学研究所 大谷侑也）



■第 100 号■ 2022 年 12 月 10 日発行

【表紙記事】 だろ亀さん×C.W.ニコルさん追悼展（北海道演習林）

《記事》

- ・技術職員 3 名が森林管理技術賞を受賞（企画部）
- ・快適になったセミナーハウスの貸出開始（田無演習林）
- ・ジャパンサーチ，公式 Instagram に千葉演の植物標本画像を使用（千葉演習林）

<クローズアップ>

科学の森ニュース 100 号の歩み，そして「MORIKARA」へ（社会連携委員会）

<四コマ漫画>

手ごわい相手

<科学の森の動植物紹介>

リュウキュウサンショウクイ（樹芸研究所）

<名所・名物案内>

本郷・弥生キャンパス内で使用されている演習林産木材（教育・社会連携センター）



7) 新聞・雑誌・放送等

演習林名	メディア	日付	内容
企画部	中日新聞	2022.4.6	「タイムカプセル」インタビュー記事（蔵治教授）
千葉演習林	朝日新聞	2022.4.8	演習林で発見され一旦はナナフシモドキとして博物館に展示されたがその後アマミトガリナナフシだったことが判明
千葉演習林	毎日新聞佐賀県版	2022.4.22	神埼市の民家でクロチク開花 クロチクの開花についてコメント掲載（久本助教）
千葉演習林	山陰中央新報社	2022.4.27	民有地で120年に1度？クロチク開花 クロチクの開花についてコメント掲載（久本助教）
企画部	熊本日日新聞	2022.5.7	南稜高が球磨川流域森林の保水力を東大，県立大と協力して調査（蔵治教授）
企画部	東京新聞	2022.5.20	熱海土石流災害受け，盛り土規制法が成立見通し（蔵治教授）
千葉演習林	房日新聞	2022.5.24	鴨川市との交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（観察会）」
千葉演習林	東京新聞	2022.5.27	鴨川市との交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（観察会）」
生態水文学研究所	読売新聞愛知県版	2022.6.7	総合科目「森林環境資源学」内のイベント「くしはら森の健康診断」の様子
企画部	朝日新聞	2022.7.3	市民グループ主催の連続講座「川と森とともに生きる球磨川流域の未来」で森林保水力や南九州の森の状況説明（蔵治教授）
富士癒しの森研究所	山梨日日新聞	2022.7.17	時標 山梨県のナラ枯れ全量駆除への見解（齋藤講師）
富士癒しの森研究所	Coyote77号	2022.7.15	森へ 第六回 山中無歴日 インタビュー記事（藤原助教）
企画部	矢作新報	2022.8.5	とよた森林学校新講座「地域の森・健康診断」（蔵治教授）
樹芸研究所	伊豆新聞	2022.8.16	3年ぶり下賀茂寮塾始まる 東大生が宿題支援
富士癒しの森研究所	山梨日日新聞	2022.8.27	やまなしSDGsプロジェクト親子を対象としたセミナー「森と友達になろう」のイベントリポート（齋藤講師）
富士癒しの森研究所	WEB マガジン esse-sense	2022.9.7	インタビュー記事（齋藤講師）
企画部	朝日新聞	2022.9.27	「てんでんこ」山が崩れる1「裏山の木は全部切られた」熊本豪雨で襲ってきた土砂（蔵治教授）
富士癒しの森研究所	テレビ朝日「グットモーニング」	2022.9.28	「トトロの森」ピンチ 「ナラ枯れ」住宅街に迫る危険 ドローンを使ったナラ枯れ調査の紹介（三浦助教）
企画部	朝日新聞	2022.9.28	「てんでんこ」山が崩れる2「この先10年が最も危険」見えた林業の影響（蔵治教授）
企画部	朝日新聞	2022.9.29	「てんでんこ」山が崩れる3 全国に広がった「皆伐」背景にある国の政策（蔵治教授）
富士癒しの森研究所	苫小牧民放	2022.10.11	コモンズ・フォーラム「森の癒しと雑木林保育のこれからを考える」の様子（齋藤講師）

演習林名	メディア	日付	内容
北海道演習林	毎日新聞	2022.10.23	「地球は子孫から借りている 森づくりに込めた思い」北海道演習林第5代林長どろ亀先生こと高橋延清東大名誉教授と森林管理に関する記事
北海道演習林	毎日新聞	2022.10.25	「森と海からの手紙-7便-」北海道演習林第5代林長どろ亀先生こと高橋延清東大名誉教授に関する記事
企画部	朝日新聞	2022.11.7	記者解説「頻発する土砂崩れ 森林の「皆伐」、国の政策影響」コメント掲載（蔵治教授）
千葉演習林	FRIDAY DIGITAL	2022.11.3	「日本の国土の0.1%を所有」誰も知らない「東大演習林」の秘密 千葉演習林教員のよる演習林と研究紹介
北海道演習林	毎日新聞	2022.11.18	「どろ亀先生」の森林管理 世界の一步先行く手法が北海道に」北海道演習林第5代林長どろ亀先生こと高橋延清東大名誉教授と森林管理に関する記事
千葉演習林	船橋よみうり	2022.11.19	「120年に1度の開花 飯山満町民家で「クロチク）」にタケの一斉開花についてのコメント掲載（久本助教）
北海道演習林	毎日新聞	2022.11.29	「改めて脚光 「どろ亀先生」流森林管理」北海道演習林第5代林長どろ亀先生こと高橋延清東大名誉教授と森林管理に関する記事
北海道演習林	北海道新聞	2022.11.29	北海道演習林のミズナラを使った樽で熟成したワインの記事
富士癒しの森研究所	「月刊 moritomirai」第5回	2022.11.30	山中湖村と共同で取り組んでいるナラ枯れ材活用のなどの紹介
富士癒しの森研究所	朝日新聞デジタル	2022.12.3	「茶色いエノキタケは「野生風」？ キノコ採りへの憧れと山の恵み」で研究が取り上げられた（齋藤講師）
企画部	矢作新報	2022.12.2	講義と現場視察を行ったとよた森林学校講座「森林と災害」の記事（蔵治教授）
生態水文学研究所	NHKBS プレミアム「コズミックフロンツ」	2022.12.9	「気候変動のカナリア 山岳氷河」ケニア山の山岳氷河の研究調査（大谷特任助教）
富士癒しの森研究所	読売新聞	2022.12.20	「キャンパス探訪」富士癒しの森研究所と、同研究所で開催された東大1,2年生向け教養学部講義全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」の紹介。
富士癒しの森研究所	CATV 富士五湖「世間知らずと学ぶ 富士山の自然を守り隊！」	2022.12.23～25	富士癒しの森研究所で撮影された環境保全啓発番組
千葉演習林	房日新聞	2022.12.24	鴨川市天津郵便局開局150年を記念して千葉演習林産のスギ材を使用したコースター記念品についての記事
企画部	矢作新報	2023.1.27	とよた防災コンサートでの防災と森林の関わりについての講演（蔵治教授）
千葉演習林	房日新聞	2023.1.31	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！」の様子
千葉演習林	東京新聞川崎版	2023.2.8	県立川崎高校の前庭でクロチク一斉開花 クロチクの開花についてコメント掲載（久本助教）
富士癒しの森研究所	UTY テレビ山梨	2023.3.8	公開講座「山中湖村のナラ枯れと富士癒しの森研究所の研究2022」の様子
北海道演習林	林野庁北海道森林管理局「北の森林国有林」3月号	2023.3	「北の国・森づくり技術交流発表会」にて平間・井口一般技術職員が「優秀賞」受賞の記事

8) 地方自治体等との協定

演習林名	自治体等の名称	協定の名称	期間
千葉演習林	千葉県鴨川市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と鴨川市との間における地域交流に関する協定書	2009.7.1～
千葉演習林	千葉県君津市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と君津市との間における地域交流に関する協定書	2009.7.21～
千葉演習林	千葉県立中央博物館	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林と千葉県立中央博物館との連携協力に関する協定書	2021.3.25～
北海道演習林	北海道富良野市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林と北海道富良野市との交流に関する協定書	2016.1.13～
北海道演習林	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林と国立大雪青少年交流の家との連携・交流に関する協定書	2018/10/18～
北海道演習林	公益財団法人アイヌ民族文化財団	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林と公益財団法人アイヌ民族文化財団との連携に関する協定書	2022/7/1～
秩父演習林	埼玉県秩父市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林と秩父市との間における地域交流に関する協定書	2019.3.26～
生態水文学研究所	愛知県瀬戸市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所と瀬戸市との間における地域交流に関する協定書	2011.11.10～
生態水文学研究所	愛知県犬山市	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所と犬山市との間における地域交流に関する協定書	2011.6.1～
生態水文学研究所	静岡県湖西市	東京大学大学院農学生命科学研究科と静岡県湖西市との連携・協力に関する協定書	2022.7.15～
富士癒しの森研究所	山梨県山中湖村	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所と山中湖村との間における地域交流に関する協定書	2017.3.7～
樹芸研究所	静岡県南伊豆町	東京大学大学院農学生命科学研究科と静岡県南伊豆町との連携・協力に関する協定書	2018.10.29～

9) SNS の運用

演習林名	運用媒体	アクセス URL
千葉演習林	Facebook	https://www.facebook.com/東京大学-千葉演習林-509050409292447/
千葉演習林	instagram	https://www.instagram.com/chibaen_insta/
北海道演習林	Facebook	https://www.facebook.com/東京大学北海道演習林-101023278753701/
田無演習林	Twitter	https://twitter.com/tanashi_forest
生態水文学研究所	Tumblr	https://www.tumblr.com/blog/view/eri-utf
富士癒しの森研究所	Facebook	https://www.facebook.com/fuji.iyashinomori
富士癒しの森研究所	YouTube	https://www.youtube.com/channel/UCeOCZWjm6-nNXy37uZf5NQw

4. 国際

1) 交流事業・国際シンポジウム・国際共同研究

交流事業

相手大学および機関名	国名	協定締結の有無	交流期間	目的
該当なし				

国際シンポジウム

参加者氏名	シンポジウム名	主催	開催地	日程
尾張敏章	XV World Forestry Congress	Korea Forest Service, Food and Agriculture Organization of the United Nations	Seoul, Korea	2022/5/2-6
三浦直子	ISPRS Congress 2022	International Society for Photogrammetry and Remote Sensing	Nice, France	2022/6/6-11
久保田耕平・鎌田直人・石橋整司・蔵治光一郎・尾張敏章・後藤晋・浅野友子・齋藤暖生・田中延亮・福井大・鈴木智之・久本洋子・三浦直子・鶴見康幸・高德佳絵・澤田晴雄・江口由典・木村恒太・井口和信・小川瞳・松井理生・福土憲司・笠原久臣・大川あゆ子・小林徹行・延栄一	9th Symposium of Asian University Forests Consortium (SAUFC)	Experimental Forest, National Taiwan University	online	2022/8/18-19
尾張敏章	Joint conference of two IUFRO units: 1.01.09 Ecology and Silviculture of Fir and 1.01.10 Ecology and Silviculture of Pine	Faculty of Forestry, University of Sarajevo	Sarajevo, Bosnia and Herzegovina	2022/9/19-25
鎌田直人・尾張敏章	UTokyo-NTU Joint Conference 2022: Plenary Session	National Taiwan University	online	2022/12/7
鎌田直人・尾張敏章	UTokyo-NTU Joint Conference 2022: Parallel Session "Co-creating Prosperous Future Agriculture in East Asia"	The University of Tokyo	online	2022/12/8
久保田耕平・鎌田直人・尾張敏章・後藤晋・楠本大・田中延亮・福井大・久本洋子・當山啓介・鈴木智之・福土憲司・笠原久臣・大川あゆ子・延栄一	UTokyo-NTU Joint Conference 2022: Parallel Session "Strengthen Co-operations in Forest Science between UTokyo and NTU"	The University of Tokyo	online	2022/12/8
尾張敏章	IUFRO All-Division 1 & 4 Online Discussion Conference	IUFRO Division 1 & 4	online	2023/2/7-8

参加者氏名	シンポジウム名	主 催	開催地	日 程
久保田耕平・鎌田直人・蔵治光一郎・尾張敏章・鴨田重裕・後藤晋・福井大・楠本大・田中延亮・當山啓介	JSPS Core-to-CoreProgram "3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia"	Faculty of Forestry, Universitas Gadjah Mada The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo	Yogyakarta, Indonesia (Hybrid)	2023/3/6-10

国際共同研究

氏名	研究課題	共同研究者所属	氏名	国籍
鎌田直人	Environmental factors and phylogenetic constraints influencing a risk of tree mortality by ambrosia beetle attacks	カセサート大学	Sunisa Sanguansub	タイ
		チェンマイ大学	Sawai Buranapanichpan	タイ
		チェンマイ大学	Teerapong Saowaphak	タイ
		マレーシアサバ大学	Maria Lourdes	マレーシア
		東海大学（台湾）	Li-Wei Wu	台湾
		国立台湾大学	Chun-Lin Li	台湾
鎌田直人・楠本大・竹本周平	Environmental factors and phylogenetic constraints influencing a risk of tree mortality by ambrosia beetle attacks	ガジャマダ大学	Sri Rahayu	インドネシア
鎌田直人	Mechanisms of trichomes and terpene compounds in indigenous and commercial Thai rice varieties against brown planthopper	カセサート大学	Sunisa Sanguansub	タイ
鎌田直人	アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築	国立台湾大学	Biing T. GUAN	台湾
鎌田直人	ブナアオシャチホコの密度変動に関する研究	海南大学	Hui Zhang	中国
蔵治光一郎	Impact of climate change on rainfall variability in Mae Chaem Watershed and Whole Mountainous Area in the Upper Chao Phraya River Basin	タイ王立灌漑局	Nilobol Aranyabhaga	タイ
蔵治光一郎	Hydrological Monitoring in Mount Alab and Inobong, Crocker Range Park, Sabah	マレーシアサバ大学	Anand Nainar	マレーシア
後藤 晋	東南アジアにおけるヒノキ属の系統推定と産地試験	Seoul National University	Dr. Kyu-Suk Kang	韓国
		National Taiwan University	Dr. Fang-HuaChu	台湾

2) 海外渡航

氏名	所属演習林	行き先	用務	出発日	帰着日
尾張敏章	北海道演習林	韓国	第15回世界林業会議に参加のため	2022/4/30	2022/5/8
三浦直子	富士癒しの森研究所	フランス	ISPRS Congress 2022	2022/6/4	2022/6/13
鎌田直人	千葉演習林	タイ	キクイムシ類標本整理	2022/6/29	2022/7/11
尾張敏章	北海道演習林	ボスニア・ヘルツェゴビナ	モミ属とマツ属の生態と施業に関する IUFRO 国際会議に参加のため	2022/9/16	2022/9/28
福井 大	北海道演習林	ベトナム	科研費基盤研究(B)に伴う野外調査	2022/11/17	2022/11/25
鎌田直人	千葉演習林			2022/11/19	2022/11/24
鴨田重裕	樹芸研究所			2022/11/19	2022/11/24
坂上大翼	秩父演習林	オーストラリア	オーストラリアにおけるユーカリ林業の視察	2022/11/19	2022/11/24
井上広喜	樹芸研究所			2022/11/19	2022/11/24
當山啓介	千葉演習林			2022/11/19	2022/11/24
蔵治光一郎	企画部	マレーシア	クロッカーレンジ国立公園長期モニタリングサイトにおける共同研究のための気象観測装置の設置	2023/1/5	2023/1/16
鎌田直人	千葉演習林	タイ	キクイムシ類標本整理	2023/2/16	2023/3/4
鎌田直人	千葉演習林			2023/3/5	2023/3/11
蔵治光一郎	企画部			2023/3/5	2023/3/10
尾張敏章	北海道演習林	インドネシア	3rd International Symposium of Long-term Forest Monitoring Research in Asia	2023/3/5	2023/3/11
田中延亮	北海道演習林			2023/3/5	2023/3/10
鈴木智之	北海道演習林			2023/3/5	2023/3/11
蔵治光一郎	企画部	英国	JST 協創の場形成支援プログラム「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」先進事例現場視察	2023/3/11	2023/3/19

3) 外国人研究者・学生等の来訪

演習林名	来 訪 目 的	日 程	国	人数
千葉演習林	2022 年度千葉演習林利用者説明会	2022/5/25	中国	1
千葉演習林	ヤマビルにおける新規ウイルスの探索	2022/6/23	中国	1
千葉演習林	全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンバの応答解明	2022/7/26	ミャンマー	1
千葉演習林	樹木における、地形と葉の形質の関係 (卒業研究)	2022/9/2	中国	1
千葉演習林	森林管理と分子生物学的手法の森林害虫管理への応用に関する研修	2022/11/2-4	インドネシア	2
千葉演習林	研究室の合宿	2022/11/3	中国、インド	10
千葉演習林	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	2022/11/22	ミャンマー	1
千葉演習林	千葉演習林の J-クレジット取得に関する情報の収集	2022/12/3	台湾	9
千葉演習林	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	2023/2/26-28	中国	1
千葉演習林	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯留量と植栽適地の広域推定のための予備踏査	2023/3/7-9	ミャンマー	1
北海道演習林	北方針広混交林生態系の順応的管理に関する研究打合せ	2022/4/13-14	中国	1
北海道演習林	Monitoring and assessment of production forests under selection system by using UAV remote sensing in combination with Deep Learning (DL) approach	2022/7/3-6	ミャンマー	1
北海道演習林	地域住民の参加による持続的な森林管理 (JICA 研修)	2022/10/21	バングラデシュ・コートジボワール・ジョージア・イラン・マラウイ・パプアニューギニア・フィリピン・ソロモン・東ティモール・トルコ・ウガンダ	11
北海道演習林	Estimation of Forest Carbon Stocks using a Combination of Field Measurement, LiDAR and UAV Technology - Implications for REDD+ Monitoring	2022/10/24-28, 2023/2/20-3/3	スリランカ	1
北海道演習林	Classification of the composition of mixed conifer-broadleaf forests by integrating Unmanned Aerial Vehicle (UAV) imagery and machine learning algorithm	2022/10/24-28, 2023/2/20-3/3	ミャンマー	1
北海道演習林	気候変動が北方針葉樹 3 種の苗木の生存と成長に及ぼす影響評価	2022/11/15-17	中国	1
北海道演習林	修士論文「人工林間伐が河川流量に及ぼす影響」に関する集中打合せ	2022/12/1-24	マレーシア	1
北海道演習林	日本と中国におけるブナ科群集の分布パターンおよび堅果の多様性に関する研究	2023/2/16,20,22,23	中国	1

演習林名	来 訪 目 的	日 程	国	人数
秩父演習林	樹木腐朽の生物防除に関する研究	2022/4/11-22,4/24-28,5/9-20,6/8-17,6/21-7/1,7/4-15,7/20-29,8/1-12,8/17-26,8/29-9/2,9/6-16,9/20-30,10/4-14,10/18-28,11/1-11,11/14-25,11/28-12/8,12/12-23,12/27-28,2023/1/4-13	中国	1
秩父演習林	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	2022/5/2	アメリカ	1
秩父演習林	文部科学省科学研究費補助金・学術変革領域研究 (A)「土器に残る動植物痕跡の形態学的研究」遂行のための現生植物標本採集	2022/8/1-5	ボリビア、中国	2
秩父演習林	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	2022/8/18	ベナン	1
秩父演習林	森林管理と分子生物学的手法の森林害虫管理への応用に関する研修	2022/10/31-11/1	インドネシア	1
秩父演習林	シカによる森林の植生衰退が鳥類の種子散布ネットワークに及ぼす影響	2022/11/29	中国	1
田無演習林	カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因	2022/4/1-2023/3/31	インドネシア	1
田無演習林	森林管理と分子生物学的手法の森林害虫管理への応用に関する研修	2022/10/25-28	インドネシア	1
生態水文学研究所	外国人教員 (客員Ⅲ種) 共同研究	2022/7/12-9/14	アメリカ	2
生態水文学研究所	研究交流および見学	2022/10/20-22	アメリカ	1
富士癒しの森研究所	映像資料撮影	2022/4/24	中国	7
富士癒しの森研究所	Amgen summer program	2022/7/1	アメリカ、カナダ	3
富士癒しの森研究所	カラマツのリモートセンシング	2022/10/7-25	中国	1
富士癒しの森研究所	森林環境を活用した新しい演奏環境デザインに関する研究	2022/12/7-8	エストニア、イギリス	3
富士癒しの森研究所	落ち葉焚き	2022/12/17-18	中国	8
企画部	森林管理と分子生物学的手法の森林害虫管理への応用に関する研修	2022/10/24、11/7-9	インドネシア	1
企画部	森林炭素クレジットに関する視察・研修	2022/12/1-2	台湾	9
企画部	表敬訪問	2022/11/7	ドイツ	1
教育・社会連携センター	外国人教員 (旧客員Ⅲ種)	2021/11/11-2022/5/10	中国	1

5. 森林管理

1) 管理面積集計表・林相別蓄積集計表・植栽樹種

管理面積集計表

2022年4月1日現在 ha

演習林名	管理面積合計	立木地								無立木地	その他
		人工林				天然林					
		小計	針葉樹林	針広混交林	広葉樹林	小計	針葉樹林	針広混交林	広葉樹林		
千葉演習林※	2,170	866	852		14	1,294		279	1,015	1	9
北海道演習林	22,714	3,449	3,143	157	149	18,393		13,952	4,441	25	847
秩父演習林※	5,812	713	695	5	14	5,013	167	1,027	3,819		86
田無演習林※	8	7	1	4	1						2
生態水文学研究所※	1,292	304	302		2	949		949			39
富士癒しの森研究所※	41	37	25	9	3						4
樹芸研究所※	247	109	49		59	106			106	32	
合計	32,283	5,485	5,067	175	242	25,754	167	16,207	9,381	58	987

但し、「立木地」は実験林、樹木園、採徳園、採種園を含む森林の合計面積、「無立木地」は竹林、伐採跡地、未立木地の合計面積、「その他」は道路敷、林道敷、集材路、土場、河川敷、水路敷、池敷、崩壊地、荒廃地、苗畑、苗畑跡地、圃場、圃場付帯地、庁舎構内、事務所構内、作業所構内、宿舎、建物敷、馬房、露場、湖畔広場、古在ヶ原、グラウンド、貸付地、鉄塔敷、送電線、鉱山跡、採石跡、鹿柵敷、林班外の土地の合計面積（誤差を含む）とした。端数処理を四捨五入で行っているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

※2021年4月1日現在の値

林相別蓄積集計表

2022年4月1日現在 m³

演習林名	計	人工林	天然林
千葉演習林※	1,262,363	605,061	657,302
北海道演習林	5,491,141	706,123	4,785,017
秩父演習林※	2,128,144	445,924	1,682,521
田無演習林※	2,389	2,389	
生態水文学研究所※	297,219	134,177	163,041
富士癒しの森研究所※	16,151	16,151	
樹芸研究所※	79,059	53,428	25,631
合計	9,276,466	1,963,253	7,313,513

端数処理を四捨五入で行っているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

※2021年4月1日現在の値

植栽樹種

(本)

演習林名	樹種			
	本数			
千葉演習林	スギ	ヒノキ	スギ (コンテナ苗)	
	2,370 ※補植 950 本含む	360	200	
北海道演習林	トドマツ	エゾマツ	アカエゾマツ	グイマツ F1
	6,164	5,457	4,177	2,000
秩父演習林	スギ			
	200			
田無演習林				
生態水文学研究所				
富士癒しの森研究所				
樹芸研究所				

2) 立木伐採量

m³

演習林名	主伐材積					小計	利用 間伐 材積	主伐・間伐 合計
	人工林		天然林					
	針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹				
千葉演習林	立木販売							
	素材生産資材量						2	
	その他							
	合 計						2	
北海道演習林	立木販売	2,482	350	5,623	4,329	12,784	5,222	18,006
	素材生産資材量			680	757	1,437		1,437
	その他							
	合 計	2,482	350	6,302	5,087	14,221	5,222	19,443
秩父演習林	立木販売					26		26
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計					26		26
田無演習林	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
生態水文学 研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
富士癒しの 森研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
樹芸研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
合 計	立木販売	2,508	350	5,623	4,329	12,810	5,222	18,032
	素材生産資材量			680	757	1,437	2	1,437
	その他							
	合 計	2,508	350	6,302	5,087	15,875	5,224	19,469

立木・素材等の販売に関する数量を記載。伐捨間伐は含まない。
端数処理を四捨五入で行っているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。

3) 育林実行量①(地拵え, 新植および補植, 下刈り, 除伐)

演習 林名	地拵え			新植および補植				下刈り			除伐		
	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	植栽 本数	備考	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	備考
千葉 演習林	21C1	0.60		21C1	0.58	1,806	新植 (教育特別 林)	44C11-3	0.27		22C10-4	0.53	
	21C1-1	0.03	教育特別 林	21C1-1	0.03	174	新植	44C11-4	0.16				
	21C1-2	0.03	教育特別 林	10C4-3	0.35	425	新植	10C4-3	0.50				
				10C4-4	0.29	525	新植	10C4-4	0.23				
北海道 演習林	72	D	4.95	72	D	2.34	3,258	請 2730、 直 528 請 6510、 直 210	41	B	0.15	請負 2017	
	72	D5	5.33	72	D5	5.33	6,720		41	C	9.39	請負 2017	
	31	B	2.68	31	B	1.32	1,175		42	B	0.14	請負 2017	
	32	A	4.22	32	A	1.24	1,075		43	A	0.48	請負 2017	
	49	B	3.26	49	B	1.17	1,155	請 1005、 直 150	43	B	3.53	請負 2017	
	49	C	2.76	49	C	1.81	1,640		44	A	0.11	請負 2017	
	15	A	2.83	72	D	2.48	2,072	クローラーチ 2000 直コンテ ナ苗	41	C	1.24	請負 2018	
	15	A	0.32	樹冠下地 がき	72	D	0.13		17	44	A	8.13	請負 2018
	71	B	0.35	樹冠下地 がき	32	A	0.26	532	直コンテ ナ苗・裸 苗比較	44	B	1.14	請負 2018
										43	A	0.46	請負 2018
										43	B	0.25	請負 2018
										64	A	4.29	請負 2019
										20	A	0.75	請負 2018
										73	C	6.58	直営 2020
										72	A	2.09	直営 2019
										74	H	1.89	直営 2019
									59	B	1.88	直営 2020	
									59	D	0.93	直営 2020	
									61	B	0.35	直営 2020	
									62	A	1.15	直営 2020	
									63	A	1.92	直営 2020	
									98	B	6.20	直営 2019	
									23	H	0.28	直営 2018	
									23	C	0.18	直営 2018	
秩父 演習林				29い40	0.10	200		29い40	0.10				
合計		27.36			17.33	20,728			54.77			0.53	

田無演習林, 生態水文学研究所, 富士癒しの森研究所, 樹芸研究所では該当する業務はなかった。
下刈りの備考の数字は植栽年度

育林実行量②（枝打ち、保育間伐、獣害対策、その他）

演習林名	枝打ち			保育間伐			獣害対策(シカ柵設置など)			その他		
	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	備考	林小班	面積 (ha)	備考
千葉演習林				45C2-2	0.54		20C1	0.07	ヒノキ 植栽地			
				11C3-1	1.98	ジクレ対象 地（請負）	20C1-1	0.03	教育特 別林			
				44C10	0.91	請負			教育特 別林			
北海道演習林				97	C	18.87	請負 (補助金)	51	C	0.73	野鼠毒餌	
								71	D	2.63	野鼠毒餌	
								72	D	7.01	野鼠毒餌	
								73	C	2.09	野鼠毒餌	
								73	D	2.85	野鼠毒餌	
								74	C	2.66	野鼠毒餌	
								74	H	4.74	野鼠毒餌	
								74	J	0.91	野鼠毒餌	
								74	K	2.19	野鼠毒餌	
								74	P	0.23	野鼠毒餌	
								74	D	1.12	野鼠毒餌	
								75	B	3.09	野鼠毒餌	
								87	J	0.81	野鼠毒餌	
								87	C	1.80	野鼠毒餌	
								87	K	0.56	野鼠毒餌	
秩父演習林	3	30	0.70	水源地域 森づくり 事業	1	24	0.65	水源地域 森づくり 事業	3	1	0.50	樹皮ガード設置（水源地域森づくり事業）
	29	40	0.04		1	25	0.46		3	30	0.70	シカ柵修繕
					7	9	1.40		29	1	-	シカ柵撤去
					29	22	0.44		29	37	0.18	シカ柵撤去
					29	36	0.50					
生態水文学 研究所				63	い3	0.55	愛知県小規模治山整備事業					
				63	い4	0.09	〃					
				63	い5	0.05	〃					
				63	い6	0.09	〃					
				63	い7	0.05	〃					
				63	い11	0.40	〃					
				63	い14	0.50	〃					
				63	い17	0.40	〃					
				64	い6	0.17	〃					
				64	い7	0.43	〃					
				64	い9	0.04	〃					
			64	い10	0.06	〃						
			64	い11	0.09	〃						
			71	い9	0.10	ボランティア						
合計		0.74			28.77				34.90			

4) 素材生産総括表・土木実行総括表・道路現況

素材生産総括表

演習林名	素材生産資材量			素材生産量			歩留 (%)		
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	平均	針葉樹	広葉樹
千葉演習林	2.69	2.69		1.61	1.61		59.85	59.85	
北海道演習林	1,437.07	679.79	757.28	761.65	399.67	361.98	53.00	58.79	47.80
秩父演習林									
田無演習林									
生態水文学 研究所									
富士癒しの森 研究所									
樹芸研究所									
合 計	1,439.76	682.48	757.28	763.26	401.28	361.98	53.01	58.80	47.80

土木実行総括表

演習林名	実行内容				
	実行数量				
	林道維持	林道改修	災害復旧	歩道維持	
千葉演習林	56,150	79	18 箇所	1,250	
北海道演習林	320,380	9 箇所			
秩父演習林	16,395	20	9 箇所	21,881	3,070
田無演習林	1,480				
生態水文学研究所	5,250	2,230			
富士癒しの森研究所	600	900			
樹芸研究所	22,810	6,570	3 箇所		

道路現況

演習林名	車道延長				歩道延長	
	林道延長	作業道延長	計	密度 (m/ha)	延長	密度 (m/ha)
千葉演習林	31,436		31,436	14.5	125,361	57.8
北海道演習林	947,080		947,080	41.7	6,649	0.3
秩父演習林	11,395	10,132	21,527	3.7	182,371	31.4
田無演習林					1,550	186.1
生態水文学 研究所	3,150	10,070	13,220	10.2	26,470	20.5
富士癒しの森 研究所	2,422		2,422	59.1	2,287	55.8
樹芸研究所	3,486	3,657	7,143	29.0	11,753	47.8
合 計	998,969	23,859	1,022,828		356,441	

5) 演習林林産物収入細分表

演習林名	立 木	素 材	そ の 他			合 計			
			ヒサカキ	苗木	残材等,その他				
千葉 演習林	m ³ 円	1.608 円	m ³ 円	24 円	東 円	1,200 660,000	本 円	m ³ 円	689,000 円
北海道 演習林	18,005.97 円	m ³ 円	761.647 円	m ³ 円	東 円	本 円	m ³ 円	94,210,190 円	
秩父 演習林	25.810 円	m ³ 円	m ³ 円	東 円	本 円	m ³ 円	6,600 円	6,600 円	
合計	m ³ 円	m ³ 円	東 円	本 円	m ³ 円	94,905,790 円			

6. 環境安全

1) 安全・防災のための講習会等

研 修 名	開 催 機 関 等	開催月	参加人数
教育研究安全衛生マネジメントシステム説明会 (オンライン)	農学生命科学研究科 環境安全管理室	4月	2
運搬車、バッテリーチャージャー、丸鋸、三脚 脚立の安全実地講習	田無演習林	4月	6
簡易製材機安全講習会	富士癒しの森研究所	4月	4
温泉管取り扱い講習	樹芸研究所	4月	6
担架の使い方講習	千葉演習林	5月	20
刈払機取扱作業安全衛生教育	コマツ教習所(株)北海道センター	5月	1
教育研究安全衛生マネジメントシステム会議	秩父演習林	5月	15
MS 会議及びハチ対策講習会(オンライン)	北海道演習林	6月	39
安全運転管理者講習	北海道旭川方面公安委員会	6月	1
刈払機安全講習会	富士癒しの森研究所	6月	4
避難訓練	樹芸研究所	6月	8
交通安全講習会(オンライン)	北海道演習林	9月	34
危険物取扱者保安講習	(一社)北海道危険物安全協会 連合会	9月	1
安全運転管理者講習	千葉県公安委員会	10月	1
安全の日(樹木園整備等)	北海道演習林	10月	30
自衛消防図上訓練	千葉演習林	11月	21
スノーモービル安全運転講習会	北海道演習林	1月	25
普通救命講習	富士癒しの森研究所	1月	2
自衛消防総合訓練	千葉演習林	2月	7
教育研究安全衛生マネジメントシステム会議	田無演習林	毎月	6
環境安全委員会	千葉演習林	毎月	8
環境安全委員会	北海道演習林	毎月	10
労働安全衛生会議	生態水文学研究所	毎月	10

2) 資格取得のための講習等

研 修 名	開 催 機 関 等	開催月	参加人数
測量技能研修	三田建設技能研修センター	5月	1
大型特殊自動車運転免許教習	大原自動車学校	5～6月	1
自由研削砥石取替特別教育	(株)サンキュウリサーチアンドクリエイト	6月	1
熱中症予防労働衛生教育（管理者用）	コベルコ教習所 岐阜教習センター	7月	1
小型車両系建設機械（整地等）特別教育	静岡労働局長登録教習機関 T.D.S テクニカルセンター	7月	1
MRS2 ツリークライマー	ツリークライミングジャパン	7月	1
玉掛け技能講習	市原技能講習センター	8月	1
限定解除：中型車は中型車（8t）に限る	鴨川自動車教習所	9月	1
素材格付講習	（一社）北海道林産物検査会	9月	2
地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習	技術技能講習センター新桜台	11月	1
車両系建設機械技能講習（整地等）	大原自動車学校	11月	1
ドローン安全技術者講習	酪農学園大学	12月	1
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	江南クレーン教習所	2月	1
フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	株式会社PEO建機教習センター北海道教習所	3月	3

3) 災害発生状況

災害種別	被災者		
	教職員 (件)	学生 (件)	その他 (件)
重大災害			
設備災害	1		
通勤災害			
人的被害あり	10		
人的被害なし (設備災害でない機器・施設損傷あり)	3		
人的被害・機器・施設損傷なし			

東京大学安全衛生管理業務月報に基づく演習林災害統計

休業種別	被災者		
	教職員 (件)	学生 (件)	その他 (件)
休業災害 (4日以上)			
休業災害 (4日未満)			
不休災害	14		
合計	14		

4) 山火事予防活動

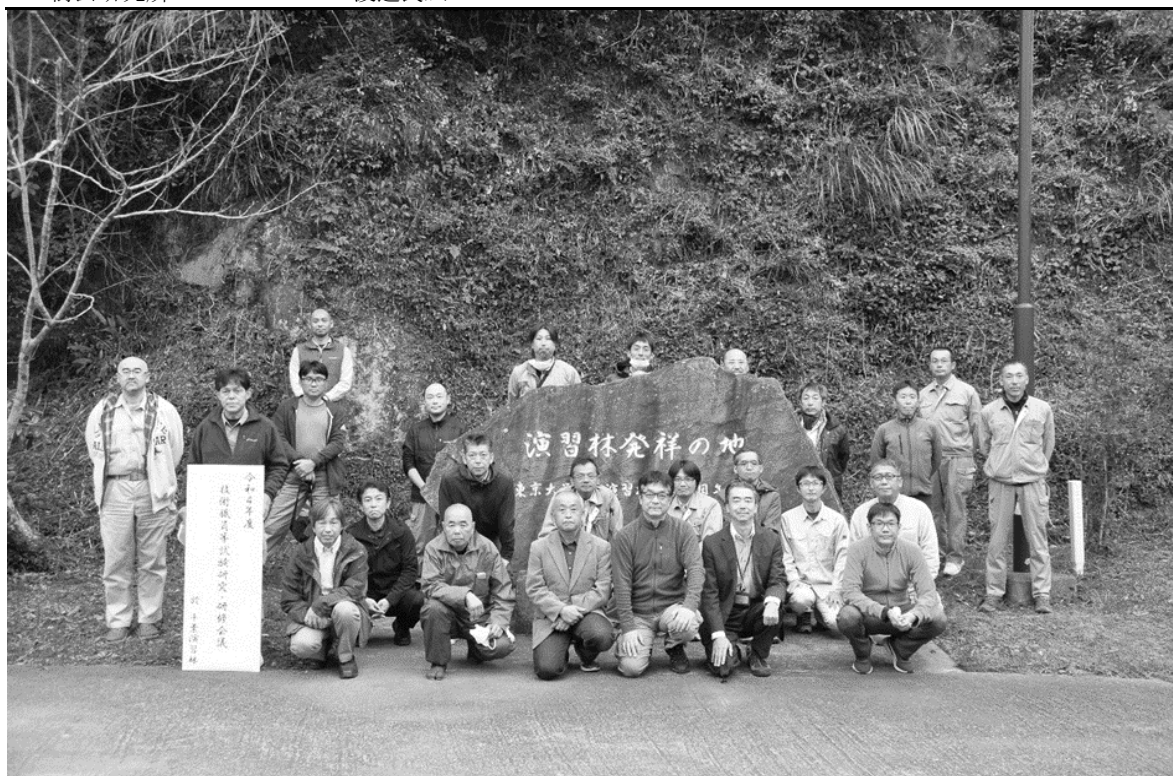
演習林名	名 称	開 催 場 所	日 程	参加人数
北海道演習林	巡視及び注意喚起の幟, 設置と撤去	北海道演習林一円	2022/4/21～ 2022/6/30	全職員
秩父演習林	消火訓練	秩父演習林	2022/8/22	7

7. 管理運営

1) 令和4年度演習林技術職員等試験研究・研修会議

参加者

演習林名	参加者
林長・企画部 千葉演習林	久保田耕平・蔵治光一郎・村瀬一隆 村川功雄・米道 学・塚越剛史・軽込 勉・阿達康眞・藤平晃司・ 里見重成・三次充和・鈴木祐紀・鶴見康幸・岡田康則・鈴木 愛・ 石崎雄太・富川 勲・小林道子
北海道演習林	井口和信・木村徳志
秩父演習林	原口竜成
田無演習林	栗田直明
生態水文学研究所	岸本光樹
富士癒しの森研究所	西山教雄
樹芸研究所	渡邊良広



発表

表題	発表者全氏名 (○発表者)
外部機関が取得した航空レーザ測量データの活用と人工林管理への応用方法の検討	○原口竜成 (秩父演習林)
ヒノキチップを使ったナラ枯れ防除の取り組み	○西山教雄・辻 良子 (富士癒しの森研究所)
アブラギリ人工林一部皆伐後の下種更新状況の把握	○渡邊良広・木村恒太・江口由典・辻 和明 (樹芸研究所)
田無演習林におけるさし木技術を用いた後継樹育成の試み	○栗田直明・相川美絵子 (田無演習林)
北海道演習林の造林事業と今後の課題	○木村徳志・福岡 哲 (北海道演習林)
生態水文学研究所第5期教育研究計画期間中における人工林の施業実施状況	○岸本光樹・澤田晴雄・井上 淳 (生態水文学研究所)
森林3次元計測システムによる高齢人工林調査の試み	○軽込 勉・米道 学 (千葉演習林)
北海道演習林における虫害の観察記録 -1980年からの43年間-	○井口和信 (北海道演習林)
模式産地におけるアンドンタケの記録 -2018年~2022年の観察記録-	○村川功雄 (千葉演習林)・尾崎煙雄 (千葉県立中央博物館)

2) 技術職員研修

研 修 名	開 催 機 関	開 催 月	参加人数
2022 年度（前期）教室系技術職員学外研修 玉掛け技能講習	株式会社 P E O 建機教習セン ター北海道教習所	4 月	1
2022 年度（前期）教室系技術職員学外研修 小型移動式クレーン運転技能講習	株式会社 P E O 建機教習セン ター北海道教習所	4 月	1
2022 年度（前期）教室系技術職員学外研修 ドローン非破壊検査基本技術コース（初級）	サイニチドローンスクール	5 月	1
2022 年度（前期）教室系技術職員学外研修 測量技能研修	三田建設技能研修センター	5 月	1
2022 年度（前期）教室系技術職員学外研修 大型特殊自動車運転免許教習	大原自動車学校	5～6 月	1
2022 年度森林管理委員会・技術担当・空間情報技術部門 GIS 技術指導者養成研修会	東京大学大学院農学生命科学研 究科附属演習林	6 月	12
2022 年度（前期）教室系技術職員学外研修 MRS2 ツリークライマー講習会	ツリークライミングジャパン	7 月	2
2022 年度（前期）教室系技術職員学外研修 熱中症予防労働衛生教育（管理者用）	コベルコ教習所 岐阜教習センタ ー	7 月	1
令和 4 年度北海道東北地区大学演習林技術職員研修	北海道大学北方生物圏フィール ド科学センター	10 月	1
令和 4 年度関東甲信越地区大学演習林等技術職員研修	新潟大学 佐渡自然共生科学セン ター演習林	10 月	1
2022 年度（後期）教室系技術職員学外研修 九州地区国立大学法人農学部附属演習林等技術職員研修	宮崎大学農学部附属フィールド 科学教育研究センター	10 月	1
2022 年度（後期）教室系技術職員学外研修 鳥類標識調査勉強会	(法)山階鳥類研究所	10 月	1
枯損木の伐採と機械の点検整備に関する研修	東京大学大学院農学生命科学研 究科技術部機械技術グループ	10 月	3
令和 4 年度技術職員等試験研究・研修会議	東京大学大学院農学生命科学研 究科附属演習林	11 月	22
2022 年度（後期）教室系技術職員学外研修 微生物関連取扱技術	株式会社テクノスルガ・ラボ	11 月	1
2022 年度（後期）教室系技術職員学外研修 車両系建設機械技能講習（整地等）	大原自動車学校	11 月	1
2022 年度研究委員会・長期生態系データ生物部門・脊椎 動物分野 脊椎動物小型哺乳類調査研修 田無演習林	東京大学大学院農学生命科学研 究科附属演習林	11-12 月	6
2022 年度（後期）教室系技術職員学外研修 ドローン安全技術者講習	学校法人酪農学園	12 月	1
2022 年度森林管理委員会・技術担当・基礎技術部門 伐木グループ研修	東京大学大学院農学生命科学研 究科附属演習林	1 月	8
森林管理委員会病虫獣害担当による 74 林班マツ類への樹 幹注入研修会	東京大学農学生命科学研究科森 林管理委員会	1 月	8
2022 年度研究委員会・長期生態系データ固定試験地部門 地上レーザーシステム OWL 使用研修	東京大学大学院農学生命科学研 究科附属演習林	1 月	2
令和 4 年度東京大学技術職員研修「構内樹木管理研修」	東京大学	2-3 月	7
2022 年度（後期）教室系技術職員学外研修 中国四国近畿地区大学演習林等技術職員研修	京都大学フィールド科学教育研 究センター	3 月	2

研 修 名	開 催 機 関	開催月	参加人数
2022 年度東京大学農学生命科学研究科 技術職員研修 「バイオ取扱基礎技術（核酸取扱法）」	東京大学農学生命科学研究科 技術部 分析技術グループ WG	3 月	2
第 10 回農学生命科学研究科技術職員研修会	農学生命科学研究科技術職員 研修会実行委員会	3 月	34

3) 事務職員研修

研 修 名	開 催 機 関	開催月	参加人数
2022 年度新任教職員等基礎講習	東京大学本部人材育成課職員評 価・研修チーム	4 月	2
2022 年度東京大学次世代リーダー育成研修 (オンライン)	東京大学本部人材育成課職員評 価・研修チーム	6 月	1
令和 4 年度北海道地区ハラスメント防止指導者養成研 修 (オンライン)	人事院北海道	6 月	1
人事・労務勉強会	東京大学本部人材育成課職員評 価・研修チーム	12 月	1
決算業務勉強会	農学部・農学生命科学研究科 事 務部 経理課 予算・決算チーム	2 月	1

8. 組織図

8-1 地方演習林・センター

1) 千葉演習林

組織（主任職員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
林長	教授	鎌田直人			
林長補佐	講師	楠本 大			
技術主任	技術専門員	村川功雄			
技術副主任	技術専門員	鶴見康幸			
教育研究主任	助教	當山啓介			
			助教	久本洋子	
			教授	鎌田直人(兼)	
			講師	楠本 大(兼)	
利用促進チーム主任	技術専門職員	藤平晃司			
	(利用促進担当)		技術専門職員	三次充和	
	(資料管理担当)		技術専門職員	里見重成	
森林管理チーム主任	技術専門職員	米道 学			
	(森林管理担当)		技術専門職員	軽込 勉	
	(土木担当)		技術専門職員	塚越剛史	
			技術専門職員	阿達康真	
作業所チーム主任	技術専門員	鈴木祐紀			
	(清澄作業所)		技術専門員	鶴見康幸(兼)	特任専門職員 富川勲
					2022/12/31 まで
			技術員	岡田康則	特任専門職員 鈴木 愛
					特任専門職員 石崎雄太
					2022/6/1 から
					技能補佐員 小林道子(兼)
事務主任	事務室係長	田山勝則			
	(総務担当)		事務室主任	吉田明子	主事員 藤後紗和子
			一般職員	野山 智	
	(資産管理担当)		係長	田山勝則(兼)	
	(施設（作業所）担当)		技術専門員	鈴木祐紀(兼)	
	(宿泊管理担当)		事務室主任	吉田明子(兼)	技能補佐員 小林道子

2) 北海道演習林

組織（主任職員）		配置職員（教職員）			配置職員（非常勤職員）	
林長	准教授	尾張敏章				
林長補佐	講師	田中延亮				
教育研究主任	講師	福井 大				
	助教	鈴木智之				
事務室係長	係長	吉村太志	一般職員	橋場 唯		
技術主任	技術専門職員	松井理生				
技術副主任	技術専門職員	中川雄治				
総務チーム	係長	横山和宏	主任	天山 学 2022/6/30 まで	事務補佐員	鈴木恵理
セミナーハウス					技能補佐員	杉原時子
					技能補佐員	望月 睦
					技能補佐員	松村裕美 2022/5/1 から 2022/10/31 まで
経理チーム (会計担当)	係長	米田久和	主任	天山 学 2022/7/1 から		
(資産管理担当)	係長	岡田教和				
企画調整係主任	技術専門職員	松井理生(兼)	一般技術職員	井口和信	主事員	片平可奈(兼)
調査資料係主任	技術専門職員	中川雄治	技術専門職員	小川 瞳	技能補佐員	犬飼雅子 2022/5/1 から 2022/10/31 まで
			技術専門職員	犬飼慎也	技能補佐員	高橋くるみ 2022/5/1 から 2022/8/26 まで
種苗造林係主任	技術専門職員	木村徳志	技術専門職員	及川 希	技能補佐員	羽塚冬馬 2022/5/1 から 2022/10/31 まで
造林資料係主任	技術専門職員	木村徳志(兼)	技術専門職員	宅間隆二		
生産販売係主任	技術専門職員	井上 崇(兼)	一般技術職員	犬飼 浩	主事員	片平可奈
土木生産係(土木担当)主任	技術専門職員	磯崎靖雄	技術専門職員	遠國正樹		
土木生産係 (生産担当)主任	技術専門職員	井上 崇	技術専門職員	高橋功一		
			技術専門職員	木村恒太		
			一般技術職員	千井野 聡		
			一般技術職員	小林徹行 (5月～8月 樹木園)		
調査第一係主任	技術専門職員	小池征寛	技術専門職員	岡平卓巳		
			技術専門職員	算用子麻未 (育児休業)2022/4/15～		
			一般技術職員	平間睦樹		
			一般技術職員	佐藤晴樹 (代替) 2022/5/1～		
調査第二係主任	技術専門職員	福士憲司	技術専門職員	笠原久臣		
			技術専門職員	大川あゆ子		
			特任専門職員	延 栄一		
試験係			准教授	尾張敏章		
			講師	田中延亮		
			講師	福井 大		
			助教	鈴木智之		
山部樹木園主任	技術専門職員	福岡 哲	一般技術職員	廣田善己	技能補佐員	中坪優子 2022/4/1 から 2022/11/30 まで
			一般技術職員	小林徹行 (5月～8月)	技能補佐員	安藤佳子 2022/4/1 から 2022/11/30 まで
					技能補佐員	安藤雅恵
					技能補佐員	中村朝子 2022/5/1 から 2022/10/31 まで

3) 秩父演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）		
林長	教授	山田利博					
林長補佐	講師	平尾聡秀	准教授	鴨田重裕(兼)			
			2022/10/1～				
教育研究主任	助教	坂上大翼					
試験係主任	助教	坂上大翼(兼)					
事務室	専門員	大村 栄	主任	渡邊幸司	技術補佐員	浅見美津子	
			一般職員	亀原弥生	主事員	平沼かやの	
技術主任	技術専門員	五十嵐勇治			主事員	富沢貴志	
森林管理 チーム	技術専門職員	高德佳絵	技術専門員	齋藤俊浩			
			技術専門職員	原口竜成			
利用促進 チーム	技術専門職員	高野充広	技術専門員	大村和也	技術補佐員	新井容子	
			技術専門職員	吉田弓子	技術補佐員	濱田邦子	
作業所 チーム	技術専門職員	才木道雄	技術専門員	千嶋 武	技術補佐員	山中五郎	
					技術補佐員	山中淑子	
影森苗畑主任	技術専門員	五十嵐勇治(兼)					

4) 田無演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）		
林長	教授	石橋 整司					
林長補佐	助教	竹本周平					
教育研究主任	助教	竹本周平(兼)					
技術主任	技術専門職員	相川美絵子	技術専門員	栗田直明	技能補佐員	川村 啓	
					特任専門職員	石浦恭子	

5) 生態水文学研究所

組織 (主任職員)			配置職員 (教職員)		配置職員 (非常勤職員)	
所長	准教授	安村直樹				
所長補佐	講師	浅野友子				
教育研究主任	助教	水内佑輔	講師	浅野友子(兼)	技能補佐員	加藤敦美
教育研究係主任	助教	水内佑輔(兼)	特任助教	大谷侑也	特任研究員	ファラナク モイン
			技術専門職員	丹羽悠二		
			技術専門職員	岸本光樹		
			一般技術職員	梁瀬桐子(兼)		
			技術専門員	澤田晴雄(兼)		
過去データ管理室長	講師	浅野友子	助教	水内佑輔(兼)	技能補佐員	黒木里香
事務主任	事務室長	平野圭二			事務補佐員	加藤正勝
					事務補佐員	加藤純子
技術主任	技術専門員	澤田晴雄				
研究林管理係主任			一般技術職員	梁瀬桐子	用務補佐員	渡辺平和
	技術専門員	澤田晴雄(兼)	一般技術職員	井上 淳	用務補佐員	橋本 聖
			技術専門職員	岸本光樹(兼)		
環境安全推進室長	事務室長	平野圭二(兼)	技術専門職員	丹羽悠二(兼)		
			一般技術職員	井上 淳(兼)		

6) 富士癒しの森研究所

組織 (主任職員)			配置職員 (教職員)		配置職員 (非常勤職員)	
所長	講師	齋藤暖生			用務補佐員	高村史香
所長補佐	助教	三浦直子			特任専門職員	齋藤純子
教育研究主任	助教	三浦直子(兼)	講師	齋藤暖生(兼)		
			講師	福井 大		
				2022/10/1～		
技術主任	技術専門職員	辻 良子			用務補佐員	高村史香(兼)
技術主任補佐	技術専門職員	西山教雄			特任専門職員	齋藤純子(兼)

7) 樹芸研究所

組織 (主任職員)			配置職員 (教職員)		配置職員 (非常勤職員)	
所長	准教授	鴨田重裕				
所長補佐	助教	井上広喜				
教育研究係 教育研究主任	助教	井上広喜(兼)				
技術係 技術主任	技術専門職員	辻 和明				
	研究支援チーム		一般技術職員	江口由典	技能補佐員	大島浩子
			技術専門職員	木村恒太	技能補佐員	須田常仁
				2022/6/1～		～2022/9/24
	森林管理チーム		技術専門員	渡邊良広		
			一般技術職員	江口由典(兼)		
			技術専門職員	木村恒太(兼)		
事務係			技術専門職員	辻 和明(兼)		
			主事員	進士真理子		

8) 企画部, 教育・社会連携センター, フィールドデータ研究センター

組織 (主任職員)		配置職員 (教職員)		配置職員 (非常勤職員)	
演習林長	教授	久保田耕平			
企画部					
企画部長	教授	蔵治光一郎		特任専門職員	柴田ゆう子
統括技術長	技術専門職員	村瀬一隆		事務補佐員	川野千恵
教育・社会連携センター					
センター長	准教授	後藤 晋	准教授	鴨田重裕(兼)	事務補佐員
教育研究主任	助教	前原 忠		~2022/9/30	清水智子
	技術専門員	大石 諭(兼)	技術専門職員	近澤静恵	
フィールドデータ研究センター					
センター長	講師	平尾聡秀(兼)			
教育研究主任	助教	藤原章雄			
	技術専門員	大石 諭			
農学系事務部			研究支援チーム		
事務部長	浅川敏秀	専門員	中村正俊		
総務課長	白石英司	係長	榎山なお美		
経理課長	石塚泰史				
教務課長	榎本弘子				
国際化推進 支援担当課長	松本秀幸	他 事務部各係			
学生等	氏名				
博士3年	陳 淑芬				
博士3年	牧 貴大				
博士3年	Pei Huiqing				
博士1/2年	Nyo Me Htun				
博士1年	Aye Myat Myat Paing				
博士1年	Karthigesu Jeyavanan				
博士1年	陳 田				
博士1年	徐 喬逸				
修士2年	竹内 虎輔				
修士2年	森川 周				
修士2年	Andreas Ade Kristian				
修士2年	戴 健平				
修士2年	蔡 寧馨				
修士2年	高 涵				
修士2年	查 世昊				
修士2年	Ibtisam Binti Mohd Ghaus				
修士1年	上野 大輔				
修士1年	安井 理香				

学生等	氏名
修士1年	坂卷 実佳
修士1年	尤 晓安
修士1年	倪 寛
修士1年	劉 衡
修士1年	張 珂
修士1年	蘆 美靈
修士1年	張 嘯宇
修士1年	卑 依璠
研究生	塚本 宝
学部4年	日高 将景
研究生	湯 天禹
研究生	胡 睿喆
研究生	曹 偲
研究生	易 子卉
研究生	章 静怡
研究生	弥 励成
研究生	張 遠哲
特別聴講学生	黄 鵬宇

8-2. 常置専門委員会

1) 大学教育委員会

組織 (委員)	配置職員 (教職員)	
委員長	准教授	後藤 晋
プロジェクト担当		
	助教	坂上大翼
企画部門	助教	水内佑輔
	助教	當山啓介
情報発信部門	助教	水内佑輔
	助教	三浦直子
演習林ゼミ部門	助教	三浦直子
	助教	久本洋子
	助教	當山啓介
	助教	竹本周平
支援担当		
経費執行部門	助教	井上広喜
情報収集部門	助教	前原 忠
	助教	坂上大翼
国際部門	講師	福井 大
	助教	竹本周平
公開森林実習部門	准教授	後藤 晋

2) 研究委員会

組織 (委員)	配置職員 (教職員)		配置職員 (非常勤職員)	
委員長	講師	楠本 大		
長期生態系データ担当	教授	鎌田直人		
企画担当	助教	鈴木智之		
集計担当	助教	井上広喜		
	助教	竹本周平		
	助教	藤原章雄		
長期生態系データ				
気象水文水質部門長	講師	浅野友子		
(気象分野)	観測機器管理総括	講師	田中延亮	
	観測データ管理総括	教授	蔵治光一郎	
	観測データ管理総括補助			技能補佐員 加藤敦美
	各演担当 千葉	技術専門員	鶴見康幸	
	千葉	技術専門員	鈴木祐紀	
	千葉アドバイザー	講師	楠本 大	
	北海道	講師	田中延亮	
	北海道	技術専門職員	小川 瞳	
	秩父	技術専門職員	吉田弓子	
	秩父	技術専門職員	高野充広	

組織(委員)		配置職員(教職員)	配置職員(非常勤職員)
	田無	技術専門員	栗田直明
	生水研	技術専門職員	丹羽悠二
	生水研	技術専門職員	岸本光樹
	富士研	技術専門職員	辻 良子
	樹芸研	助教	井上広喜
	樹芸研	技術専門員	渡邊良広
(水文水質分野)	観測機器管理総括	講師	田中延亮
	観測データ管理総括	教授	蔵治光一郎
	観測データ管理総括補助		技能補佐員 加藤敦美
	各演担当 千葉	技術専門員	鶴見康幸
	千葉	技術専門職員	鈴木祐紀
	北海道	講師	田中延亮
	北海道	技術専門職員	高橋功一
	北海道	技術専門職員	松井理生
	秩父	技術専門職員	吉田弓子
	秩父	技術専門職員	高野充広
	生水研	技術専門職員	岸本光樹
	生水研	技術専門職員	丹羽悠二
	樹芸研	准教授	嶋田重裕
	樹芸研	助教	井上広喜
	樹芸研	技術専門職員	辻 和明
生物部門長	講師 平尾聡秀		
	全演アドバイザー	助教	久本洋子
	全演アドバイザー	講師	福井 大
	全演アドバイザー	教授	鎌田直人
(植物分野)	代表	技術専門職員	吉田弓子
	各演担当 千葉	技術専門職員	藤平晃司
	千葉	技術専門職員	軽込 勉
	北海道	技術専門職員	木村徳志
	北海道	技術専門職員	及川 希
	秩父	技術専門員	五十嵐勇治
	秩父	技術専門職員	吉田弓子
	田無	技術専門職員	相川美絵子
	生水研	一般技術職員	梁瀬桐子
	富士研	技術専門職員	西山教雄
	樹芸研	技術専門員	渡邊良広
(脊椎動物分野)	代表	技術専門職員	松井理生
	脊椎動物グループ責任者	技術専門職員	三次充和
	脊椎動物グループ副責任者	技術専門職員	及川 希
	各演担当 千葉	技術専門職員	三次充和
	北海道	一般技術職員	小林徹行
	秩父	技術専門職員	高野充広

組織（委員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
田無	技術専門員	栗田直明
生水研	技術専門職員	丹羽悠二
富士研	技術専門職員	辻 良子
樹芸	技術専門員	渡邊良広
鳥類グループ責任者	技術専門職員	才木道雄
鳥類グループ副責任者	技術専門職員	福岡 哲
各演担当 千葉	技術専門職員	阿達康真
北海道	技術専門職員	福岡 哲
秩父	技術専門職員	高德佳絵
田無	技術専門職員	相川美絵子
生水研	一般技術職員	梁瀬桐子
富士研		特任専門職員 齋藤純子(補助)
樹芸研	一般技術職員	江口由典

3) 社会連携委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）
委員長	講師	齋藤暖生	
経理執行担当	准教授	後藤 晋	
			事務補佐員 清水智子
アウトリーチ担当	助教	久本洋子	
出版広報部門			
広報・ウェブサイト	助教	久本洋子（兼）	
		技術専門職員	近澤静恵
	（アドバイザー）	講師	楠本 大
	（各演広報担当・千葉）	技術専門職員	米道 学
	（同・北海道）	係長	横山和宏
	（同・秩父）	技術専門職員	吉田弓子
	（同・田無）	技術専門職員	相川美絵子
	（同・生水研）	一般技術職員	梁瀬桐子
	（同・富士研）	技術専門職員	辻 良子
	（同・樹芸研）	一般技術職員	江口由典
科学の森ニュース	講師	齋藤暖生（兼）	
		技術専門職員	近澤静恵
	（各演科学の森ニュース担当・教社連）	准教授	後藤 晋（兼）
	（同・千葉）	助教	久本洋子（兼）
	（同・北海道）	技術専門員	井口和信
	（同・秩父）	技術専門職員	吉田弓子
	（同・田無）	技術専門職員	相川美絵子
	（同・生水研）	一般技術職員	梁瀬桐子
	（同・富士研）	技術専門職員	辻 良子
	（同・樹芸研）	一般技術職員	江口由典
東京大学演習林出版局	准教授	後藤 晋（兼）	
育成資金部門	教授	蔵治光一郎	
	准教授	後藤 晋（兼）	
			特任専門職員 柴田ゆう子
	（各演育成資金担当・千葉）	技術専門職員	三次充和
	（同・北海道）	係長	横山和宏
	（同・秩父）	技術専門職員	高野充広
	（同・田無）	技術専門職員	相川美絵子
	（同・生水研）	一般技術職員	梁瀬桐子
	（同・富士研）	講師	齋藤暖生（兼）
	（同・樹芸研）	技術専門職員	辻 和明
演習林編集委員会	（主事）	講師	田中延亮（兼）
		技術専門職員	近澤静恵
連携推進担当	講師	田中延亮	
	（各演連携推進担当・千葉）	技術専門職員	里見重成
	（同・北海道）	技術専門員	井口和信
	（同・秩父）	技術専門職員	高野充広

組織（委員）	配置職員（教職員）	配置職員（非常勤職員）
(同・田無)	技術専門員	栗田直明
(同・生水研)	一般技術職員	梁瀬桐子
(同・富士研)	技術専門職員	辻 良子
(同・樹芸研)	一般技術職員	江口由典

4) 国際委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）
委員長 インターンシップ担当	教授 鎌田直人
委員 海南大学担当, 特任教員[旧外国人研究員(客員Ⅲ種)]担当	教授 石橋整司
SP 国立台湾大学担当	准教授 尾張敏章
SP ETHZ 担当	教授 蔵治光一郎
SP ソウル国立大学校担当, サマースクール担当	講師 福井 大

5) 森林管理委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）
委員長	准教授 尾張敏章
副委員長	技術専門職員 村瀬一隆
管理担当	主担当 技術専門職員 村瀬一隆（兼） 副担当 助教 當山啓介
各演担当	千葉 技術専門員 村川功雄 北海道 技術専門職員 松井理生 秩父 技術専門員 五十嵐勇治 田無 技術専門職員 相川美絵子 生水研 技術専門員 澤田晴雄（兼） 富士研 技術専門職員 辻 良子 樹芸研 技術専門職員 辻 和明 FDRC 技術専門員 大石 諭
病虫獣害担当	主担当 教授 鎌田直人 副担当 技術専門員 澤田晴雄 病害 教授 山田利博 助教 坂上大翼 虫害 教授 鎌田直人（兼） 獣害 講師 福井 大 生水研 技術専門員 澤田晴雄（兼）
技術担当	主担当 准教授 尾張敏章（兼） 副担当 技術専門員 五十嵐勇治（兼）
空間情報技術部門	事務局 技術専門職員 犬飼慎也 アドバイザー 助教 藤原章雄 助教 三浦直子 助教 水内佑輔

組織 (委員)	配置職員(教職員)		
各演担当	千葉	技術専門職員	米道 学
	北海道	技術専門職員	犬飼慎也 (兼)
	秩父	技術専門職員	原口竜成
	田無	技術専門職員	相川美絵子
	生水研	技術専門職員	岸本光樹
	富士研	技術専門職員	辻 良子
	樹芸研	一般技術職員	江口由典
	FDRC	技術専門員	大石 諭
	全演研修指導担当	技術専門職員	軽込 勉
		技術専門職員	原口竜成 (兼)
基礎技術部門	千葉	技術専門員	鈴木祐紀
各演担当		技術専門職員	阿達康真
	北海道	技術専門職員	小池征寛
		一般技術職員	千井野聡
	秩父	技術専門員	五十嵐勇治
		技術専門員	齋藤俊浩
	田無	技術専門職員	相川美絵子
		技術専門員	栗田直明
	生水研	技術専門員	澤田晴雄 (兼)
	富士研	技術専門職員	辻 良子
樹芸研	技術専門員	渡邊良広	

6) 環境安全委員会

組織 (委員)	配置職員(教職員)	
委員長	准教授	鴨田重裕
委員	教授	山田利博
	助教	坂上大翼
	技術専門職員	村瀬一隆
	技術専門職員	松井理生

7) 管理運営委員会

組織（委員）	配置職員（教職員）	
委員長	准教授	安村直樹
委員	教授	久保田耕平
	教授	蔵治光一郎
	准教授	鴨田重裕
	助教	藤原章雄
	技術専門職員	村瀬一隆
	技術専門職員	相川美絵子
ネットワーク担当	（下線は全演アドバイザー、アドバイザーは担当者も兼ねる）	
各演担当者		
千葉	講師	楠本 大
	係長	田山勝則
	助教	<u>鈴木智之</u>
北海道演習林	技術専門職員	中川雄治
	技術専門職員	犬飼慎也
	係長	岡田教和
	技術専門職員	遠國正樹
秩父演習林	技術専門職員	原口竜成
	専門員	大村 栄
田無演習林	教授	石橋整司
	助教	<u>竹本周平</u>
生態水文学研究所	助教	<u>水内佑輔</u>
	一般技術職員	梁瀬桐子
富士癒しの森研究所	技術専門職員	辻 良子
	技術専門職員	西山教雄
	助教	井上広喜
樹芸研究所	技能補佐員	須田常仁（補助） 10月まで
	一般技術職員	江口由典 10月から
	教授	蔵治光一郎
弥生	助教	前原 忠
	技術専門職員	大石諭

9. 人事

日付	異動	新所属・職名	氏名	旧所属・職名
2022. 4. 1	勤務換	生態水文学研究所 講師	浅野友子	秩父演習林・生態水文学研究所（兼務） 講師
2022. 4. 1	採用	生態水文学研究所 特任助教	大谷侑也	サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社水科学研究所 研究員
2022. 4. 1	勤務換	企画部 技術専門職員（統括技術長）	村瀬一隆	樹芸研究所 技術専門職員
2022. 4. 1	勤務換	秩父演習林 技術専門員	五十嵐勇治	企画部 技術専門員（統括技術長）
2022. 4. 1	勤務換	北海道演習林 技術専門職員	磯崎靖雄	秩父演習林 技術専門職員
2022. 4. 1	昇任	北海道演習林 技術専門員	笠原久臣	北海道演習林 技術専門職員
2022. 4. 1	昇任	生態水文学研究所 技術専門職員	岸本光樹	生態水文学研究所 一般技術職員
2022. 4. 1	再雇用	北海道演習林 一般技術職員	犬飼 浩	北海道演習林 上席技術専門員
2022. 4. 1	再雇用	北海道演習林 一般技術職員	井口和信	北海道演習林 技術専門員
2022. 4. 1	再雇用	生態水文学研究所 一般技術職員	井上 淳	生態水文学研究所 技術専門員
2022. 4. 1	転入	北海道演習林 係長	吉村太志	理学系研究科等総務課 係長
2022. 6. 1	勤務換	樹芸研究所 一般技術職員	木村恒太	北海道演習林 一般技術職員
2022. 10. 1	兼務	樹芸研究所・秩父演習林（兼務） 准教授（樹芸研究所長）	鴨田重裕	樹芸研究所 准教授（樹芸研究所長）
2022. 10. 1	兼務	北海道演習林・富士癒しの森研究所（兼務） 講師	福井 大	北海道演習林 講師
2022. 3. 31	退職	撰南大学 講師	大谷侑也	生態水文学研究所 特任助教
2022. 3. 31	退職		井口和信	北海道演習林 一般技術職員
2022. 3. 31	退職		廣田善己	北海道演習林 一般技術職員
2022. 3. 31	退職		小川 瞳	北海道演習林 技術専門職員

10. 予算・収入

1) 予算

区分	内訳	金額 (千円)
運営費予算配分額	年度当初配分額	238,214
	市町村交付金相当額予算	41,980
	追加配分・協力金	4,115
	その他の予算	15,836
	計	300,415
外部資金	科学研究費	32,911 *
	奨学寄附金	19,319
	受託研究費	26,740
	他機関との共同研究費	9,384
	その他補助金	0
	計	88,354
合 計		388,499

*前年度から繰り越された予算を含む。
翌年度へ繰り越した予算は含まない。

2) 収入

区分	内訳	金額 (千円)
収入	演習林林産物収入	94,906
	刊行物販売等売払収入	246
	講習料収入	502
	その他の収入	13,391
合 計		109,045

1 1. 委員会・会議等

1) 演習林規則に則って開催された委員会・会議

運営委員会	演習林規則第5条により設置されている演習林の管理および運営に関する最高議決機関である。委員は演習林の教授・准教授のほか研究科長が推薦する研究科の教授または准教授（10名以内）と演習林統括技術長，研究科事務部長であり，演習林長が委員長を務める。今年度は2023年3月15日（水）にオンラインで開催し，地方演習林と常置委員会を軸とする演習林の管理および運営に関する重要事項の審議を行った。
-------	--

演習林会議	演習林規則第6条により設置されている演習林の管理および運営の実務に関する事項を審議決定する機関である。議員は演習林長，演習林長補佐，演習林所属の教授，准教授，講師，演習林統括技術長のほか演習林長が必要と認めた者になる（今年度は研究科総務附属施設担当副課長が指名された）。演習林長が議長を務める。原則として毎月1回（8月を除く）教授会開催日の前日に開催する。今年度は11回対面とオンラインのハイブリッドで開催した。
-------	--

2) その他委員会・会議

教員総会	演習林所属の全教員（演習林長補佐を含む），統括技術長，フィールドデータ研究センター技術主任による，意見交換を目的とする会議。今年度は2023年2月14～15日に対面方式（一部の教員のみオンライン参加）で開催した。
------	--

技術主任会議	統括技術長と地方演習林技術主任による，意見交換を目的とする会議。今年度は8月31日（水）にオンラインで開催し，同日に事務担当者・技術主任合同会議を開催した。
--------	--

事務担当者・技術主任合同会議	技術主任会議メンバーに地方演習林の事務担当者を加えたメンバーによる，意見交換を目的とした会議。今年度は8月31日（水）にオンラインで開催した。
----------------	---

事務担当者連絡会議	大学院農学生命科学事務担当者による会議であり，地方演習林事務担当者を含めて事務処理遂行上の問題点等について報告，意見交換を行う。隔年（偶数年度）に開催されてきたが，コロナ禍の影響により，直近は2021年度の2022年3月11日にオンラインで開催された。2022年度は開催されなかった。
-----------	--

演習林編集委員会	「東京大学農学部演習林報告」と「演習林」の編集発行を行っている。委員は演習林の教授・准教授のほか関連専攻から推薦された教授・准教授（7名）と編集委員長が指名する者になる。原則として奇数月に開催し，今年度は6回オンラインで開催した。
----------	---

12. 利用状況

1) 千葉演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				27	27	有害鳥獣捕獲	日帰り
2	4	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
3	4	3	東京大学大学院理学系研究科附属植物園	3				3	植物の繁殖生態と訪花昆虫の調査	日帰り
4	4	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
5	4	1	東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室	2		1		3	袋山沢における測量（新型ドローンのテスト：新田露場発着）	日帰り
6	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1				1	「森林科学基礎実習1」にかかる下見	日帰り
7	4	1	独立行政法人製品評価技術基盤機構バイオテクノロジーセンター産業連携推進課				4	4	放線菌の二次代謝産物に関する調査	日帰り
8	4	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	3				3	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り
9	5	17	鴨川市有害鳥獣対策協議会				27	27	有害鳥獣捕獲	日帰り
10	5	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
11	5	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
12	5	1	千葉大学大学院園芸学研究科	1	1	1		3	調査対象植物のサンプリング	日帰り
13	5	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	3				3	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り
14	5	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	2				2	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
15	5	1	鴨川市教育委員会生涯学習課				13	13	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（観察編）」	日帰り
16	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3			21	24	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	日帰り
17	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	8	1	5 (1)	5	19 (1)	2022年度千葉演習林利用者説明会	日帰り
18	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	5		24		29	総合科目「森林環境資源学」	日帰り
19	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	1				1	森林科学基礎実習Ⅰの下見	日帰り
20	6	13	鴨川市有害鳥獣対策協議会				16	16	有害鳥獣捕獲	日帰り
21	6	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
22	6	4	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	14	8	64		86	森林科学基礎実習1	日帰り
23	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	3	2	16		21	森林科学基礎実習1	清澄宿泊施設2
24	6	1	箱根植木株式会社			3		3	造園植栽地を用いた植物の域外保全技術に関する研究	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
25	6	1	筑波大学生命環境科学研究科	1		2		3	ダケカンパ試験地を用いた樹木の高温環境適応の解明	日帰り
26	6	1	東京農工大学大学院農学府・共同獣医学専攻	1	3	3 (1)		7 (1)	ヤマビルにおける新規ウイルスの探索	日帰り
27	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林				6	6	Abies 活動（外来植物（キンシバイ）の駆除作業）	日帰り
28	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	2	9			11	教育（実習・講義）	日帰り
29	6	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3		3		6	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	清澄宿泊施設 2
30	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		1		2	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	日帰り
31	6	1	首都大学東京 都市環境学物	1				1	モチノキタネオナゴバチの寄主利用様式の解明（研究牒の片付け）	日帰り
32	6	1	東京大学大学院理学系研究科附属植物園	1				1	植物の繁殖生態と訪花昆虫の調査	日帰り
33	7	11	鴨川市有害鳥獣対策協議会				11	11	有害鳥獣捕獲	日帰り
34	7	10	千葉県環境生活部大気保全課				10	10	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
35	7	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	2				2	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
36	7	19	京都大学大学院理学研究科	19				19	房総半島更新統上総層群における混濁流・土石流ハイブリッド堆積物の微細組織解析	清澄宿泊施設 2
37	7	1	箱根植木株式会社				3	3	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	日帰り
38	7	1	東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室	2		2		4	新田露場と袋山沢における機器メンテナンス（袋山 A 堰の砂出し、新田に残置した不要ボトルの回収含む）	日帰り
39	7	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
40	7	1	横浜国立大学 都市科学部 環境リスク共生学科	1	1	1		3	卒業研究の下見	日帰り
41	7	2	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	8			44	52	東京大学千葉演習林連携事業 夏の山の昆虫	日帰り
42	7	1	森林総合研究所 きのこ・森林微生物研究領域				1	1	日本産トリュフの効果的な菌株採集技術の開発	日帰り
43	7	1	附属演習林 教育社会連携センター	2		1		3	全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンパの応答解明	日帰り
44	7	1	千葉県庁環境生活部自然保護課				5	5	令和 4 年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域）	日帰り
45	7	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	5				5	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
46	8	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				16	16	有害鳥獣捕獲	日帰り
47	8	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
48	8	2	東京大学千葉演習林	4			12	16	高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～	清澄宿泊施設
49	8	1	東京大学千葉演習林	2			6	8	高校生のための森と海のゼミナール～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～	日帰り
50	8	1	埼玉県花と緑の振興センター				6	6	植木流通における野生種の地域性種苗について（研究下見）	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
51	8	1	一般財団法人自然環境研究センター				2	2	千葉演習林のニホンジカ生息状況の把握を目的とした自動撮影カメラ設置等	日帰り
52	8	1	千葉大学大学院園芸学研究科		1	1		2	調査対象植物のサンプリング	日帰り
53	8	4	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	24	20	60		104	東京大学地球環境科学科野外調査実習(1)	清澄宿泊施設
54	8	1	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	6	5	15		26	東京大学地球環境科学科野外調査実習(1)	日帰り
55	8	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	2				2	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
56	8	6	東京大学大学院新領域創成科学研究科	6		6		12	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査	清澄宿泊施設 2
57	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1		1		2	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査	日帰り
58	8	1	茨城大学農学部食生命科学科	1		2		3	シバヤナギに形成される虫えいの形成誘導機構の解明	日帰り
59	8	1	子どもヤマビル研究会				1	1	ヤマビルによる土壌の選好性	日帰り
60	8	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	5				5	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
61	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林		3			3	「東大の森」の教育研究を支援しよう！～日本最初の大学演習林で体験する森林作業～	清澄宿泊施設 2
62	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林		1			1	「東大の森」の教育研究を支援しよう！～日本最初の大学演習林で体験する森林作業～	日帰り
63	8	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻			1		1	【調査地下見】寄生植物コシオガマの宿主範囲の調査	日帰り
64	8	1	一般財団法人自然環境研究センター				2	2	イノシシを対象とした REST モデルの自動撮影カメラ調査にあたってのカメラ設置	日帰り
65	8	1	千葉大学大学院理学研究院	1	1			2	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
66	8	1	千葉県立流山高校	2			4	6	抵抗性マツ生産や森林管理に関する見学	日帰り
67	8	1	藤川山林株式会社鹿児島事業所					0	研究利用（地上レーザー分析）を見据えた千葉演習林の見学	日帰り
68	9	17	鴨川市有害鳥獣対策協議会				17	17	有害鳥獣捕獲	日帰り
69	9	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
70	9	31	横浜国立大学 都市科学部 環境リスク共生学科	1	1	2		4	樹木における地形と葉の形質の関係（卒業論文）	日帰り
71	9	1	土壌化学女性研究者の会				6	6	関東地域土壌科学女性研究者の会研修（千葉演習林内の主要地層の観察）	日帰り
72	9	4	東京大学農学部国際開発農学専攻	4	4			8	Jクレジットと CORSIA 適格排出ユニットのガイドラインに基づいて発行される森林吸収係炭素クレジット量の比較研究-千葉演習林のJクレジットプロジェクトを事例として-	清澄宿泊施設 2
73	9	1	東京大学農学部国際開発農学専攻	1	1			2	Jクレジットと CORSIA 適格排出ユニットのガイドラインに基づいて発行される森林吸収係炭素クレジット量の比較研究-千葉演習林のJクレジットプロジェクトを事例として-	日帰り
74	9	1	国土防災技術株式会社				3	3	カブスガードプラスによる獣害対策効果確認試験	日帰り
75	9	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	2				2	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
76	9	2	東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	7	18			25	全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」	清澄宿泊施設
77	9	1	東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4	9			13	全学体験ゼミナール「房総の常緑樹林で森林動態を学ぶ」	日帰り
78	9	1	横浜国立大学 都市科学部 環境リスク共生学科	1	1	4		6	卒業論文	日帰り
79	9	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
80	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻	2	8	1		11	フィールド科学専修森園管理学実習	清澄宿泊施設
81	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻	2	8	1		11	フィールド科学専修森園管理学実習	日帰り
82	9	1	箱根植木株式会社				2	2	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	日帰り
83	9	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	4				4	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
84	9	1	千葉大学大学院理学研究院	1	1	1		3	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
85	9	1	千葉県庁環境生活部自然保護課				9	9	令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域）	日帰り
86	9	1	千葉大学大学院園芸学研究科			1		1	ヒナノシャクジョウ種子の採取	日帰り
87	9	2	千葉大学理学研究院地球科学	4	5	4		13	地質学野外実験Ⅱ、地殻構造学野外実験Ⅰ	日帰り
88	9	1	一般財団法人自然環境研究センター				2	2	千葉演習林の指定管理（ニホンジカ）・個体数推定（イノシシ）を目的とした自動撮影カメラデータ回収	日帰り
89	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林				5	5	Abies 活動（林道路面手入れ）	日帰り
90	10	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				16	16	有害鳥獣捕獲	日帰り
91	10	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
92	10	31	千葉県庁環境生活部自然保護課				77	77	令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域）	日帰り
93	10	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	2				2	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
94	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2	13			15	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」	日帰り
95	10	1	千葉大学大学院園芸学研究科		1	1		2	調査対象植物（主にセンブリ）のサンプリング	日帰り
96	10	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科			2		2	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査	清澄宿泊施設2
97	10	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			1		1	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査	日帰り
98	10	1	FRIDAY デジタル				1	1	FRIDAY デジタル取材	日帰り
99	10	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	5				5	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
100	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・生圏システム学専攻			16 (7)		16 (7)	生圏システム学特論	日帰り
101	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	1				1	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
102	11	18	鴨川市有害鳥獣対策協議会				18	18	有害鳥獣捕獲	日帰り
103	11	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
104	11	30	千葉県庁環境生活部自然保護課				57	57	令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域）	日帰り
105	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	26				26	技術職員等試験研究・研修会議の開催	清澄宿泊施設
106	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	24				24	技術職員等試験研究・研修会議の開催	日帰り
107	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3		3	(3)	6	森林管理と分子生物学的手法の森林害虫管理への応用に関する研修	日帰り
108	11	1	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻	11		6	(4)	17	研究室の合宿	日帰り
109	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森園管理学研究室	2				2	樹木少数集団の探索技法の開発	日帰り
110	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1				1	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカ等の影響	清澄宿泊施設2
111	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1				1	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカ等の影響	日帰り
112	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	3	15			18	全学体験ゼミ「森のエネルギーを使いこなす」	清澄宿泊施設
113	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	3	15			18	全学体験ゼミ「森のエネルギーを使いこなす」	日帰り
114	11	1	(一財)自然環境研究センター				2	2	イノシシを対象としたRESTモデルの自動撮影カメラ調査にあたってのカメラ撤去	日帰り
115	11	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	4				4	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
116	11	1	箱根植木株式会社				2	2	地域性種苗トレーサビリティ普及促進のための管理手法の研究	日帰り
117	11	1	附属演習林 教育社会連携センター	1		1	(1)	2	温暖地樹に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
118	11	1	千葉県森林インストラクター会				8	8	東大演習林を学ぶ回（植生・自然観察）	日帰り
119	11	2	国土防災技術株式会社				16	16	カブスガードプラスによる獣害対策効果確認試験	日帰り
120	12	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				16	16	有害鳥獣捕獲	日帰り
121	12	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
122	12	9	千葉県庁環境生活部自然保護課				23	23	令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ・県南部区域）	日帰り
123	12	1	四街道市環境経済部振興課				11	11	現地研修会（四街道市森林協議会）	日帰り
124	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4				4	次世代の自然風景地の保護	日帰り
125	12	1	国立台湾大學生物資源および農学院・実験林	9				9	千葉演習林のJ-クレジット取得に関する情報の収集	日帰り
126	12	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	2				2	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	清澄宿泊施設2
127	12	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	2				2	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
128	12	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科				2	2	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査	清澄宿泊施設2

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
129	12	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科				1	1	ナラ枯れ跡地の更新に与えるシカの影響調査	日帰り
130	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林				6	6	Abies 活動（林道路面手入れ）	日帰り
131	12	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
132	12	2	一般財団法人自然環境研究センター				4	4	千葉演習林のニホンジカ生息状況の把握を目的として自動撮影カメラのデータ回収と糞塊密度調査	日帰り
133	12	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科				4	4	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性、東大千葉演習林における種子標本の収集と博物館生体展示への活用	日帰り
134	12	2	株式会社野生動物保護管理事務所				4	4	令和4年度 千葉県業務委託（シカ・キョン生息状況）調査（糞塊調査）	日帰り
135	12	1	こもの工房 KSRIKOMI	1				1	全学体験ゼミ「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」打合せ	日帰り
136	12	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3		2		5	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	清澄宿泊施設2
137	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		1		2	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	日帰り
138	1	8	鴨川市有害鳥獣対策協議会				8	8	有害鳥獣捕獲	日帰り
139	1	10	千葉県環境生活部大気保全課				12	12	化学物質大気環境調査・ダイオキシソ類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
140	1	1	九州大学キャンパス計画室	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
141	1	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
142	1	1	千葉県鳥獣保護管理員				1	1	カモの調査	日帰り
143	1	1	鴨川市教育委員会生涯学習課				20	20	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（巣箱作り編）」	日帰り
144	1	1	国土防災技術株式会社				4	4	カブスガードプラスによる獣害対策効果確認試験	日帰り
145	2	13	鴨川市有害鳥獣対策協議会				13	13	有害鳥獣捕獲	日帰り
146	2	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシソ類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
147	2	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	11	64			75	全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」	日帰り
148	2	1	東京大学大学院森林科学専攻・森林生物地球科学研究室	1				1	新田露場と袋山沢における機器メンテナンス（袋山A堰の砂出し、新田に残置した不要ボトルの回収含む）	日帰り
149	2	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	7		1		8	ナラ枯れ跡地の更新にシカ類の採食圧が及ぼす影響	日帰り
150	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林				5	5	Abies 活動（モウソウチク手入）	日帰り
151	2	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	1				1	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
152	2	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	4		2		6	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	清澄宿泊施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
153	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2		1		3	キョンの密度増加の生態学的メカニズムの解明	日帰り
154	2	1	森林総研関西支所・森林生態研究グループ				1	1	モウソウチクの開花年限試験地における研究情報の整理	清澄宿泊施設
155	3	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				16	16	有害鳥獣捕獲	日帰り
156	3	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査・ダイオキシン類に係る大気環境調査及び非汚染地域大気環境調査	日帰り
157	3	1	茨城大学理学部生物科学領域	4				4	生物野外実習（学部生対象）のための下見	日帰り
158	3	2	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻	2		2 (2)		4 (2)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯蓄量と植栽適地の広域推定の予備踏査	清澄宿泊施設
159	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻	1		1 (1)		2 (1)	スギ・ヒノキ人工林の炭素貯蓄量と植栽適地の広域推定の予備踏査	日帰り
160	3	1	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所・野生動物研究領域	2				2	SFTS に代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ	日帰り
161	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室	2				2	現存量調査の下見・打合せ	日帰り
162	3	1	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹の環境応答の解明	日帰り
163	3	1	立正大学 地球環境学部	1				1	第三紀層における岩盤の侵食と風化	清澄宿泊施設
164	3	1	立正大学 地球環境学部	1				1	第三紀層における岩盤の侵食と風化	日帰り
165	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3				3	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計	1,487 (20)
利用件数	165

2) 北海道演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	30	東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻			30		30	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部国際宿泊施設
2	4	5	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			5		5	ブナの芽鱗痕解析によるブナの開花数の年変動解析	山部宿泊施設
3	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林		2			2	北方針広混交林生態系の順応的管理に関する研究打合せ	山部宿泊施設
4	4	1	富良野市生涯学習センター森林学習サポーター				7	7	樹木園の見学	日帰り
5	4	1	富良野市生涯学習センター	2			13	15	森林学習プログラム推進事業	日帰り
6	4	2	東京都立大学都市環境部	2			2	4	モミ属を加害するキクイムシ類の調査	宿泊なし
7	4	1	NPO 法人富良野自然塾				6	6	東京大学の森育成資金 記念樹の訪問	日帰り
8	5	1	東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻					0	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部国際宿泊施設
9	5	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	3	3		7	エゾモモンガ・ヒメネズミ調査	日帰り
10	5	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物研究室			3		3	雪腐病菌の種構成の解明	山部宿泊施設
11	5	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	3	4		8	エゾモモンガ・ヒメネズミ調査	日帰り
12	5	1	(株)三共コンサルタント				11	11	森林生態系多様性基礎調査	日帰り
13	5	12	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	12				12	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
14	5	2	酪農学園大学農食環境学群	2	4	8		14	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生息密度の関係	宿泊なし
15	5	2	東京大学経営戦略課	2			2	4	北海道演習林の視察	宿泊なし
16	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	4				4	温暖な環境に移植された北方針葉樹のストレス応答評価	宿泊なし
17	6	17	東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻			17		17	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部国際宿泊施設
18	6	30	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	30				30	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
19	6	2	京都大学理学研究科生物科学専攻			2		2	島嶼に生息するコウモリ類の分布パターンと形態適用の研究	山部宿泊施設
20	6	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	3	4		8	エゾモモンガ・ヒメネズミ調査	日帰り
21	6	1	富良野市生涯学習センター				8	8	森林学習プログラム推進事業	日帰り
22	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林				13	13	神社山自然観察路一般公開	日帰り
23	6	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	4	4		9	エゾモモンガ・ヒメネズミ調査	日帰り
24	6	2	森林総合研究所	2				2	天然林管理のためリモートセンシング技術の開発	山部宿泊施設
25	6	4	名古屋大学大学院生命農学研究科	4		4		8	カミキリムシ科昆虫と微生物の共生の進化	セミナーハウス
26	6	2	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	4	8	2		14	十勝・空知地方の地下構造調査	セミナーハウス

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
27	6	1	山部商工会青年部				13	13	富良野ブロック商工会青年部 研修会	日帰り
28	6	1	長野県林業大学校	2	20			22	令和4年度 長野県立林業大学校 校外研修	宿泊なし
29	6	1	富良野ブルーリッジ				10	10	富良野ブルーリッジ研修	日帰り
30	6	1	北海道立総合森林機構 森林研究本部	3	2	4	18	27	林分施業法に基づく広葉樹資源の育成・管理・利用	日帰り
31	7	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林				31	31	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
32	7	2	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	4	2	8		14	十勝・空知地方の地下構造調査	セミナーハウス
33	7	4	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			4 (4)		4 (4)	Monitoring and assessment of production forests under selection system by using UAV remote sensing in combination with Deep Learning (DL) approach	山部宿泊施設
34	7	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	3	4		8	エゾモモンガ・ヒメズミ調査	日帰り
35	7	1	富良野市総務部				3	3	東京大学北海道演習林の概要調査	日帰り
36	7	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	3	4		8	エゾモモンガ・ヒメズミ調査	日帰り
37	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	3		12 (6)		15 (6)	持続的森林圏経営論	セミナーハウス
38	7	19	東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻			19		19	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部宿泊施設
39	7	1	富良野市生涯学習センター	7			9	16	森林学習プログラム推進事業	日帰り
40	7	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科	4				4	感性と倫理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォーレストに関する研究	山部宿泊施設
41	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	2				2	地上及び航空機レーザ計測を利用した林分構造パラメータ導出技術の開発に関する研究	山部宿泊施設
42	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物研究室			3		3	雪腐病菌の種構成の解明	山部宿泊施設
43	7	2	株式会社地域環境計画北海道支社				4	4	「令和4年度 再生可能エネルギー資源発掘・創生のための情報システム整備に向けた植生調査植生図作成委託業務」	宿泊なし
44	7	4	東京都立大学都市環境部	4			4	8	モミ属を加害するキクイムシ類の調査	山部宿泊施設
45	7	1	酪農学園大学農食環境学群		1	2		3	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生息密度の関係	日帰り
46	7	3	名古屋大学大学院農学生命科学研究科	3		3		6	カミキリムシ科昆虫と微生物の共生の進化	山部宿泊施設
47	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1				1	森林生態系におけるコウチュウ目-微生物群集共生系の共進化動態解析	宿泊なし
48	8	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	31				31	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
49	8	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	3	3		7	エゾモモンガ・ヒメズミ調査	日帰り
50	8	3	北海道札幌啓成高等学校	6			36	42	北海道札幌啓成高等学校SSH道内研修B（自然環境）	セミナーハウス
51	8	1	酪農学園とわの森三愛高校	2			10	12	道内研修	日帰り
52	8	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	3	4		8	エゾモモンガ・ヒメズミ調査	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
53	8	1	北海道立北の森づくり専門学院		1			1	北海道演習林職場見学会参加のため	日帰り
54	8	3	東京大学新領域創成科学研究科			9		9	ミヤマハンノキの外生菌根菌群集構造	山部宿泊施設
55	8	1	富良野市生涯学習センター	2			4	6	森林学習プログラム推進事業	日帰り
56	8	1	富良野市生涯学習センター	3			29	32	博物館講座「見学会 東大演習林をめぐり」開催	日帰り
57	8	4	東京大学農学・資源経済学専攻	4				4	林分施業法に関する見学と研究打合せ	山部宿泊施設
58	8	2	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	4	2	6		12	十勝・空知地方の地下構造調査	日帰り
59	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻	3				3	天然林における樹齢情報と生存時間解析に基づく伐採木の剪定	宿泊なし
60	8	2	北海道立総合研究機構	6			14	20	富良野の高校生による水源探訪フィールドワーク	日帰り
61	8	8	北海道大学大学院環境科学院	8		14		22	河川環境が水族寄生虫相に及ぼす影響についての研究	宿泊なし
62	8	1	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	1		1		2	十勝・空知地方の地下構造調査	日帰り
63	8	15	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	15				15	横打撃共振法を用いた北方林業樹種の樹冠内腐朽非破壊簡易診断技術の確立	山部宿泊施設
64	8	11	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	16	11	22 (11)		49 (49)	地上及び航空機レーザ計測を利用した林分構造パラメータ導出技術の開発に関する研究	セミナーハウス
65	8	7	東京大学工学系研究科	7				7	東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」	山部宿泊施設
66	8	1	富良野市生涯学習センター	2			4	6	森林学習プログラム推進事業	日帰り
67	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	8	28			36	全学体験ゼミ「森に学ぶ（ふらの）」	山部宿泊施設
68	8	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	41		3		44	エゾモモンガ・ヒメリス調査	日帰り
69	8	1	旭川森林ボランティア倶楽部				10	10	優良人工林等の視察	日帰り
70	8	3	東京大学工学部		3			3	東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」	山部宿泊施設
71	8	1	富良野市生涯学習センター	4		4	23	31	森林学習プログラム推進事業	日帰り
72	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	2	2	4 (4)		8 (4)	トドマツ分離集団の成長分析と接ぎ穂採取	宿泊なし
73	8	1	北海道新聞社富良野支局				1	1	樹海小森林学習の取材	日帰り
74	9	30	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林			30		30	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
75	9	2	東京大学工学部		2			2	東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」	山部宿泊施設
76	9	1	富良野市生涯学習センター	2	1			3	博物館事業「湿地林植生調査」	日帰り
77	9	2	帯広畜産大学生命科学研究部門	2	7	6		15	エゾモモンガ・ヒメリス調査	日帰り
78	9	1	一般財団法人C.W.エコ・ル・アソシエの森財団	2			4	6	東京大学北海道演習林 現地研修	日帰り
79	9	2	東京大学理学系研究科附属植物園	14		2	4	20	理学系研究科附属植物園におけるロックガーデンの種数の充実	山部宿泊施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設	
80	9	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	4	32			36	森林科学総合実習	セミナーハウス	
81	9	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1		3		4	エゾ・モモンガ・ヒメリス調査	日帰り	
82	9	2	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	4		2		6	十勝・空知地方の地下構造調査	山部宿泊施設	
83	9	1	富良野市生涯学習センター	1			3	4	「どろ亀さん、ニコルさんの森づくりを語る」コーディネーターの森林見学	日帰り	
84	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林				16	16	大麓山ハイキング登山会	日帰り	
85	9	1	富良野市生涯学習センター				20	20	ふらの文化財めぐり	日帰り	
86	9	1	北海道立総合研究機構林業試験場				3	3	水資源開発・管理のための支援システム「水資源Navi」の開発	日帰り	
87	9	1	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター	1		1		2	十勝・空知地方の地下構造調査	日帰り	
88	9	1	北海道富良野緑峰高等学校	2			5	7	園芸科学科3年選択科目「園芸デザイン」	日帰り	
89	9	5	東京藝術大学美術学部			10		10	森林空間美についての研究	山部宿泊施設	
90	9	1	(株)三共コンサルタント				3	3	森林生態系多様性基礎調査	日帰り	
91	9	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	1	1	1		3	エゾ・モモンガ・ヒメリス調査	日帰り	
92	9	1	グライフスヴァルト大学			1	1	2	ハンノキ類3種の穂果とヒカゲノカズラ類3種の一部を採取する	宿泊なし	
93	9	3	東京大学工学系研究科			3		3	東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」	山部宿泊施設	
94	9	1	富良野市生涯学習センター	5	2		11	18	森林学習プログラム推進事業	日帰り	
95	9	3	はまぎんこども宇宙科学館				9	9	わくわく研究所見学ツアー	山部宿泊施設	
96	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	3				3	温暖な環境に移植された北方針葉樹のストレス応答評価	宿泊なし	
97	9	1	公益財団法人アイヌ民族文化財団				3	3	アイヌ伝統の丸太舟・板級船の技術伝承及び展示・体験交流活動について	日帰り	
98	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒やしの森研究所	4		4	(2)	8	(2)	カラマツ林のリモートセンシングとDNA解析	宿泊なし
99	9	2	森林総合研究所	2				2	樹木の環境適応に土壤微生物群集が果たす役割の解明	山部宿泊施設	
100	10	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	31				31	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設	
101	10	1	旭川の歴史的建物の保存を考える会				26	26	歴史的建造物富良野方面見学会	日帰り	
102	10	9	東京大学教養学科		9			9	東京大学体験活動プログラム「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」	山部宿泊施設	
103	10	2	帯広畜産大学生命科学研究部門	2	4	7		13	エゾ・モモンガ・ヒメリス調査	日帰り	
104	10	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4				4	長期生態系データ生物部門脊椎動物グループによる魚類相調査	山部宿泊施設	
105	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物研究室	2	2			4	雪腐病菌の種構成の解明	山部宿泊施設	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
106	10	1	帯広畜産大学生命科学研究部門	10		3		13	エゾモンガ・ヒメズミ調査	日帰り
107	10	1	北海道水産林務部林務局				17	17	「森の魅力発信し隊」による東大演習林セミナー	宿泊なし
108	10	1	北海道大学大学院環境科学院	1		1		2	河川環境が水族寄生虫相に及ぼす影響についての研究	日帰り
109	10	2	北海道立北の森づくり専門学院	6			72	78	天然林施業実習	日帰り
110	10	2	北海道大学低温科学研究所	2		2		4	エゾマツの生息状況の調査	山部宿泊施設
111	10	1	富良野市生涯学習センター	4		1	12	17	森林学習プログラム推進事業	日帰り
112	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物研究室				3	3	雪腐病菌の種構成の解明	山部宿泊施設
113	10	1	富良野市生涯学習センター	2			7	9	森林学習プログラム推進事業	日帰り
114	10	2	株式会社セ・プラン				6	6	林野庁委託「度森林吸収源イベント」情報整備事業土壌等調査	日帰り
115	10	1	アジア航測株式会社				13	13	2022年度課題別研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」コース	日帰り
116	10	10	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			10 (10)		10 (10)	Estimation of Forest Carbon Stocks using a Combination of Field Measurement, LiDAR and UAV Technology - Implications for REDD+ Monitoring	山部宿泊施設
117	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	4				4	トマツ分離集団の成長分析	宿泊なし
118	10	2	住友林業株式会社				8	8	植林放棄地及び長伐期植林の炭素蓄積について	宿泊なし
119	11	1	はまぎんこども宇宙科学館				3	3	わくわく研究所見学ツアー	日帰り
120	11	30	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	30				30	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
121	11	1	森づくりの仲間たち協議会				2	2	マツ類の実の採取	日帰り
122	11	2	北海道大学大学院環境科学院	2		2		4	河川環境が水族寄生虫相に及ぼす影響についての研究	日帰り
123	11	2	東京都立大学都市環境部	2				2	モミ属を加害するキクイムシ類の調査	宿泊なし
124	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒やしの森研究所	6		6		12	カラマツ林のリモートセンシングとDNA解析	宿泊なし
125	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構	2				2	気候変動が北方針葉樹3種の苗木の生存と成長に及ぼす影響評価	宿泊なし
126	11	2	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	10				10	銘木市生産土場の見学と意見交換	山部宿泊施設
127	11	1	北海道森林管理局網走中部森林管理署	10				10	林政研究会北海道支部 第3回勉強会	日帰り
128	11	2	酪農学園大学農食環境学群	4	4			8	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生息密度の関係	山部宿泊施設
129	11	10	東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻	10				10	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部国際宿泊施設
130	11	1	北海道地方環境事務所	3			1	4	猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守	日帰り
131	12	31	東京大学大学院農学研究科生圏システム学専攻			31		31	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部国際宿泊施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
132	12	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	31				31	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
133	12	24	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林流域管理学的研究室			24 (24)		24 (24)	修士論文「人工林間伐が河川流量に及ぼす影響」に関する集中打合せ	山部宿泊施設
134	12	1	北海道地方環境事務所				3	3	猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守	日帰り
135	12	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	9		21		30	大学院講義「森林流域管理学」	セミナーハウス
136	12	1	北海道地方環境事務所				3	3	猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守	日帰り
137	12	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	9		21 (21)		30 (21)	大学院講義「森林流域管理学」	セミナーハウス
138	1	31	東京大学大学院農学研究科生態システム学専攻			31		31	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部国際宿泊施設
139	1	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	31				31	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
140	1	1	北海道地方環境事務所				3	3	猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守	日帰り
141	1	1	株式会社ヒートワン				4	4	RA-5号物件の伐採業の動画・制止画撮影	日帰り
142	2	28	東京大学大学院農学研究科生態システム学専攻			28		28	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部国際宿泊施設
143	2	28	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	28				28	針葉樹と落葉広葉樹の環境変化応答性に違いの評価	山部国際宿泊施設
144	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林				10	10	ぶらり東大の森さんぽ ～冬の樹木園を歩こう～	日帰り
145	2	9	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			9 (9)		9 (9)	Classification of the composition of mixed conifer-broadleaf forests by integr-ating Unmanned Aerial Vehicle (UAV) imagery and machine learning algorithm	山部宿泊施設
146	2	9	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			9 (9)		9 (9)	Estimation of Forest Carbon Stocks using a Combination of Field Measurement, LiDAR and UAV Technology - Implications for REDD+ Monitoring	山部宿泊施設
147	2	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	2				2	トマツ採種園における構成クローンの特性評価と花粉流動の実態解析	宿泊なし
148	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林		19			19	教養学部全学体験ゼミナール 雪の森林に学ぶ	セミナーハウス
149	3	8	東京大学大学院農学研究科生態システム学専攻			8		8	コウモリの食性を明らかにするための捕獲及び分析調査	山部国際宿泊施設
150	3	3	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			3 (3)		3 (3)	Classification of the composition of mixed conifer-broadleaf forests by integr-ating Unmanned Aerial Vehicle (UAV) imagery and machine learning algorithm	山部宿泊施設
151	3	3	東京大学農学生命科学研究科農学国際専攻			3 (3)		3 (3)	Estimation of Forest Carbon Stocks using a Combination of Field Measurement, LiDAR and UAV Technology - Implications for REDD+ Monitoring	山部宿泊施設
152	3	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林		38			38	教養学部全学体験ゼミナール 雪の森林に学ぶ	セミナーハウス

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
153	3	1	富良野市生涯学習センター				24	24	博物館事業・富良野の自然に親しむ集い	日帰り
154	3	1	酪農学園大学農食環境学群	1	1	1		3	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生息密度の関係	日帰り
155	3	1	富良野市生涯学習センター	3				3	森林学習プログラム推進事業	日帰り
156	3	7	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	7				7	教育・研究に必要な実験器具・資材・標本の搬出および不要物品の廃棄	山部宿泊施設
157	3	1	富良野市生涯学習センター				6	6	森林学習プログラム推進事業	日帰り
158	3	1	森林総合研究所	1				1	カバノキ類の着花結実動態に関する研究調査	日帰り
159	3	1	酪農学園大学農食環境学群	1	2	1		4	ヒグマのマーキング行動の複雑さと生息密度の関係	日帰り
160	3	3	東京大学大学院理学系研究科	3				3	温暖な環境に移植された北方針葉樹のストレス応答評価	宿泊なし
161	3	4	雲南大学	4				4	日本と中国におけるブナ科群集の分布パターンおよび堅果の多様性に関する研究	日帰り

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計	1,924 (106)
利用件数	161

3) 秩父演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1		1	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
2	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室	4				4	森林生態系におけるコウチュウ目-微生物群集共生系の共進化動態解析	日帰り
3	4	1					11	11	大学演習林における森林科学研究教育を学ぶ	日帰り
4	4	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター	1			1	2	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
5	4	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	4		1 (1)		5 (1)	感性与論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	日帰り
6	4	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			11 (11)		11 (11)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
7	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
8	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2				2	全国多地点におけるコナラ丸太の分解と生物間相互作用	日帰り
9	4	1	(株)ゼロステーション				1	1	NHK 総合「生き物新伝説 ダーウィンが来た! ニホンオオカミ編」取材のため	日帰り
10	4	1	埼玉県立川の博物館				2	2	ヒガシヒダサンショウウオの生息調査	日帰り
11	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1		1	3	5	暗色雪腐病菌の伝播・繁殖様式の解明	日帰り
12	4	1	埼玉県茶業研究所	3				3	茶樹の山間冷涼地育種	日帰り
13	4	1					1	1	鳥類群集の動態、ミズナラの結実特性、長期生態系	日帰り
14	4	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			3 (3)		3 (3)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
15	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
16	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			2		2	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
17	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	1				1	ヒナウチワカエデ・コハウチワカエデの交雑に関する研究	日帰り
18	5	2	特定非営利活動法人バードリサーチ	2				2	鳥類調査	川俣自炊 宿舎
19	5	2	特定非営利活動法人バードリサーチ	2				2	鳥類調査	日帰り
20	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			1		1	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
21	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2		1 (1)		3 (3)	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
22	5	8	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			8		8	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
23	5	23	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			23		23	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
24	5	1	埼玉県寄居林業事務所	3				3	森林資源モニタリング調査	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
25	5	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
26	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
27	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			2		2	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	外部宿泊
28	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			2		2	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
29	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
30	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	2	4		7	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	外部宿泊
31	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	4	2		8	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	日帰り
32	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2		1 (1)		3 (1)	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
33	5	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
34	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		6		7	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」第1回現地講義	川俣学生 宿舎（食 事あり）
35	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		6		7	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」第1回現地講義	日帰り
36	5	3					3	3	鳥類群集の長期生態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	日帰り
37	5	1	秩父市環境部森づくり課				6	6	ケヤキ人工林植栽地の施業方法視察	日帰り
38	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	4	2		8	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	外部宿泊
39	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	2	1		4	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	日帰り
40	5	8	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			8 (8)		8 (8)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
41	5	7	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			7		7	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り
42	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			1		1	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
43	6	30	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			30		30	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
44	6	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	6				6	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
45	6	1	日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター	3			2	5	森林の下層土壌における炭素・窒素循環の解明	日帰り
46	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	7			9	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	外部宿泊
47	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	3			4	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	日帰り
48	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			2 (2)		2 (2)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
49	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
50	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		12			12	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」第2回現地講義	日帰り
51	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻生物環境情報工学研究室	4				4	リアルタイム・ハンドベル 3D イメージャーを用いた樹木のアロメトリー式非破壊推定方法の開発	川俣学生宿舎（食事あり）
52	6	1	埼玉県寄居林業事務所	3				3	森林資源モニタリング調査	日帰り
53	6	1	特定非営利活動法人バードリサーチ	1				1	鳥類調査	日帰り
54	6	9	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			9 (9)		9 (9)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊宿舎
55	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
56	6	8	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻			8		8	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
57	6	1	新潟県佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
58	6	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	オゾン濃度計回収及びミヤマスカシユリの鉢の確認	日帰り
59	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻			2		2	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	外部宿泊
60	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻			2		2	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
61	6	1					1	1	鳥類群集の長期生態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	テント・幕営
62	6	1	埼玉県環境科学国際センター	1				1	資材撤去作業	日帰り
63	6	1	埼玉県茶業研究所	3				3	茶樹の山間冷涼地育種	日帰り
64	6	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊宿舎
65	6	1					17	17	しおじの会と東大秩父演習林を歩こう	日帰り
66	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2				2	感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	日帰り
67	6	1	埼玉県寄居林業事務所	3				3	森林資源モニタリング調査	日帰り
68	7	7	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻			7		7	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	影森自炊宿舎
69	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻			1		1	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
70	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4				4	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
71	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻生物環境情報工学研究室	4				4	リアルタイム・ハンドベル 3D イメージャーを用いた樹木のアロメトリー式非破壊推定方法の開発	日帰り
72	7	4	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻			4		4	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
73	7	1	秩父観光協会大滝支部				54	54	入川溪谷ハイキング（秩父トレイルハイキング）	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
74	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
75	7	1	ニホンオオカミを探す会				2	2	ニホンオオカミの生存を確認する作業	日帰り
76	7	1	埼玉県寄居林業事務所	3				3	森林資源モニタリング調査	日帰り
77	7	1	特定非営利活動法人バードリサーチ	1				1	鳥類調査	日帰り
78	7	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			11 (11)		11 (11)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
79	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
80	7	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
81	7	1					1	1	鳥類群集の長期生態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	テント・ 幕営
82	7	1					1	1	鳥類群集の長期生態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	日帰り
83	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学専攻	1				1	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	日帰り
84	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	2		4		6	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	外部宿泊
85	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1		2		3	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り
86	7	1	埼玉県寄居林業事務所	2				2	森林資源モニタリング調査	日帰り
87	7	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
88	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
89	7	1	東京大学秩父演習林	1			7	8	公開講座「東大の森林で昆虫採集」	日帰り
90	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	3	38	2		43	森林科学基礎実習Ⅲ	栃本自炊 宿舎
91	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	1	19	1		21	森林科学基礎実習Ⅲ	日帰り
92	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4	(1)			4 (1)	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
93	8	4	明治大学黒曜石研究センター	49	4	4	1	58	「土器に残る動植物痕跡の形態学的研究」遂行のための現生植物標本採集	川俣学生 宿舎（食 事あり）
94	8	1	明治大学黒曜石研究センター	12	1	1	1	15	「土器に残る動植物痕跡の形態学的研究」遂行のための現生植物標本採集	日帰り
95	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	4			6	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	外部宿泊
96	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	2			3	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	日帰り
97	8	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
98	8	1	埼玉県茶業研究所	3				3	茶樹の山間冷涼地育種	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
99	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林植物学研究室	1		1 (1)		2 (1)	スギ・ヒノキに共生する菌根菌の多様性と林床植物との菌根菌ネットワークの解明	日帰り
100	8	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
101	8	1	森林総合研究所	2			1	3	植物バイオマスを構成する酸素・水素の起源としての葉面吸収水の役割解明	日帰り
102	8	1	東京大学空間情報科学研究センター		1			1	山地流域の土層が洪水流出に与える影響の検討	日帰り
103	8	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	オゾン濃度計回収及びミヤマスカシユリの鉢の確認	日帰り
104	8	1	埼玉県寄居林業事務所	2				2	森林資源モニタリング調査	日帰り
105	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	外部宿泊
106	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り
107	8	1	秋田県立大学生物資源科学部	1				1	冷温帯域に植栽された落葉広葉樹の成長特性の解明	外部宿泊
108	8	1					1	1	鳥類群集の長期動態、スズタケ結実、シカ個体群動態との解明	テント・ 幕営
109	8	1					1	1	鳥類群集の長期動態、スズタケ結実、シカ個体群動態との解明	日帰り
110	8	9	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			9 (9)		9 (9)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
111	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1		1	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
112	8	9	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			9		9	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	影森自炊 宿舎
113	8	1	埼玉県秩父農林振興センター				20	20	入山地区に整備された作業道の視察	日帰り
114	8	1	埼玉県寄居林業事務所	2				2	森林資源モニタリング調査	日帰り
115	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			3 (3)		3 (3)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
116	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4				4	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
117	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻	4	42	4		50	バイオマス科学実習・森林科学実習	外部宿泊
118	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物材料科学専攻	2	21	2		25	バイオマス科学実習・森林科学実習	日帰り
119	9	29	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			29		29	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	影森自炊 宿舎
120	9	9	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
121	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
122	9	2	東京大学空間情報科学研究センター			4		4	山地流域の土層が洪水流出に与える影響の検討	栃本自炊 宿舎
123	9	1	東京大学空間情報科学研究センター			2		2	山地流域の土層が洪水流出に与える影響の検討	日帰り
124	9	1	埼玉県寄居林業事務所	2				2	森林資源モニタリング調査	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
125	9	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
126	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
127	9	1	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	1				1	森林土壌微生物群集の機能と環境応答の広域スケール応答と空間スケール依存性の解明	日帰り
128	9	18	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			18		18	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
129	9	6	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			6		6	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
130	9	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
131	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	1				1	全国多地点におけるコナラ丸太の分解と生物間相互作用	日帰り
132	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3	7	3		13	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	外部宿泊
133	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	5	2		9	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	日帰り
134	9	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
135	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
136	9	1	埼玉県寄居居林業務所	1				1	森林資源モニタリング調査	日帰り
137	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1	1		2	2022年度国際農学実験・実習Ⅰ 森林圏生態学研究室個別実験「シカ問題と森林の未来」	川俣学生 宿舎（食 事あり）
138	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1	1		2	2022年度国際農学実験・実習Ⅰ 森林圏生態学研究室個別実験「シカ問題と森林の未来」	日帰り
139	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2				2	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
140	10	31	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			30		30	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
141	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室	2	1	2		5	針葉樹人工林調査	川俣学生 宿舎（食 事あり）
142	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林経理学研究室	2		2		4	針葉樹人工林調査	日帰り
143	10	1					1	1	鳥類群集の長期動態、スズタケ結実、シカ個体群動態との関係解明	日帰り
144	10	2	東京大学空間情報科学研究センター			2		2	山地流域の土層が洪水流出に与える影響の検討	栃本自炊 宿舎
145	10	1	東京大学空間情報科学研究センター			1		1	山地流域の土層が洪水流出に与える影響の検討	日帰り
146	10	1	埼玉県寄居居林業務所	2				2	森林資源モニタリング調査	日帰り
147	10	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (1)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
148	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
149	10	7	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			7		7	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
150	10	1	日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター	3			2	5	森林の下層土壌における炭素・窒素循環の解明	日帰り
151	10	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2				2	感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	日帰り
152	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林・教育社会連携センター	4				4	温暖地域に移植した北方針葉樹3種の生残と成長	日帰り
153	10	1	ニホンオオカミを探索会				2	2	絶滅したとされるニホンオオカミの生存を確認する作業	日帰り
154	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻		1			1	ヒナウチワカエデ・コハウチワカエデの交雑に関する研究	日帰り
155	10	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
156	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
157	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		14	14		28	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」現地講義	川俣学生 宿舎（食 事あり）
158	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		14	14		28	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」現地講義	日帰り
159	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1		1		2	秩父山地における水安定同位体比を用いた降雨一流出過程の解明	外部宿泊
160	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1 (1)				1 (1)	秩父山地における水安定同位体比を用いた降雨一流出過程の解明	日帰り
161	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	6			8	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	外部宿泊
162	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	3			4	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	日帰り
163	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2				2	JICA 研修（森林管理と分子生物的手法の森林害虫への応用に関する研修）	外部宿泊
164	10	1	東京大学大学院総合文化研究科国際環境科学機構	1	12	1 (1)		14 (1)	国際環境科学コース「環境科学フィールドワーク2」	川俣学生 宿舎（食 事あり）
165	10	1	東京大学大学院総合文化研究科国際環境科学機構	1	12	1 (1)		14 (1)	国際環境科学コース「環境科学フィールドワーク2」	日帰り
166	10	5	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			5		5	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り
167	11	14	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			14		14	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	影森自炊 宿舎
168	11	7	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			8		8	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
169	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林・教育社会連携センター	1	1	1		3	温暖地域に移植した北方針葉樹3種の生残と成長	日帰り
170	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4				4	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	外部宿泊

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
171	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	2				2	ナラ枯れにおける植物-菌-昆虫3者関係のフェノロジーと樹木の枯死の関係	日帰り
172	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1			1	2	JICA 研修（森林管理と分子生物的手法の森林害虫への応用に関する研修）	日帰り
173	11	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
174	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
175	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			1		1	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	外部宿泊
176	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			1		1	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	日帰り
177	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	8			10	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	外部宿泊
178	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	4			5	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が土壌レガシー効果を引き起こすメカニズム	日帰り
179	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林森林圏生態社会学研究室	6		15 (15)		21 (15)	演習林森林圏生態社会学研究室ゼミ	川俣学生 宿舎（食 事あり）
180	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林森林圏生態社会学研究室	5		16 (15)		21 (15)	演習林森林圏生態社会学研究室ゼミ	日帰り
181	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室	1				1	間伐無間伐による植生の変化や経年推移	外部宿泊
182	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室	1				1	間伐無間伐による植生の変化や経年推移	日帰り
183	11	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
184	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林・教育社会連携センター	4			2	6	温暖地域に移植した北方針葉樹3種の生残と成長	外部宿泊
185	11	1	秩父演習林				6	6	公開講座「樹木のボディランゲージ」	日帰り
186	11	1	しおじの会				21	21	しおじの会と巡る東大演習林樹木園	日帰り
187	11	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
188	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
189	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室	2				2	森林生態系におけるコウチュウ目-微生物群集共生系の共進化動態解析	日帰り
190	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属技術基盤センター	5				5	2022年度附属技術基盤センター集合研修	日帰り
191	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2				2	全学体験ゼミナール「森と人を紡ぎ直す感性と技術の方法論」	日帰り
192	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻			2		2	人間活動が中型食肉類の生息地選択と集団構造に及ぼす影響	外部宿泊

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
193	11	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科生圏 システム学専攻			2		2	人間活動が中型食肉類の生息地選択と 集団構造に及ぼす影響	日帰り
194	11	2					2	2	ミズナラ結実の動態	日帰り
195	11	3	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻			3		3	カエデ属の多様化機構の分布境界の形 成過程	影森自炊 宿舎
196	11	2	カエデ属の多様化機 構の分布境界の形成 過程			2 (2)		2 (2)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
197	11	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻			1 (1)	1	2 (1)	シカによる森林の植生衰退が鳥類の種 子散布ネットワークに及ぼす影響	日帰り
198	12	27	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻			27		27	カエデ属の多様化機構の分布境界の形 成過程	影森自炊 宿舎
199	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻			1		1	カエデ属の多様化機構の分布境界の形 成過程	日帰り
200	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科生 物・環境工学専攻環 境情報工学研究室	4				4	リアルタイム・ハンドヘルド3Dイメ ージャーを用いた樹木のアロメトリー 式非破壊推定方法の開発	外部宿泊
201	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科生 物・環境工学専攻環 境情報工学研究室	4				4	リアルタイム・ハンドヘルド3Dイメ ージャーを用いた樹木のアロメトリー 式非破壊推定方法の開発	日帰り
202	12	8	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林			8 (8)		8 (8)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
203	12	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林秩父演習林		3	4		7	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が 土壌レガシー効果を引き起こすメカニ ズム	影森自炊 宿舎
204	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林秩父演習林		1	2		3	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が 土壌レガシー効果を引き起こすメカニ ズム	日帰り
205	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科生物 材料科学専攻生物素 材科学研究室	1		1		2	樹皮のパターン形成メカニズムの解明 と数理モデル化	日帰り
206	12	1	埼玉県川の博物館	1			1	2	ヒガシヒダサンショウウオの生息調査	日帰り
207	12	1					1	1	ミズナラ結実の動態	日帰り
208	12	1	新潟大学佐渡自然共 生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
209	12	11	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林			11 (11)		11 (11)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
210	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
211	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林北海道演習林	1				1	全国多地点におけるコナラ丸太の分解 と生物間相互作用	日帰り
212	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林・教育社会連 携センター	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹3種の 生残と成長	日帰り
213	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
214	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林			1 (1)		1 (1)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
215	1	1	特定非営利活動法人 パードリサーチ				1	1	鳥類調査	川俣自炊 宿舎

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
216	1	1	特定非営利活動法人 バードリサーチ				1	1	鳥類調査	日帰り
217	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林北海道演習林	1				1	全国多地点におけるコナラ丸太の分解 と生物間相互作用	日帰り
218	1	1	新潟大学佐渡自然共 生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
219	1	1	秩父市環境市民会議				35	35	環境セミナー「冬芽の観察～樹木の冬 の姿を見に行こう～」	日帰り
220	1	1	奥秩父山塊イヌワシ 調査グループ				2	2	奥秩父山地におけるニホンイヌワシの 生息繁殖調査	日帰り
221	1	8	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林			8 (8)		8 (8)	樹木腐朽の生物防除に関する研究	影森自炊 宿舎
222	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林			1		1	樹木腐朽の生物防除に関する研究	日帰り
223	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林秩父演習林	1	2			3	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が 土壌レガシー効果を引き起こすメカニ ズム	外部宿泊
224	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林秩父演習林	1	2			3	植生衰退に伴う土壌微生物叢の変化が 土壌レガシー効果を引き起こすメカニ ズム	日帰り
225	1	1	埼玉県環境科学国際 センター	2				2	ミヤマスカシユリの維持に関する調査	日帰り
226	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林・教育社会連 携センター	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹3種の 生残と成長	日帰り
227	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻			1		1	カエデ属の多様化機構の分布境界の形 成過程	影森自炊 宿舎
228	1	1	ニホンオオカミを探 す会				2	2	ニホンオオカミの生存を確認する作業	日帰り
229	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林生態水文学研 究所	2		9 (8)		11 (8)	大学院講義「森林圏管理システム学」 野外講義	日帰り
230	2	1	特定非営利活動法人 バードリサーチ				1	1	鳥類調査	川俣自炊 宿舎
231	2	1	特定非営利活動法人 バードリサーチ				1	1	鳥類調査	日帰り
232	2	28	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻			28		28	カエデ属の多様化機構の分布境界の形 成過程	影森自炊 宿舎
233	2	1	新潟大学佐渡自然共 生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
234	2	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林・教育社会連 携センター	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹3種の 生残と成長	日帰り
235	3	16	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻			16		16	カエデ属の多様化機構の分布境界の形 成過程	影森自炊 宿舎
236	3	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 科学専攻			1		1	カエデ属の多様化機構の分布境界の形 成過程	日帰り
237	3	1	新潟大学佐渡自然共 生科学センター				1	1	シオジの開花結実特性の研究	日帰り
238	3	1	特定非営利活動法人 バードリサーチ	1				1	鳥類調査	日帰り
239	3	1	奥秩父山塊イヌワシ 調査グループ				3	3	奥秩父山地におけるニホンイヌワシの 生態繁殖調査	日帰り
240	3	1	埼玉県茶業研究所	3				3	茶樹の山間冷涼地育種	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
241	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林・教育社会連携センター	1				1	温暖地域に移植した北方針葉樹3種の生残と成長	日帰り
242	3		東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			4		4	外来種キョンの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム	影森自炊 宿舎
243	3		東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻			1		1	外来種キョンの密度増加を引き起こす生態学的メカニズム	日帰り
244	3		東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1				1	感性と論理の融合アプローチにより森と人を紡ぎ直すサイバーフォレストに関する研究	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計	1,448 (253)
利用件数	244

4) 田無演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1		2 (1)		3 (1)	修士論文「樹木の水分通導フェノロジーと萎凋病の病徴発現」 修士課程1年 黄 文倩	
2	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1		1		2	修士論文「RNA抽出に必要なスギの根端量の検討」 修士課程1年 小林 裕子	
3	4	1	東京都立大学都市環境学部観光科学科	1				1	モチノキ属の種子を加害する昆虫に関する研究	
4	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	植林による土壌微生物相の維持・変遷のメカニズム	
5	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	2	18			20	森林科学基礎実習 I	
6	4	7	高知大学大学院農林海洋科学専攻生物多様性管理学研究室			7		7	修士論文 修士課程1年 神田 旭 テントウムシのサンプリング	
7	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響	
8	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会・連携センター	2				2	日本産、韓国産、台湾産ヒノキの遺伝系統学的研究	
9	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	Raffaelea Quercivora 株の病原力確認のための接種試験	
10	4	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス (仮称) 整備計画 モニタリング調査	
11	4	2	東大農場・演習林の存続を願う会				1	1	演習林内生物 (動植物) 観察・調査・記録	
12	4	1	東久留米・ホテルを呼び戻す会				1	1	活動相談・本の寄贈	
13	4	1	練馬区立関町リサイクルセンター				16	16	見学	
14	4	1	一般個人見学者				156	156	見学(ガイドツアー26人、一般見学130人)	
15	4	1	NPO 法人善福寺水と緑の会				2	2	見学6/10 (4/17 休日公開日に下見、打合せ)	
16	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	4	6			10	全学体験セミナー「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」の現地講義	
17	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	植林による土壌微生物相の維持・変遷のメカニズム	
18	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	6				6	長期生態系生物部門鳥類分野による鳥類調査	
19	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	2	18	2		22	森林科学基礎実習 I	
20	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会・連携センター	1				1	日本産、韓国産、台湾産ヒノキの遺伝系統学的研究	
21	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1		1 (1)		2 (1)	Raffaelea Quercivora 株の病原力確認のための接種試験	
22	5	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス (仮称) 整備計画 モニタリング調査	
23	5	1	東大農場・演習林の存続を願う会				8	8	演習林内生物 (動植物) 観察・調査・記録	
24	5	1	一般個人見学者				113	113	見学(ガイドツアー28人、一般見学85人)	
25	5	1	千葉 j 県立流山高等学校園芸科 1~3 年生	1				1	実験用アカマツ苗の分譲 (丹下先生の紹介)	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
26	5	2	西東京市立谷戸小学校1年	9			62	71	生活科見学(5/17下見)	
27	5	1	実践学園中学校(1年)	8			121	129	校外授業	
28	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				12	12	2022年度田無演習林森林教育パートナー研修	
29	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室	2	1			3	森林経理学実習	
30	5	1	森林総合研究所 関西支所 京都	1				1	研究打合せ	
31	5	1	西東京消防署西原出張所				2	2	保全施設2の危険物貯蔵庫完成検査	
32	5	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林			11		11	修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
33	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1	(1)			1 (1)	修士論文「樹木の水分通導フェノロジーと萎凋病の病徴発現」 修士課程1年 黄 文倩	
34	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	2	3	1		6	全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」の現地講義	
35	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	植林による土壌微生物相の維持・変遷のメカニズム	
36	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3				3	長期生態系生物部門鳥類分野による鳥類調査	
37	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	1	15			16	講義「森林遺伝育種学」における樹木品種の現地講義	
38	6	1	学習院大学理学部生命科学研究科生物遺伝資源学研究室			2		2	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	
39	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会・連携センター	2				2	DNA マーカーを用いた田無のスギ品種展示林の識別と整理	
40	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会・連携センター	2				2	日本産、韓国産、台湾産ヒノキの遺伝系統学的研究	
41	6	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス(仮称)整備計画 モニタリング調査	
42	6	1	東大農場・演習林の存続を願う会				8	8	演習林内生物(動植物)観察・調査・記録	
43	6	1	NPO 法人善福寺水と緑の会				20	20	見学6/10(4/17休日公開日に下見、打合せ)	
44	6	1	多摩六都科学館				4	4	西東京市立本町小学校4年生を対象とした野外観察プログラムの下見 5/12、6/8	
45	6	22	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	9		22 (22)		31 (22)	修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
46	6	1	多摩六都科学館	7			66	73	西東京市立本町小学校4年生を対象とした野外観察プログラム(校外学習)の実施	
47	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	千葉県柏市に隔離分布するズミの保全に関する研究	
48	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	森林科学基礎実習Iに用いる苗の分譲	
49	6	1	法政大学生命科学部応用植物科学科植物菌類病診断研究室	1		1		2	ケヤキに発生した胴枯れ症状に関する研究 学部4年 城田 梨奈	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
50	6	1	学校法人小金井学園 前沢幼稚園	2				2	七夕飾り用の笹の分譲（コロナ対策のため保育士のみ）	
51	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林田無演習林	5	3	1	54	63	第40回子ども樹木博士認定会	
52	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林教育社会・連携センター	2				2	日本産、韓国産、台湾産ヒノキの遺伝系統学的研究	
53	7	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画 モニタリング調査	
54	7	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林千葉演習林			11 (11)		11 (11)	修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
55	7	1	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻久保麦野研究室				1	1	モグラ類の鼻形態の観察	
56	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林千葉演習林	2				2	カシナガ穿入とコナラ枯死の発生時期に関する調査	
57	7	1	日本大学文理学部相関理化学専攻井上研究室	1		2		3	ヤマノイモのウィルス感染と環境調査 修士1年 前田 裕 博士4年内田由士	
58	7	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	2	6			8	卒業論文「共生酵母がコクワガタ幼虫の成長に及ぼす影響」 学部4年 富永 啓	
59	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林田無演習林	1		10		11	「森林生態圏管理学特論」現地講義	
60	7	1	社会福祉法人てつなぎの会 田無ひまわり保育園	2				2	七夕飾り用の笹の分譲	
61	8	1	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室		1			1	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	
62	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林教育社会・連携センター	2				2	日本産、韓国産、台湾産ヒノキの遺伝系統学的研究	
63	8	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画 モニタリング調査	
64	8	1	千葉j 県立流山高等学校園芸科1～3年生	2		4		6	苗木生産現場の見学（案内 千葉演習林 楠本先生）	
65	8	1	森林総合研究所 関西支所 京都	1				1	研究打合せ	
66	8	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林千葉演習林	2		10 (10)		12 (10)	修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
67	8	3	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻久保麦野研究室	3				3	モグラ類の鼻形態の観察	
68	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林千葉演習林	3				3	カシナガ穿入とコナラ枯死の発生時期に関する調査	
69	8	2	筑波大学生命環境系 アイソトープ環境動態研究センター	6	36	8	6	56	土壌断面調査に関する実習	
70	8	1	東京農業大学生命科学部生命高分子化学研究室	1				1	教育（卒論）	
71	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林教育・社会連携センター	1				1	アオオサムシの食性研究	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
72	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	4				4	博士論文「ダケカンバ産地別個体の生理形態解析」 博士課程1年 エーミヤツツミヤツツ パイン	
73	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	4		1 (1)		5 (1)	博士論文「スギと共生する菌根菌の多様性の解明」 博士1年ジョタン ケビン	
74	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	教21-05 修士論文 稲田涼吾(既卒)の田無演習林内の実験材料の後片付け	
75	9	2	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	3	18			21	森林科学基礎実習Ⅲ(9/6 下見と相談)	
76	9	2	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	2		1		3	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの 植栽と利用	
77	9	1	東大農場・演習林の 存続を願う会				8	8	演習林内生物(動植物)観察・調査・ 記録	
78	9	15	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	12		15 (15)		27 (15)	修士論文「カシノナガキイムシのナ ラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
79	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3				3	カシナガ穿入とコナラ枯死の発生時期 に関する調査	
80	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	2				2	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギ コンテナ苗の発根促進効果と翌春の成 長促進」 修士1年 小林裕子	
81	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	3				3	博士論文「ダケカンバ産地別個体の 生理形態解析」 博士課程1年 エーミヤツツミヤツツ パイン	
82	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	2022年度国際農学実験・実習1個別 実験(テーマ:樹木医学入門)	
83	9	1	西東京市立ひばりが丘中学校2年	1			6	7	職場訪問9/29と事前訪問、打合せ 8/22(教員1人)	
84	9	1	西東京市役所健康課				4	4	西東京市健康課主催のウォーキングイ ベント9/27事前打ち合わせ、10/2健 康ウォーキング	
85	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	試料・菌株整理	
86	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	植林による土壌微生物相の維持・変遷 のメカニズム	
87	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	環境教育素材の開発	
88	10	2	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	2		2		4	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの 植栽と利用	
89	10	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス(仮称)整 備計画 モニタリング調査	
90	10	1	東大農場・演習林の 存続を願う会				8	8	演習林内生物(動植物)観察・調査・ 記録	
91	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林				7	7	2022年度田無演習林森林教育パート ナー研修5/25、小学生案内のための 事前研修10/17	
92	10	1	森林総合研究所 関西支所 京都	1				1	研究打合せ	
93	10	13	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	15		13 (13)		28 (13)	修士論文「カシノナガキイムシのナ ラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
94	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	1		1		2	博士論文「ダケカンバ産地別個体の 生理形態解析」 博士課程1年 エーミヤツツミヤツツ パイン	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
95	10	1	西東京市役所健康課				5	5	西東京市健康課主催のウォーキングイベント 9/27 事前打ち合わせ、10/2 健康ウォーキング	
96	10	1	東京大学秩父演習林 サポーターしおじの会				15	15	見学 都市林や武蔵野の植物相についての知見を広め、今後のサポーター活動に役立てる	
97	10	2	自由学園初等部	5			37	42	生活科見学(10/13 下見)、10/25、雨天予備日 11/8	
98	10	1	西東京市立谷戸小学校 1年	3			61	64	生活科見学 10/27 雨天予備日 10/31	
99	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林秩父演習林	1				1	試料・菌株整理	
100	10	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林千葉演習林	11		4 (4)	3	18 (4)	森林管理と分子生物学的手法の森林害虫管理への応用に関する研修 (JICA から UGM が受けた借入金より国際委員会を受入) インドネシア ガジャマダ 大学林学部講師 Ananto Triyogo	
101	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	2				2	植林による土壌微生物相の維持・変遷のメカニズム	
102	11	1	東大農場・演習林の 存続を願う会				6	6	演習林内生物(動植物)観察・調査・記録	
103	11	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林千葉演習林	7		10 (10)		17 (10)	修士論文「カシノナガキクイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士 2年 Kristian Ade Andreas	
104	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林教育・社会連携センター	1		1		2	博士論文「ダケカンバ産地別個体の生理形態解析」 博士課程 1年 エーミヤツツミヤツツ パイン	
105	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林秩父演習林	1				1	試料・菌株整理	
106	11	7	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林教育社会・連携センター	7				7	温暖地に移植した針葉樹 3種の成長評価	
107	11	1	東京学芸大学教職大学院			1		1	修士論文「子どもを対象とした森林環境教育の効果について」 修士 2年 柴田 雛子	
108	11	1	西東京市立田無第二中学校				5	5	職場体験	
109	11	1	西東京市立谷戸小学校 2年	2			49	51	生活科見学 11/7 予備日 11/9	
110	11	2	西東京市立中原小学校 1年	12			159	171	生活科見学 11/10 予備日 11/17 下見、相談 11/2	
111	11	2	西東京市立住吉小学校 1年	6			62	68	生活科見学 11/11、下見、相談 11/4	
112	11	1	シチズン時計株式会社 社環境マネジメント室				3	3	生物多様性への取り組みに関する相談 (希少生物の保全や生物多様性に配慮した企業活動などの相談)	
113	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林経理学研究室	1				1	樹冠剪定を想定した直径測定・早生樹植栽試験	
114	11	1	一般個人見学者	2	10	1	566	579	見学(ガイドツアー59人、全来場者数 564人)	
115	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属 演習林田無演習林	5		1	63	69	第 41 回子ども樹木博士認定会	
116	11	1	西東京市立谷戸小学校 5年	4			59	63	総合的な学習	
117	11	1	株式会社自由が丘フラワーズ				2	2	不用枝物出荷と見学	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
118	11	1	東大農場・演習林の 存続を願う会				7	7	演習林内生物（動植物）観察・調査・ 記録	
119	11	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林秩父演習林	14				14	小型哺乳類（ネズミ類・モグラ類）の 目録整備に向け、専門家を招いて田無 演習林において研修を兼ねた調査およ び今後の調査計画の打合せを実施する	
120	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科造林 学研究室	1				1	植林による土壌微生物相の維持・変遷 のメカニズム	
121	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林教育社会・連 携センター	1				1	DNA マーカーを用いた田無のスギ品種 展示林の識別と整理	
122	12	1	東大農場・演習林の 存続を願う会				7	7	演習林内生物（動植物）観察・調査・ 記録	
123	12	15	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林千葉演習林	6		15 (15)		21 (15)	修士論文「カシノナガキイムシのナ ラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
124	12	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科森林 植物学研究室	2		2 (1)		4 (1)	千葉県柏市に隔離分布するズミの保全 に関する研究	
125	12	4	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林教育社会・連 携センター	5				5	温暖地に移植した針葉樹3種の成長評 価	
126	12	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林田無演習林	18				18	長期生態系データ生物部門昆虫分野担 当者会議およびセルロースフィルター 分解速度調査研修	
127	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科国際 森林環境学研究室	1		3 (3)	1	5 (3)	大学院講義科目「農学国際特論Ⅰ」の フィールドワーク	
128	12	1	自由学園最高学部 (大学部)	1				1	生活経営研究実習2「庭園・自然環 境：草本・灌木」	
129	12	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科造林 学研究室	2	7			9	森林土壌学実験(12/12 補講)	
130	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林秩父演習林	7				7	小型哺乳類（ネズミ類・モグラ類）の 目録整備に向け、専門家を招いて田無 演習林において研修を兼ねた調査およ び今後の調査計画の打合せを実施する	
131	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林田無演習林	25			10	35	2022年度教職員リースづくり体験会 (対面開催)	
132	12	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 生態調和農学機構	4				4	東京大学大学院農学生命科学研究科附 属生態調和農学機構技術職員の林内見 学	
133	1	1	東大農場・演習林の 存続を願う会				7	7	演習林内生物（動植物）観察・調査・ 記録	
134	1	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林千葉演習林	1		1 (1)		2 (1)	修士論文「カシノナガキイムシのナ ラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
135	1	3	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林教育社会・連 携センター	3				3	温暖地に移植した針葉樹3種の成長評 価	
136	1	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林田無演習林	16				16	森林管理委員会基礎技術部門伐木グル ープ研修	
137	1	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 生態調和農学機構	7	6			13	緑地環境実地実習 2023/1/11、実習準 備、材料の採集 2022/12/26	
138	1	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林千葉演習林	10				10	地上レーザーシステム OWL の使用研修	
139	1	1	株式会社総合環境計 画				4	4	東京都環境局業務委託「カラス生息状 況調査」	
140	1	1	赤門技術士会（東京 大学校友会登録団 体）				1	1	技術士生涯教育のための研修（林内見 学）3/4、下見と相談 1/30	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
141	2	1	いであ株式会社				4	4	東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画 モニタリング調査	
142	2	1	東大農場・演習林の存続を願う会				1	1	演習林内生物（動植物）観察・調査・記録	
143	2	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	6		6 (6)		12 (6)	修士論文「カシノナガキイムシのナラ菌保持量に影響する要因」修士2年 Kristian Ade Andreas	
144	2	1	法政大学生命科学部応用植物科学科植物菌類病診断研究室	1	1			2	ケヤキに発生した胴枯れ症状に関する研究 学部4年 城田 梨奈	
145	2	1	自由学園最高学部（大学部）					0	生活経営研究実習2「庭園・自然環境：草本・灌木」	
146	2	1	東京大学新領域創成科学研究科佐藤淳研究室				5	5	東京大学教育学部附属中等教育学校の技術科での「樹木の観察」	
147	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科応用昆虫学			1		1	野外捕食者（野鳥）を用いた蝶類斑紋の弁別実験の下見と相談	
148	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育・社会連携センター	1				1	田無演習林におけるアカボシゴマダラの発生状況調査	
149	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	26				26	令和4年度技術職員研修「構内樹木管理研修」2/27～3/1 研修準備、下見2/15	
150	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構	2				2	6号圃南のクスギ・コナラの苗木を生態調和農学機構の里地里山エリアへ運搬（ミニ油圧シャベルの訓練を兼ねる）	
151	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1	(1)			1 (1)	修士論文「樹木の水分通導フェノロジーと萎凋病の病徴発現」 修士課程1年 黄 文倩	
152	3	1	いであ株式会社				1	1	東京大学西東京キャンパス（仮称）整備計画 モニタリング調査	
153	3	1	東大農場・演習林の存続を願う会				7	7	演習林内生物（動植物）観察・調査・記録	
154	3	1	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻久保麦野研究室				1	1	モグラ類の鼻形態の観察	
155	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	3			1	4	カシナガ穿入とコナラ枯死の発生時期に関する調査	
156	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	修士論文「酢酸施用による秋植栽スギコンテナ苗の発根促進効果と翌春の成長促進」 修士1年 小林裕子	
157	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会・連携センター	1				1	温暖地に移植した針葉樹3種の成長評価	
158	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	生物指標としての地表徘徊性甲虫類の多様な飛翔性と食性の解明	
159	3	1	赤門技術士会（東京大学校友会登録団体）				20	20	技術士生涯教育のための研修（林内見学）3/4、下見と相談1/30	
160	3	2	東京大学大学院理学研究科附属植物園	6				6	高所作業車による危険枝の処理講習	
161	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	12				12	令和4年度技術職員研修「構内樹木管理研修」2/27～3/1 研修準備、下見2/15	
162	3	1	西東京市立立谷小学校1年	3			60	63	生活科 冬から春への生き物調査	
163	3	1	沖縄国際大学地域経済学科齋藤研究室				1	1	オオアブラムシ属アブラムシの採集	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
164	3	2	東京大学大学院農学 生命科学研究科附属 演習林教育・社会連 携センター	2				2	生体試料の整理	
165	3	1	東京大学大学院農学 生命科学研究科造林 学研究室	1				1	酢酸施用がスギの水分生理状態に与え る影響	

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計	2,684 (113)
利用件数	165

5) 生態水文学研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
2	4	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
3	4	2	犬山研究林利用者協議会				18	18	ギフチョウ卵調査活動	日帰り
4	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	水源涵養モニタリング研究委託	日帰り
5	4	1	犬山市役所経済環境部環境課				18	18	犬山市春のふれあい自然観察会	日帰り
6	4	2	犬山研究林利用者協議会				19	19	犬山市春のふれあい自然観察会	日帰り
7	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	水源涵養モニタリング研究委託	日帰り
8	4	1	犬山研究林利用者協議会				4	4	ギフチョウ卵調査活動	日帰り
9	4	8	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			8		8	修士論文の現地データ収集と打ち合わせ	長期滞在 者用宿舎
10	4	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
11	4	2	犬山研究林利用者協議会				17	17	ギフチョウ卵調査活動	日帰り
12	5	1	犬山フィールドサイエンス				2	2	犬山市の演習林内魚類・両生類・爬虫類層調査	日帰り
13	5	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
14	5	1	犬山研究林利用者協議会				6	6	ギフチョウ卵調査活動	日帰り
15	5	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
16	5	1	東京大学農学部森林生物地球科学研究室	2				2	森林流域への土壌侵食モデルの適用	外部宿泊施設
17	5	1	東京大学農学部森林生物地球科学研究室	2				2	森林流域への土壌侵食モデルの適用	日帰り
18	5	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森林圏生態社会学研究室			2 (2)		2 (2)	日本における銘木の流通構造	長期滞在 者用宿舎
19	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森林圏生態社会学研究室			1 (1)		1 (1)	日本における銘木の流通構造	日帰り
20	5	1	犬山研究林利用者協議会				2	2	定例活動	日帰り
21	5	1	犬山研究林利用者協議会				8	8	蝶モニター活動	日帰り
22	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	猿投山尾根部のマツの年輪解析	日帰り
23	5	1	シデコブシの会				2	2	とよた森林学校下見	日帰り
24	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	1				1	民間との共同研究のための現場機材のメンテナンス	日帰り
25	5	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			11 (11)		11 (11)	修士論文の現地データ収集と打ち合わせ	長期滞在 者用宿舎
26	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文の現地データ収集と打ち合わせ	日帰り
27	5	1	犬山研究林利用者協議会				15	15	定例活動	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
28	5	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
29	6	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
30	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	2	15			17	森林環境資源学フィールドワーク「森とダム」	赤津宿泊施設
31	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1	10			11	森林環境資源学フィールドワーク「森とダム」	日帰り
32	6	1	犬山フィールドサイエンス				2	2	犬山市の演習林内魚類・両生類・爬虫類層調査	日帰り
33	6	1	豊田市役所産業部森林課				33	33	とよた森林学校「森林入門セミナー」	日帰り
34	6	4	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻小口研究室			6		6	山地小流域の土層厚が洪水流出に与える影響の検討	長期滞在者用宿舍
35	6	1	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻小口研究室			2		2	山地小流域の土層厚が洪水流出に与える影響の検討	日帰り
36	6	2	京大大学野生動物研究センター	2		4 (2)		6 (2)	都市化が哺乳類群衆に及ぼす影響とタヌキの感染症動態の解明	日帰り
37	6	1	犬山研究林利用者協議会				4	4	定例活動	日帰り
38	6	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	蝶モニター活動	日帰り
39	6	1	シデコブシの会				18	18	きのご観察会	日帰り
40	6	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
41	6	1	東京大学農学部森林生物地球科学研究室	1				1	森林流域への土壌侵食モデルの適用	日帰り
42	6	2	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門	7				7	猿投山北断層のトレンチ調査候補地の下見	日帰り
43	6	1	犬山研究林利用者協議会				10	10	定例活動	日帰り
44	6	1	株式会社水地盤研究所	1	6		3	10	赤津研究林の水文観測施設の見学	日帰り
45	6	1	瀬戸 SOLAN 小学校				4	4	校外学習の下見と打合せ	日帰り
46	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	3		2 (2)		5 (2)	豊田市受託研究の調査地メンテナンス同行	五位塚宿泊施設
47	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	1				1	豊田市受託研究の調査地メンテナンス同行	日帰り
48	7	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
49	7	1	犬山研究林利用者協議会				4	4	定例活動	日帰り
50	7	1	犬山研究林利用者協議会				3	3	蝶モニター活動	日帰り
51	7	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
52	7	19	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	19				19	現地での観測に基づいた土砂動態分析	赤津宿泊施設
53	7	1	シデコブシの会				22	22	シデコブシの会 見学コースを歩く会	日帰り
54	7	2	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門	4		2	10	16	猿投山北断層のトレンチ調査候補地の下見	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
55	7	1	犬山研究林利用者協議会				1	1	定例活動	日帰り
56	8	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
57	8	1	日本原子力研究開発機構原子力基礎工学研究センター	4				4	森林の下層土壌における炭素・窒素循環の解明	日帰り
58	8	2	シデコブシの会				51	51	夏休み親子水生生物観察会	日帰り
59	8	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	2			3	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	赤津宿泊施設
60	8	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	2			3	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
61	8	2	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	2	2			4	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
62	8	1	犬山研究林利用者協議会				5	5	定例活動	日帰り
63	8	1	犬山研究林利用者協議会				5	5	蝶モニター活動	日帰り
64	8	1	山梨大学生命環境学部環境科学科	1	1	1	(1)	3	土壌リン濃度の異なる日本のコナラ林を用いた樹木のリン獲得戦略の解明	赤津宿泊施設
65	8	1	山梨大学生命環境学部環境科学科	1	1	1	(1)	3	土壌リン濃度の異なる日本のコナラ林を用いた樹木のリン獲得戦略の解明	日帰り
66	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1	(1)	1	修士論文の現地データ収集と打ち合わせ	日帰り
67	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林生物地球科学研究室	4	40	8		52	2022年度森林科学基礎実習IV	赤津宿泊施設
68	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林生物地球科学研究室	1	10	2		13	2022年度森林科学基礎実習IV	日帰り
69	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林生物地球科学研究室		2			2	UAV 操縦技術の習得	赤津宿泊施設
70	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林生物地球科学研究室		1			1	UAV 操縦技術の習得	日帰り
71	8	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
72	8	2	東京農工大学連合農学研究科環境資源共生科学専攻森林資源物質科学大講座			3	(3)	3	量水データ整理方法の習得・掃流砂現場観測方法の習得	赤津宿泊施設
73	8	1	東京農工大学連合農学研究科環境資源共生科学専攻森林資源物質科学大講座			1	(1)	1	量水データ整理方法の習得・掃流砂現場観測方法の習得	日帰り
74	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	2	1	4	(1)	7	土砂トラップを用いた掃流砂観測方法の検討見学会	日帰り
75	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所			1	(1)	1	土砂トラップを用いた掃流砂観測方法の検討見学会	長期滞在者用宿舎
76	8	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	31			31	62	現地での観測に基づいた土砂動態分析	赤津宿泊施設
77	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所			1	(1)	1	土砂トラップを用いた掃流砂観測方法の検討見学会	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
78	9	13	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	13			13	26	現地での観測に基づいた土砂動態分析	赤津宿泊施設
79	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1			1	2	現地での観測に基づいた土砂動態分析	日帰り
80	9	1	猿投の森づくりの会				6	6	打合せ及びプロット調査	日帰り
81	9	1	犬山研究林利用者協議会				8	8	定例活動	日帰り
82	9	1	東京農業大学治山緑化学研究室	3	18	1	17	39	生態水文学研究所で行っている水文気象観測技術についての研修会	赤津宿泊施設
83	9	1	東京農業大学治山緑化学研究室	3	18	1		22	生態水文学研究所で行っている水文気象観測技術についての研修会	日帰り
84	9	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
85	9	1	東京農工大学連合農学研究科環境資源共生科学専攻森林資源物質科学大講座			1 (1)		1 (1)	量水データ整理方法の習得・掃流砂現場観測方法の習得	赤津宿泊施設
86	9	1	東京農工大学連合農学研究科環境資源共生科学専攻森林資源物質科学大講座			1 (1)		1 (1)	量水データ整理方法の習得・掃流砂現場観測方法の習得	日帰り
87	9	5	東京農工大学連合農学研究科環境資源共生科学専攻森林資源物質科学大講座			5 (5)		5 (5)	量水データ整理方法の習得・掃流砂現場観測方法の習得	長期滞在 者用宿舎
88	9	1	犬山研究林利用者協議会				5	5	定例活動	日帰り
89	9	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	蝶モニター活動	日帰り
90	9	2	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2		2		4	ナラ枯れ跡地の更新にシカ類の採食圧が及ぼす影響	赤津宿泊施設
91	9	1	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		1		2	ナラ枯れ跡地の更新にシカ類の採食圧が及ぼす影響	日帰り
92	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	4	2	2		8	造園学会中部支部サマースタジオ2022	赤津宿泊施設
93	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	4	2	2		8	造園学会中部支部サマースタジオ2022	日帰り
94	9	1	猿投の森づくりの会				6	6	打合せ及びプロット調査	日帰り
95	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	2	7	1		10	植生調査実習ならびに小河川流量調査実習	赤津宿泊施設
96	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	2	7	1		10	植生調査実習ならびに小河川流量調査実習	日帰り
97	9	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	定例活動	日帰り
98	9	1	京都大学白眉センター・京都大学森林生態学研究室	1	1	1		3	土壌リン濃度の異なる日本のコナラ林を用いた樹木のリン獲得戦略の解明	日帰り
99	9	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
100	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	7	7	9		23	体験活動プログラム森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える100年を全身で感じよう～	赤津宿泊施設
101	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1	2	3		6	体験活動プログラム森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験 ～世界の水文研究を支える101年を全身で感じよう～	日帰り
102	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2		2 (2)		4 (2)	民間との共同研究のための現場機材のメンテナンス	五位塚宿泊施設
103	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	1		1 (1)		2 (1)	民間との共同研究のための現場機材のメンテナンス	日帰り
104	10	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
105	10	1	犬山研究林利用者協議会				8	8	蝶モニター活動	日帰り
106	10	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			6 (6)		6 (6)	修士論文の現地データ収集	長期滞在者用宿舎
107	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文の現地データ収集	日帰り
108	10	1	シデコブシの会				25	25	きのこ観察会	日帰り
109	10	1	猿投の森づくりの会				6	6	毎木調査・選木	日帰り
110	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1				1	生態水文学研究所見学	外部宿泊施設
111	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1				1	生態水文学研究所見学	日帰り
112	10	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	3			4	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
113	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1	7			8	全学体験ゼミ「人の手で作り管理する森林」	赤津宿泊施設
114	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1	7			8	全学体験ゼミ「人の手で作り管理する森林」	日帰り
115	10	1	海上の森技術士会 (愛知工業大学土木工学科0B)		1		11	12	生態水文学研究所の歴史と長期研究成果の概要について	日帰り
116	10	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	定例活動	日帰り
117	11	1	シデコブシの会				4	4	シデコブシの会 定例会	日帰り
118	11	1	おいでん・さんそんとよた森林学校運営委員会		1		18	19	とよた森林学校「森林と災害」講座第1回	日帰り
119	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森林圏社会学研究室			3 (3)		3 (3)	日本における銘木の流通構造	長期滞在者用宿舎
120	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森林圏社会学研究室			1 (1)		1 (1)	日本における銘木の流通構造	日帰り
121	11	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
122	11	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	定例活動	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
123	11	1	犬山研究林利用者協議会				11	11	犬山市秋のふれあい自然観察会	日帰り
124	11	1	犬山市役所経済環境部環境課				23	23	犬山市秋のふれあい自然観察会	日帰り
125	11	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
126	11	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1				1	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
127	11	1	猿投の森づくりの会				8	8	間伐・毎木調査	日帰り
128	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1	(1)	1	修士論文の現地データ収集	日帰り
129	11	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1				1	コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
130	11	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	蝶モニター活動	日帰り
131	11	1	シデコブシの会				14	14	シデコブシの会 毘沙門山見学ツアー	日帰り
132	11	1	京都大学農学研究科森林生態学研究室	2	(1)			2	幅広い土壌リン傾度で見られるコナラのP獲得戦略の適応的成立	日帰り
133	11	1	京都大学野生動物研究センター	2	(2)			2	都市化が哺乳類群衆に及ぼす影響とタヌキの感染症動態の解明	日帰り
134	12	1	シデコブシの会				5	5	シデコブシの会 定例会	日帰り
135	12	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
136	12	1	シデコブシの会				9	9	シデコブシの会 標石ツアー	日帰り
137	12	1	犬山研究林利用者協議会				6	6	定例活動	日帰り
138	12	1	名古屋経済大学	3	9			12	体験型プロジェクト「犬山里山学」	日帰り
139	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1	(1)	1	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舎
140	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1	(1)	1	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	日帰り
141	12	1	猿投の森づくりの会				10	10	間伐・毎木調査	日帰り
142	12	1	株式会社カジウラ				4	4	林内見学	日帰り
143	12	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	3			4	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
144	12	1	京都大学野生動物研究センター			1	(1)	1	都市化が哺乳類群衆に及ぼす影響とタヌキの感染症動態の解明	日帰り
145	1	1	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻			1		1	ナラ枯れ跡地の更新にシカ類の採食圧が及ぼす影響	日帰り
146	1	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
147	1	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	定例活動	日帰り
148	1	1	シデコブシの会				34	34	巣箱作成会	日帰り
149	1	1	猿投の森づくりの会				8	8	間伐	日帰り
150	1	1	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門				1	1	猿投山北断層のトレンチ調査候補地の下見	日帰り
151	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1	(1)	1	修士論文の現地データ収集	長期滞在 者用宿舎

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
152	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			3 (3)		3 (3)	修士論文の現地データ収集	長期滞在 者用宿舎
153	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文の現地データ収集	日帰り
154	2	1	シデコブシの会				5	5	シデコブシの会 定例会	日帰り
155	2	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
156	2	14	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門	13			74	87	猿投山北断層のトレンチ調査候補地の下見	日帰り
157	2	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	3			4	植生回復に伴う土壌炭素回復過程の解明・コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	赤津宿泊 施設
158	2	1	東京農業大学治山緑化学研究室	1	3			4	植生回復に伴う土壌炭素回復過程の解明・コナラの樹木特性が樹幹流下量に及ぼす影響の解明	日帰り
159	2	7	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			7 (7)		7 (7)	修士論文の現地データ収集	長期滞在 者用宿舎
160	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文の現地データ収集	日帰り
161	2	1	猿投の森づくりの会				8	8	間伐	日帰り
162	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1				1	生態水文学研究所の見学	日帰り
163	2	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	2			3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
164	2	3	東京大学教養学部	3	30			33	全学体験ゼミ「ダムと土砂と海」	赤津宿泊 施設
165	2	1	大山研究林利用者協議会				11	11	定例活動	日帰り
166	2	4	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			4 (4)		4 (4)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	長期滞在 者用宿舎
167	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林流域管理学研究室			1 (1)		1 (1)	気候変動が山地からの流出に及ぼす影響	日帰り
168	3	1	森林総合研究所関西支所	1		1		2	科研「科学的林業の受容と変容に関する国際比較研究：現場森林官が持つ仕事観に着目して」に関する調査	日帰り
169	3	1	大山研究林利用者協議会				7	7	定例活動	日帰り
170	3	1	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	1		1 (1)		2 (1)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査地下見	日帰り
171	3	1	名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究センター	1		1		2	猿投山北断層帯の比抵抗構造解明のための予備調査	日帰り
172	3	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1	1			2	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
173	3	3	東京大学農学生命科学研究科生態圏システム学専攻			3		3	木本性つる植物の木部道管形質の地理変異とその種間差の解明	赤津宿泊 施設
174	3	1	東京大学農学生命科学研究科生態圏システム学専攻			1		1	木本性つる植物の木部道管形質の地理変異とその種間差の解明	日帰り
175	3	2	名古屋大学生命農学研究科森林水文・砂防学研究室	6 (4)	4			10 (10)	樹冠構造の把握による蒸発散量評価の調査地下見	日帰り
176	3	2	シデコブシの会				32	32	ジビエを学ぶ会下見	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
177	3	1	猿投の森づくりの会				8	8	間伐	日帰り
178	3	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	定例活動	日帰り
179	3	1	名古屋経済大学市邨高等学校	8			15	23	長期生態系プロットの計測と林業遺産を含む研究林の見学	日帰り
180	3	1	犬山研究林利用者協議会				11	11	犬山民生委員・児童委員観察研修会	日帰り
181	3	1	犬山民生委員・児童委員協議会				15	15	民生委員児童委員協議会委員のための里山再生と林業遺産研修	日帰り
182	3	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林				4 (4)	4 (4)	修士論文の現地データ収集	長期滞在 者用宿舎
183	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林				1 (1)	1 (1)	修士論文の現地データ収集	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計	1,456 (86)
利用件数	183

6) 富士癒しの森研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	16	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			23		23	カラマツのリモートセンシング	山中寮内藤セミナーハウス
2	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			2		2	カラマツのリモートセンシング	日帰り
3	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			2		2	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	日帰り
4	4	1	株式会社 SHINON				2	2	植物・自然写真の撮影	山中寮内藤セミナーハウス
5	4	1	株式会社 SHINON				2	2	植物・自然写真の撮影	日帰り
6	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2				2	異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築	山中寮内藤セミナーハウス
7	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2				2	異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築	日帰り
8	4	1					4	4	散策	日帰り
9	4	1	株式会社ザクティ				3	3	NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ撤去対応	日帰り
10	4	1	日本木質バイオマスエネルギー協会				14	14	大学演習林における森林科学研究教育を学ぶ	日帰り
11	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			9	13	癒しの森の会森林散策及び第13回例会	日帰り
12	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	10		1	5	16	特別ガイド「春の彩りを訪ねて」	日帰り
13	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会連携センター	2			5	7	共同研究申請のための映像資料撮影のため	日帰り
14	4	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	6				6	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」	富士山中宿泊施設
15	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」	日帰り
16	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	5	21			26	全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」	山中寮内藤セミナーハウス
17	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	5	21			26	全学体験ゼミナール「危険生物の知識(春編)」	日帰り
18	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	2				2	サワラ溝腐症状に関する研究 試料採取	日帰り
19	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林フィールドデータ研究センター	1				1	次世代森林情報基盤サイバーフォレストのための現地情報記録転送システムの開発と運用試験	日帰り
20	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会連携センター	1			1	2	産地別ダケカンバ苗の植栽と聖ヒノキのサンプル採取	山中寮内藤セミナーハウス
21	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育社会連携センター	1			1	2	産地別ダケカンバ苗の植栽と聖ヒノキのサンプル採取	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
22	5	1	立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科比較組織ネットワーク学専攻	1				1	修士論文・齋藤暖生所長へのインタビュー、及び現地調査	日帰り
23	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			2	1	3	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	日帰り
24	5	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	9				9	脊椎動物分野 鳥類グループ I 種調査、及び任意調査、意見交換など	日帰り
25	5	2	山梨県森林総合研究所	8				8	薪化处理によるカシノナガキイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
26	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生態システム学専攻森圏管理学研究室	4				4	森圏管理学実習下見	日帰り
27	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」	日帰り
28	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻		1	3	1	5	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	日帰り
29	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2	1	1	1	5	森林音のエンタティメント精を向上させる音楽演奏とインターネット配信	山中寮内藤セミナーハウス
30	6	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2	1	1	1	5	森林音のエンタティメント精を向上させる音楽演奏とインターネット配信	日帰り
31	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林動物学研究室				1	1	富士山麓の森林管理と鳥類相の関係	日帰り
32	6	2	山梨県高等学校体育連盟ヨット専門部				400	400	令和4年度第74回関東高等学校選抜ヨット大会開催のため	外部宿泊施設
33	6	1	山梨県高等学校体育連盟ヨット専門部				200	200	令和4年度第74回関東高等学校選抜ヨット大会開催のため	日帰り
34	6	1	株式会社 SHINON				1	1	植物・自然写真の撮影	日帰り
35	6	1	住友林業株式会社筑波営業所				3	3	共同研究に基づくカラマツ成長錘コアのサンプリング	山中寮内藤セミナーハウス
36	6	1	住友林業株式会社筑波営業所				3	3	共同研究に基づくカラマツ成長錘コアのサンプリング	日帰り
37	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	2		1		3	年輪データ取得のためのコア抜き	山中寮内藤セミナーハウス
38	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	2		1		3	年輪データ取得のためのコア抜き	日帰り
39	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3			10	13	癒しの森の音楽会の打合せ	日帰り
40	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	2			2	4	カシノナガキイムシのナラ菌保有量に影響する要因	日帰り
41	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4	19			23	総合科目「森林資源学」フィールドワーク2「森と癒し」	山中寮内藤セミナーハウス
42	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4	19			23	総合科目「森林資源学」フィールドワーク2「森と癒し」	日帰り
43	6	1	目黒星美学園小学校	5			94	99	合宿での野外活動	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
44	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	1				1	アロマオイルを用いたカシノナガキクイムシ忌避効果の検証	日帰り
45	6	1	山梨県森林総合研究所				2	2	薪化处理によるカシノナガキクイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
46	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および染色実験	富士山中宿泊施設
47	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および染色実験	日帰り
48	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3				3	研究打合せ	日帰り
49	6	3					4	4	カシノナガキクイムシの捕獲補助	日帰り
50	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	28				28	令和4年森林管理委員会空間情報技術部門GIS技術指導者養成研修会	山中寮内藤セミナーハウス
51	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	14				14	令和5年森林管理委員会空間情報技術部門GIS技術指導者養成研修会	山中寮内藤セミナーハウス
52	7	1	東京大学教育・学生支援部国際交流課	5	2	5		12	UTokyoAmgenScholarsProgram2022 中間研究発表会に参加する学生への富士癒しの森研究所の活動紹介	日帰り
53	7	12					14	14	カシノナガキクイムシの捕獲補助	日帰り
54	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2			3	5	課題研究	日帰り
55	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2				2	植物I種調査	山中寮内藤セミナーハウス
56	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2				2	植物I種調査	日帰り
57	7	1	住友林業株式会社筑波研究所				6	6	森林や木が人に与える影響についての打ち合わせ	山中寮内藤セミナーハウス
58	7	1	住友林業株式会社筑波研究所				6	6	森林や木が人に与える影響についての打ち合わせ	日帰り
59	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3		2	7	12	異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築	山中寮内藤セミナーハウス
60	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3		2	7	12	異なるスケールで収集したデータの回送的構造を考慮したモデル化手法の構築	日帰り
61	7	1	山梨県森林総合研究所				2	2	薪化处理によるカシノナガキクイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
62	7	1	株式会社ザクティ				4	4	NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ撤去対応	外部宿泊施設
63	7	1	株式会社ザクティ				4	4	NEDO 先導研究ナラ枯れ観測用地上観測カメラ撤去対応	日帰り
64	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	1				1	カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因	日帰り
65	7	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	10			26	36	癒しの森の音楽会の準備作業、例会	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
66	7	1	東京大学運動会馬術部		1		1	2	馬場及び厩舎の視察	日帰り
67	7	1	癒しの森の会	2			20	22	書道教室の子供たちによる樹名板設置	日帰り
68	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	1		1		2	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	山中寮内藤セミナーハウス
69	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	2		3		5	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	日帰り
70	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および寒地性樹種成長試験地	富士山中宿泊施設
71	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および寒地性樹種成長試験地	日帰り
72	7	1	株式会社ザクティ	1			3	4	NEDO 先導研究ドローンテスト撮影	日帰り
73	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所				100	100	朝もや音楽会	日帰り
74	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	2				2	カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因	日帰り
75	8	2	東京大学農学部森林科学専攻森林動物学研修室	4	28	8(2)		40(2)	森林科学基礎実習Ⅲ	山中寮内藤セミナーハウス
76	8	1	東京大学農学部森林科学専攻森林動物学研修室	2	14	4(1)		20(1)	森林科学基礎実習Ⅲ	日帰り
77	8	12					14	14	カシノナガキクイムシの捕獲補助	日帰り
78	8	1					5	5	見学	日帰り
79	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3			9	12	課題研究	日帰り
80	8	1	山梨県森林総合研究所	2				2	薪化处理によるカシノナガキクイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
81	8	2	東京大学ボクシング部		38			38	部活動での使用	山中寮内藤セミナーハウス
82	8	1	東京大学ボクシング部		19			19	部活動での使用	日帰り
83	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	1				1	実証林に設置した自動撮影カメラメンテナンス	日帰り
84	8	2	八王子学園八王子高等学校	4			6	10	林内見学の目下と見学	日帰り
85	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻		1			1	カラマツのリモートセンシング	日帰り
86	8	2	株式会社ザクティ	2			6	8	NEDO 先導研究ドローンテスト撮影	山中寮内藤セミナーハウス
87	8	1	株式会社ザクティ	1			3	4	NEDO 先導研究ドローンテスト撮影	日帰り
88	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	1		2		3	カラマツのリモートセンシング	山中寮内藤セミナーハウス
89	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	1		2		3	カラマツのリモートセンシング	日帰り
90	8	1	東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科	1	6			7	薪の利用に関する研修	外部宿泊施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
91	8	1	東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科	1	6			7	薪の利用に関する研修	日帰り
92	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室	8	18	2		28	フィールド科学専修森圏管理学実習	山中寮内藤セミナーハウス
93	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室	4	9	1		14	フィールド科学専修森圏管理学実習	日帰り
94	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	12				12	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および寒地性樹種成長試験地、地上徘徊性昆虫調査	山中寮内藤セミナーハウス
95	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	3				3	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および寒地性樹種成長試験地、地上徘徊性昆虫調査	日帰り
96	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4	3	1		8	体験活動プログラム	山中寮内藤セミナーハウス
97	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4	3	1		8	体験活動プログラム	日帰り
98	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1			8	9	音楽会の振り返りなど打ち合わせ	日帰り
99	9	1	東京大学農学部森林科学専攻林政学研修室	3	17	1		21	森林科学基礎実習Ⅳ	山中寮内藤セミナーハウス
100	9	1	東京大学農学部森林科学専攻林政学研修室	3	17	1		21	森林科学基礎実習Ⅳ	日帰り
101	9	1	東京大学大学院理学系研究科天文学専攻	1			2	3	見学	日帰り
102	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4		10 (10)		14 (10)	森林圏生態社会学演習	山中寮内藤セミナーハウス
103	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2		5 (5)		7 (5)	森林圏生態社会学演習	日帰り
104	9	8					8	8	カシノナガキイムシの捕獲補助	日帰り
105	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	10	68			78	全学体験ゼミナール「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ	山中寮内藤セミナーハウス
106	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	5	34			39	全学体験ゼミナール「東大の別荘「癒しの森」で心も体もリフレッシュ	日帰り
107	9	1	東京農業大学造園科学科	1	6			7	林内見学	外部宿泊施設
108	9	1	東京農業大学造園科学科	1	6			7	林内見学	日帰り
109	9	1	山梨県森林総合研究所	2				2	薪化処理によるカシノナガキイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
110	9	2	株式会社ザクティ				9	9	NEDO 先導研究ドローンテスト撮影	日帰り
111	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1			8	9	森の文化祭打ち合わせ	日帰り
112	9	2	山中湖おもてなしの会				6	6	おもてなしの会ナラ枯れ被害木の薪加工	日帰り
113	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			1	2	3	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
114	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1			2	3	テレビ朝日グッドモーニングの取材対応	日帰り
115	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および寒地性樹種成長試験地	富士山中宿泊施設
116	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および寒地性樹種成長試験地	日帰り
117	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	1				1	カシノナガキクイムシのナラ菌保有量に影響する要因	日帰り
118	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4	3			7	国際開発農学専修 国際農学実験実習Ⅰ・個別実験「山の幸を探る」	山中寮内藤セミナーハウス
119	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4	3			7	国際開発農学専修 国際農学実験実習Ⅰ・個別実験「山の幸を探る」	日帰り
120	9	1	株式会社ザクティ				3	3	テレビ朝日グッドモーニングの取材対応	日帰り
121	10	1	東京大学農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	18			4	22	特別ガイド「キノコに親しむ」	日帰り
122	10	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	6			26	32	森の文化祭打ち合わせ	日帰り
123	10	3	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		3	2	6	修士研究予備実験下見	日帰り
124	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	3		1		4	ドローン画像によるナラ類の樹種判別	日帰り
125	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	4		4		8	カラマツのリモートセンシング	日帰り
126	10	18	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	18		21 (5)		39 (5)	カラマツのリモートセンシング	外部宿泊施設
127	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			2		2	カラマツのリモートセンシング	山中寮内藤セミナーハウス
128	10	10					10	10	カシノナガキクイムシの捕獲補助	日帰り
129	10	1	株式会社 NT システム	1			1	2	ライブカメラシステム設置	日帰り
130	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	28				28	機械グループ研修	山中寮内藤セミナーハウス
131	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	14				14	機械グループ研修	日帰り
132	10	3	山梨県森林総合研究所	14				14	薪化処理によるカシノナガキクイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
133	10	1	ECO テック				2	2	見学	日帰り
134	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3			5	8	癒しの森づくりおよび地域住民との連携に関する研修	日帰り
135	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	5	14			19	全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」	山中寮内藤セミナーハウス
136	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	5	14			19	全学体験ゼミナール「危険生物の知識(秋編)」	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
137	10	1	弘前大学農学生命科学部植物生態学研究室			1		1	カエデ属における冬季の日長認識に関与する光受容器官の適応進化	富士山中宿泊施設
138	10	1	弘前大学農学生命科学部植物生態学研究室			1		1	カエデ属における冬季の日長認識に関与する光受容器官の適応進化	日帰り
139	10	2	山中湖おもてなしの会	2			14	16	ナラ枯れ被害木の薪加工のため	日帰り
140	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	6			15	21	森林風景計画実習	山中寮内藤セミナーハウス
141	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	2			5	7	森林風景計画実習	日帰り
142	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および染色実験	富士山中宿泊施設
143	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および染色実験	日帰り
144	10	1	京都大学	1			3	4	演習林内の植物やキノコ類の見学	外部宿泊施設
145	10	1	京都大学	1			3	4	演習林内の植物やキノコ類の見学	日帰り
146	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	5			65	70	森の文化祭	日帰り
147	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻	2		4		6	カラマツのリモートセンシング	日帰り
148	11	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	2		8		10	修士研究予備実験	山中寮内藤セミナーハウス
149	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		4		5	修士研究予備実験	日帰り
150	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	1				1	ナラ枯れ被害木の伐倒調査	日帰り
151	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	1				1	カシノナガキイムシのナラ菌保有量に影響する要因	日帰り
152	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1			7	8	癒しの森の会森の文化祭反省会	日帰り
153	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	8	8			16	全学体験ゼミナール「森の魅力をマップング」	山中寮内藤セミナーハウス
154	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4	4			8	全学体験ゼミナール「森の魅力をマップング」	日帰り
155	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	山中寮内藤セミナーハウス
156	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星観察可能時間調査（「環境教育素材の開発Ⅱ」）	日帰り
157	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4	5	1		10	森林政策学演習	山中寮内藤セミナーハウス
158	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4	5	1		10	森林政策学演習	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
159	11	1	株式会社森へ				2	2	見学	日帰り
160	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2	15			17	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	山中寮内藤セミナーハウス
161	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2	15			17	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	日帰り
162	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			7	11	癒しの森の会例会・総会	日帰り
163	11	1	山梨県森林総合研究所				5	5	薪化处理によるカシノナガキイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
164	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	1	1	1		3	来年度修論の予備調査「ニホンジカの個体が対捕食者行動に及ぼす影響」	外部宿泊施設
165	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	1	1	1		3	来年度修論の予備調査「ニホンジカの個体が対捕食者行動に及ぼす影響」	日帰り
166	12	1	東京大学生産技術研究所森下研究室	1			3	4	演習林を利用した「Field Studio」の実験	山中寮内藤セミナーハウス
167	12	1	東京大学生産技術研究所森下研究室	1			3	4	演習林を利用した「Field Studio」の実験	日帰り
168	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1	3	11		15	演習林見学	日帰り
169	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	3	4			7	国際開発農学専修 国際農学実験実習 I・個別実験「森林における動物観察」	山中寮内藤セミナーハウス
170	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	3	4			7	国際開発農学専修 国際農学実験実習 I・個別実験「森林における動物観察」	日帰り
171	12	1	株式会社ザクティ				3	3	NEDO 先導研究 地上カメラ撤去作業	日帰り
172	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所		2	1		3	体験活動プログラム	山中寮内藤セミナーハウス
173	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所		2	1		3	体験活動プログラム	日帰り
174	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2	1	8 (8)	5	16 (8)	落ち葉焚き	山中寮内藤セミナーハウス
175	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2	1	8 (8)	5	16 (8)	落ち葉焚き	日帰り
176	12	1	株式会社 NT システム				1	1	ライブカメラシステム設置	日帰り
177	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および寒地性樹種成長試験地	山中寮内藤セミナーハウス
178	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	星の観察可能時間調査「環境教育素材の開発Ⅱ」および寒地性樹種成長試験地	日帰り
179	1	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	実証林に設置した自動センサーカメラによるインターバル撮影	山中寮内藤セミナーハウス
180	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	実証林に設置した自動センサーカメラによるインターバル撮影	日帰り
181	1	1	東京大学大学院総合文化研究科	6				6	演習林の見学（総合文化研究科環境委員会の用務として）	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
181	1	1	東京大学大学院総合文化研究科	6				6	演習林の見学（総合文化研究科環境委員会の用務として）	日帰り
182	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2		1	19	22	森林等を活用した企業研修のあり方に関する研究会	山中寮内藤セミナーハウス
183	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2		1	19	22	森林等を活用した企業研修のあり方に関する研究会	日帰り
184	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	14			15	29	特別ガイド「冬の散歩みち」	日帰り
185	2	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	実証林に設置した自動センサーカメラによるインターバル撮影	山中寮内藤セミナーハウス
186	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	実証林に設置した自動センサーカメラによるインターバル撮影	日帰り
187	2	1	山梨県森林総合研究所				3	3	薪化处理によるカシノナガキクイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
188	3	3	山梨県森林総合研究所				14	14	薪化处理によるカシノナガキクイムシ拡散防止効果の確認	日帰り
189	3	2	山中湖村 村民生活環境産業課				10	10	ナラ枯れ被害材搬入および資材置き場設置	日帰り
190	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2				2	研究打合せ	日帰り
191	3	1	東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻	1		1		2	自然体験学習活動の下見	日帰り
192	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	実証林に設置した自動センサーカメラによるインターバル撮影	山中寮内藤セミナーハウス
193	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	実証林に設置した自動センサーカメラによるインターバル撮影	日帰り
194	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻			1		1	カラマツのリモートセンシング	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計 2,545
(39)
利用件数 194

7) 樹芸研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	伝統工芸木炭生産技術保存会				2	2	伝統工芸駿河炭に関するニホンアブラギリ調査、白炭窯確認	下賀茂寮 宿泊施設
2	4	1	伝統工芸木炭生産技術保存会				2	2	伝統工芸駿河炭に関するニホンアブラギリ調査、白炭窯確認	日帰り
3	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2				2	業務引継ぎ	外部施設 泊
4	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	1				1	業務引継ぎ	日帰り
5	5	1	国立科学博物館 菌類・藻類研究グループ 菌類系統分類学研究室				1	1	暖温帯に生育するピョウタケ目菌類の分類学的研究	日帰り
6	5	1	株式会社森のエネルギー研究所	1				1	ユーカリ苗の受け取りのため	日帰り
7	5	1	個人				2	2	温室見学	日帰り
8	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1				1	研究委員会長期生態系データ生物部門植物分野植生調査	日帰り
9	7	1	ロッテ中央研究所未来価値研究部基盤技術研究課	3				3	カカオ共同研究に関する打ち合わせ	日帰り
10	8	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所		40			40	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ・夏①」	下賀茂寮 宿泊施設
11	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所		10			10	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ・夏①」	日帰り
12	8	10	経済学部4年、東京大学運動会下賀茂寮筆頭		27		17	44	夏期特別開寮	下賀茂寮 宿泊施設
13	8	1	経済学部4年、東京大学運動会下賀茂寮筆頭		1			1	夏期特別開寮	日帰り
14	8	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所		60			60	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ・夏②」	下賀茂寮 宿泊施設
15	9	1	株式会社森のエネルギー研究所				2	2	樹芸研究所内ユーカリのドローン計測実施のため	日帰り
16	9	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所		60			60	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ・夏③」	下賀茂寮 宿泊施設
17	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所		15			15	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ・夏③」	日帰り
18	9	1	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		2		3	ナラ枯れ跡地の更新にシカ類の採食圧が及ぼす影響	外部施設 泊
19	9	1	東京大学新領域創成科学研究科自然環境学専攻	1		2		3	ナラ枯れ跡地の更新にシカ類の採食圧が及ぼす影響	日帰り
20	9	1	静岡大学農学部生物資源科学科園芸イノベーション学研究室	1	1	3	1	6	カカオ栽培に関する情報収集	日帰り
21	9	4	伝統工芸木炭生産技術保存会		4		31	35	工芸用白炭製作技術研修（薪割り、駿河炭製炭、意見交換会）	下賀茂寮 宿泊施設
22	9	1	伝統工芸木炭生産技術保存会				2	2	工芸用白炭製作技術研修（薪割り、駿河炭製炭、意見交換会）	日帰り
23	10	1	静岡県	2				2	施設見学	日帰り
24	10	1	伝統工芸木炭生産技術保存会				4	4	工芸用白炭原木育成研修（アブラギリ）	日帰り
25	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林	1			5	6	NEDO事業 ユーカリを活用した森づくり実証事業 OWL撮影	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
26	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	ユーカリ生立木における腐朽被害の実態調査	外部施設泊
27	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	ユーカリ生立木における腐朽被害の実態調査	日帰り
28	11	10	一般				60	60	狩猟	日帰り
29	12	1	個人				1	1	温室見学	日帰り
30	12	1	個人				2	2	温室見学	日帰り
31	12	10	一般				60	60	狩猟	日帰り
32	1	10	一般				60	60	狩猟	日帰り
33	1	3	株式会社森のエネルギー研究所	9			39	48	NEDO事業 ユーカリを活用した森づくり実証事業	外部施設泊
34	1	1	株式会社森のエネルギー研究所	3			13	16	NEDO事業 ユーカリを活用した森づくり実証事業	日帰り
35	1	2	森林総合研究所 木材加工・特性研究領域 組織材質研究室	10			2	12	ユーカリサリグナの材特性調査	外部施設泊
36	1	1	森林総合研究所 木材加工・特性研究領域 組織材質研究室	5			1	6	ユーカリサリグナの材特性調査	日帰り
37	1	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	3				3	ユーカリ生立木における腐朽被害の実態調査	外部施設泊
38	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属秩父演習林	1				1	ユーカリ生立木における腐朽被害の実態調査	日帰り
39	2	2	一般				12	12	狩猟	日帰り
40	2	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所				72	72	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ①」	下賀茂寮 宿泊施設
41	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所				18	18	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ①」	日帰り
42	2	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所				68	68	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ②」	下賀茂寮 宿泊施設
43	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所				17	17	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ②」	日帰り
44	2	1	南伊豆町商工観光課 商工振興係				5	5	南伊豆町観光プロモーションに使用する宣材画像の撮影	日帰り
45	2	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所				12	12	体験活動プログラム「林業体験と獣害問題」	下賀茂寮 宿泊施設
46	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所				6	6	体験活動プログラム「林業体験と獣害問題」	日帰り
47	2	3	一般				17	17	狩猟	日帰り
48	3	4	一般				24	24	狩猟	日帰り
49	3	1	森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域微生物生態研究室	2				2	樹木疫病菌調査	日帰り
50	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	3				3	研究委員会気象水文水質部門業務	外部施設泊

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
51	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	3				3	研究委員会気象水文水質部門業務	日帰り
52	3	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所		8			8	体験活動プログラム「林業体験と獣害問題」	下賀茂寮 宿泊施設
53	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所		4			4	体験活動プログラム「林業体験と獣害問題」	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計	850
	(0)
利用件数	53

13. 各演習林所在地および連絡先

演習林名 作業所名	郵便番号	住所	電話	FAX
企画部/教育・社会 連携センター/フィ ールドデータ研究 センター	113-8657	東京都文京区弥生 1-1-1 農学部 1 号館 116 号室	03-5841-5497	03-5841-5494
千葉演習林	299-5503	千葉県鴨川市天津 770	04-7094-0621	04-7094-2321
清澄作業所	299-5505	千葉県鴨川市清澄 135	04-7094-0585	
札郷作業所	292-0537	千葉県君津市黄和田畑字前沢 1442-1		
郷台作業所	292-0533	千葉県君津市折木沢字相ノ沢 1542-1		
北海道演習林	079-1563	北海道富良野市山部東町 9 番 61 号	0167-42-2111	0167-42-2689
山部樹木園	079-1582	北海道富良野市字山部第一苗圃	0167-39-6017	
セミナーハウス	076-0161	北海道富良野市字麓郷市街地 1	0167-42-2111	
秩父演習林	368-0034	埼玉県秩父市日野田町 1-1-49	0494-22-0272	0494-23-9620
栃本作業所	369-1901	埼玉県秩父市大滝 3450-2	0494-55-0355	0494-55-0355
大血川作業所	369-1901	埼玉県秩父市大滝 5198	0494-54-1220	
影森苗畑	369-1871	埼玉県秩父市下影森 764	0494-23-9768	
田無演習林	188-0002	東京都西東京市緑町 1-1-1	042-461-1528	042-461-2302
生態水文学研究所	489-0031	愛知県瀬戸市五位塚町 11-44	0561-82-2371	0561-85-2838
赤津作業所	489-0014	愛知県瀬戸市北白坂町 1-1	0561-21-1185	
犬山作業所	484-0094	愛知県犬山市塔野地字大畔 178-2		
富士癒しの森研究所	401-0501	山梨県南都留郡山中湖村山中 341-2	0555-62-0012	0555-62-4798
樹芸研究所	415-0304	静岡県賀茂郡南伊豆町加納 457	0558-62-0021	0558-62-3170
青野作業所	415-0327	静岡県賀茂郡南伊豆町青野 851	0558-62-0254	